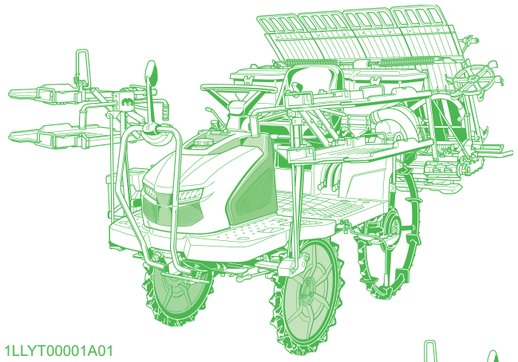
LD4・LD5

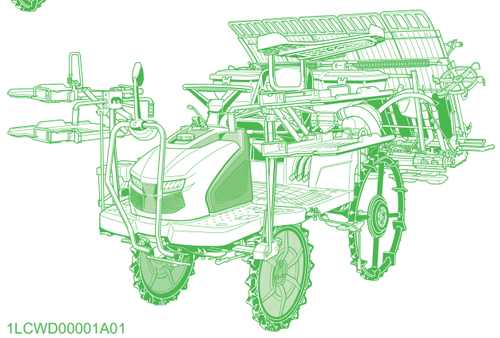
田植機

取扱説明書

LD4・LD5



1LLYT00001A01



1LCWD00001A01

ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

陸内協排出ガス自主規制適合

このラベルは「(社)日本陸用内燃機関協会排出ガス自主規制適合エンジン」であることを示しています。

No. 9 5 7 2 0 0 0 0 6 6 1

品番　PN964-9751-3

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	エンジン回転数［低回転］		エンジン回転数［高回転］
	チョーク		ヘッドライト

専門用語の説明

●パワーステアリングハンドル	油圧式の操向操作ハンドル
●主変速レバー（HST）	**［前進］・［後進］・［停止］**の切換え及び走行速度をコントロールするレバー（油圧式の無段変速装置）
●副変速レバー	**［圃場作業］（低速位置）**と**［移動］（高速位置）**を切換えるレバー
●十字ポンパレバー（二段）	植付部（苗のせ台）の**上昇↔下降**、植付部への動力伝達の**［入］**、**［切］**及びラインマーカのセットを行なうレバー
●ブレーキペダル	踏込むとブレーキが掛かるペダル
●バックアップ	主変速レバーを**［後進］**側に操作すると植付部が自動的に上昇する機能
●モンロー	マイコンのはたらきで植付部を常に一定の水平状態に修正・保持する自動装置
●安全クラッチ	植付爪やロータに障害物が詰まったとき、植付部のギヤの破損を防止するために植付部への動力を断つ装置
●ラインマーカ	植付け作業中に隣接条間を合わすための目標となる線を引くための部分
●フロート	ほ場表面に浮き、整地するための部分
●しゅう動板ガード	植付部のしゅう動板があぜなどに当り、変形するのを防止するためのパイプ
●整地ロータ	後輪とフロートの間にあるほ場の凹凸を整地するためのロータ
●スローブローヒューズ	バッテリ近くに設けたメイン回路保護のためのヒューズ
●コントローラ	運転席下部にある自動制御をコントロールするマイコン部
●アクセルレバー	エンジン回転をコントロールするレバー

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式 _____

機械番号（製造番号） _____

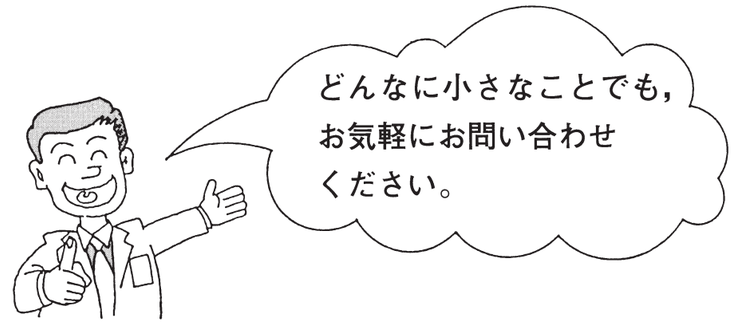
●ご使用状況は…？

（何速で，どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

TEL　　（　　）

はじめに

このたびは三菱マヒンドラ農機製品をお買上げいただきありがとうございました。この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され、お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また、お読みになったあとも製品に近接して保存し、わからないことがあったときには取出してお読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた安全ラベル（⚠マークのあるラベル）は、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、安全ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの購入先に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について　本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

⚠ **危険**	注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警告**	注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注意**	注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要：	注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足：	その他、使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は、稲の苗の植付け用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。
（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買い上げの製品の仕様をお確かめのうえ、お間違いのないようお願いいたします。
なお、説明は**【LD4R】**を基本とし､**【LD4R】**と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って、機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

基本型式の表示

【例】LD4 － L　R

①　②　③

①名称・植付条数によって

● LD4 ･･･････････････････････ ４条植

● LD5 ･･･････････････････････ ５条植

②車輪の種類によって･･･････ 表１参照

③施肥装置

R ･･･････････････････ 粒状施肥装置付

※諸装置について･･･････････ 表２参照

※諸装備について･･･････････ 表３参照

● 表１

区分 ＼ 基本型式名	種類 前輪（車輪径×幅）	種類 後輪（車輪径×リム幅）	対象型式
表示なし	ノーパンクタイヤ（φ 550 × 60）	ゴムラグ車輪（φ 750 × 45）	4・5
L仕様	ノーパンクタイヤ（φ 600 × 60）	ゴムラグ車輪（φ 800 × 45）	4-L

● 表２

諸装置		対象型式
自動化装置	十字ポンパ（二段）	全型式
	植付部自動水平制御装置（モンロー）	全型式
諸機能	各条自動復帰機能（あぜぎわクラッチ）	全型式
	主変速レバー（ゆう優シフト）	全型式
	ノーペダル旋回機能（ゆう優ターン）	全型式
	自動植付機能（スーパーゆう優ターン）	全型式
	後輪独立サスペンション	全型式
	e-stop 機能	全型式
	バックアップ機能	全型式

● 表３

諸装備	対象型式
レール、段積み切換え式・前後スライド式予備苗のせ台（3 ウェイ予備苗のせ台）	全型式
植えじまいボタン	全型式

目次

安全に作業するために 5

サービスと保証について 19

ご相談窓口 19
補修用部品の供給年限について 19

装置の名称と取扱い 20

機体方向説明 20
各装置の名称 21
走行装置の名称とはたらき 25
1. エンジン操作関係 25
1.1 メインスイッチ 25
1.2 リコイルハンドル 25
1.3 チョークレバー 25
1.4 アクセルレバー 26
1.5 エンジン停止ボタン 26
2. 走行操作関係 26
2.1 主変速レバー 26
2.1.1 e-stop 機能について 26
2.2 副変速レバー 27
2.3 ブレーキペダル 28
2.4 ブレーキロックレバー 28
2.5 パワーステアリングハンドル 28
2.6 運転席（シート） 29
2.7 前輪デフロックペダル 29
2.8 あぜごえレバー 29
2.9 あぜごえアーム 29
2.9.1 あぜごえアームの操作について 30
2.10 ランプスイッチ 30
2.11 燃料計 30
2.12 小物入れ 30
3. 警報関係 31
3.1 転倒防止警報［4］ 31
作業装置の名称とはたらき 31
1. 植付操作関係 31
1.1 十字ポンパレバー 31
1.2 フィットセンサレバー 32
1.3 モンロー調整ダイヤル 32
1.4 ロータ深さ調整ダイヤル 33
1.5 自動植付調整ダイヤル 33
1.6 苗取り量調節レバー 34
1.7 植付深さ調節レバー 34
1.8 横送り切換えレバー 34
1.9 あぜぎわクラッチレバー 34
1.10 株間調節レバー 35
1.11 油圧ロックレバー 35
1.12 マスコット・マスコットランプ 36
1.13 植えじまいボタン 36
1.14 ラインマーカ 36
1.15 隣接マーカ 37
1.16 苗ステー・苗押さえ棒 37
1.17 予備苗のせ台 37
2. 施肥装置操作関係［R 仕様］ 38
2.1 ホッパ 38
2.2 ロールケース（繰出し部） 38

2.3 ブロワ 38
2.4 施肥全条停止レバー 39
2.5 施肥量調整ハンドル 39
2.6 残肥排出レバー 39
3. 警報関係 39
3.1 苗切れ警報 39
3.2 肥料切れ警報［R 仕様］ 40
3.3 肥料詰まり警報［R 仕様］ 40
運転のしかた 41
運転前の点検 41
1. 日常点検項目 42
新車時の扱いかた 44
1. ならし運転について 44
エンジンの始動と停止のしかた 44
1. 始動のしかた 44
2. バッテリが上がったときの始動のしかた 46
3. 停止のしかた 46
移動走行について 46
1. 移動走行前の準備 47
2. 発進のしかた 50
3. 降りて走行のしかた 51
4. 旋回のしかた 53
5. 停車・駐車のしかた 53
輸送について 53
1. トラックとあゆみ板の準備 53
2. トラックへ積込み時の田植機の準備 54
3. トラックへの積込み・積降ろしのしかた 54
3.1 機械から降りてトラックに積込み・積降ろしをする場合 54
3.2 機械に乗ってトラックに積込み・積降ろしをする場合 56
4. トラック上での処置 56
田植作業のしかた 58
ほ場と苗の条件 58
1. ほ場条件 58
2. 苗条件 59
田植作業前の準備 60
1. 予備苗のせ台の準備 60
1.1 予備苗のせ台の切換え 60
1.1.1 レール式への切換え 60
1.1.2 予備苗のせ台フレーム前後方向の切換え 61
1.2 予備苗のせ台箱止め金具の切換え 61
2. ラインマーカの準備 61
3. 隣接マーカとマスコットの準備 62
4. しゅう動板ガードの準備 62
5. 各レバー・ダイヤルの準備 62
植付作業のしかた 63
1. ほ場の出入りのしかた 63
2. 植付作業の手順 64
3. 植付けかたと旋回のしかた 68
4. 自動植付作業のしかた 69
5. 深みにはまって動けなくなった場合の注意事項 71
6. 変形田の植付けかた（参考） 72
6.1 台形田の植付けかた（A 面基準） 72
6.2 複雑な変形田の植付けかた 72
7. 安全クラッチについて 72
7.1 植付爪の安全クラッチについて 72
7.1.1 異物を取除いたあとの処置 73

8. 苗の補給のしかた 73
9. あぜぎわの植付けかた 74
9.1 最終行程の前での植付条数の決めかた 74
施肥作業［R 仕様］ 75
1. ほ場と肥料について 75
1.1 施肥作業時のほ場条件 75
1.2 肥料について 75
1.2.1 一発肥料使用時の注意 77
2. 施肥作業前の準備 78
3. 施肥作業のしかた 80
4. ホッパ内の肥料の排出のしかた 81
作業に合わせた各部の調節・調整のしかた 83
1. 植付株数の調節 83
2. 苗取り量（1 株本数）の調節 84
2.1 苗取り量調節レバーの調節 84
2.2 横送り切換えレバーの調節 85
2.3 植付株数と苗の使用量について 85
3. フィットセンサレバーの調節 85
3.1 フロート感知荷重の調節 86
4. 植付深さの調節 86
5. モンローの調整 87
6. 苗ステー・苗押さえ棒の調節 87
6.1 苗ステー 87
6.2 苗押さえ棒 88
7. 整地ロータの調整 88
8. ふく土板の調節［R 仕様］ 89
9. 施肥量の調節［R 仕様］ 89
9.1 肥料の流れ 89
9.2 調整のしかた 90
9.3 少量施肥切換えロッド位置の変更 91
9.4 増量施肥切換え金具位置の変更 92
9.5 施肥量調整ハンドルによる施肥量の調整 93
9.6 施肥条止めのしかた 95
マスコットランプによる異常と処置 96
メンテナンス 97
各部の開閉と脱着のしかた 97
1. ボンネットの開閉 97
2. リヤカバーの脱着 97
3. 運転席（シート）の脱着 98
4. ホッパ部の開閉［R 仕様］ 98
5. フェンダーの脱着 99
6. ロールとブラシの脱着［R 仕様］ 100
各部の掃除と注油のしかた 102
1. 各部の掃除 102
1.1 施肥部［R 仕様］ 102
1.2 整地ロータ 105
2. 各部の注油 105
2.1 注油、グリース塗布、注入箇所 105
定期点検 110
1. 廃棄物の処理について 110
2. 洗車時の注意 110
3. 使用者が行なってはいけない修理 111
4. 定期点検一覧表 112
5. 給・注油（水）点検一覧表 114
6. 燃料・オイルの点検・補給・交換 116
6.1 燃料の補給 116
6.1.1 給油 116

6.2 エンジンオイルの点検・補給・交換 116
6.3 ミッションオイルの点検・補給・交換 117
6.4 後車軸ケースオイルの点検、補給、交換 118
7. 燃料フィルタポットの点検・掃除 119
8. エアクリーナエレメントの点検・掃除・交換 120
9. 点火プラグの点検・掃除・調整 120
10. パイプ・ホース類の点検・交換 121
11. ミッション駆動ベルトの点検 121
12. ブレーキペダルの点検、調整 122
13. ミッションオイルフィルタの点検、掃除、交換 123
14. タイヤの点検 124
15. 植付爪・押出し金具の点検・調整・交換 124
16. 苗のせ台のしゅう動板と受けの点検 127
17. 施肥ブラシの点検・掃除・交換 127
18. バッテリの点検・交換 128
18.1 補水が必要なバッテリの場合 131
19. ワイヤハーネスの点検・交換 132
20. 各ヒューズの交換 132
20.1 スローブローヒューズの点検・交換 133
21. LED ランプの点検・交換・反射テープの点検・交換 133
植付作業後の手入れ 133
1. 毎日の作業後の機体の手入れ 133
1.1 しゅう動板ガード（左、右）の収納 134
2. 長期格納時の手入れ 134
2.1 長期格納時の各部の掃除、注油、補修のしかた 134
2.2 長期格納時の燃料の排出のしかた 134
2.3 長期格納時のバッテリの手入れのしかた 135
2.4 長期格納時の各レバー、その他の手入れのしかた 135
植付作業時の不調と処置 137
欠株が出る 137
浮苗が出る・植付けが乱れる 139
浮苗が出る・植付けが悪い 141
植付けが乱れる・欠株が出る 141
施肥をしない・施肥量がばらつく 142
苗・ほ場条件による、その他の不具合 144
付表 146
主要諸元 146
付属部品 150
オプション（別売品） 150
1. 苗キーパ 150
2. クリーナ 150
3. 補助車輪 150
3.1 ゴムラグタイヤ 151
3.2 鉄ラグタイヤ 151
4. 前部ウエイト 152
5. 整地板 152
6. 薬剤散布機［こまきちゃん］ 152
7. 薬剤散布機［箱まきちゃん］ 152
8. 残量センサカナグ、キット 152
9. 苗スライドストッパ 152
消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう） 154
潤滑油について 157
1. エンジンオイル 157
2. ギヤオイル 157
索引 158

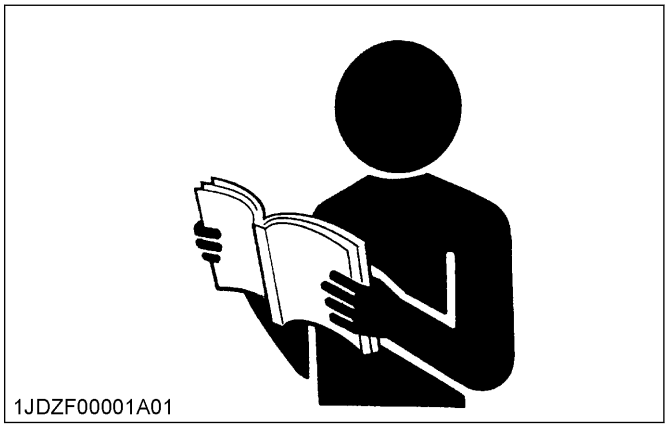
安全に作業するために

本機をご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも、本文の中で⚠ 危険・⚠ 警告・⚠ 注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

安全に作業するため次のことがらを必ず守ってください

1. 安全指示順守

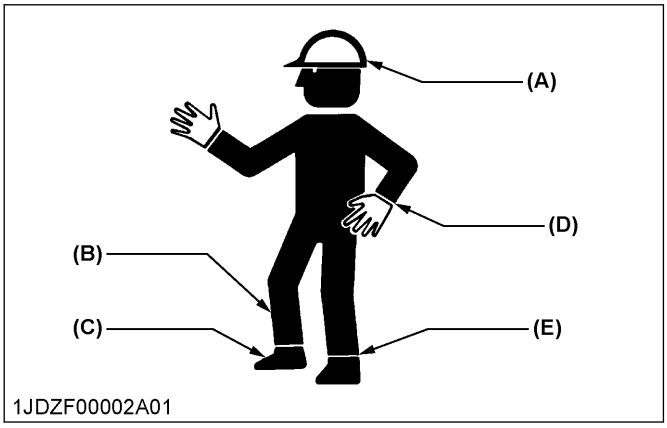
- 本書及び本機の安全ラベルをよく読み理解してください。


1JDZF00001A01

- 本書及び安全ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
- 安全ラベルはいつもきれいにしておいてください。また、破損・紛失したときは注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転、作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり、機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても安全には細心の注意を払ってください。
- ほかの人に機械を貸すときは、取扱方法や安全のポイントをよく説明し、この取扱説明書をよく読むように指導してください。

2. 作業に合った服装および健康状態

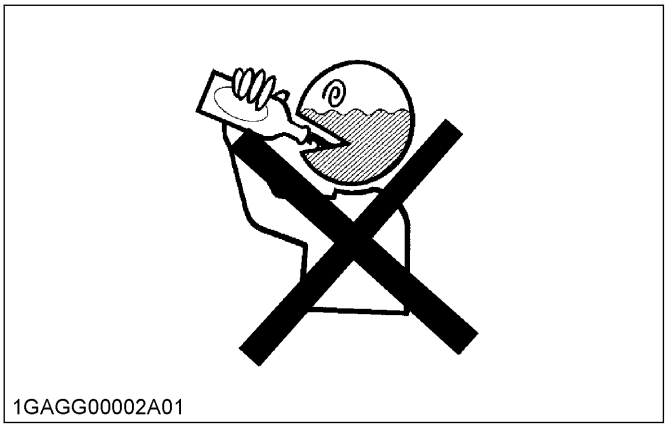
- 作業に合ったキチンとした作業着を着用してください。
- だぶついた服装は、回転部に巻込まれやすく危険です。また靴は、すべらないものを使用してください。
- ヘルメット、滑りにくい靴を着用し、必要に応じて安全靴、保護メガネや手袋などを着用してください。



1JDZF00002A01

(A) ヘルメット着用
(B) 体に合った服
(C) 滑りにくい靴
(D) 袖口きっちり
(E) スソきっちり

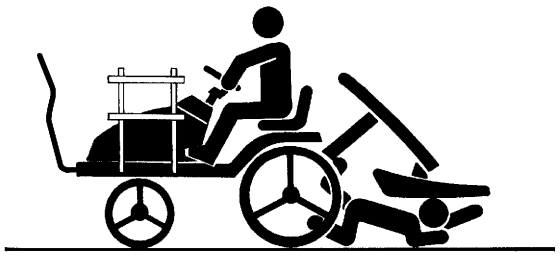
- お酒を飲んでいる方、睡眠不足の方、妊娠中のご婦人、過労、病気の人は使用しないでください。


1GAGG00002A01

- 初めて運転する人は、操作に慣れるまで低速で運転してください。

3. 子供が近づくのは危険

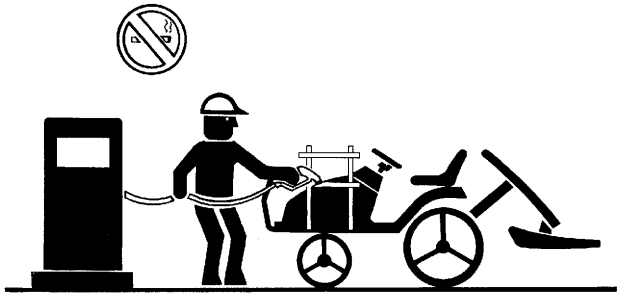
- 点検・整備中および田植作業中は機械に子供を近づけないでください。見えないところで機械に触ったりかくれたりしてたいへん危険です。



1EAWQ00087A01

4. 使用前の準備・点検

- 使用前の点検は必ず行なってください。
  特にブレーキペダルの点検は忘れないでください。
- 燃料の給油・オイル交換・注油・機械の点検は、エンジンを止めて行なってください。
- 火気厳禁。
- e-stop 中に燃料を給油しないでください。



1EAWQ00088A01

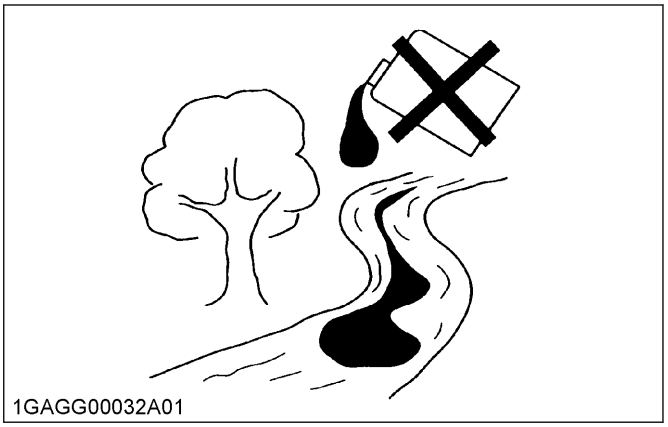
- 平たんな場所で駐車ブレーキを掛けて行なってください。
- 植付部を持上げて植付爪などの点検をするときは、油圧昇降ロックをするとともに、台などで支えをして落下を防止してください。



1EAWQ00089A01

5. 廃棄物の取扱い注意

- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。

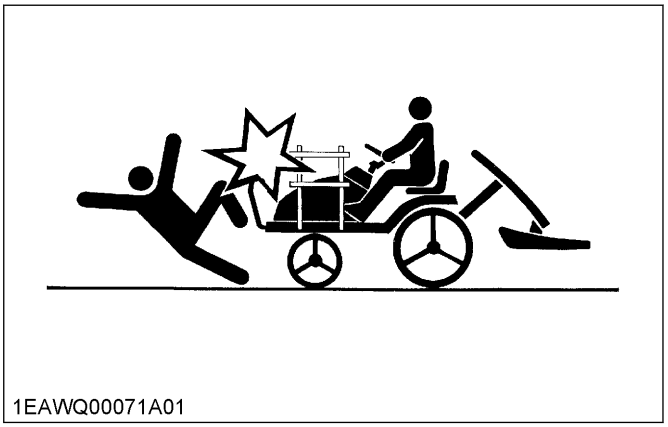


1GAGG00032A01

- 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先または、産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。

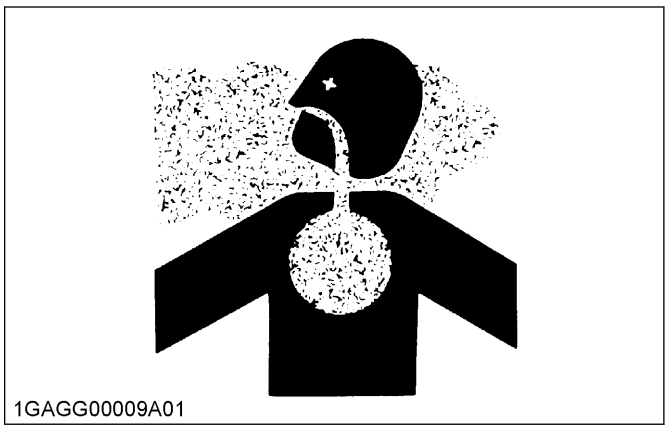
6. エンジンの始動

- エンジンの始動時、運転席に座り、主変速レバー、副変速レバーが**[N]**（中立）になっていることを確認してから始動してください。
- 機械の周囲の人・物にじゅうぶん注意し、ブレーキペダルを踏んでから始動してください。



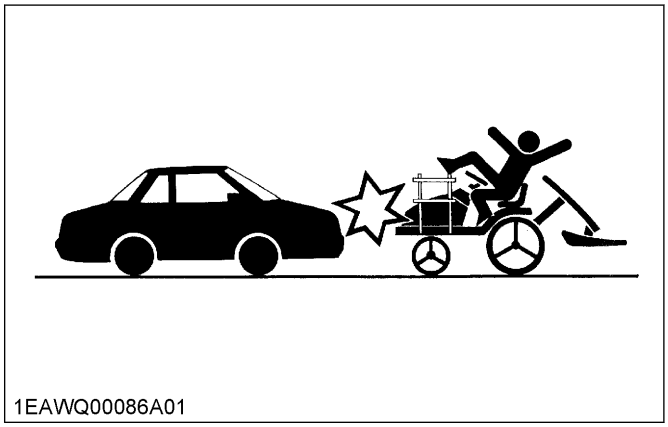
1EAWQ00071A01

- リコイル始動では、ボンネットなどに手をぶつけないように注意して、リコイルハンドルをしっかりにぎって始動してください。
- 機械を始動及び動かすときは、周囲の人に合図して安全に気をつけてください。
- 作業の前にエンジン始動してから、エンジン停止ボタンを使用し、エンジンが停止することを確認してください。
- 屋内で始動するときは、窓・扉を開け、外気がじゅうぶん入るようにしてください。


1GAGG00009A01

7. 走行運転

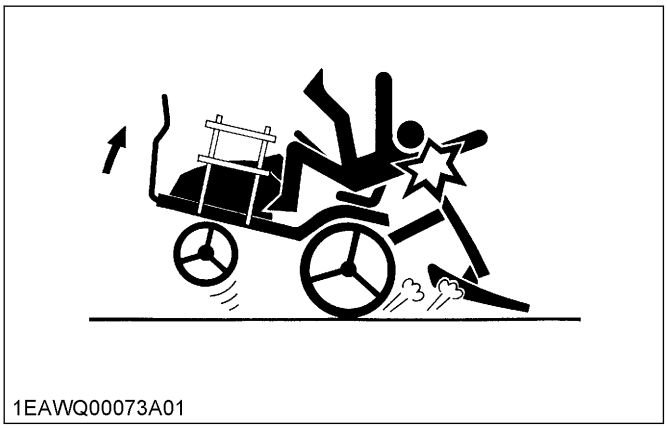
- この機械は一般道路は走れません。


1EAWQ00086A01

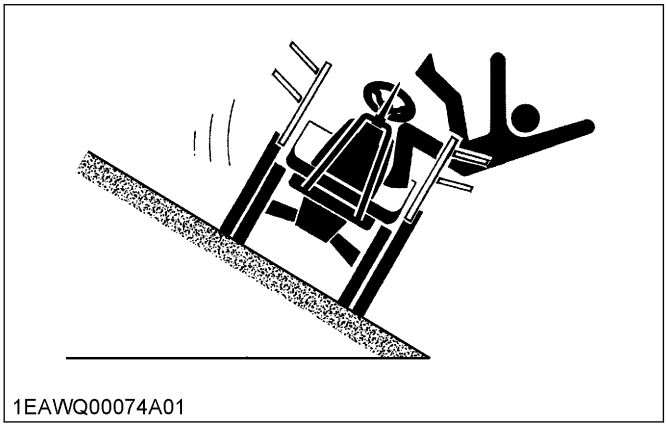
- 一般道路はトラックなどで運搬してください。
- 発進前に必ず植付部が持上げられているかを確認してください。
- 機械の周囲の人・物に注意して、ゆっくり発進してください。
- 初めて運転される方は、操作になれるまで低速で運転してください。
- 道のりが遠くても、その他どのような場合でも、絶対に運転者以外の人を乗せないでください。


1EAWQ00072A01

- 予備苗のせ台の上などに物を載せないで、荷物はめんどうでも、別にトラックなどで運搬するようにしてください。
- 植付部を最上昇位置にしたあと、油圧ロックレバーを**[閉]**位置にして植付部の落下防止を行ってください。
- 急発進・急停止・急旋回はしないでください。


1EAWQ00073A01

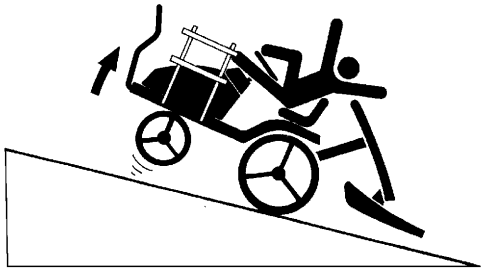
- 発進するときは、ブレーキペダルを離してから主変速レバーを**[N]**（中立）位置からゆっくりと操作してください。
- 停止するときは、必ず主変速レバーを**[N]**（中立）位置に戻してからブレーキペダルを踏込んでください。
- カーブ・曲り角では早めにスピードを落としてください。
- わき見・手ばなし運転はしないでください。気のゆるみが大事故につながります。
- 隣接マーカ・マスコット・ラインマーカを収納状態にしたあと、ラインマーカをロックしてください。
- 周囲の障害物に接触しないよう、ゆっくりと運転してください。特に、苗のせ台の接触には注意してください。
- 機体が右または、左に大きく傾き、転倒するおそれがあるので、傾きの大きいところでは走行しないでください。


1EAWQ00074A01

- ホッパ内やホッパの上などに物を載せないで、荷物はめんどうでも、別にトラックなどで運搬するようにしてください。**[R 仕様]**
- ホッパのふたを閉じてフックが掛かっていることを確認してください。**[R 仕様]**

8. 坂道走行

- 坂の手前で一旦停止して、副変速レバーを**[圃場作業]**に切換えてから、坂道の登り降りをしてください。
- 発進・停止するときは、必ず主変速レバーを操作してください。
- 坂道は必ず低速で走行してください。
- 急発進、急停止はしないでください。
- 坂が急で、前進で登ると前が浮上がるおそれがある場合は、後進で登るようにしてください。



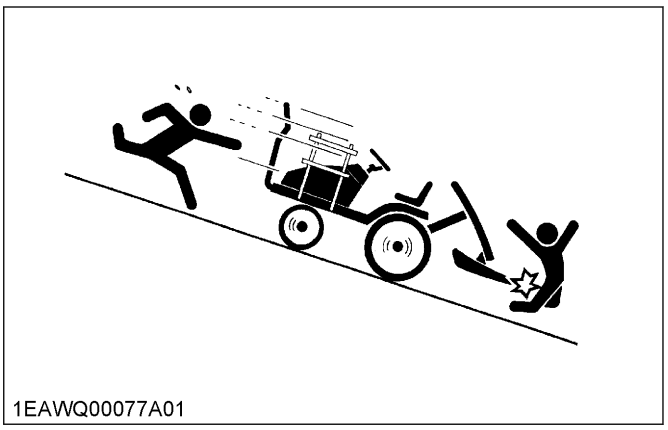
1EAWQ00075A01

- 坂の途中で副変速レバーを**[N]**（中立）にしないでください。



1EAWQ00076A01

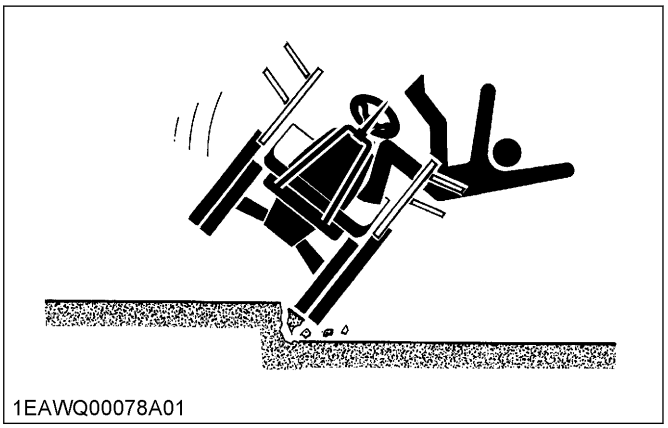
- 坂道では、特別なとき以外には駐車しないようにしてください。
- 駐車する場合は、駐車ブレーキを掛け、下側の両輪に車止めをしてください。
- 駐車中は、副変速レバーを**[圃場作業]**又は**[移動]**に入れておいてください。
- 坂道では e-stop でエンジンを停止しないでください。車輪が中立状態になり暴走するおそれがあります。



1EAWQ00077A01

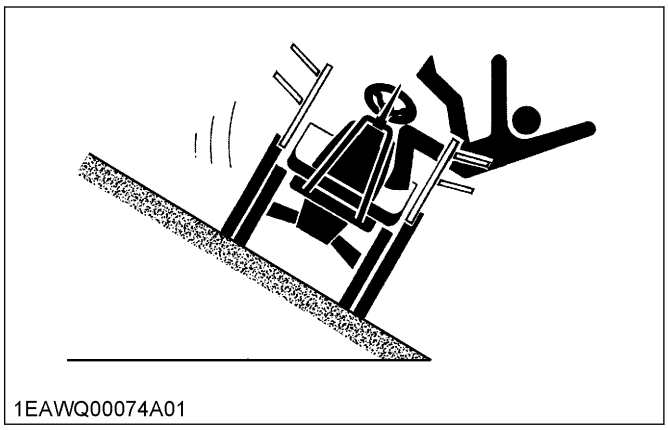
9. 農道、ほ場の移動

- 副変速レバーを**[移動]**にして、植付部を上昇させて、ゆっくり走行してください。
- 路肩くずれに注意してください。



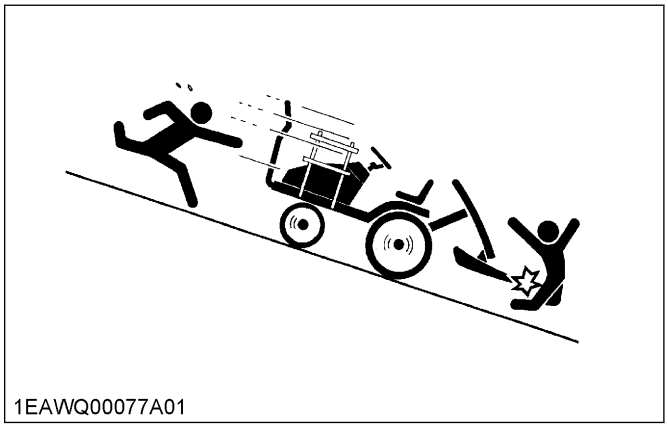
1EAWQ00078A01

- 草などでおおわれていて路肩がわからないときやあぶないと思われる所では、機械から降りて確認するようにしてください。このとき、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキを掛けて行ってください。
- 雨あがりのとき、狭い農道では、速度を落として慎重に走行するようにしてください。
- 対向車をさけるときは、無理に端いっぱいに寄らず、いったん停止して対向車をやりすごしてください。
- 油圧昇降ロックをし、植付部の落下を防止してください。
- レール状態の予備苗のせ台、隣接マーカ、マスコット、あぜごえアームを収納し、ラインマーカをロックしてください。
- 周囲の障害物に接触しないよう、ゆっくりと運転してください。
- 機体が右または、左に大きく傾き、転倒するおそれがあるので、傾きの大きいところでは走行しないでください。

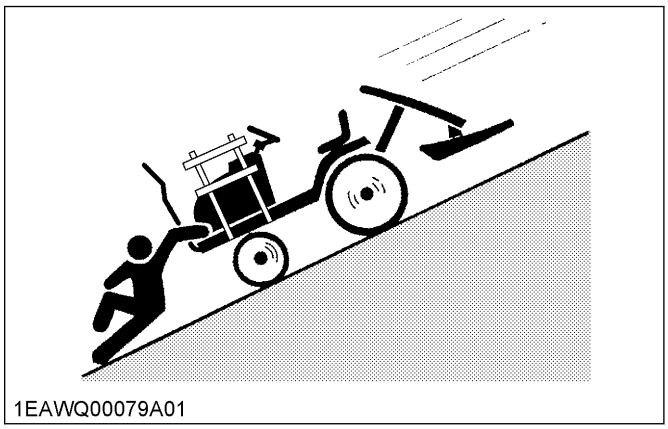

1EAWQ00074A01

10. 降りての走行

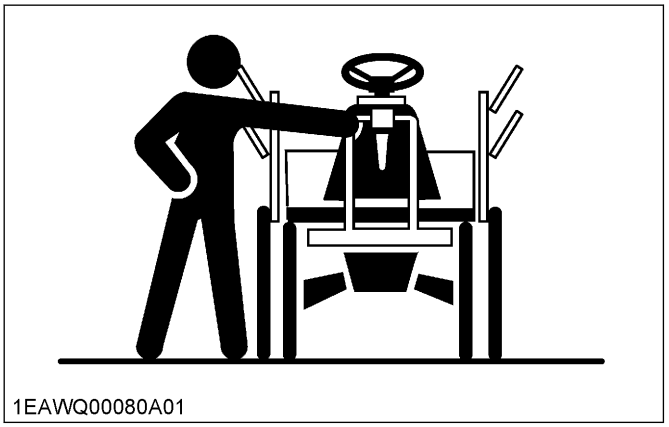
- 降りて走行するときは、必ずあぜごえアーム・あぜごえレバーを使用してください。
- 降りて走行するときはアクセルレバーを［🚗］位置にし、副変速レバーを**[圃場作業]**位置、主変速レバーを**[N]**（中立）位置にしたあと、車速けん制カバーを装着してください。（51 ページ参照）
- 降りて走行するときは、機械の周囲に人を近づけないでください。特に、傾斜（坂道、あゆみ板上、あぜごえなど）のあるところでは機械後方に人がいないことを確認してください。


1EAWQ00077A01

- 傾斜のあるところでは、機械前部を傾斜上方向にして上り降りしてください。

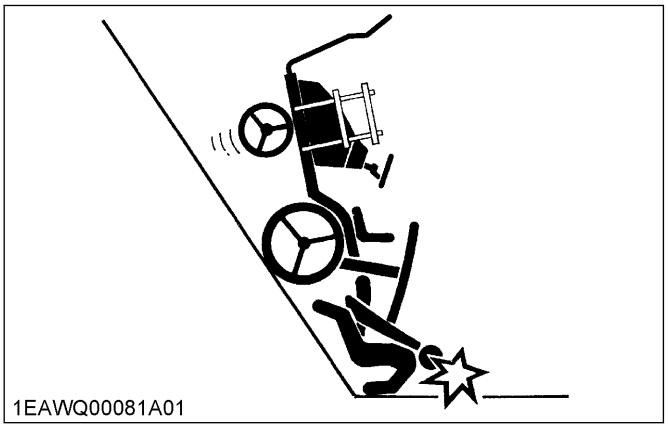

1EAWQ00079A01

- 傾斜のあるところでは、機械の正面で操作せずに、機械右側（あぜごえレバー側）の位置で操作してください。


1EAWQ00080A01

11. ほ場の出入り

- 運転者以外は乗らないでください。
- 予備苗のせ台に苗を載せないでください。
- 降りて走行するときは**［降りて走行のしかた］**（51 ページ）を参照してください。
- 機械をあぜ・溝に直角に向けて止め、副変速レバーを**[圃場作業]**にし、十字ポンパレバーで植付部を下げ、主変速レバーを低速で、ゆっくり発進してください。後輪があぜに上がると同時に、植付部を上げてください。
- 農道が狭い場合は、ほ場に出入口の傾斜をつくり、溝は渡り橋をつくってください。
- ほ場の出入り、土手などの急斜面の登り降り、溝越えのときには、必ずあゆみ板を使うか、ほ場に出入口傾斜や渡り橋をつくって、後進で登ってください。


1EAWQ00081A01

- あゆみ板は、機械の重量に耐える強度（金属製）で、段差に対して４倍以上の長さのもの、また、横サンとスベリ止めのついたものを使用してください。
- あぜ・溝に対して機械を直角に止め、左右の２枚のあゆみ板が機械の両輪に合い、平行になっているかを確認してください。
- ハンドルを真直ぐに直し、真直ぐに登ってください。

- 走行途中で副変速レバーを**[N]**（中立）にしないでください。



1EAWQ00076A01

- 走行途中で危険回避などのため、走行を停止するときは主変速レバーを**[N]**（中立）位置に操作したあと、ブレーキペダルを踏込んでください。
- 出入りの途中では、e-stop でエンジンを停止しないでください。車輪が中立状態になり暴走するおそれがあります。

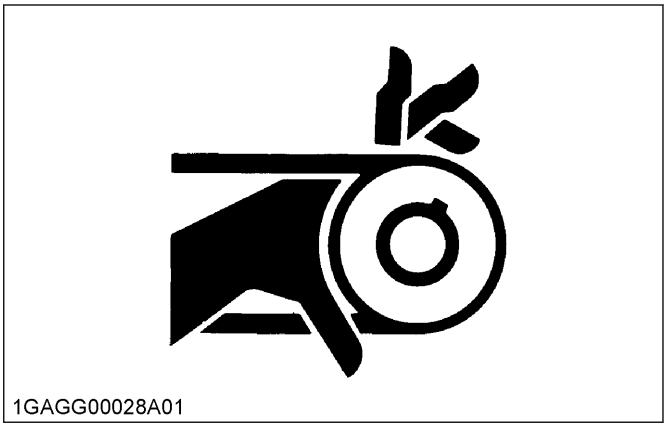
12. ほ場での作業

- 苗や肥料［**R 仕様**］を補給するときは、主変速レバーと植付クラッチレバーを**[N]**（中立）にし、駐車ブレーキを掛けてください。
- 肥料を補給するときは苗の補給と同じ要領で停止し、なるべく枕地で行なってください。［**R 仕様**］

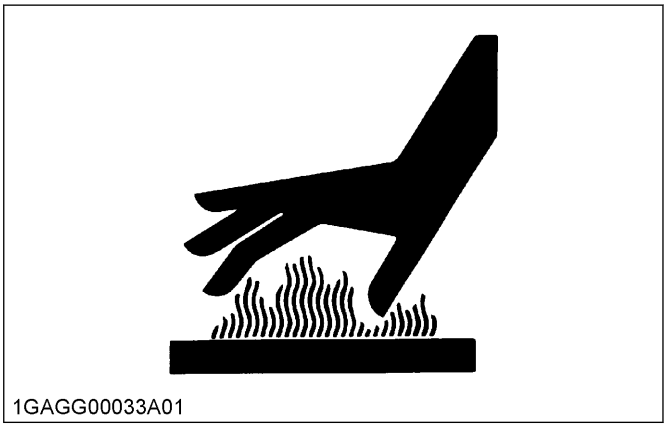


1EAWQ00083A01

- 回転部分・作動部分・高温部に触れないように注意してください。



1GAGG00028A01

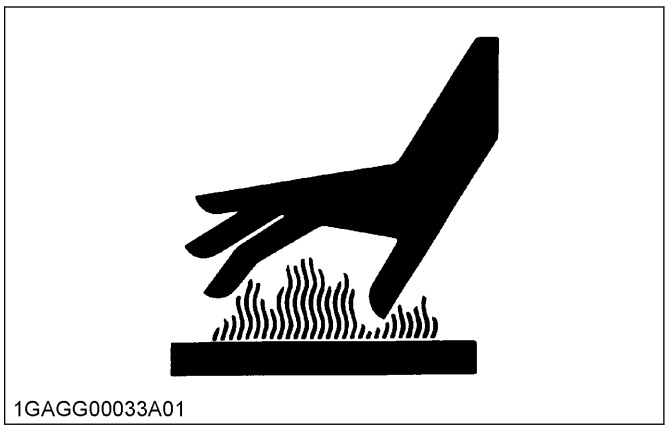


1GAGG00033A01

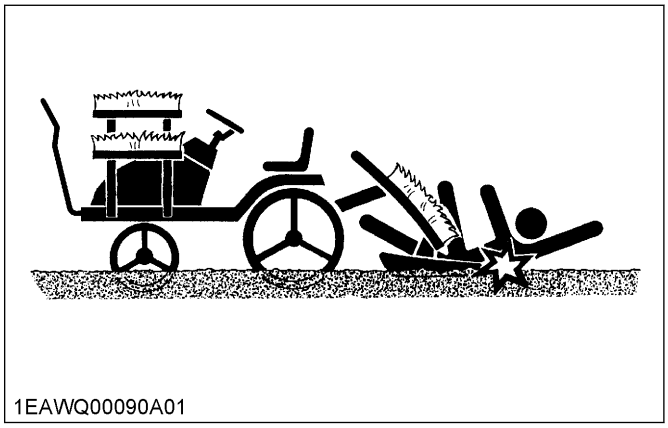
- あぜぎわで旋回するときは、あぜの周囲の人や物にじゅうぶん注意を払ってください。
- 作業中は、ほ場に人を入れたり、機械に人を近づけたりしないでください。
- ウエイト代りに、人や物を乗せないでください。
- 夜間作業は絶対にしないでください。
- 植付爪などに異物がかみこんだときは、エンジンを停止し、完全に止まったのを確認してから取り除いてください。
- エンジンを掛けた状態で、わらや雑草の上に駐車しないでください。

13. 機械から離れるとき及び走行、作業途中の駐車・点検

- 機械から離れるときは、坂道などの傾斜地を避け、平たんな場所へ移動してください。
- 駐車及び点検などで運転席を降りるときは、副変速レバーを**[圃場作業]**位置又は**[移動]**位置に入れたあと、主変速レバーを**[N]**（中立）位置にしてエンジンを止め、駐車ブレーキを掛けて、キーを抜いてください。
- エンジンをかけたままで、草やワラの上に駐車しないでください。
- 高温部に触れないよう注意してください。


1GAGG00033A01

- スタンドを立て、植付部を降ろしてください。


1EAWQ00090A01

- 植付部を上昇させて点検するときは、十字ポンパレバーで植付部を最上昇させ、油圧ロックレバーを必ず**[閉]**にするとともに、下に木の台などを置いて落下防止の歯止めをして、植付部の落下を防止してください。

14. ヤケド防止

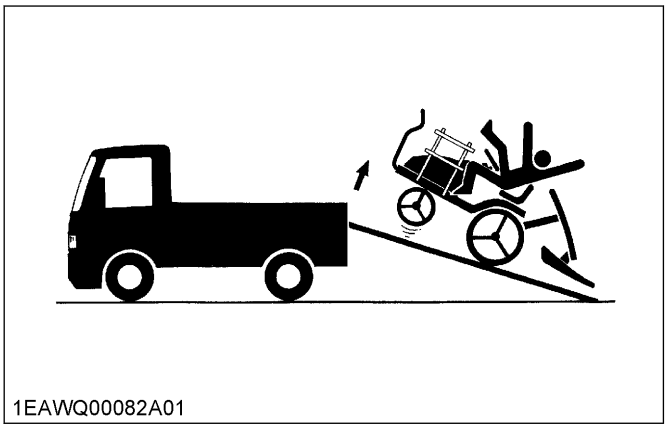
- 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管およびその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガのおそれがあるためじゅうぶんに温度が下がって、残圧がないことを確かめて整備してください。
- エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中および停止直後は触れないでください。


1GAGG00033A01

- ヘッドランプを点灯すると、ランプ表面も高温になります。運転中および停止直後は触れないでください。

15. トラックなどへの積み・降ろし

- 降りて走行するときは［降りて走行のしかた］（51ページ）を参照してください。
- 乗って積み込むときは必ず後進で行ない、降りて積み込むときは前進前あがりで行なってください。

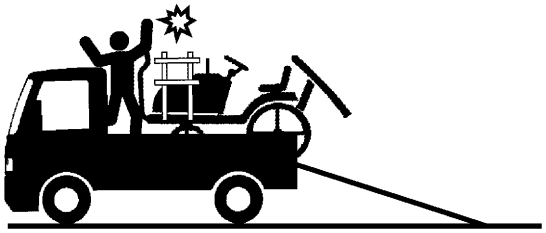

1EAWQ00082A01

- 積込み・積降ろしを開始する前に、トラックの駐車ブレーキがかかっているかを確認してください。
- 脱輪に注意してください。
- 副変速レバーを**[圃場作業]**にし、主変速レバーをゆっくり操作してください。
- 途中で副変速レバーを**[N]**（中立）にしないでください。
- あゆみ板は、段差の 4 倍以上の長さのものを使ってください。

あゆみ板の基準

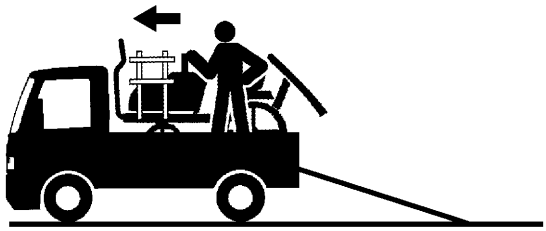
長さ	トラックの荷台の高さの 4 倍以上
幅	30 cm 以上
数量	2 枚
強度	1 枚が 500 kg 以上の重量に耐えうる

- 誘導者を付け、周囲の安全をじゅうぶん確認してください。また、機械の前には絶対に立たないでください。
- 途中でエンストしたときは、即ブレーキペダルをいっぱい踏込み、再びエンジンを始動して、アクセルレバーを**[始動]**位置まで動かしてエンジン回転数を上げてください。



1EAWQ00085A01

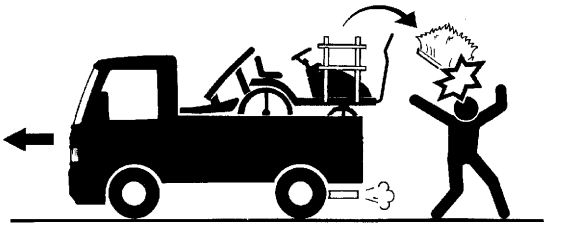
- トラックに積込むときは、降りて必ず操作してください。機械左前方に立って、主変速レバーをゆっくり前進側に操作してください。機械とキャビンの間に挟まれるおそれがあるため、機械の後輪が荷台上に載ったとき、いったん停止し、機械の左側中央に回って、主変速レバーをゆっくり前進側に操作して前方に寄せてください。



1EAWQ00084A01

16. トラックなどでの運搬

- 駐車ブレーキをかけてください。
- ロープは前輪と後輪に掛け、確実に固定してください。
- 苗のせ台・予備苗のせ台などに載せてあるものは、必ず降ろしてください。

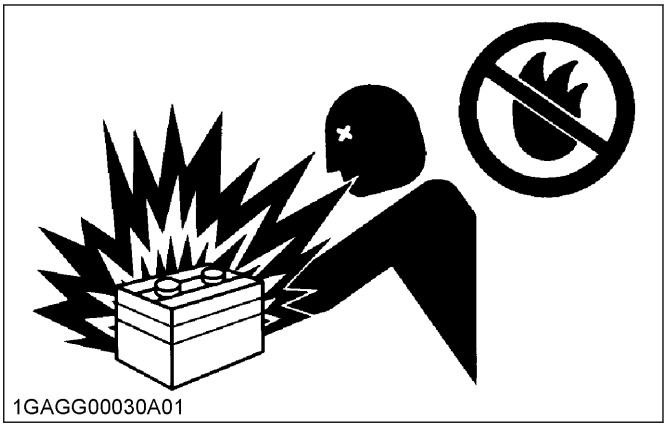


1EAWQ00092A01

- 苗のせ台を中央に移動させたあと、苗のせ台を最上昇させ、油圧ロックレバーを**[閉]**にしてください。

17. バッテリの取扱い注意

- バッテリのガスは爆発のおそれがあります。
- バッテリの近くに裸火（マッチ、ライタ、タバコの火など）を近づけたり、ケーブルのショートによるスパークをさせないでください。

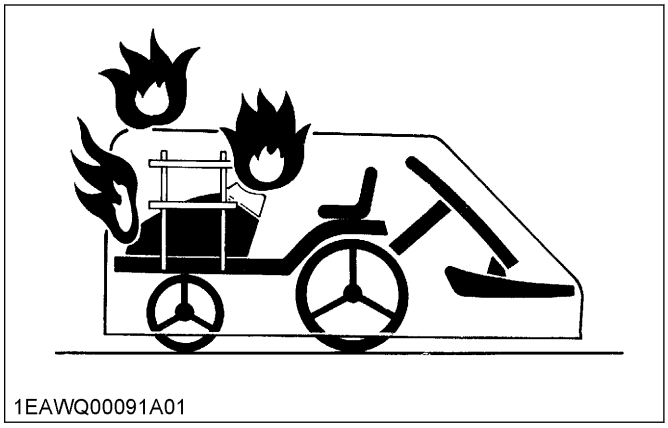


1GAGG00030A01

- バッテリはエンジン始動用ですから、他の用途には使わないでください。
- バッテリの充電時、交換時は、バッテリの安全ラベルをよく読んでください。
- バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。すぐに**[UPPER LEVEL]**（上限）と**[LOWER LEVEL]**（下限）の間に補水してください。**[補水タイプ]**
- 充電は、バッテリを機械から取り外して行ってください。
- 密閉状態で充電を行うとバッテリが破裂するおそれがあり危険です。
- バッテリ液（希硫酸）に触れると危険です。
- バッテリ液（希硫酸）が目、皮ふ、衣服についたときは、すぐに水でよく洗ってください。
- バッテリ液（希硫酸）が目に入ったときは、水でよく洗った後、医師に治療を受けてください。
- 指定外のバッテリは使わないでください。

18. 使用後の手入れ

- 点検・手入れ・掃除・調整は、エンジンを止めて行なってください。
- 取外した保護カバーなどは、必ず元のとおりに取付けてください。回転部などがむき出しになり危険です。
- 格納するときは、スタンドを立て平たんな場所に植付部を下げて置いてください。
- 駐車ブレーキを掛けてください。
- 本機カバーなどをかける場合は、エンジンなど加熱部分がじゅうぶん冷えてからにしてください。火災の原因になります。



1EAWQ00091A01

- 長期格納時には、燃料タンク及び燃料コックのフィルタポット内のガソリンを抜取ってください。

安全ラベルと貼付位置

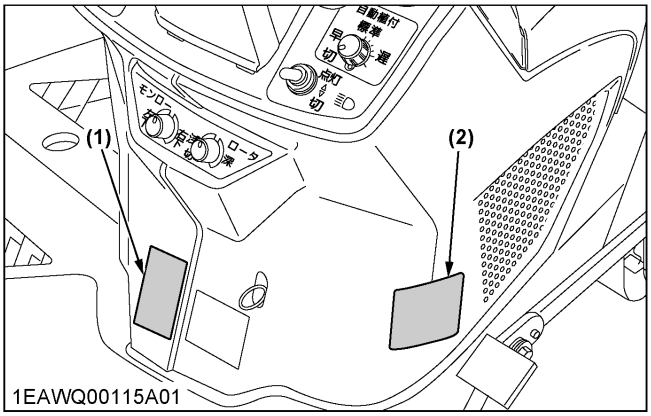
(1) 品番　95720000620

⚠ 警　告

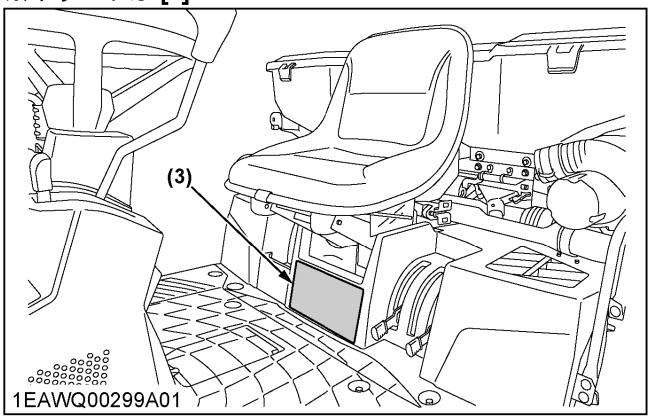
降りて機械を動かす時の注意
1. エンジン回転をアイドリングに下げ副変速レバーを「圃場作業」にすること。
2. 機体が傾斜状態にあるときは、変速操作をしないこと。

ボンネットをはずして点検・調整するときの注意
1. 回転物・高温部がありケガをするのでエンジンを必ず止め、冷えてから作業すること。
2. 点検・調整後はボンネットを必ず取付けること。

あぜごえアームについて
1. あぜごえアーム使用時は前輪を直進方向に向けること。
2. ハンドル操作が重くなるので乗車時はあぜごえアームを立てること。



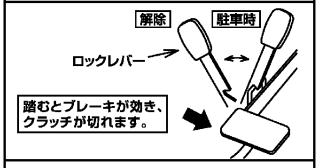
※イラストは **[4]**



(2) 品番　95720000610

⚠ 警　告

ブレーキペダルのロック方法



不意に動かないように機械から離れるときは、必ずブレーキペダルをロックすること。

(3) 品番　95720000635

⚠ 警　告

転倒・暴走事故防止のため、下記事項を守ること



エンジン始動時　ブレーキペダルを踏み込み、主変速レバーを『N』（中立）にして、エンジンを始動すること。

走行全般　急発進を防ぐため、主変速レバーを『N』（中立）にしてブレーキペダルを離すこと。
高速走行時は、急停止・急旋回はしないこと。
転落や破損の危険があるため、運転者以外の人や物を乗せないこと。

作業時　苗補給時は、主変速レバーを『N』（中立）又は『eSTOP』にして、駐車ブレーキをかけること。



トラックなどへの積み降ろし・畦越え・急な坂道での走行時
1．副変速レバーを『圃場作業』にして車速けん制カバーを装着し、田植機から降りてあぜ越えアームを使用し、低速で走行すること。
2．段差の４倍以上の長さのあゆみを使用し、誘導者をつけること。
3．斜面に対して直角に走行すること。
4．坂道を下る時は急ブレーキをかけないこと。
5．予備苗のせ台に苗はのせないこと。

機械から離れるとき
1．エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、必ずキーを抜くこと。
2．スタンドを立て、植付部を降ろすこと。
3．坂道では車止めをすること。

使用前
1．安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。
2．屋内では排気ガスが溜まり易く、ガス中毒の危険があるため、換気を十分すること。

移動走行時
1．この機械は公道走行はできないため、トラックにのせて運搬のこと。
2．転倒などのおそれがあるため、傾斜地・がけ際・路肩の軟弱な農道は走行しないこと。
3．植付部が不意に下降して、はさまれるおそれがあるため、植付部を上げて移動するときは、油圧ロックレバーを必ず『閉』にすること。

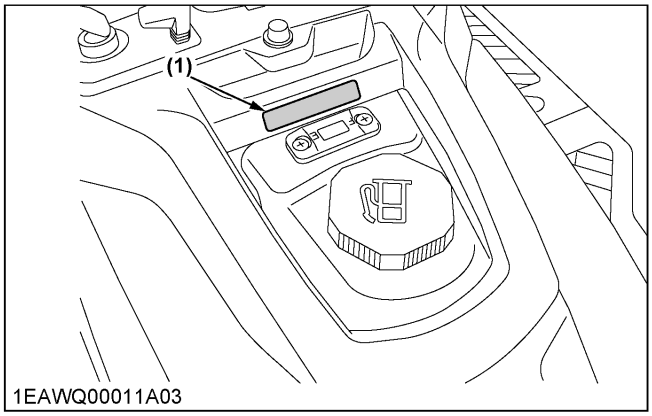
作業時
1．ヤケドをするおそれがあるため、清掃・点検・整備・給油はエンジンを必ず止め、冷えてから行うこと。
2．はさまれるおそれがあるため、植付部を上げて清掃・点検・整備・給油をするときは、油圧ロックレバーを必ず『閉』にし、落下防止の歯止めをすること。
3．衝突や転倒のおそれがあるため、夜間作業は絶対にしないこと。

作業後
火災のおそれがあるため、シートカバーは機械が冷えてから掛けること。

1LLYT00015A01jaJP

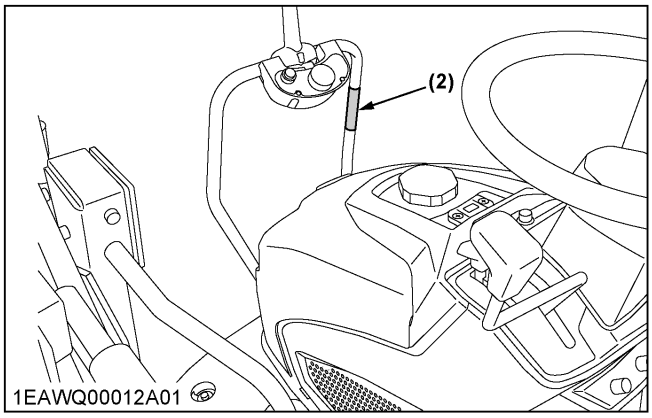
(1) 品番　26910007772



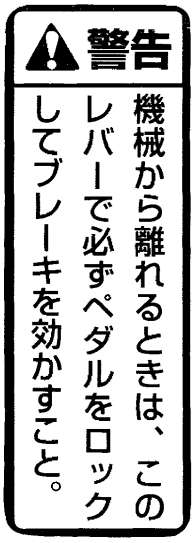


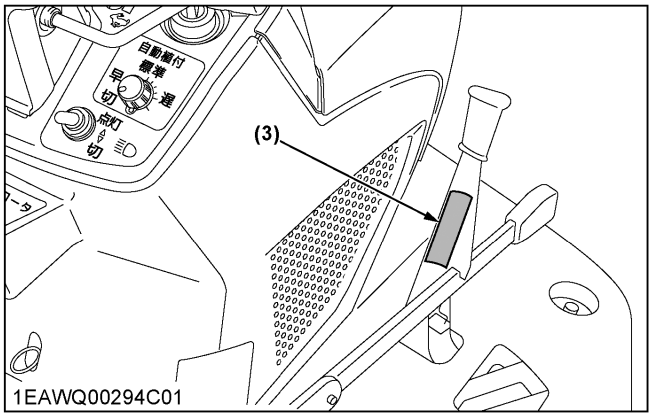
(2) 品番　95700003550





(3) 品番　26910007760



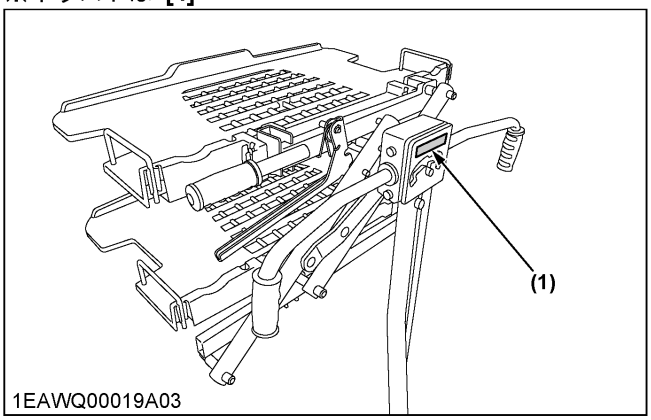


1LLYT00016A01jaJP

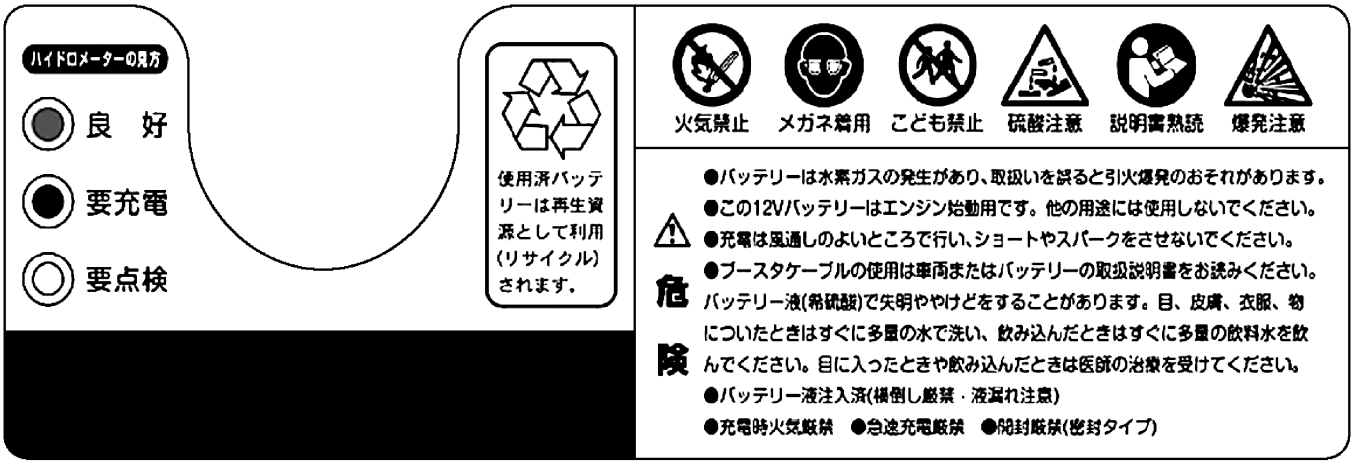
(1) 品番　95720000640

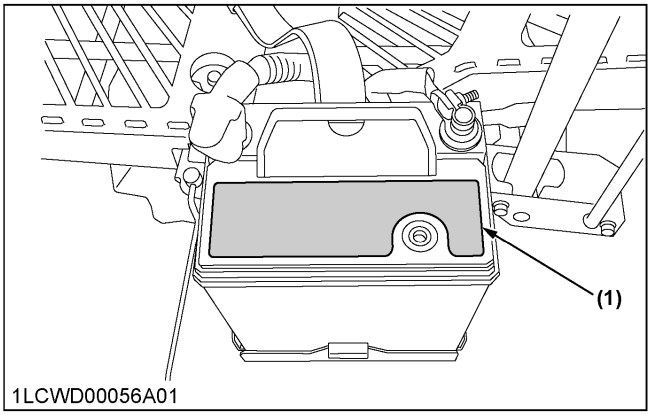


※イラストは **[4]**



(1) 品番　97430015040





1LLYT00017A01jaJP

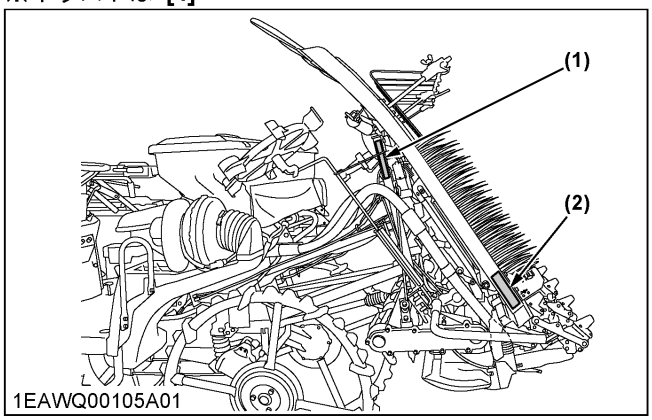
(1) 品番　95720000650

⚠警 告	人・物にぶつかる危険があるので、走行・運搬時にはマーカをロックし、先端部を外すこと。

(2) 品番　95720000670

	⚠ 警　告 ロータに接触すると手を傷つけるおそれがあるので、ロータの交換・清掃、ロータに付いた異物の除去などを行うときはエンジンを必ず止めること。

※イラストは **[4]**

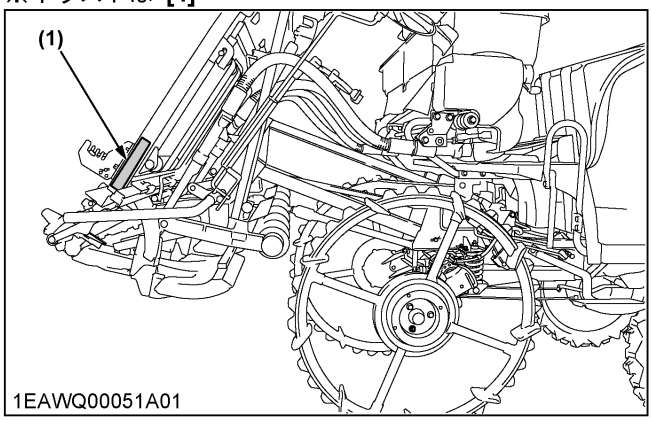


---

(1) 品番　26910003020

	⚠ 警　告 植付爪に接触すると手を傷つけるおそれがあるので、植付爪の交換・調整・清掃、苗取り出し口の異物の除去、残り苗の取り出しなどを行うときは、エンジンを必ず止めること。

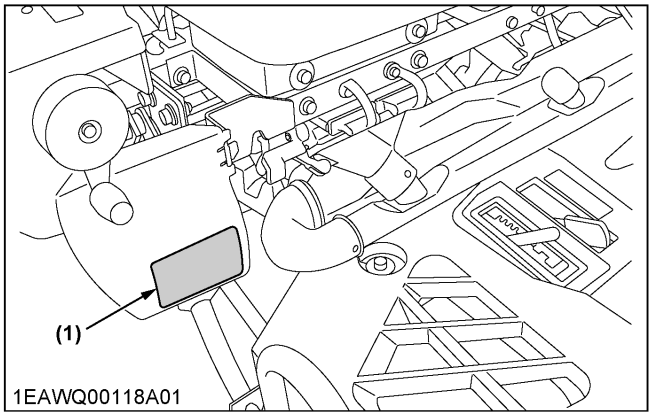
※イラストは **[4]**



---

(1) 品番　95700003560

⚠ 警　告
指又は手の巻込み
駆動部に接触すると手を傷つける恐れがあるため、施肥機の点検・肥料の排出・苗の取り出しのときは必ずエンジンを停止すること。



1LLYT00018A01jaJP

安全ラベルの手入れ

安全ラベルをよく読み理解して、安全注意事項を守ってください。

- 安全ラベルはいつもきれいにして、傷つけないようにしてください。
- 安全ラベルがよごれた場合は、石鹸水で洗い、やわらかい布でふいてください。
  シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと、文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水により安全ラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接安全ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失した安全ラベルは、製品購入先に注文し、新しい安全ラベルに貼り替えてください。
- 新しい安全ラベルを貼る場合は、貼付面の汚れを完全に拭き取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。
- 安全ラベルが貼り付けされている部品を新部品と交換するときは、安全ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

⚠ 警告

- **機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。**

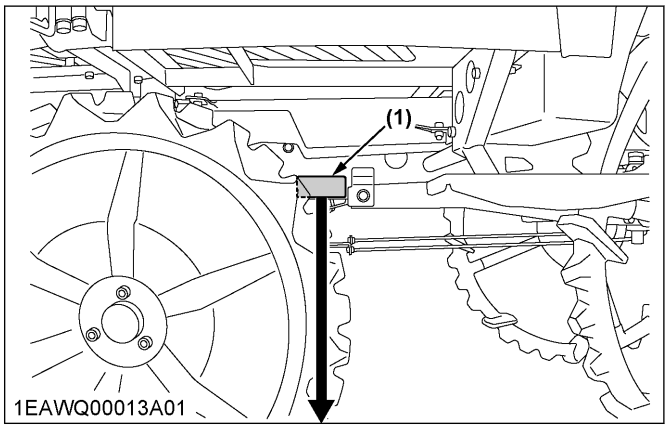
この製品には、保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先にそれぞれ**【ご相談窓口】**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際、銘板に記載している

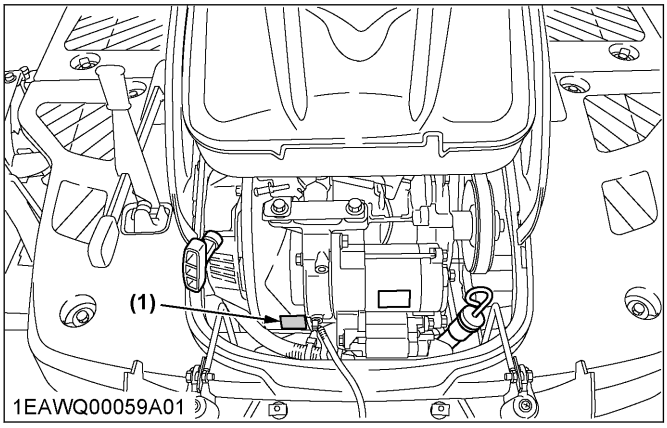
- 型式名・区分と製造番号
- 搭載機関（エンジン）の型式名と番号

をあわせてご連絡ください。
なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。





(1) 銘板（型式名、区分及び製造番号）



(1) 銘板（エンジン番号、エンジン型式名）

認定番号

型式名		安全検査証票番号
LD	4	NARO 19/161
	5	NARO 19/160

補修用部品の供給年限について

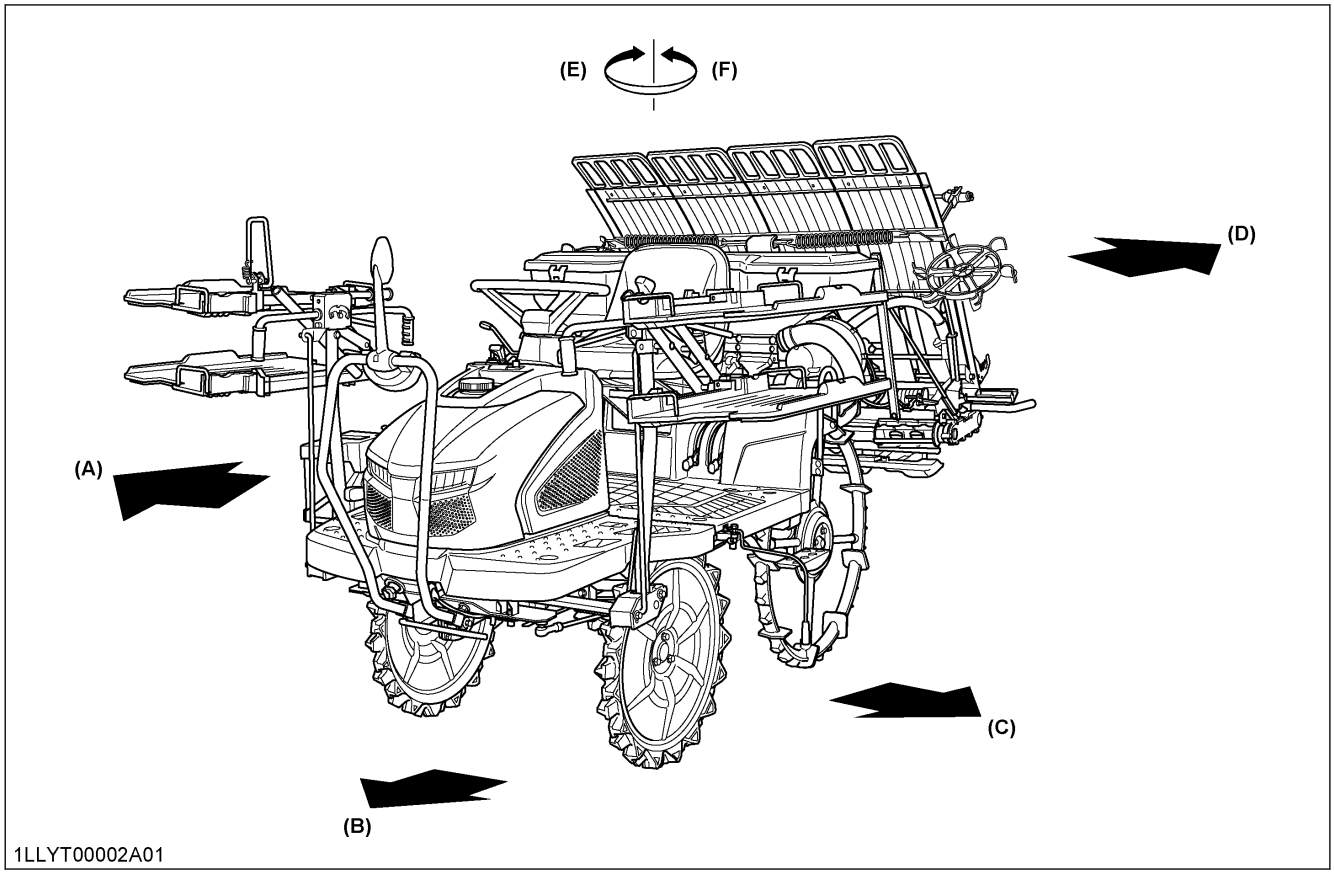
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打切り後 9 年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

装置の名称と取扱い

機体方向説明

この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は、図示の通りです。

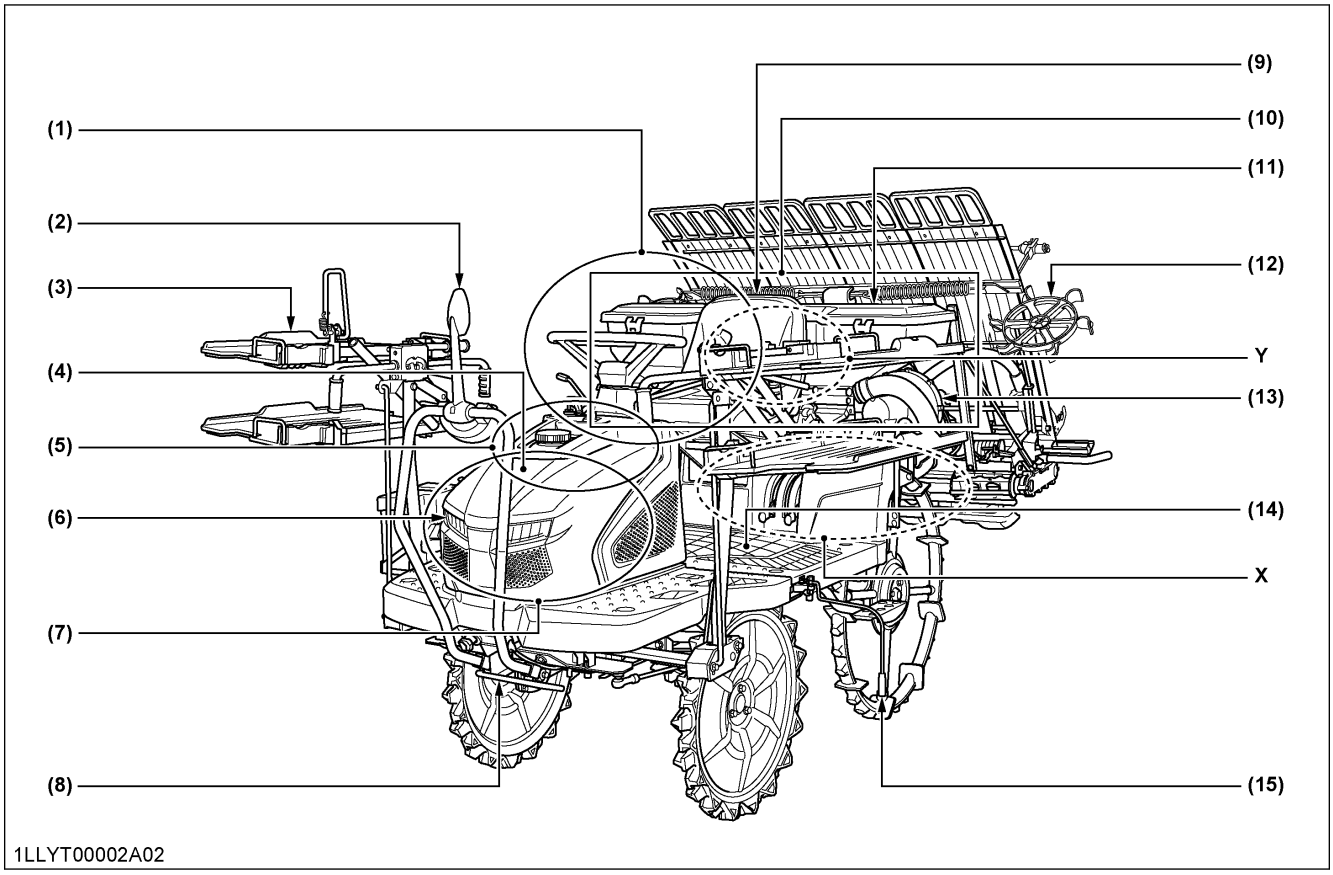
※イラストは［4］



(A) 右側
(B) 前方
(C) 左側
(D) 後方
(E) 右回り（時計方向）
(F) 左回り（反時計方向）

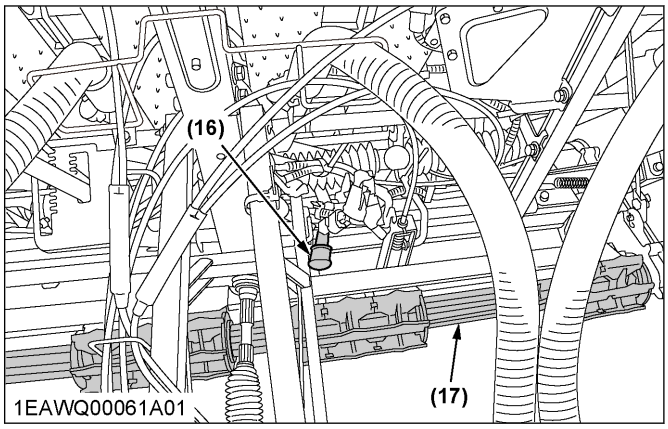
各装置の名称

※イラストは［4］



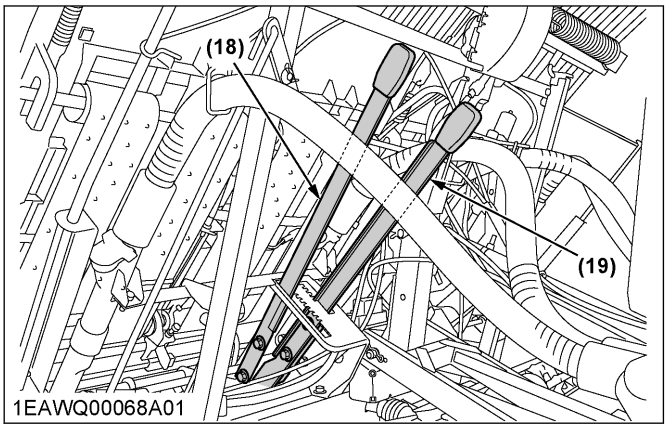
(1) 運転操作部
(2) マスコット
(3) 予備苗のせ台（段積み状態）
(4) ボンネット
(5) 燃料タンク部
(6) ヘッドランプ
(7) エンジン部
(8) けん引フック
(9) 運転席（シート）
(10) 施肥装置**［*R* 仕様］**
(11) ホッパ
(12) ラインマーカ
(13) ブロワ**［*R* 仕様］**
(14) ステップ
(15) 隣接マーカ

X 部拡大図



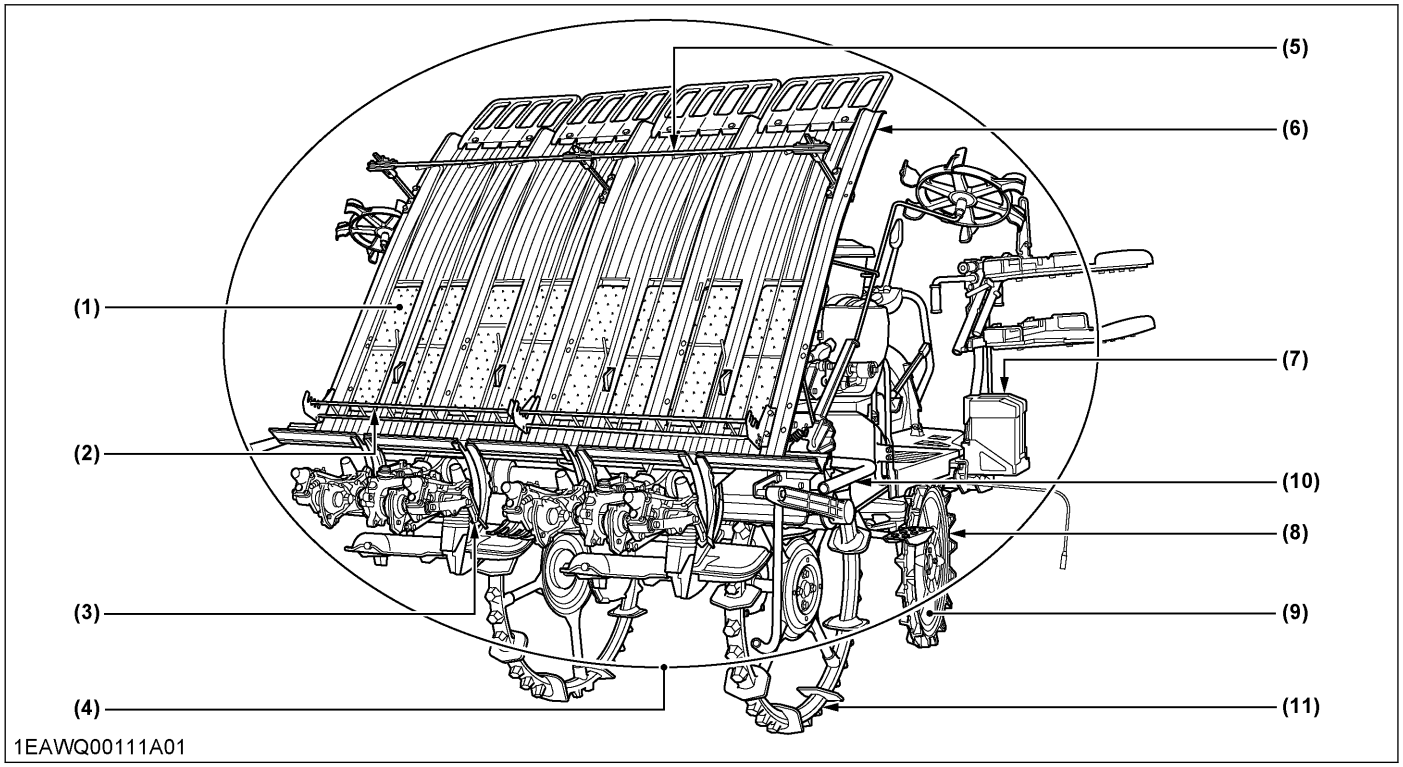
(16) 横送り切換えレバー
(17) 整地ロータ

Y 部拡大図

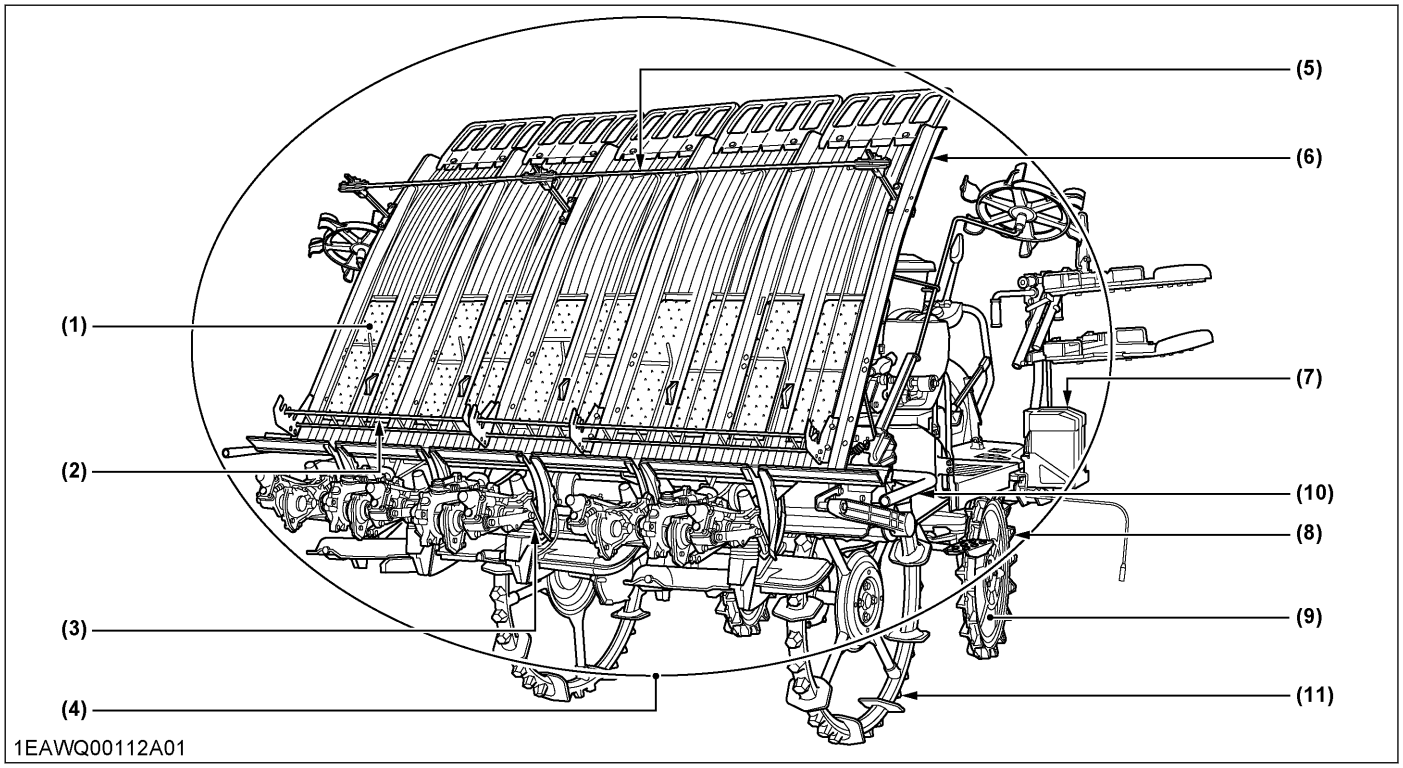


(18) 苗取り量調節レバー
(19) 植付深さ調節レバー

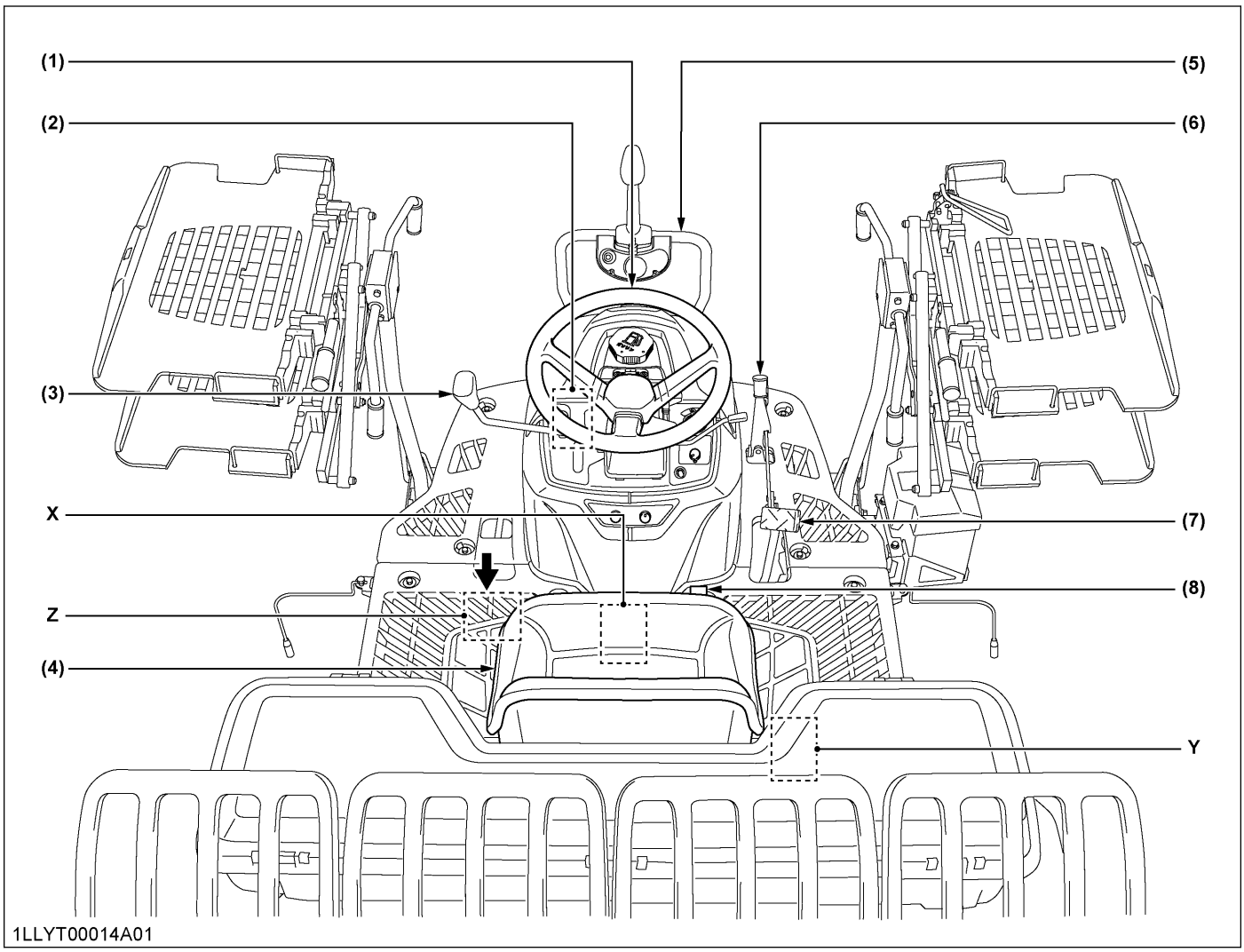
※イラストは［4］

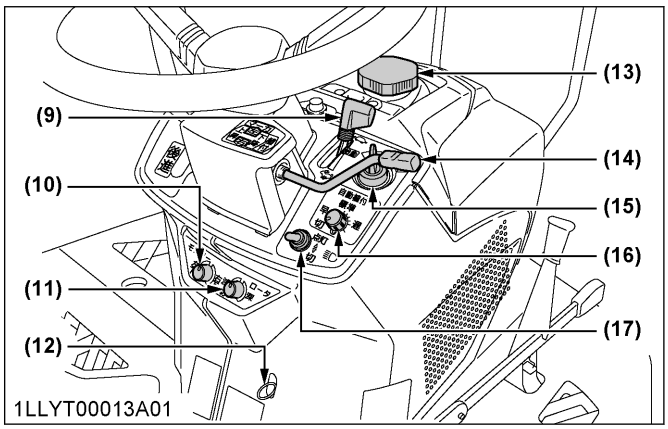


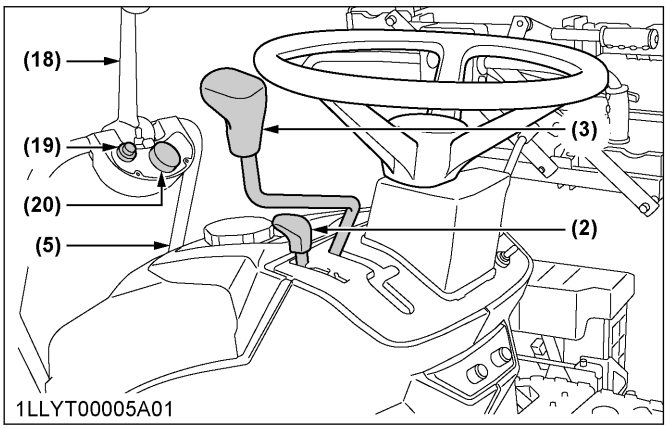
※イラストは［5］



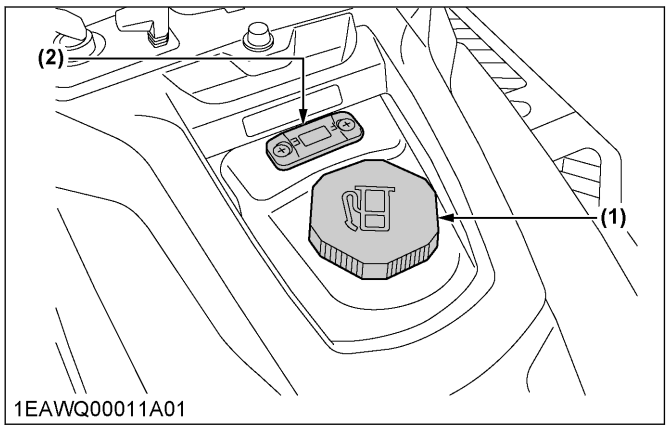
(1) 縦送りベルト
(2) 苗押さえ棒
(3) 植付爪
(4) 植付部
(5) 苗ステー
(6) 苗のせ台
(7) バッテリ
(8) 前輪
(9) ホイールカバー
(10) しゅう動板ガード
(11) 後輪





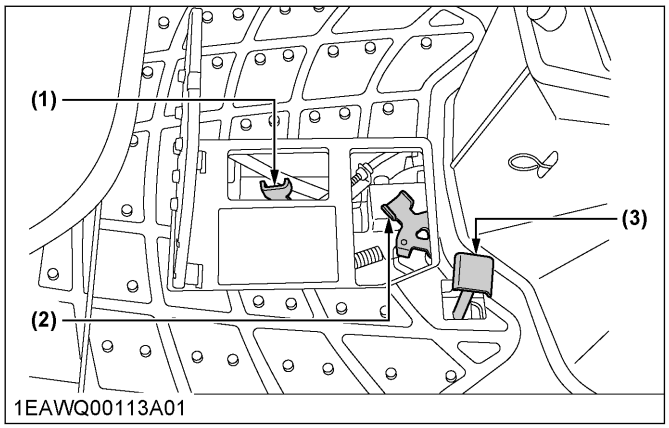


(1) パワーステアリングハンドル
(2) 副変速レバー
(3) 主変速レバー
(4) 運転席（シート）
(5) あぜごえアーム
(6) 駐車ブレーキレバー
(7) ブレーキペダル
(8) 前輪デフロックペダル
(9) アクセルレバー
(10) モンロー調整ダイヤル
(11) ロータ深さ調整ダイヤル
(12) チョークレバー
(13) 燃料キャップ
(14) 十字ポンパレバー
(15) メインスイッチ
(16) 自動植付調整ダイヤル
(17) ランプスイッチ
(18) マスコット
(19) 植えじまいボタン
(20) エンジン停止ボタン



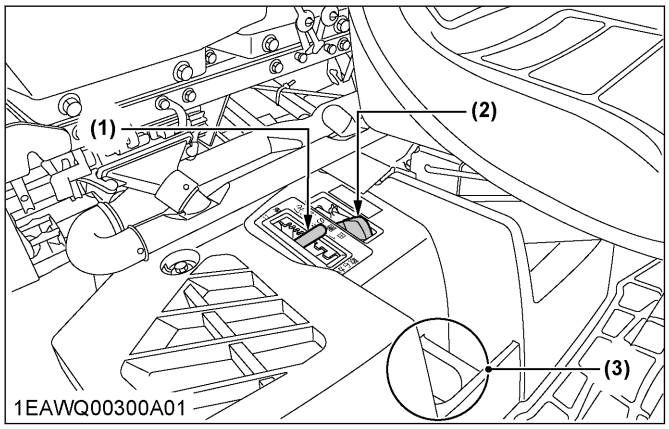
(1) 燃料キャップ
(2) 燃料計

X 部拡大図



(1) 株間調節レバー *1*
(2) 株間調節レバー *2*
(3) 前輪デフロックペダル

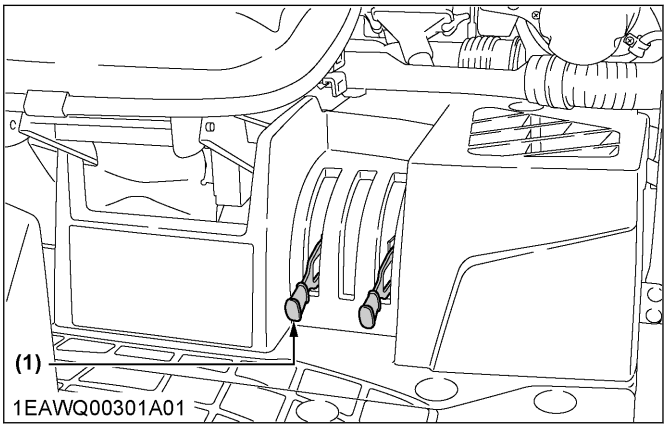
Y 部拡大図



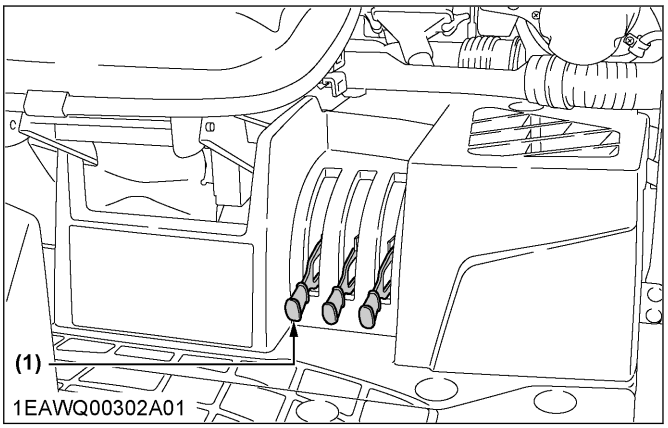
(1) フィットセンサレバー
(2) 油圧ロックレバー
(3) 小物入れ

Z 部拡大図

※イラストは［4］



※イラストは［5］



(1) あぜぎわクラッチレバー

走行装置の名称とはたらき

1. エンジン操作関係

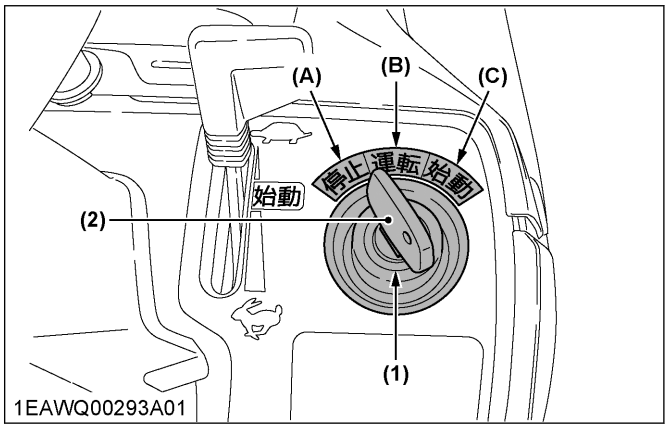
1.1 メインスイッチ

田植機の電源の**入・切**、およびエンジンの**始動・停止**を行うスイッチです。

[停止]
メインスイッチのキーが抜差しできるエンジン停止中の位置

[運転]
電気（電装）装置がはたらく位置

[始動]
セルモータが回転し、エンジンが始動する位置

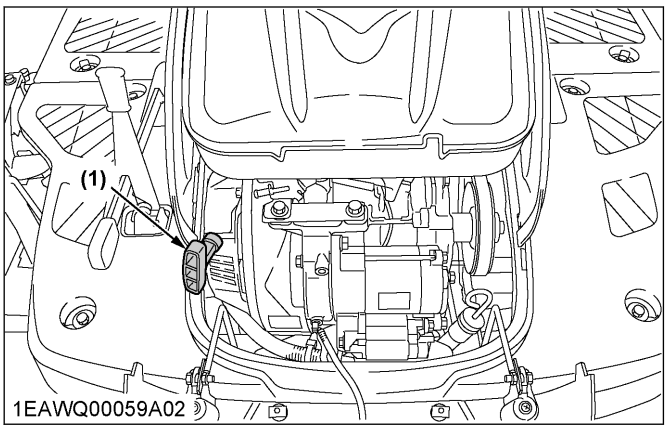


(1) メインスイッチ
(2) キー
(A) ***[停止]***
(B) ***[運転]***
(C) ***[始動]***

補足：
- **エンジン始動後、メインスイッチのキーから手を離すとメインスイッチのキーは、[運転]位置に戻ります。**
- **メインスイッチのキーを[運転]位置に回すと、ランプチェックのため、赤色と緑色の 2 色のマスコットランプが点灯したあと、消灯します。**

1.2 リコイルハンドル

エンジンの始動を行うハンドルです。



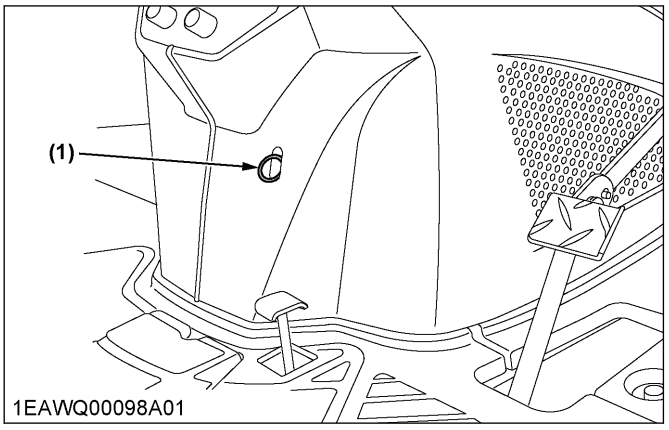
(1) リコイルハンドル

重要：
- **バッテリが上がっていると、植付性能に異常が発生するおそれがあります。植付作業を行う前にバッテリの点検を行い、補充電が必要な場合は必ず充電してください。また、バッテリが劣化した状態で植付作業はしないでください。**
- **リコイルハンドルを操作してエンジン始動後、十字ポンパレバーを操作しても植付部が動かないなど電気系統が正常にはたらかない場合は、バッテリを交換してください。**

補足：
- **バッテリ上がりなどでメインスイッチを操作してもエンジンが始動しない場合に使用してください。**
- **ブレーキペダルをいっぱいまで踏込まないとエンジンは始動しません。また、ブレーキロックレバーでブレーキペダルをロックして駐車ブレーキを掛けてからエンジンを始動してください。**

1.3 チョークレバー

エンジンの始動を容易にするレバーです。レバーを引くと燃料の混合気が濃くなります。

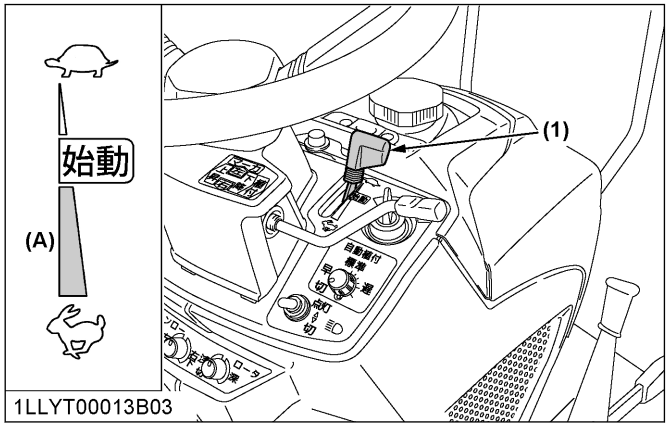


(1) チョークレバー

補足：
- **エンジンの始動以外には使用しないでください。**

1.4 アクセルレバー

エンジンの回転数をコントロールするレバーです。
レバーを後方に引く（🐇方向）と回転数が上がり、前方に押す（🐢方向）と回転数は下がります。



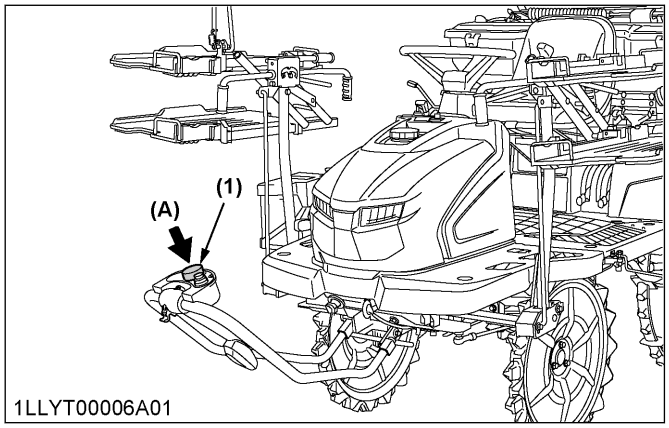
(1) アクセルレバー　　*(A)* ***[🐇]***

補足：

- **作業時はアクセルレバーを[🐇]位置まで引いてください。**

1.5 エンジン停止ボタン

エンジンを停止するボタンです。エンジンが停止するとブザーが鳴ります。異常が発生したときなど緊急時にボタンを押してエンジンを停止してください。



(1) エンジン停止ボタン　　*(A)* 押すとエンジンが停止

重要：

- **田植機を動かす前（移動走行や植付作業前）にエンジン停止ボタンを押してエンジンが必ず停止することを確認してください。エンジンが停止しない場合は、直ちに購入先に連絡してください。**

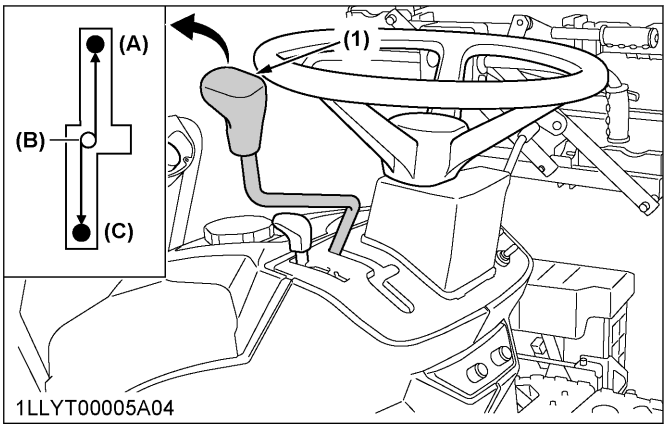
補足：

- **エンジン停止ボタンを押してエンジンが停止すると同時に「ピーーー」と連続してブザーが鳴ります。また、メインスイッチのキーを[停止]位置に回すとブザーが停止します。**
- **再始動するときは周囲の安全を確認後、エンジンを始動してください。**

2. 走行操作関係

2.1 主変速レバー

前進・後進・停止（中立）の操作および走行速度の調整を行うレバーです。



(1) 主変速レバー

(A) ***[前進]***
(B) ***[N]***（中立）
(C) ***[後進]***

補足：

- **主変速レバーを[N]（中立）位置より[後進]側に操作するとバックブザーが鳴ります。**
- **通常の走行を停止するときは、主変速レバーを操作してください。**
- **エンジン回転数の調整を行うときは、主変速レバーを[N]（中立）位置にしたあと、アクセルレバーを操作してください。**
- **植付部が接地しているとき、主変速レバーを[N]（中立）位置より[後進]側に操作すると、バックアップ機能がはたらいて植付部が上昇します。**

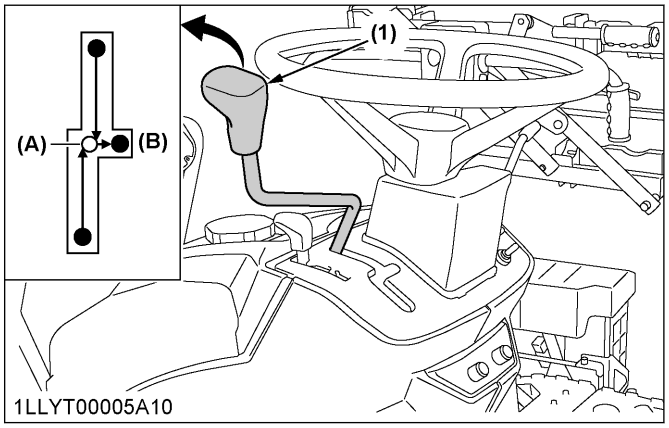
2.1.1 e-stop 機能について

⚠ 警告

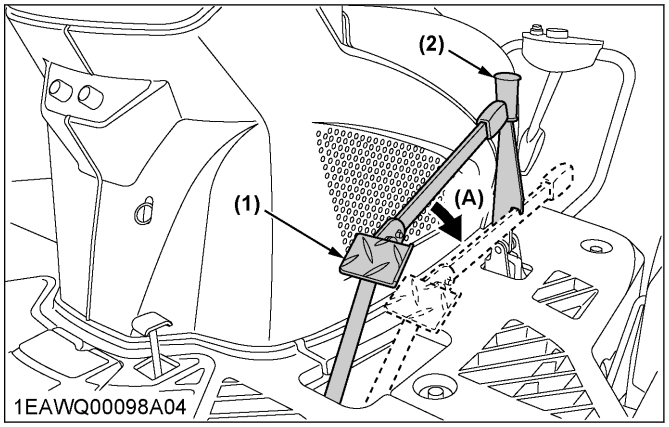
- **機体が急発進するおそれがあるため、e-stop 機能を使用してエンジン停止後、エンジンを再始動するときは主変速レバーを必ず[N]（中立）位置にしてからブレーキペダルを踏込んでエンジンを再始動してください。**
- **坂道では e-stop でエンジンを停止しないでください。エンジン停止中は機械の変速が中立状態となり、暴走するおそれがあります。**
- **長時間機械から離れる際は、メインスイッチのキーを[停止]位置にしてエンジンを停止し、駐車ブレーキを掛け、メインスイッチのキーを抜いてください。**

e-stop 機能は一時的にエンジンを停止する機能です。苗の補給作業などでエンジンを停止後、エンジンの再始動が容易に行なえます。

エンジンが始動中に主変速レバーを**[N]**（中立）位置から**[e-stop]**側に操作すると、エンジンが停止します。そのあと、主変速レバーを**[N]**（中立）位置に戻したあと、ブレーキペダルを踏込むとエンジンが再始動します。また、ブレーキペダルを踏込んだ状態で主変速レバーを**[e-stop]**側から**[N]**（中立）位置に戻すと、エンジンは再始動します。



(1) 主変速レバー
(A) ***[N]***（中立）
(B) ***[e-stop]***



(1) ブレーキペダル
(2) ブレーキロックレバー
(A) 踏込む

重要：

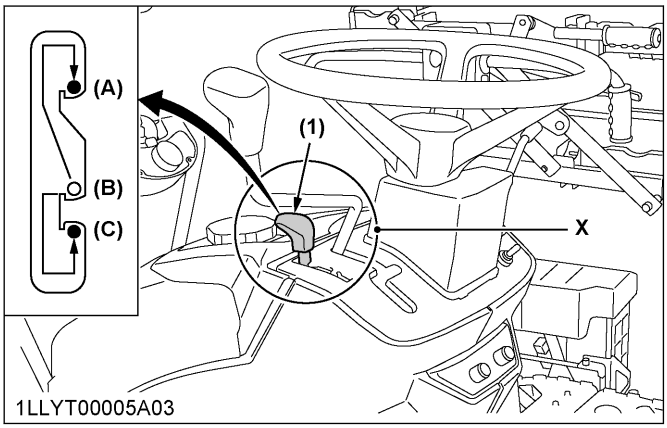
- **エンジンを再始動する場合は、主変速レバーが[N]（中立）位置にあることを確認してください。**

補足：

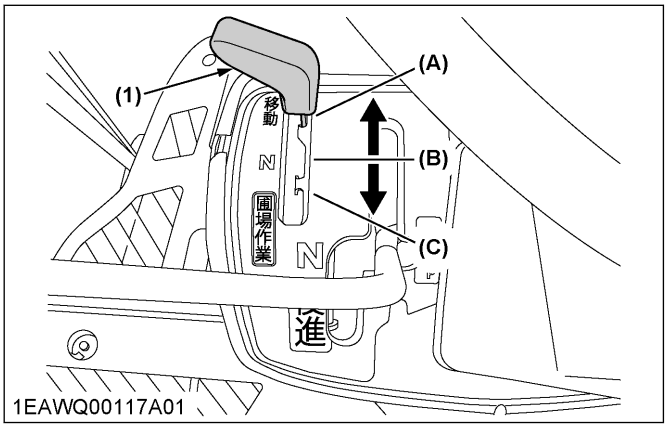
- **e-stop 状態からの再始動を含め、e-stop 機能を使用してエンジンを停止後、再始動するまでにエンジンの温度が下がる（約 60 度以下になる）と、エンジンが正常に再始動しない場合があります。**
- **植付作業中に e-stop 機能を使用してエンジンを停止後、エンジンを再始動してもエンジン停止前の状態で植付作業を継続します。また、主変速レバーを[N]（中立）位置から、後進側に操作するとバックアップ機能が働き、植付クラッチが[切]の状態になります。**
- **植付作業中に e-stop 機能を使用してエンジンを停止後、マフラから破裂音がする場合がありますが異常ではありません。また、破裂音がするときは、エンジンを停止する前にエンジンの回転数を下げてください。**
- **e-stop 機能を使用してエンジンを停止すると、マスコットの赤色と青色 LED ランプ 2 灯が全て高速で点滅すると同時に「ピッピッ」と 10 分間隔でブザーが鳴ります。**

2.2 副変速レバー

[移動]位置と**[圃場作業]**位置の切換えを行うレバーです。



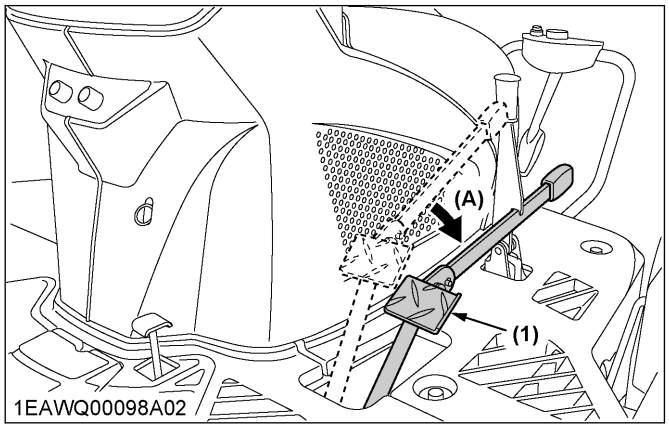
X 部拡大図



(1) 副変速レバー
(A) ***[移動]***
(B) ***[N]***（中立）
(C) ***[圃場作業]***

2.3 ブレーキペダル

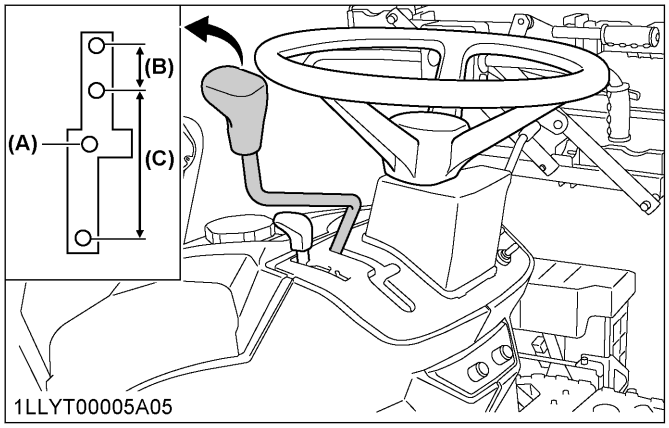
踏込むとブレーキが掛かります。



(1) ブレーキペダル　　*(A)* 踏込む

重要：

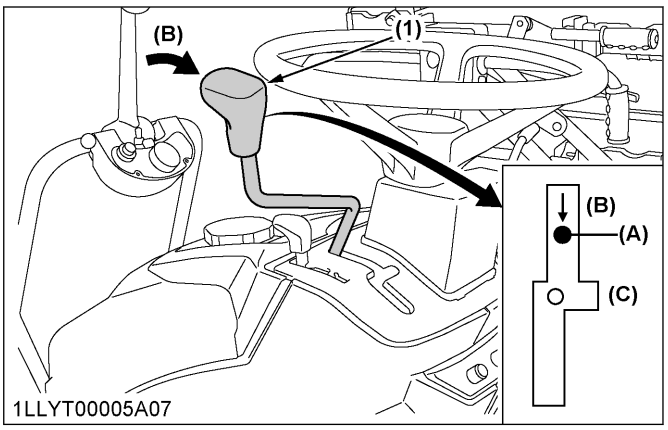
- **ブレーキペダルを踏込んだ状態では、主変速レバーの前進 3〜5 速への操作はできません。無理に操作するとレバーの変形や破損によるトラブルの原因となります。**



(1) 主変速レバー

(A) ***[N]***（中立）［前進］
(B) *1〜2* 速に戻る位置（範囲）
(C) *1〜2* 速には戻らない位置（範囲）

- **主変速レバーを前進側に操作し、4 速以上の位置でブレーキペダルを踏込むと、ブレーキが掛かると同時に主変速レバーが強制的に前進 1〜2 速位置へ戻ります。**



(1) 主変速レバー

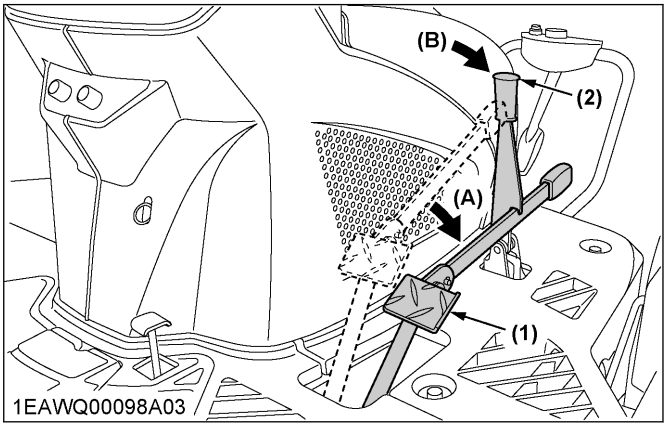
(A) ***[前進]***（*4* 速以上）
(B) 戻る
(C) ***[N]***（中立）

補足：

- **エンジン始動時はブレーキペダルをいっぱいまで踏込んでください。踏込み不足の場合はエンジンが始動しません。**

2.4 ブレーキロックレバー

ブレーキペダルを踏込み、ブレーキロックレバーでペダルをロックすると駐車ブレーキが掛かります。また、ブレーキペダルを踏込んでブレーキロックレバーを外すと駐車ブレーキが解除されます。

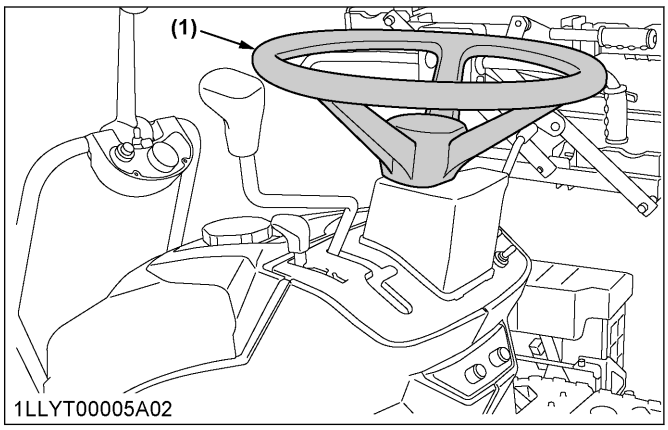


(1) ブレーキペダル
(2) ブレーキロックレバー

(A) 踏込む
(B) 掛ける

2.5 パワーステアリングハンドル

操向操作（旋回や進路変更）を行う油圧式のハンドルです。



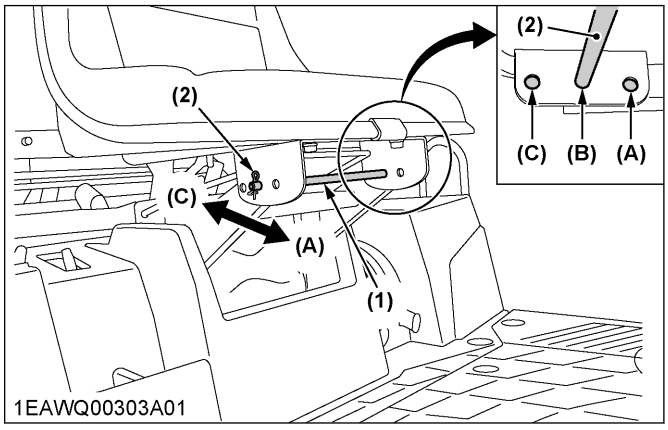
(1) パワーステアリングハンドル

重要：

- **ハンドル操作は、ブレーキペダルを踏込んでいるときや、エンジンが停止しているときは重くなりますので無理に操作しないでください。タイヤの摩耗が早くなったり、リムの破損の原因になります。**

2.6 運転席（シート）

運転席は前後に調節することができます。
運転席の前方下にあるスナップピンとロッドを外し、穴を差換えて前 ⟷ 後に調節してください。



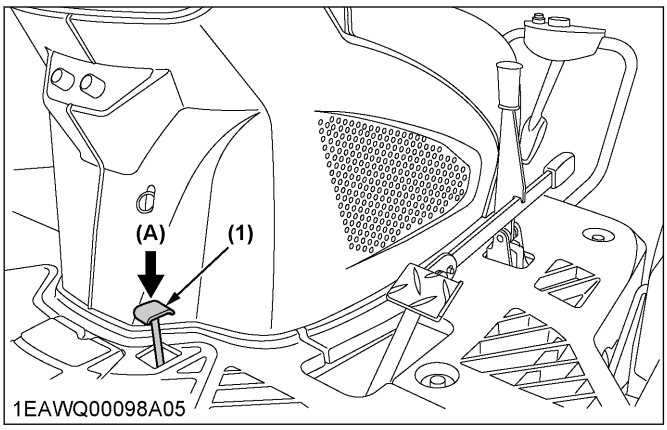
(1) ロッド
(2) スナップピン
(A) 前
(B) 出荷位置
(C) 後

補足：

- **保管するときは、運転席を前方に倒しておくと、ほこりよけとなります。**

2.7 前輪デフロックペダル

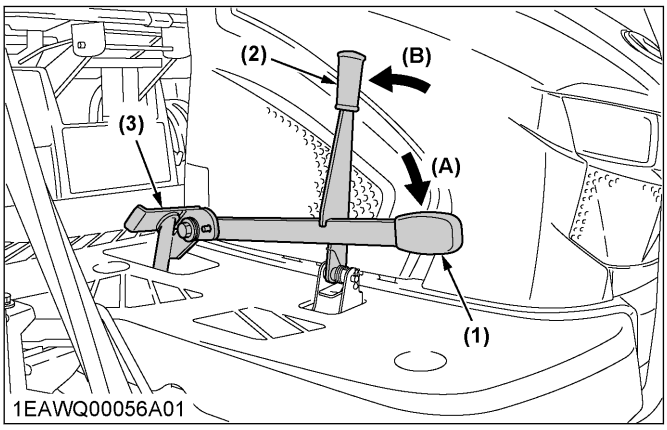
踏込むと、左と右の前輪が一体となって駆動します。また、ほ場の条件などにより片方の前輪がスリップするときに使用します。



(1) 前輪デフロックペダル
(A) 踏込む

2.8 あぜごえレバー

あぜごえレバーはあぜごえアームを使用し、機体から降りて走行する場合に機体の走行を一時停止するレバーです。
機体の走行を停止させるときは、あぜごえレバーを押下げてブレーキロックレバーの切欠部に掛けてください。
解除するときはあぜごえレバーをいったん押下げてブレーキロックレバーのロックを解除してください。



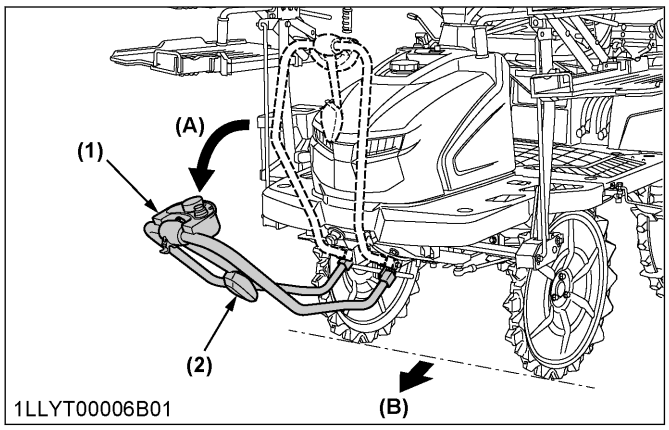
(1) あぜごえレバー
(2) ブレーキロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) 下げる
(B) ロック

補足：

- **あぜごえレバーはブレーキペダルと連動させているため、あぜごえレバーを操作するとブレーキが掛かると同時に機体の走行が停止します。**

2.9 あぜごえアーム

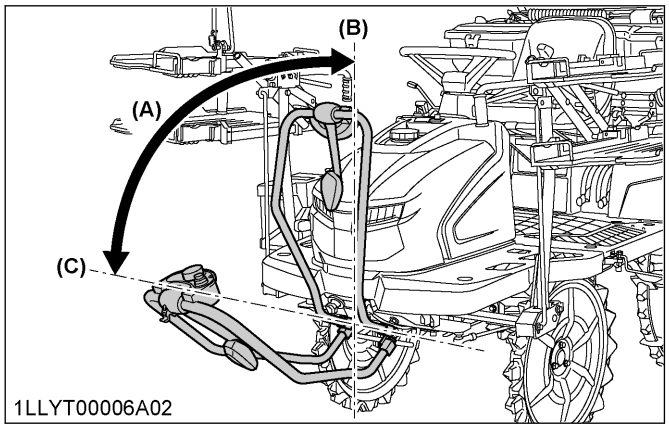
ほ場の出入りをするときのあぜごえや、トラックへの積み・降ろし、急な斜面を登り降りするとき、機械の浮き上がり防止・引上げ・方向修正などを行うアームです。
あぜごえアームを操作するときは、マスコットを収納したあと、前輪を直進方向にしてから、アームをいっぱいまで倒します。このとき、前輪は直進状態に保持されます。



(1) あぜごえアーム
(2) マスコット
(A) 倒す
(B) 前輪タイヤを直進方向で保持

2.9.1 あぜごえアームの操作について

あぜごえアームは、作業内容および作業状態により下記位置を基本として使用してください。



(A) 可動範囲 … あぜごえアームが動く範囲

(B) 収納位置 … 乗車しての移動、およびトラック輸送時、長期格納時

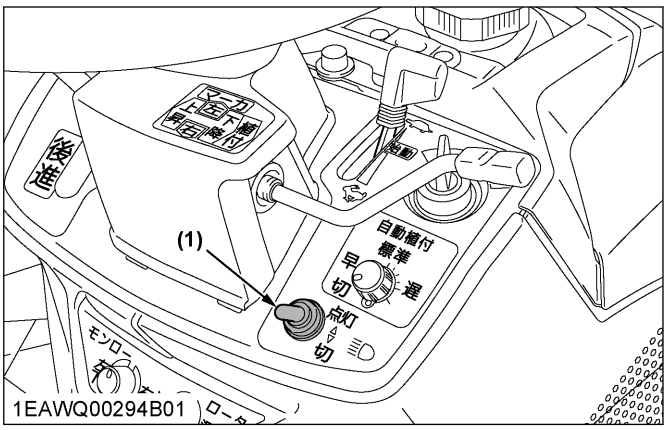
(C) 降りての操作位置 … あぜごえ時や急な坂道の登り下りなど降りて走行する時

重要：

- **あぜごえアームを収納位置から 30 度以上倒して植付作業や移動は行わないでください。あぜごえアームを 30 度以上倒すとデフロック、車輪ロックがはたらき、前輪の操作が固定されるため、無理なハンドル操作を行うと機械が破損する原因になります。(53 ページ参照)**
- **あぜごえアームを押さえた状態でハンドルを回さないでください。破損の原因になります。**

2.10 ランプスイッチ

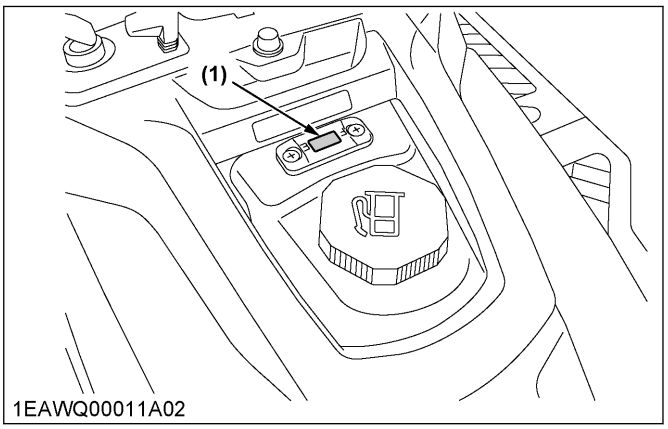
ヘッドランプの点灯・消灯の操作を行うスイッチです。



(1) ランプスイッチ

2.11 燃料計

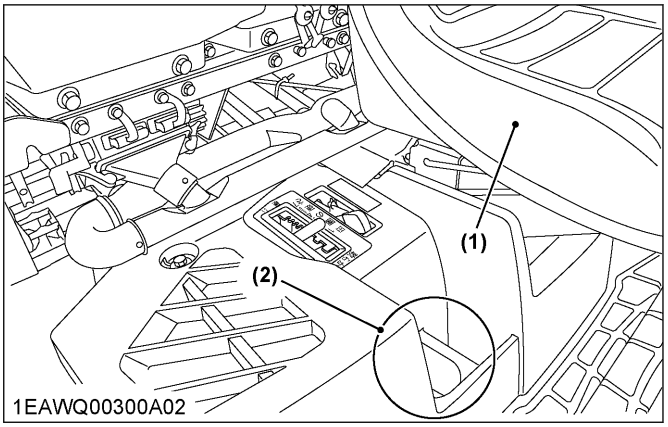
燃料の残量を針で表示（**[F]**〔満タン〕 ⟷**[E]**〔空〕）します。



(1) 燃料計

2.12 小物入れ

運転席（シート）右下に装備している小物入れは、飲料水の置き場や工具入れなどとして使用してください。

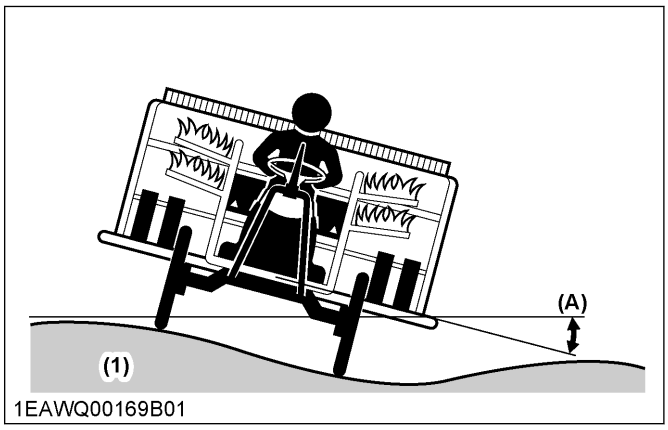


(1) 運転席（シート）
(2) 小物入れ

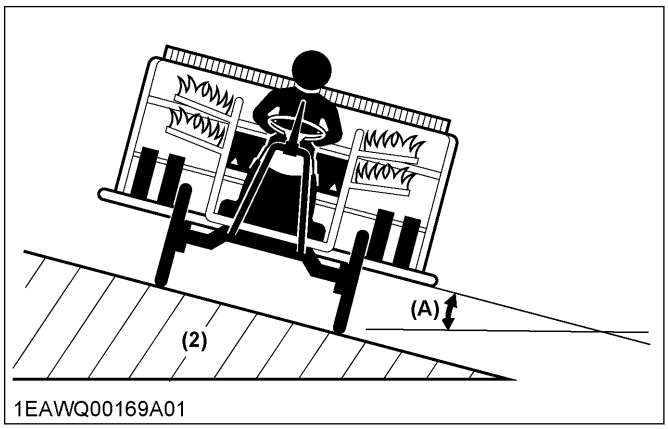
3. 警報関係

3.1 転倒防止警報［4］

ほ場の凹凸や移動走行時などで傾斜地を走行したとき、機体が左右に 15 度以上傾くと機体の転倒を避けるため、**「ピーーー」**と転倒防止の警報ブザーが連続して鳴ります。



1EAWQ00169B01



1EAWQ00169A01

(1) ほ場
(2) 傾斜地
(A) *15* 度以上

補足：

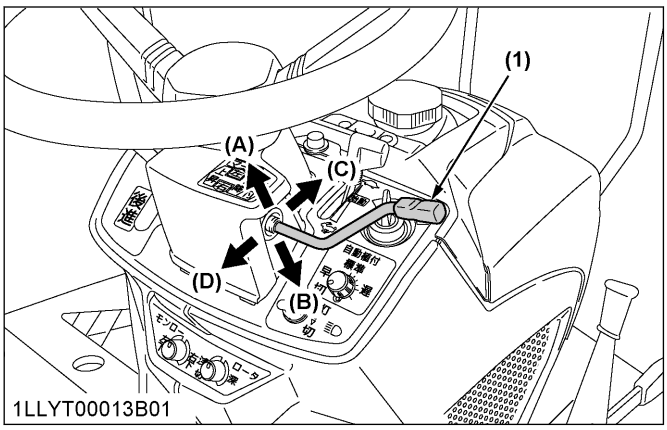
- **機体の左右の傾きが 15 度以下になると、警報ブザーは停止します。**

作業装置の名称とはたらき

1. 植付操作関係

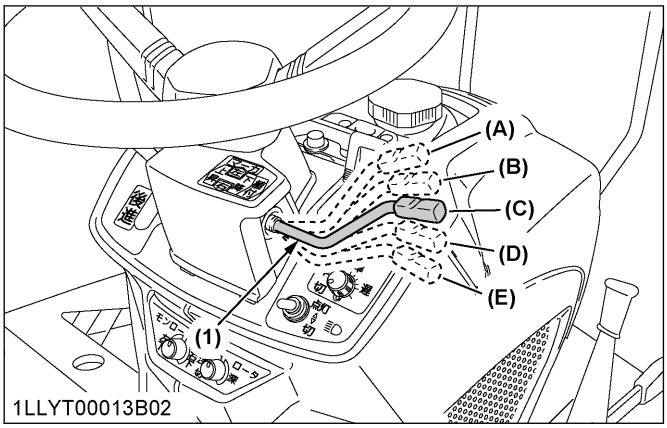
1.1 十字ポンパレバー

十字ポンパレバーは、エンジンが作動中に植付部（苗のせ台）の**上昇・下降**、植付クラッチの**入・切**、ラインマーカのセットを操作するレバーです。操作するときは、**上・下・前・後**各方向に軽く押したあと離してください。



1LLYT00013B01

(1) 十字ポンパレバー
(A) ***[上昇]***
(B) ***[下降]・[植付]***
(C) ***[マーカ左]***
(D) ***[マーカ右]***



1LLYT00013B02

(1) 十字ポンパレバー
(A) 上 *2* 段目位置
(B) 上 *1* 段目位置
(C) 中立位置
(D) 下 *1* 段目位置
(E) 下 *2* 段目位置

[上昇]（上側操作）
植付部の駆動が停止し、植付部が上昇します。

補足：

- **十字ポンパレバーを上 1 段目位置に押上げると、押上げている間だけ植付部が上昇します。また、十字ポンパレバーから手を離すと、植付部の上昇が停止します。**
- **十字ポンパレバーを上 2 段目位置まで押上げると、［ピッ］と音が鳴ると同時に植付部が最上昇位置まで上昇します。このとき、植付クラッチが[切]の状態になります。**

[下降]・[植付]（下側操作）
植付部が下降します。そのあと、再度操作すると植付クラッチが**[入]**になり、植付部が駆動します。（爪が回転し、苗のせ台が横送りします。）

補足：

- **十字ポンパレバーを下 1 段目位置に押下げると、押下げている間だけ植付部が下降します。また、十字ポンパレバーから手を離すと、植付部の下降が停止します。**

- **十字ポンパレバーを下 2 段目位置まで押下げると、［ピッ］と音が鳴ると同時に植付部のフロートが地面に着くまで下降します。また、十字ポンパレバーを再度下 2 段目位置まで押下げると、［ピッピッ］と音が鳴り、植付クラッチが[入]の状態になり植付部が駆動します。**
- **十字ポンパレバーを操作して植付クラッチが［入］の状態になると、緑色のマスコットランプが点灯します。**

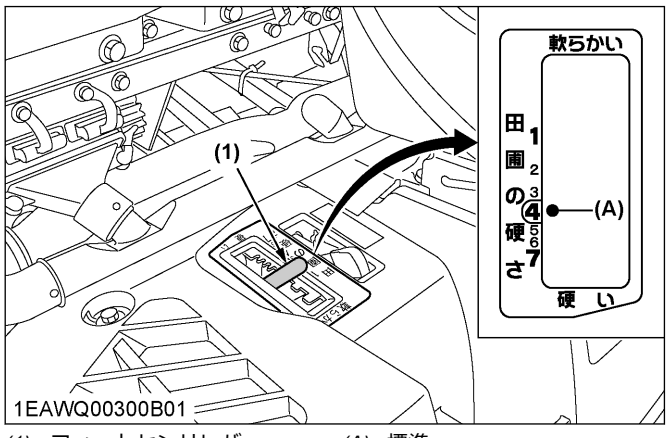
[マーカ左]（前側操作）・[マーカ右]（後側操作）
植付部が下降状態のとき、十字ポンパレバーを操作すると、ラインマーカが左側または、右側に倒れてセットされ、植付準備の状態になります。

重要：
- **十字ポンパレバーは軽く操作してください。強く操作すると十字ポンパレバーの変形や破損、スイッチの故障によるトラブルの原因となります。**

補足：
- **植付部が地面に接地している状態で、主変速レバーを[N]（中立）位置より後進側に操作すると、植付部の駆動が停止し、植付部が上昇します（バックアップ機能）。**
- **植付部が上昇するとラインマーカは自動的に収納されます。**
- **植付作業時などで植付部が地面に接地している状態で植付部が上昇すると、ラインマーカは自動的に収納されます。**

1.2 フィットセンサレバー

フィットセンサレバーは、フィットセンサの感度を変更するレバーです。ほ場の状態に合わせて 7 段階（1～7）の調節が行なえます。

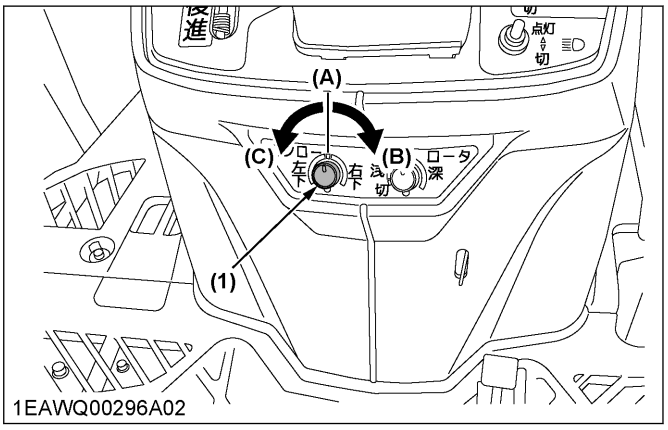


(1) フィットセンサレバー　　*(A)* 標準

補足：
- **出荷時は、[4]の位置です。**
- **フィットセンサは、植付部の上下の動きに合わせてフロートが追従する感度を調節する装置です。**
- **ほ場の整地や泥押し状態を確認し、ほ場表面を最良の状態にするため、フィットセンサレバーで調節を行なってください。（85 ページ参照）**

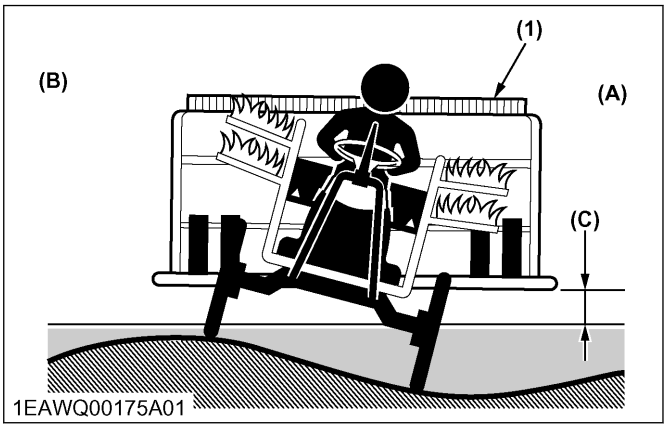
1.3 モンロー調整ダイヤル

モンロー調整ダイヤルは、モンロー（植付部自動水平制御装置）がはたらいていても、植付け状態が左右均等にならないときに調整を行うダイヤルです。
あぜぎわなどの傾斜地で、モンロー（植付部自動水平制御装置）がはたらいていても、植付け状態が左右均等にならないときは調整を行ってください。（87 参照）
モンロー調整ダイヤルを中央位置から**[右下]**方向に回すと植付部の右側が下がり、**[左下]**方向に回すと植付部の左側が下がります。



(1) モンロー調整ダイヤル　　*(A)* 中央
(B) ***[右下]***（植付部右下げ）
(C) ***[左下]***（植付部左下げ）

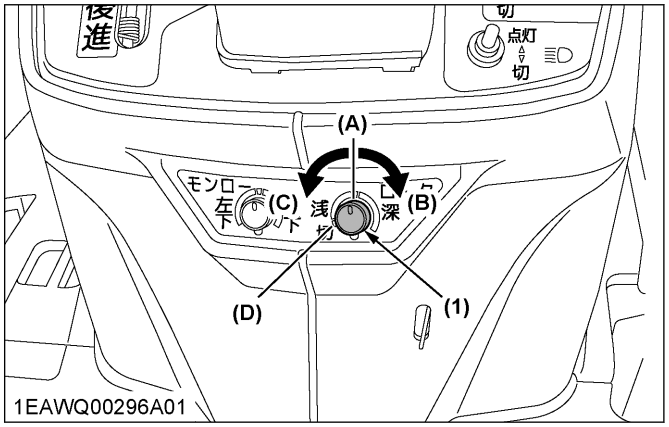
補足：
- **出荷時は、中央位置です。**
- **植付部の角度の調節は最大で左、右各約 2 度の角度調節ができます。**
- **モンロー（植付部自動水平制御装置）は、機体が左、右に傾くと、自動的に植付部（苗のせ台）を水平状態に修正、保持する装置です。**



(1) 植付部（苗のせ台）　　*(A)* 左
(B) 右
(C) 水平

1.4 ロータ深さ調整ダイヤル

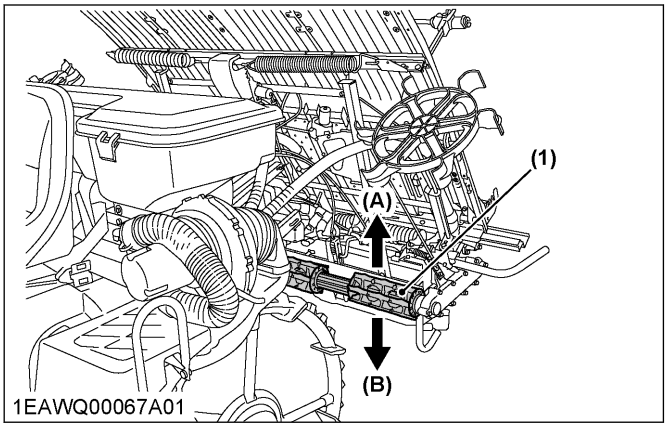
ロータ深さ調整ダイヤルは、ほ場面に接地したロータの深さを調整するダイヤルです。
ほ場条件や作業状態により、整地ロータが泥押ししたり整地が悪い場合は、ロータ深さ調整ダイヤルで調整を行ってください。また、整地ロータは、ほ場の車輪跡の整地を行い、植跡をきれいにするためのものです。ほ場条件により整地ロータのほ場上面からの深さを変更してください。
ロータ深さ調整ダイヤルが**[切]**位置以外のとき、調整ダイヤルを中央（標準）位置から**[浅]**方向に回すと整地ロータが上がり、**[深]**方向に回すと整地ロータが下がります。



(1) ロータ深さ調整ダイヤル
(A) 中央（標準）
(B) ***[深]***
(C) ***[浅]***
(D) ***[切]***

補足：

- **出荷時は[切]位置です。**
- **整地ロータの高さは[深]または、[浅]方向に 3 段階調整が行えます。また、1 段階で整地ロータの高さが 3～5 mm 単位で増減します。**
- **整地ロータはほ場の車輪跡の整地を行い、植跡をきれいにします。整地状態や植跡の状態を確認後、ほ場の状態に合わせて整地ロータの深さ調節を行ってください。**
- **ロータの深さは植付深さ、フロート感知、ロータ深さ調整ダイヤルで決めています。そのため調整ダイヤルを回しても、ロータの深さが変わらない場合があります。**



(1) 整地ロータ
(A) 上がる（浅い）
(B) 下がる（深い）

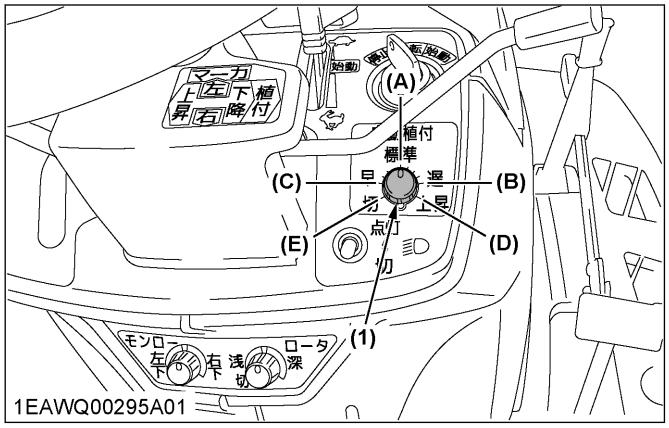
1.5 自動植付調整ダイヤル

⚠ 警告

- **機械の近くに人がいるときや運転者が運転席から離れるときは、自動植付機能を停止してください。植付部が自動昇降すると植付部に接触しケガをするおそれがあります。**

自動植付調整ダイヤルは、自動植付機能の**入/切**および植付部昇降時の昇降速度の調整を行うダイヤルです。また、自動植付調整ダイヤルが**[切]**位置以外のとき、自動植付機能がはたらきます。
自動植付機能は植付作業中に機体を旋回するとき、旋回方向にハンドルを回すと、植付部が自動的に上昇して植付クラッチが切れます。また、自動植付調整ダイヤルが**[遅]**、**[標準]**、**[早]**各位置のときは、旋回が終わったあとハンドルを戻すと、植付部が自動的に下降してクラッチが入り、次行程の植付作業を開始する機能です。（69 ページ参照）

- **自動植付調整ダイヤル[切]位置**
  自動植付機能がはたらきません。
- **自動植付調整ダイヤル[標準]位置**
  自動植付機能がはたらきます。
- **自動植付調整ダイヤル[遅]位置**
  自動植付機能がはたらいている状態で、**[標準]**位置より植付部の昇降速度が遅くなります。
- **自動植付調整ダイヤル[早]位置**
  自動植付機能がはたらいている状態で、**[標準]**位置より植付部の昇降速度が早くなります。
- **自動植付調整ダイヤル[上昇]位置**
  自動植付機能は停止状態で、旋回方向にハンドルを回すと、植付部が自動的に上昇のみします。



(1) 自動植付調整ダイヤル

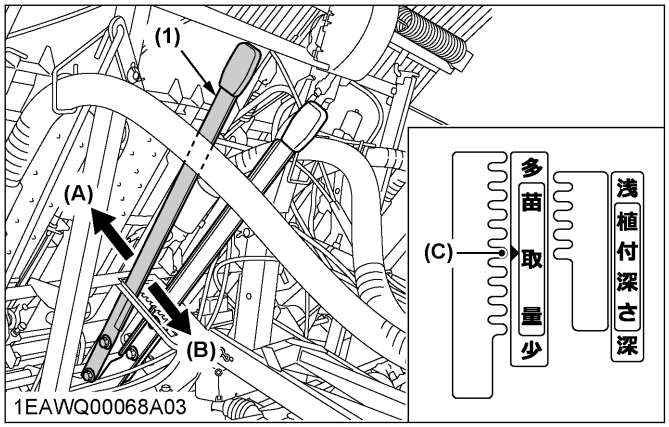
(A) ***[標準]***（中央）
(B) ***[遅]***（植付部昇降遅い）
(C) ***[早]***（植付部昇降早い）
(D) ***[上昇]***
(E) ***[切]***（自動植付機能 **切**）

補足：

- **出荷時は[切]位置です。**
- **植始め位置は標準位置から前、後方向に約 80 cm 調整が行えます。**
- **自動植付調整ダイヤルが[上昇]位置のときは、植付部の下降や植付クラッチを入れるときは手動で操作してください。**
- **植付け作業時以外は必ず[切]位置にしてください。**
- **自動植付機能がはたらいているとき、旋回後に植付部が自動的に下降したあと、次行程の植付開始位置の調整が行えます。**
- **自動植付機能がはたらいているときに施肥作業を行う場合は、植始めは低速で行ってください。高速で植付けると、施肥開始の位置が遅れて施肥ムラの原因になります。［R 仕様］**

1.6 苗取り量調節レバー

苗の縦取り量を調節するレバーです。苗の状態や種類に合わせて 10 段階の調節が行なえます。



(1) 苗取り量調節レバー

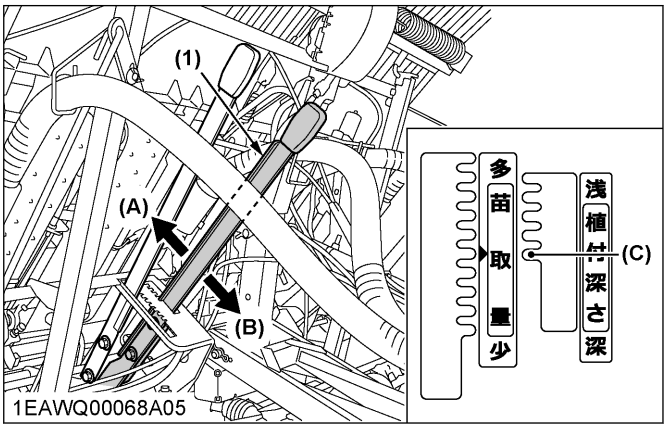
(A) 多い
(B) 少ない
(C) 標準

補足：

- **出荷時は、上[多]から 6 段目位置です。**

1.7 植付深さ調節レバー

ほ場に適した苗の植付深さを調節するレバーです。苗の植付深さに合わせて 5 段階の調節が行えます。



(1) 植付深さ調節レバー

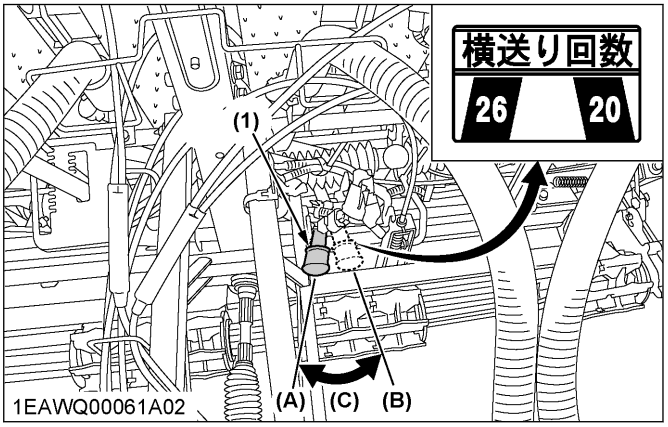
(A) 浅い
(B) 深い
(C) 最深

補足：

- **出荷時は［最深］位置です。**

1.8 横送り切換えレバー

苗の横送り回数を切換えるレバーです。苗の種類に合わせて 2 段階（20 回〔中苗〕・26 回〔稚苗〕）の切換えが行なえます。



(1) 横送り切換えレバー

(A) ***[26]***回
(B) ***[20]***回
(C) 切換え

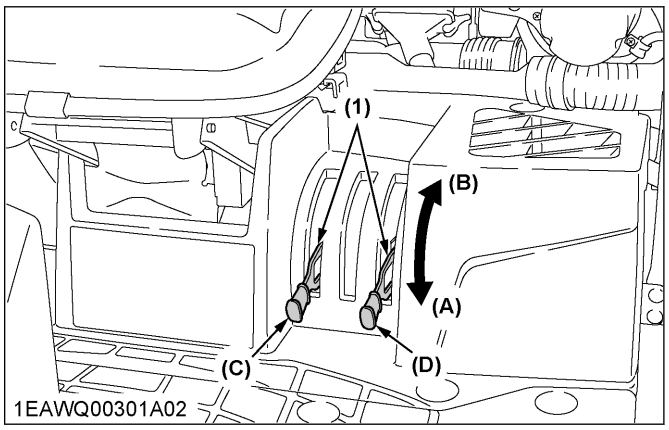
補足：

- **出荷時は[26]回位置です。**

1.9 あぜぎわクラッチレバー

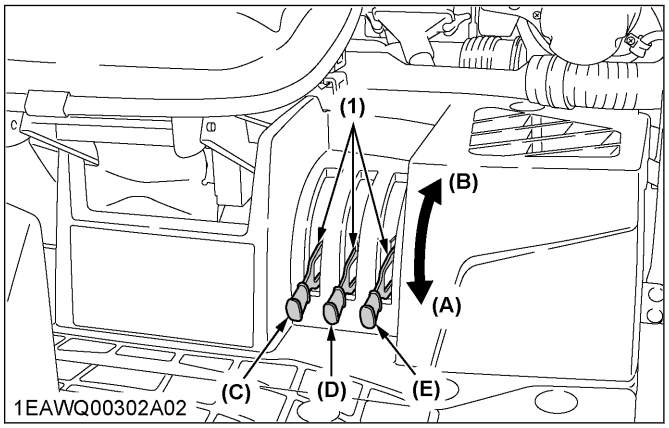
2 条ごと（**[5]** 中央部は 1 条）に苗の縦送りと植付爪の駆動を停止するレバーです。ほ場の形状にあわせて、必要なときに使用してください。

※イラストは［4］



(1) あぜぎわクラッチレバー
(A) ***[入]***
(B) ***[切]***
(C) 右 *2* 条
(D) 左 *2* 条

※イラストは［5］



(1) あぜぎわクラッチレバー
(A) ***[入]***
(B) ***[切]***
(C) 右 *2* 条
(D) 中央 *1* 条
(E) 左 *2* 条

重要：

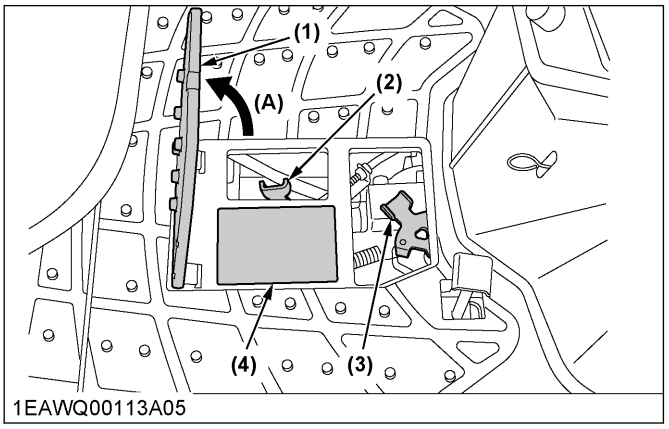
- **以下の状態のとき、あぜぎわクラッチレバーを操作すると、破損するおそれがあるため無理な操作をしないでください。**
  - **植付部が中間位置でレバーの操作できない場合**
  - **超深田のため、植付作業時にレバーが戻らない場合**

補足：

- **全条植えを行なうときは、必ずレバーを[入]位置にしてください。**
- **あぜぎわクラッチレバーを[切]位置にすると、植付けが停止すると同時に肥料の繰出しも停止します。［R 仕様］**
- **植付部を最上昇まで上昇すると、あぜぎわクラッチレバーが自動的に[入]位置に戻ります。**
- **超深田では植付作業時にあぜぎわクラッチレバーが戻らない場合があります。**

1.10 株間調節レバー

植付株間の調節を行うレバーです。2 本のレバーの組み合わせで、6 段階の株間に調節できます。



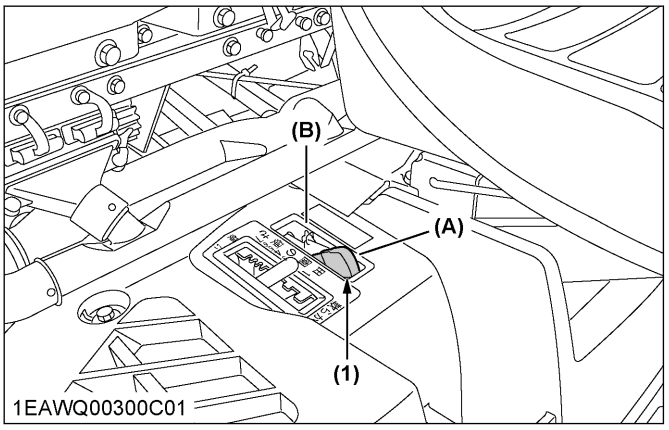
(1) カバー
(2) 株間調節レバー *1*
(3) 株間調節レバー *2*
(4) 株間調節ラベル
(A) 開く

補足：

- **出荷時は、18 cm/60 株位置です。**
- **株間の切換えを行うときは、カバーを上側に開いてください。また、株間調節ラベルを確認後、株間調節レバーを操作してください。**

1.11 油圧ロックレバー

植付部の下降防止を行う油圧のロックレバーです。
油圧ロックレバーを**[閉]**位置にして、エンジンが作動中に十字ポンパレバーを操作すると、植付部は上昇しますが下降はしません。解除するときは、油圧ロックレバーを**[開]**位置にしてください。



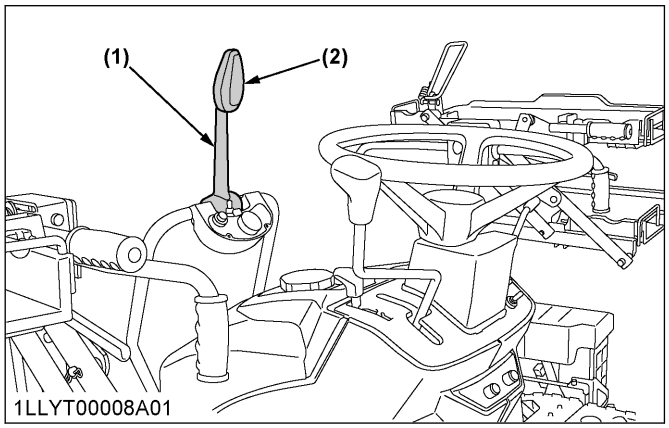
(1) 油圧ロックレバー
(A) ***[閉]***
(B) ***[開]***

補足：

- **油圧ロックレバーを操作するときは、上または、下方向いっぱいまで操作してください。**

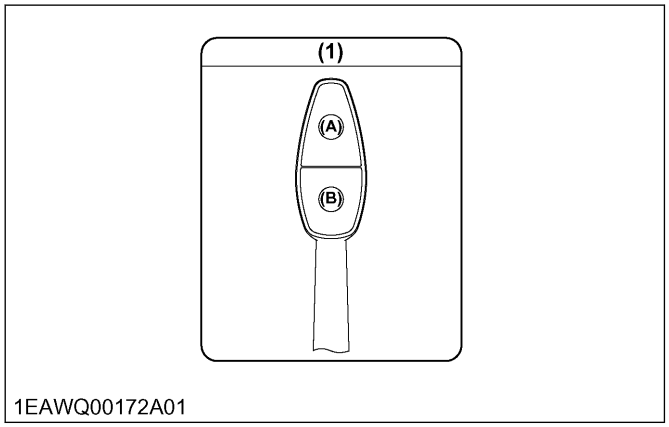
1.12 マスコット・マスコットランプ

マスコットは、次行程の植付作業を行なうときに機体を直進方向に操作するため、ラインマーカで引かれた線上に合わせる目印です。また、マスコットランプの表示はメインスイッチのキー操作、十字ポンパレバーの操作、植付作業時の状態や警報発生時に**点灯**又は、**点滅**します。



(1) マスコット
(2) マスコットランプ

マスコットランプ表示



(1) マスコットランプ
(A) 緑
(B) 赤

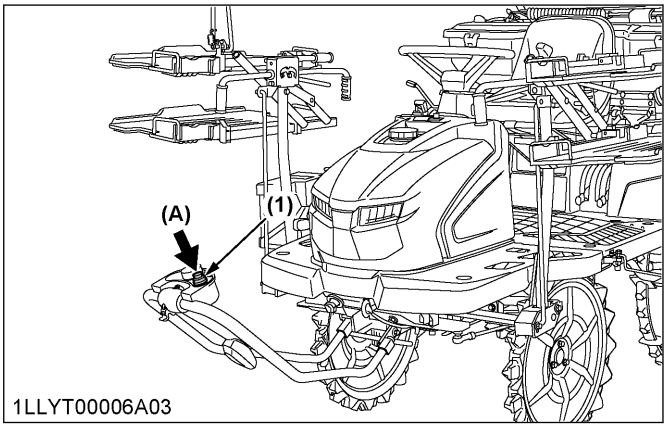
状態	マスコットランプ		ブザー、警報ブザー
	状態	色	
メインスイッチ［入］時	点灯（1回）	赤、緑	–
苗切れ発生時	点滅	赤	「ピー」（5 回断続吹鳴）
肥料切れ発生時**［R 仕様］**	点滅	赤	「ピピピッ」（5 回断続吹鳴）
肥料詰まり発生時**［R 仕様］**			
植付クラッチ［入］時	点灯	緑	「ピピッ」（1 回吹鳴）
e-stop［入］時（エンジン一時停止時）	高速点滅	赤、緑	「ピッ、ピッ」（10 分ごとに吹鳴）
自動植付旋回時	高速点滅	緑	–

補足：

- **e-stop でエンジン停止時は、ランプが全て高速で点滅します。また、e-stop でエンジン停止後の再始動のしかたについては 26 ページを参照してください。**
- **マスコットランプの点滅状態は通常の点滅状態と高速点滅の 2 種類あります。**
- **［R 仕様］は施肥全条停止レバーが［停止］位置のとき、施肥関係の警報は停止するため、作動しません。**

1.13 植えじまいボタン

植えじまいボタンは、植付部の駆動を停止するボタンです。あぜ越えしながら植付作業を終了するときに使用してください。



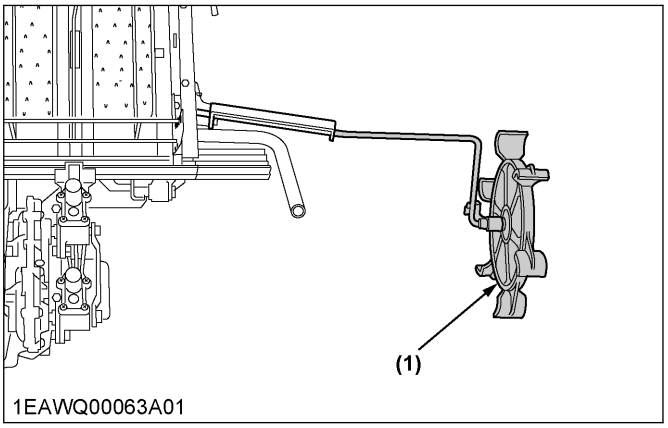
(1) 植えじまいボタン
(A) 押すと植付部の駆動が停止し、植付部が上昇

補足：

- **植えじまいボタンを押すと、植付部の駆動が停止すると同時に植付部が上昇します。**
- **あぜ越えしながら植えじまいボタンを押して植付作業を終了するときは、機械から必ず降りてあぜ越えアームを操作しながら植付作業を終わらせてください。**

1.14 ラインマーカ

ラインマーカは、次行程の植付作業を行なうときに機体を直進方向に操作するため、ほ場面に目標となる目印の線を引きます。

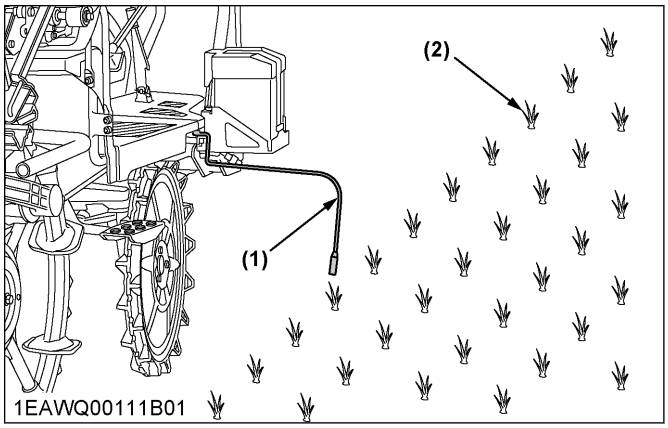


(1) ラインマーカ

補足：
- **ラインマーカで線を引くと、適正な隣接条間が保てます。**
- **植付部を上昇させるとラインマーカは自動的に収納されます。**

1.15 隣接マーカ

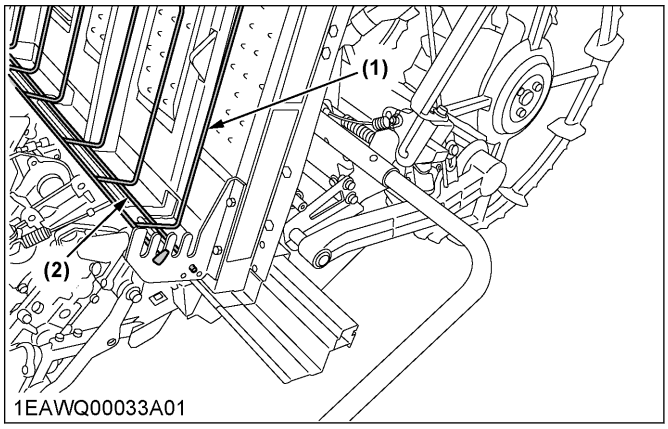
隣接マーカは、あぜぎわの植付け作業を行なうときやラインマーカで引かれた線が良く見えないとき、適正な隣接条間を保つため目印となります。
次行程の植始めに隣接する苗の真上に隣接マーカを合わせて、植付作業を行なってください。



(1) 隣接マーカ
(2) 隣接苗

1.16 苗ステー・苗押さえ棒

苗ステーは、薄くて軟弱な苗床や根張りの悪い苗床から、苗がくずれ落ちて発生する欠株を防ぎます。また、苗押さえ棒は、植付時の苗の倒れや欠株を防ぎます。

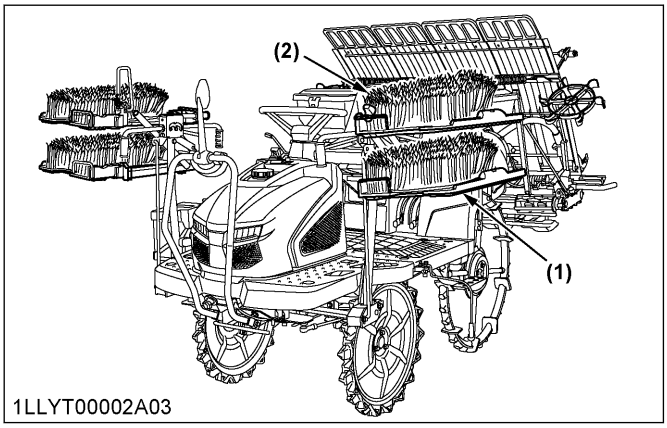


(1) 苗ステー
(2) 苗押さえ棒

1.17 予備苗のせ台

予備苗を 4 枚【4】又は、5 枚【5】載せることができます。

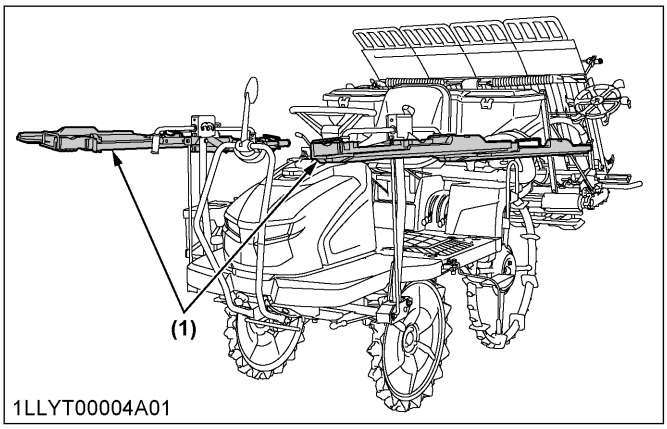
※イラストは［4］



(1) 予備苗のせ台（出荷時：段積み状態）
(2) 予備苗

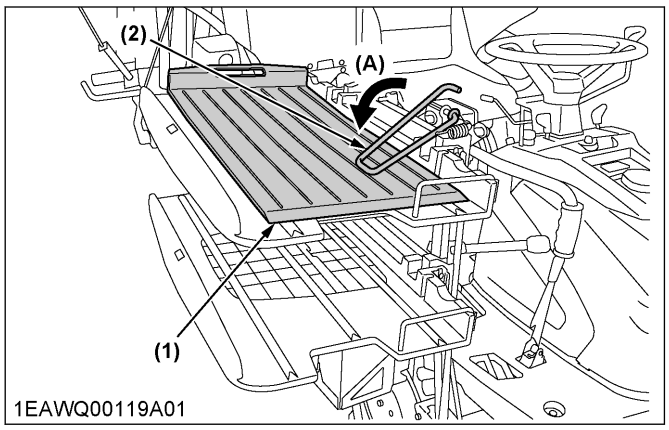
補足：
- **予備苗のせ台は出荷時、上下に並べた段積みの状態ですが、前後に並べたレール状態に変更が行なえます。（60 ページ参照）**

※イラストは［4］



(1) 予備苗のせ台（レール状態）

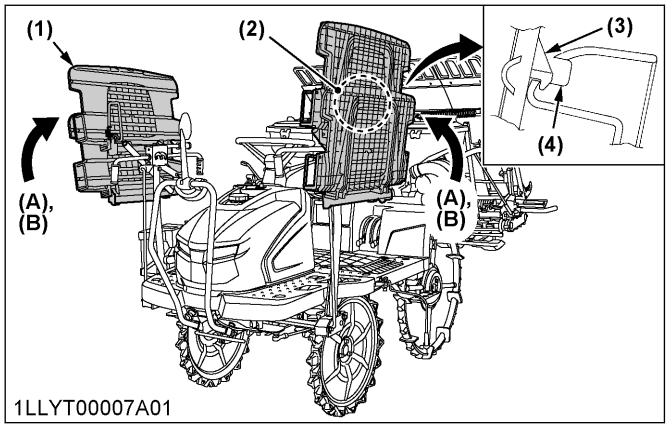
- **苗すくい板を収納するときは、右側の予備苗のせ台上側にある板押さえレバーを倒して固定してください。**



(1) 苗すくい板　　*(A)* 倒す
(2) 苗すくい板押さえレバー

- **予備苗のせ台は、上側に収納（折りたたみ）することができます。納屋などに格納するときに収納してください。収納時に各段の予備苗のせ台の上段側のフック部に下段の取付穴を確実に差込んでください。また、ロックを解除するときは、いったん押上げて、取付穴からフック部を外してください。**

※イラストは［4］



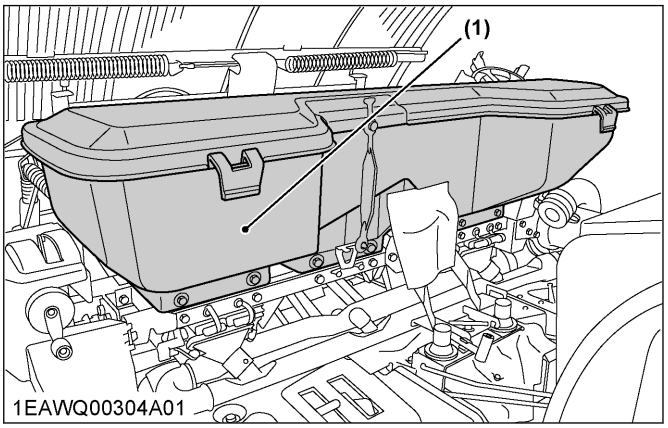
(1) 予備苗のせ台　　*(A)* 収納（折りたたむ）
(2) フック　　*(B)* 押上げるとフック解除
(3) フック部
(4) 取付穴

2. 施肥装置操作関係［R 仕様］

2.1 ホッパ

ホッパは、粒状の肥料を入れるところです。

※イラストは［4］



(1) ホッパ

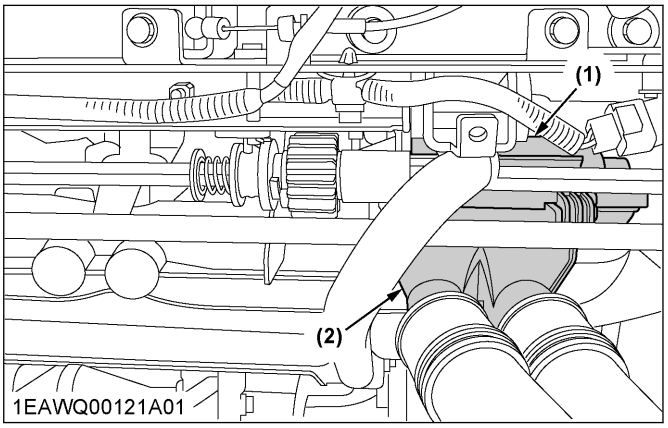
補足：

- **ホッパ容量は 1 条当り以下のとおりです。**

［4］.....	**約 11 L（約 10 kg）**
［5］.....	**約 9 L（約 8 kg）**

2.2 ロールケース（繰出し部）

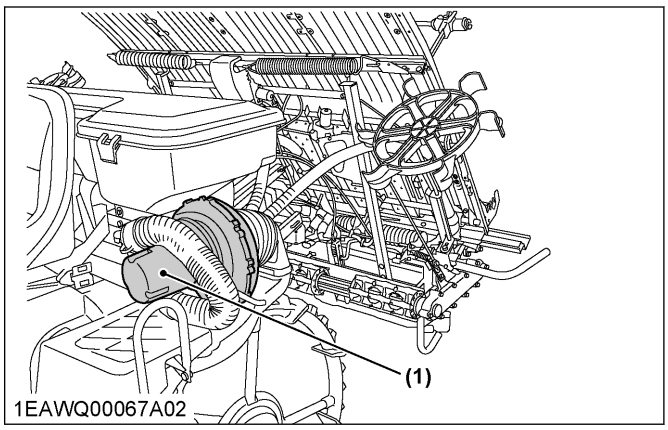
ロールケースは、ホッパ内の肥料の繰出量を調節し、設定された量を常に一定にして繰出すところです。



(1) ロールケース
(2) ロート

2.3 ブロワ

ブロワは、ロールケースから繰出された肥料を作溝器へ強制搬送する送風機です。



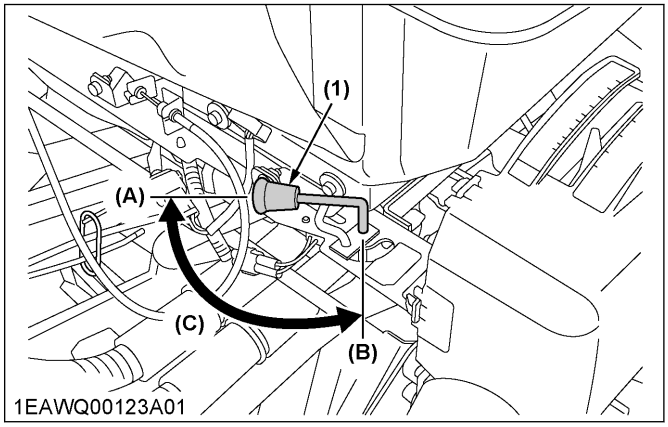
(1) ブロワ

補足：

- **ブロワは、メインスイッチを[始動]位置に回してエンジンが始動したあと、約 10 秒後に回転します。また、植付部が最上昇位置のとき、ブロワの回転は停止状態となります。**

2.4 施肥全条停止レバー

施肥全条停止レバーは、全条同時に肥料の繰出しと停止を切換えるレバーです。



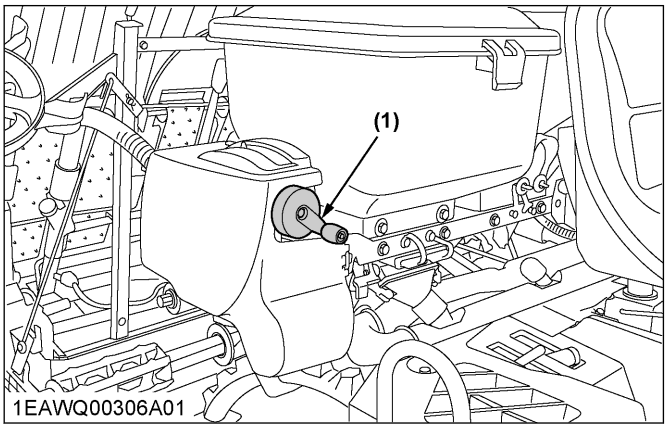
(1) 施肥全条停止レバー
(A) ***[全条繰出]***位置
(B) ***[全条停止]***位置
(C) 切換え

補足：

- **施肥全条停止レバーが[全条停止]位置のときは、肥料切れ警報がはたらきません。**

2.5 施肥量調整ハンドル

施肥量調整ハンドルは、施肥量を調整するハンドルです。



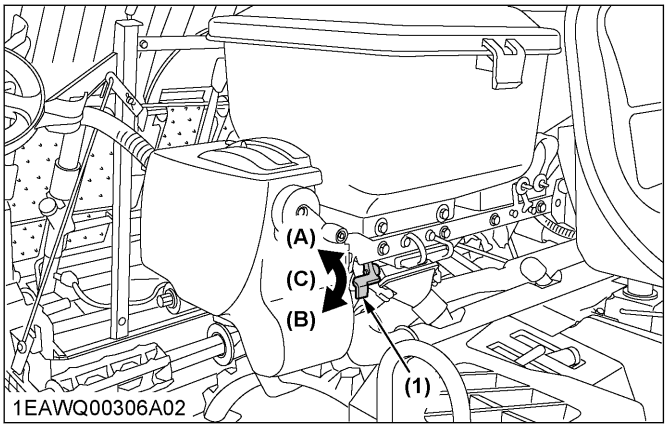
(1) 施肥量調整ハンドル

補足：

- **施肥量は、施肥機の施肥量調整ハンドルで 10～80 kg/10 a（比重標準時）の繰出しが行なえます。**
- **出荷時の目盛りは 30 kg/10 a の位置です。**

2.6 残肥排出レバー

残肥排出レバーは、施肥機の**施肥作業**と**残肥排出**を切換えるレバーです。



(1) 残肥排出レバー
(A) ***[排出]***位置
(B) ***[施肥]***位置
(C) 切換え

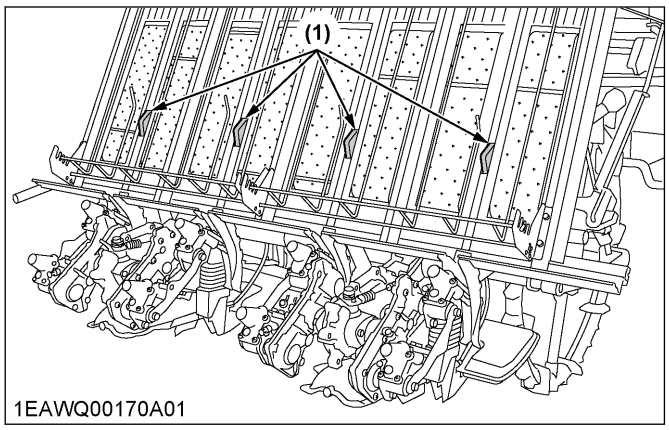
3. 警報関係

3.1 苗切れ警報

苗の残量が少なくなったとき、マスコットランプの赤色 LED が**点滅**すると同時に**「ピー」**と 5 回警報ブザーが鳴ります。

補足：

- **苗切れ警報は苗がなくなってきたとき、苗のせ台の各条にあるセンサが感知してはたらきます。**



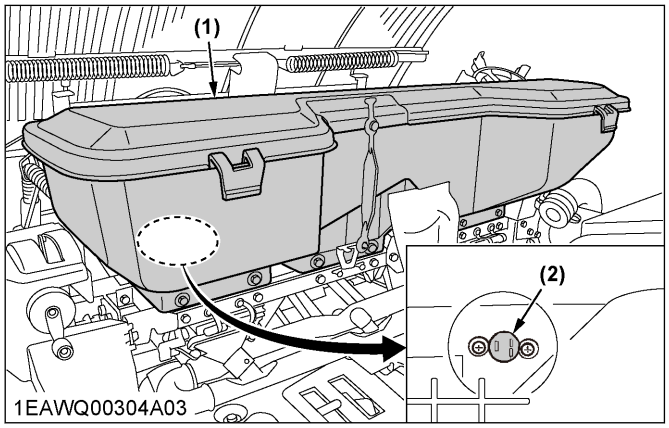
(1) センサ（苗切れの状態）

3.2 肥料切れ警報［R 仕様］

施肥作業中に肥料が少なくなったとき、マスコットランプの赤色 LED が**点滅**すると同時に**「ピピピッ」**と 5 回警報ブザーが鳴ります。

補足：

- **全条停止レバーが[全条切り]の状態のときは作動しません。**
- **肥料切れ警報は肥料がなくなってきたとき、各ホッパ内にあるセンサが感知してはたらきます。**



(1) 施肥ホッパ
(2) センサ（肥料切れの状態）

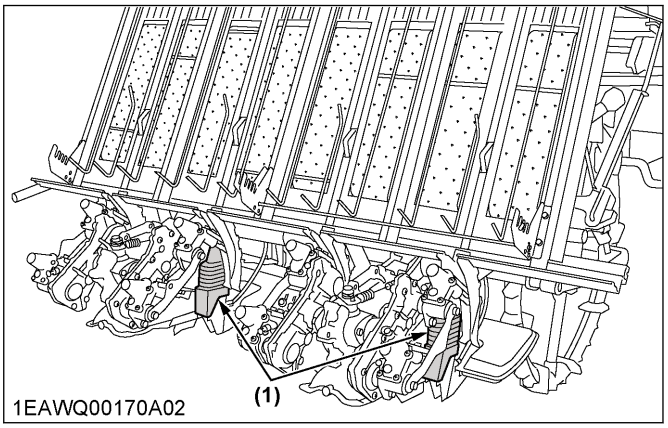
- **ホッパ内に肥料が残っている状態で、センサの誤作動により肥料切れ警報がはたらくときは、オプション部品の残量センサカナグ、キットを取付けてください。（152 ページ参照）**

3.3 肥料詰まり警報［R 仕様］

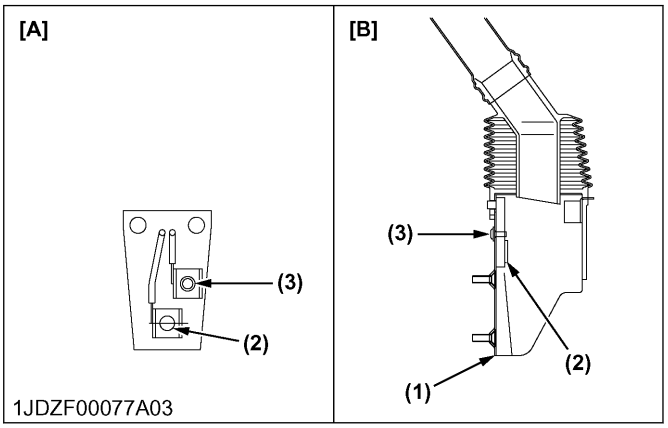
施肥作業中に肥料が詰まったとき、マスコットランプの赤色 LED が**点滅**すると同時に**「ピピピッ」**と 5 回警報ブザーが鳴ります。

補足：

- **全条停止レバーが[全条切り]の状態のときは作動しません。**
- **肥料詰まり警報は各作溝器内にある肥料詰まり予知センサに小粒肥料や泥水などが付着したとき、（+）と（−）の電極が導通するとはたらきます。**



肥料詰まり予知センサ



(1) 作溝器
(2) （+）電極
(3) （−）電極
[A] 正面
[B] 側面

運転のしかた

運転前の点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回、運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は、97 ページを参照。）

⚠ 警告

- **平たんな場所で駐車ブレーキを掛け、必ずエンジンを停止してから行なってください。**
- **燃料の補給中やバッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。**
- **取外した回転部のカバー類は、衣服などが巻込まれるおそれがあるので、点検後は必ず取付けてから作業をしてください。**
- **運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない、摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。**
- **使用前にはオイル、燃料が規定量入っているか必ず点検してください。**
- **燃料、オイルを補給したときは、キャップや給油栓を確実に締め、こぼれた燃料やオイルは、きれいにふき取ってください。**
- **バッテリ、マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。**

補足：
各部への給油と交換

- **点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。**
- **使用するエンジンオイル、ミッションオイル、グリースは、指定のオイル・グリースを必ず使用してください。**
- **燃料補給の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。**
- **燃料のガソリンは 1 ヵ月以上放置すると、気化や酸化をしてガソリンが変質し、エンジンの不調や故障の原因となりますので必ずタンク内及びフィルタポット内のガソリンは抜取り、新しいガソリンを給油してください。**

前日の異常箇所
前日の作業中に異常を感じたところがあれば、使用前に支障がないか点検してください。

田植機の周りを歩いて

- ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
- 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
- 油もれや水もれなどないか点検します。
- 機体各部にごみや泥がたまっていないか点検します。

1. 日常点検項目

<ここを> ⟶	<点検し異常があれば> ⟶	<こうする（処置）>	参照ページ
機体の周りを歩いて			
機体各部	• 損傷や変形はないか。	• 修理又は、交換する。	–
	• ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。	• 補充や増締めをする。	–
	• 油もれや水もれはないか。	• ホースやパイプの取付部の締付け又は、部品交換する。	121
	• ゴミや泥などがたまってないか。	• 掃除する。	102
	• 安全ラベル（⚠マークのあるラベル）の損傷やはがれはないか。	• 新しいラベルに貼替える。	18
バッテリ	• 放電又は、劣化していないか。	• 充電又は、交換する。	128
タイヤ	• 摩耗や損傷はないか。	• 交換する。	–
		• 調整する。	124
各ワイヤ、レバー支点部、しゅう動部	• たるみや損傷はないか。 • 作動状態に異常はないか。	• 交換する。	–
		• 注油する。	105
繰出しホース**［R 仕様］**	• 破損や外れはないか。	• 交換又は、取付けをする。	102
植付爪・押出し金具	• 摩耗や破損又は、変形していないか。	• 調整又は、交換する。	–
	• 石などの異物がはさまっていないか。	• 取除く。	124
整地ロータ	• 摩耗や破損はないか。	• 交換する。	102
	• 整地ロータに異物がはさまったり巻付いたりしていないか。	• 取除く。	
ブラシ**［R 仕様］**	• 摩耗していないか。	• 交換する。	127
燃料計	• 作業に必要な燃料はあるか。 • 表示は動くか。	• 自動車用無鉛ガソリンを補給する。	116
ボンネットを開けて			
エアクリーナ	• エレメントが汚れたり、ほこりが詰まっていないか。	• 掃除する。	120
エンジンオイル	• 油量は規定量（オイルゲージの**上限と下限の間**）あるか。	• 規定量まで補給する。 …三菱スーパーマルチ GD オイルまたは API 分類 SE 級以上	116
ホース、パイプ	• 油もれや水もれはないか。	• 取付部の締付け又は、交換する。	121
配線コード	• コネクタの外れはないか。 • 被覆の損傷はないか。	• 接続をする。	132
		• 交換する。	–

<ここを> ⟶	<点検し異常があれば> ⟶	<こうする（処置）>	参照ページ
運転席に座って・メインスイッチを入れて			
各モニタランプ・ブザー	• メインスイッチのキーを**[運転]**位置にしたとき、約 2 秒間警報ランプは点灯するか。	• バッテリの充電又は、交換する。	128
	• ブザーは鳴るか。	• ランプ切れ、ヒューズ切れ、配線コードの外れを点検して交換又は、接続をする。	132 132 133
ヘッドランプ	• ランプは点灯するか。	• ランプ切れ、ヒューズ切れ、配線コードの外れを点検して交換又は、接続をする。	132 132 133
バッテリ	• エンジンは始動するか。	• 充電又は、交換する。	128
エンジンを始動して・機体を動かしてみて			
エンジン・マフラ	• 始動するか。 • 異音はしないか。 • 排気ガスの色に異常はないか。	• バッテリの充電又は、交換する。	128
		• ヒューズ切れがないか点検して交換又は、購入先に連絡してください。	132
		• 購入先に連絡してください。	–
ブロワ**［R 仕様］**（植付部を下げて）	• 回転しているか。 • 異音はしないか。	• スローブローヒューズ切れ、配線コードの外れがないか点検して交換又は、接続をする。	132
各操作レバー	• 各操作レバーの作動と各作動部に異常はないか。	• 購入先に連絡してください。	–
ブレーキペダル	• 踏込むと停止するか。	• 購入先に連絡してください。	28
エンジン停止ボタン	• ボタンを押すとエンジンが停止し、ブザーが鳴るか。	• 必ず作業を中止し、購入先に連絡してください。	26

重要：
- **外観に亀裂や破損箇所がある場合は、購入先又は整備工場にご相談ください。**
- **処置したあとに異常が直らないときは、購入先に連絡してください。**

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスが田植機の寿命に影響を及ぼします。新車の田植機は厳重な検査のもとに出荷されていますが田植機の各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中は田植機各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で、過負荷となる田植作業は避けてください。
田植機の性能を最大に発揮させたり、長期にわたる耐久力を維持させるためには、適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

1. ならし運転について

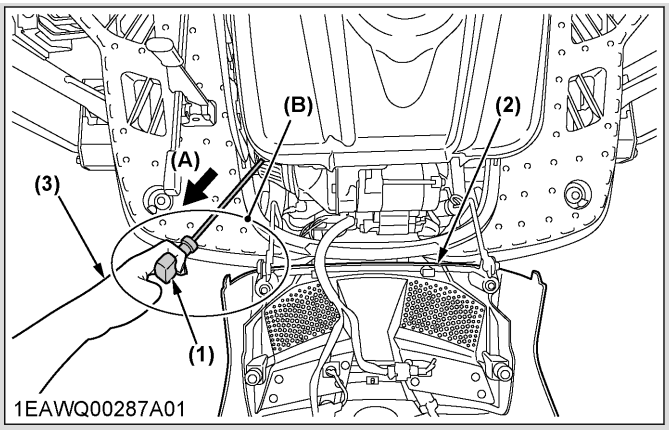
- 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
- 寒い日や冬期、エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
- エンジンは規定田植作業回転数以上に回さないでください。
- 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが、新車時は特に注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた

⚠ 警告

- **エンジン排気ガスによる、排気ガス中毒をさけるため、換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。**
- **この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業するために］の内容を必ずお読みいただいて安全作業を心掛けてください。**
- **田植機に貼ってある安全ラベルの内容を必ずお読みください。**
- **田植機に乗り降りするときは、飛び乗ったり飛び降りたりしないでください。転倒・転落してケガをするおそれがあります。**
- **周囲の人に始動の合図をして、始動操作は運転座席に必ず座ってから行なってください。**
- **運転席へ乗り降りするときは、必ず両側のステップより行なってください。転倒してケガをするおそれがあります。**
- **リコイルハンドルを引くときは、周囲に人や障害物がないかよく確認したあと、ボンネット等に手が接触しないように[(A)]方向に引張ってください。**



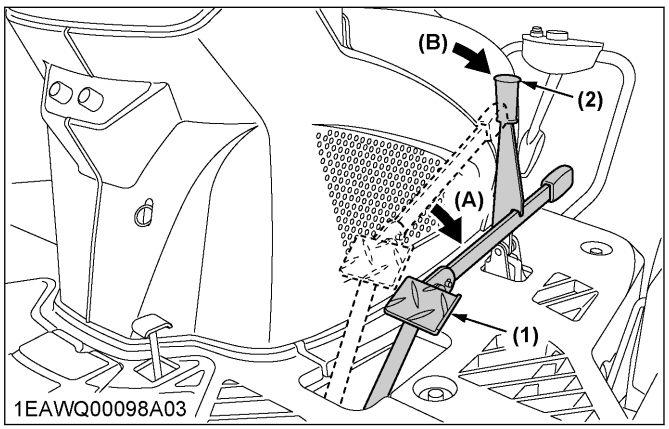
(1) リコイルハンドル
(2) ボンネット
(3) 手
(A) 引張る
(B) ボンネットに手を接触しないこと

1. 始動のしかた

⚠ 注意

- **セル始動の場合、エンジンの始動は必ず運転席（シート）に座って行なってください。**
- **リコイルハンドルを引くときは、ボンネット等に手をぶつけないように注意してください。**

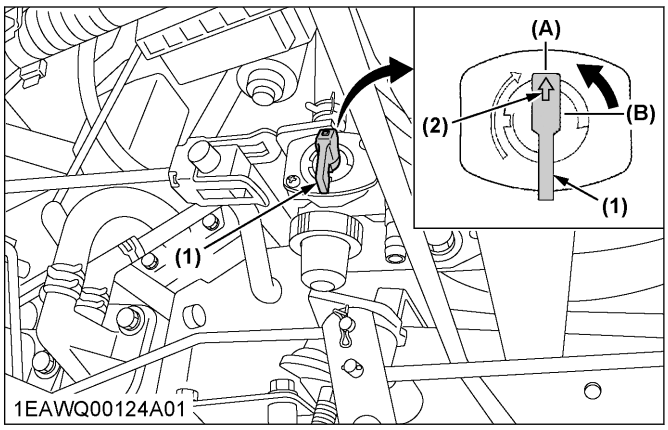
1. **駐車ブレーキを掛けます。**
   ブレーキペダルを踏込み、ブレーキロックレバーでブレーキペダルをロックします。



(1) ブレーキペダル
(2) ブレーキロックレバー
(A) 踏込む
(B) 掛ける

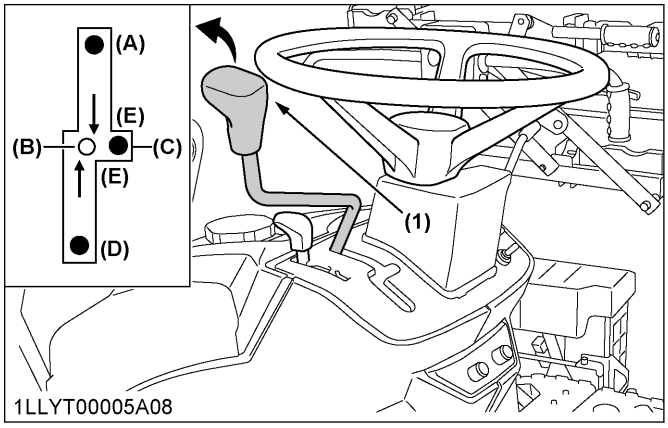
補足：
- **駐車ブレーキを掛けていないときは、ブレーキペダルをいっぱいに踏込まないとエンジンが始動しません。**

2. **燃料コックを開きます。**
   機体の前方右下（ステップの右下）にある燃料コックレバーの矢印を**[運転]**位置に合わせます。



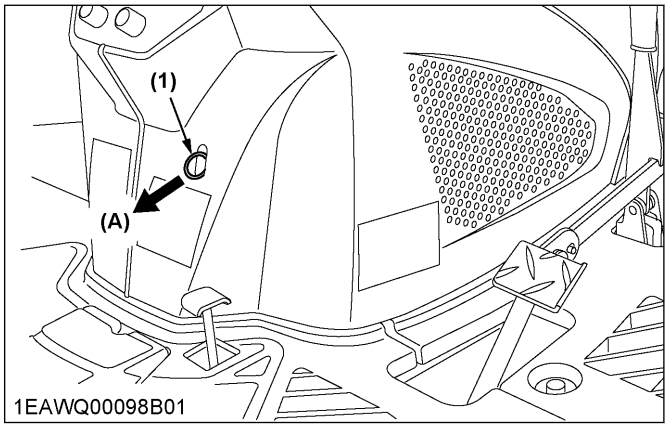
(1) 燃料コックレバー
(2) 矢印
(A) ***[運転]***
(B) ***[停止]***

3. **各レバー位置の確認をします。**
   a. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。



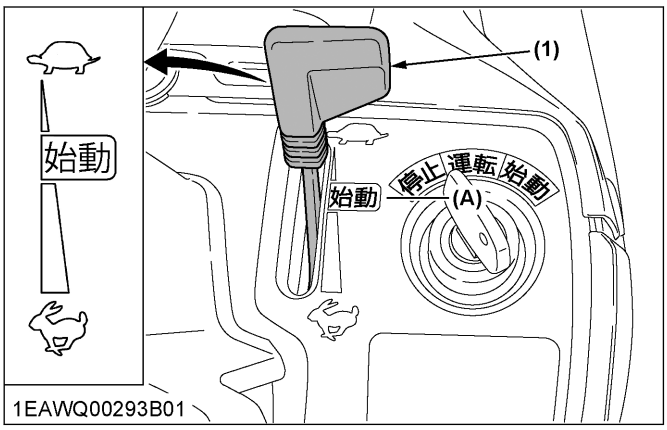
(1) 主変速レバー
(A) ***[前進]***
(B) ***[N]***（中立）
(C) ***[e-stop]***
(D) ***[後進]***
(E) 戻す

4. **エンジンを始動します。**
   a. チョークレバーを引きます。



(1) チョークレバー
(A) 引く

   b. アクセルレバーを操作して**[始動]**位置に合わせます。

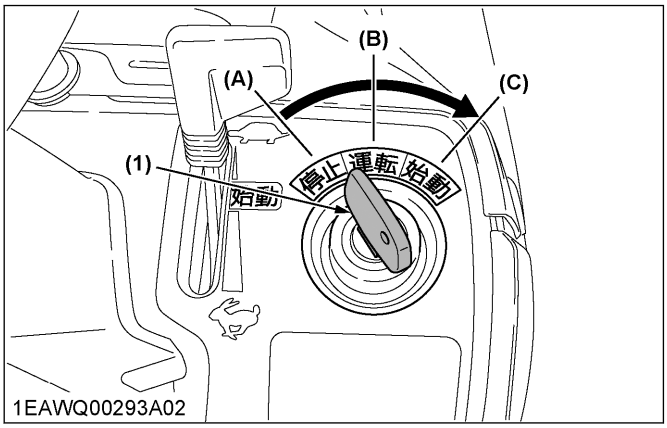


(1) アクセルレバー
(A) ***[始動]***

   c. メインスイッチのキーを**[始動]**位置まで回します。

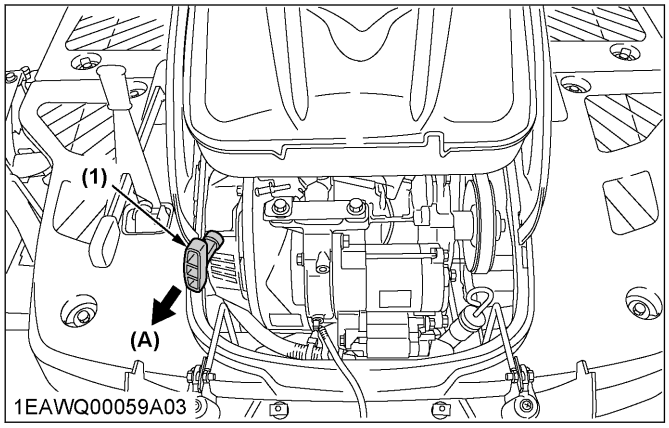
補足：

- **メインスイッチのキーを[運転]位置に回すと、ランプチェックのため、赤色と緑色の 2 色のマスコットランプが点灯したあと、消灯します。**



(1) キースイッチ
(A) ***[停止]***
(B) ***[運転]***
(C) ***[始動]***

- **リコイル始動の場合**
  始動の合図を周囲の人に送り、リコイルハンドルをしっかりと握って**[(A)]**方向に引張ります。



(1) リコイルハンドル　　*(A)* 引張る

補足：
- **暖機運転をじゅうぶん行なわないと、主変速レバーを[前進]側または[後進]側に操作したときに、エンジンが停止することがあります。**
- **メインスイッチのキーを[始動]位置に回して 5 秒たっても始動しないときは、いったんキーを[停止]位置にして、30 秒ほど休止してから、エンジンを再始動してください。5 秒以上の使用は故障の原因になります。**
- **エンジン回転中に、メインスイッチのキーを[始動]位置に回すと故障の原因になります。**

エンジン始動後、エンジンの調子を確認しながらゆっくりとチョークレバーを押込んだあと、約 5 分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

重要：
- **オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで、始動してからすぐ負荷をかけると、運転部分の焼付きや破損などの故障の原因になります。**

2. バッテリが上がったときの始動のしかた

危険
- **バッテリの近くに裸火（マッチ、ライタ、タバコの火など）を近づけたり、(+) 端子と (-) 端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。**

バッテリ上がりによりセル始動でエンジンが始動できなくなったときは、リコイル始動又は、バッテリの補充電又は、交換を行なってください。

重要：
- **施肥仕様は、セル始動できないほどバッテリが弱っている場合は、施肥ブロワの回転が不安定になります。施肥作業する時は、必ず事前に充電してください。**
- **リコイルハンドルを操作してエンジン始動後、十字ポンパレバーを操作しても植付部が動かないなど電気系統が正常にはたらかない場合は、バッテリを交換してください。**

3. 停止のしかた

1. アクセルレバーを［🐢］位置にします。
2. 主変速レバーが**[N]**（中立）位置にあることを確認します。
3. メインスイッチのキーを**[停止]**位置にしてエンジンを停止します。

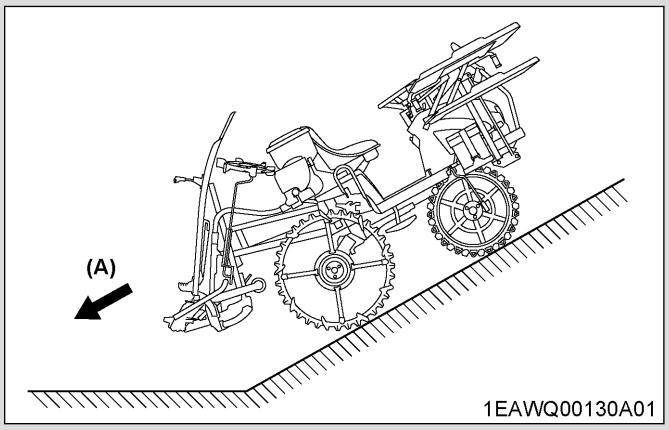
重要：
- **エンジン停止中でメインスイッチのキーが[運転]位置の状態のまま長時間放置するとバッテリ上がりの原因となります。**
- **エンジン停止時の爆発音を防ぐため、必ずアクセルレバー［🐢］位置に戻してからエンジンを停止してください。**

移動走行について

この田植機は、道路運送車両法の保安基準に適合していませんので、法令により公道は走行できません。従って、公道を移動するときはトラックなどで輸送してください。

警告
- **安全のためヘルメットを着用してください。**
- **周りが暗いときは、ヘッドランプを点灯してください。**
- **10 cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。**
- **機械には運転者以外は乗らないでください。また、苗のせ台及び予備苗のせ台の苗やホッパ内の肥料［R 仕様］は取出し、ステップなどには障害物となるような物は置かないでください。**
- **植付部は最上昇位置で油圧をロックし下降防止を行なってください。また、ラインマーカ・隣接マーカ・マスコット・あぜごえアームは収納状態にしてください。**
- **暴走や転倒をしてケガをするおそれがあるので、あぜごえや傾斜地（あゆみ板や坂道など）を走行するときは、下記事項に注意し、予備苗のせ台を中央位置にしてください。**
  - **走行速度を落とす。(ゆっくりと走行する。)**
  - **主変速レバーで走行と停止を行なう。(急な操作やブレーキペダルは操作しない。)**
  - **あぜや斜面に対して直角に走行する。**
  - **あぜや斜面に対して上り方向は後進、下り方向は前進で走行する。**
  - **あぜや斜面の走行途中に急なハンドル操作や副変速レバーの操作及びブレーキペダルを急に踏込まない。**
  - **あぜや斜面では e-stop でエンジンを停止しない。**

- **下記のようなところを走行するときは、暴走や転倒をしてケガをするおそれがあるので注意してください。**
  - **両側が傾斜していたり、溝のある道路の路肩**
  - **道幅に余裕がなく高いところにある道路（土手）**
  - **路肩の弱い道路**
  - **路面の凹凸（溝や穴・窪地など）の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ**
  - **見通しの悪いところ**
- **前後、左右に 15 度以上傾斜しているところは走行しないでください。**
- **機械から降りて走行するときは、下記事項に注意してください。**
  - **アクセルレバーを［🚗］位置にし、副変速レバーを[圃場作業]位置、主変速レバーを[N]（中立）位置にしたあと、車速けん制カバーを装着してください。（51 ページ参照）**
  - **主変速レバーを最低速で操作し、周囲の安全や足元に注意しながら走行してください。**
  - **傾斜地では、副変速レバーを絶対に操作しないでください。副変速レバーを[N]（中立）位置にするとブレーキが効かずに、機械が自重で動き出し、急降下します。**



(A) 急下降

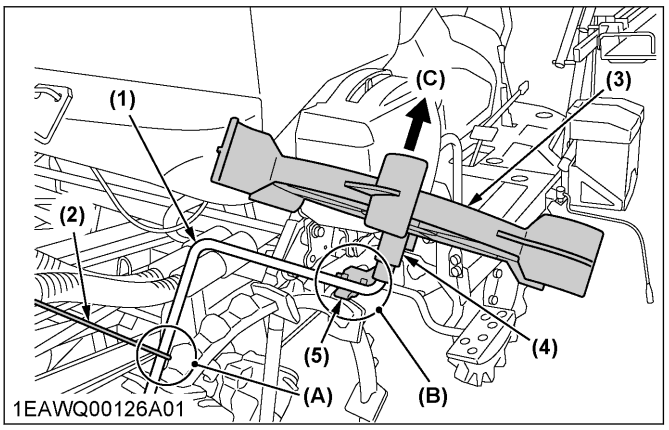
重要：
- **植付部を下降した状態で走行すると、フロートや作溝器、ふく土板［R 仕様］、整地ロータが破損することがあります。**
- **苗ステーは、後方に倒れないようにラックの取付部に取付けてください。**

1. 移動走行前の準備

⚠ 警告
- **苗のせ台及び予備苗のせ台にある苗や苗すくい板は、すべて降ろしてください。**
- **ホッパ内の肥料はすべて排出して空の状態にしてください。［R 仕様］**
- **ステップの周りに物は置かないでください。**
- **水平で平たんな場所で行なってください。**

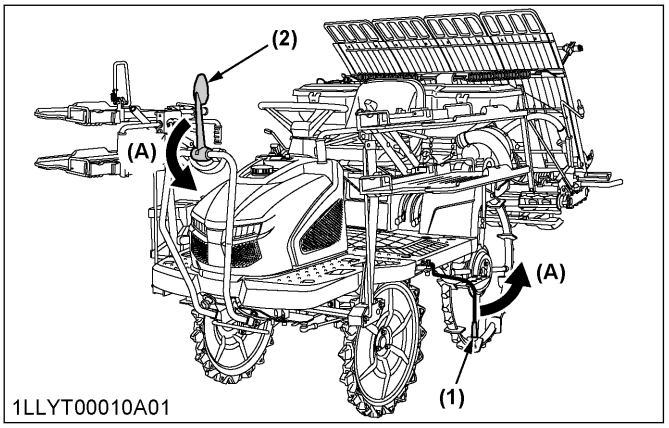
1. 平たんな場所に機体を止め、エンジンを停止します。
2. 左、右のラインマーカのアームを固定金具に掛けて収納したあと、ラインマーカのホルダ部のクリップをアームから外してラインマーカをアームから外します。

※イラストは右側



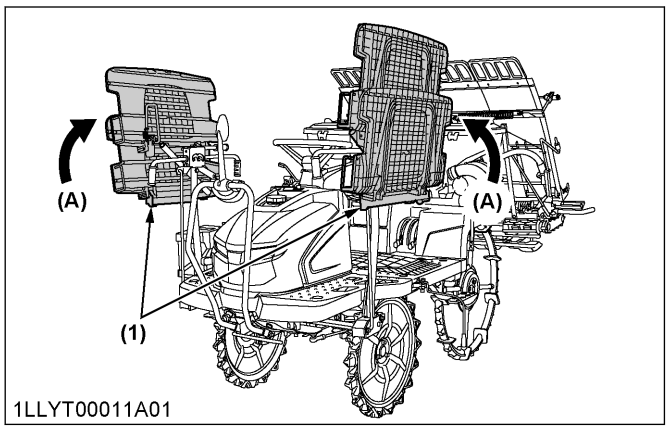
(1) アーム
(2) 固定金具
(3) ラインマーカ
(4) ホルダ部
(5) クリップ
(A) 固定金具にアームを収納する
(B) クリップをアームから外す
(C) ラインマーカを外す

3. 左、右の隣接マーカを後方に収納します。
4. マスコットを**収納**位置にします。



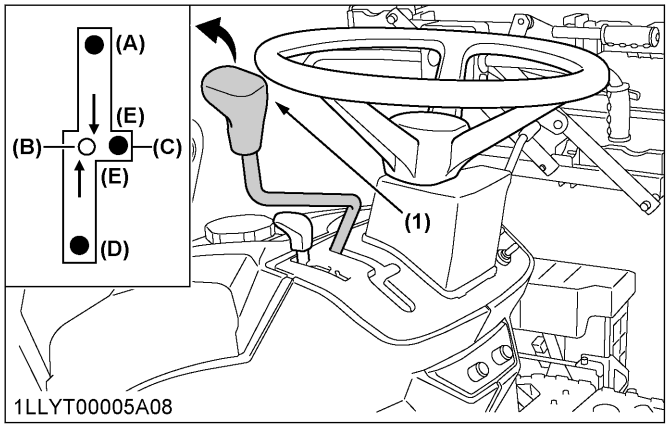
(1) 隣接マーカ
(2) マスコット
(A) 収納

5. 予備苗のせ台を収納状態にします。（60 ページ参照）



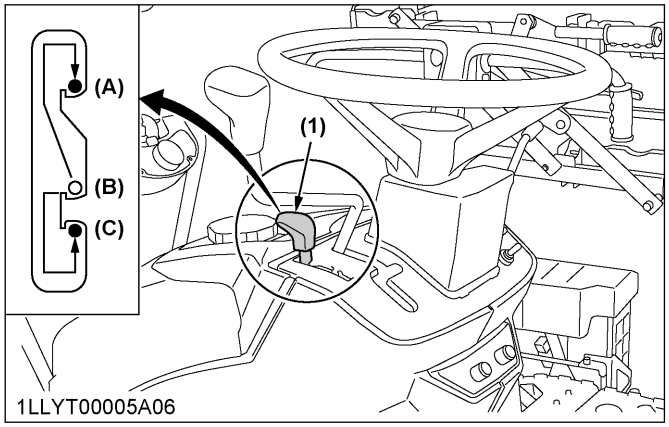
(1) 予備苗のせ台　*(A)* 収納

6. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。



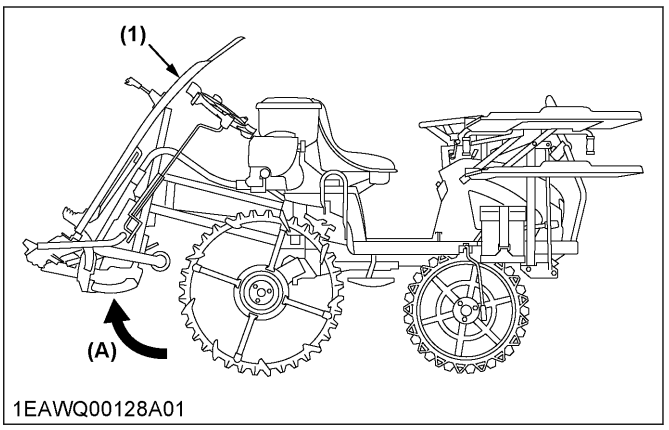
(1) 主変速レバー
(A) ***[前進]***
(B) ***[N]***（中立）
(C) ***[e-stop]***
(D) ***[後進]***
(E) ***[N]***（中立）にする

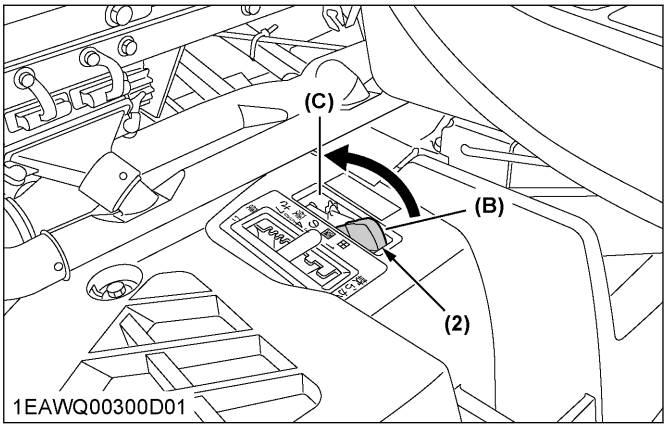
7. 副変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。



(1) 副変速レバー
(A) ***[移動]***
(B) ***[N]***（中立）
(C) ***[圃場作業]***

8. エンジン始動後、駐車ブレーキを解除して十字ポンパレバーを操作し、植付部を上げて**最上昇位置**にしたあと、油圧ロックレバーを**[閉]**位置にして植付部の下降防止をします。



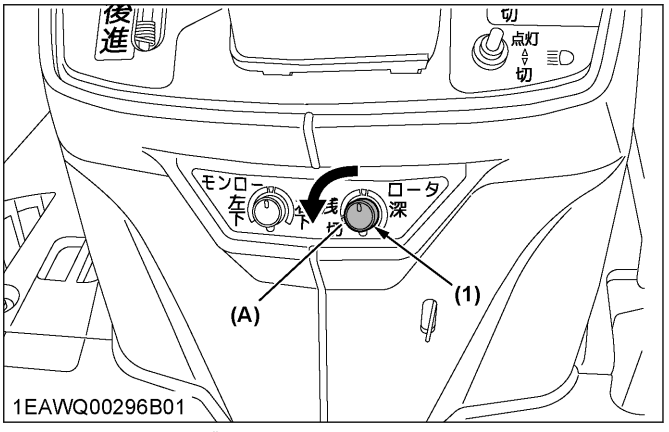


(1) 植付部
(2) 油圧ロックレバー
(A) 上げる
(B) ***[開]***
(C) ***[閉]***

補足：

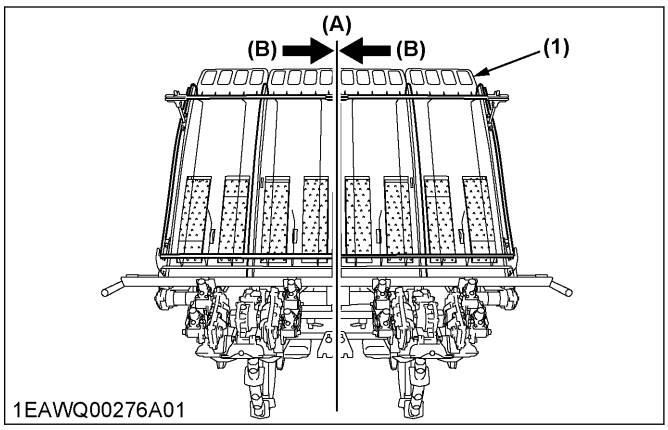
- **駐車ブレーキを掛けた状態又は、ブレーキペダルを踏み込んだ状態では、植付部は上昇しません。**

9. ロータ深さ調整ダイヤルを**[切]**位置にします。



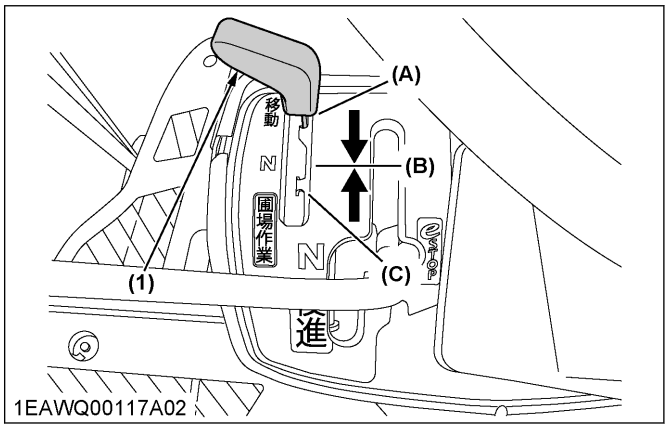
(1) ロータ深さ調整ダイヤル　*(A)* ***[切]***

10. 苗のせ台を**機体中央**の位置に移動します。



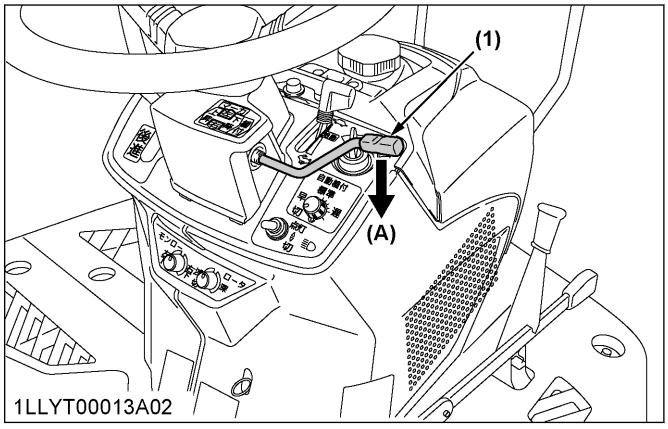
(1) 苗のせ台
(A) 中央
(B) 寄せる

a. 駐車ブレーキを解除して副変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。



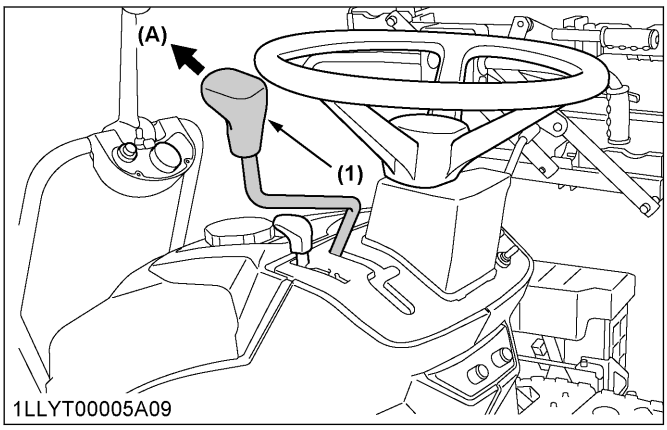
(1) 主変速レバー
(A) ***[前進]***
(B) ***[N]***（中立）
(C) ***[後進]***

b. 十字ポンパレバーを下側**[下降]**に押したあと、もう１度十字ポンパレバーを下側**[下降]**に押して、植付部の駆動の準備をします。



(1) 十字ポンパレバー
(A) *2* 度押す

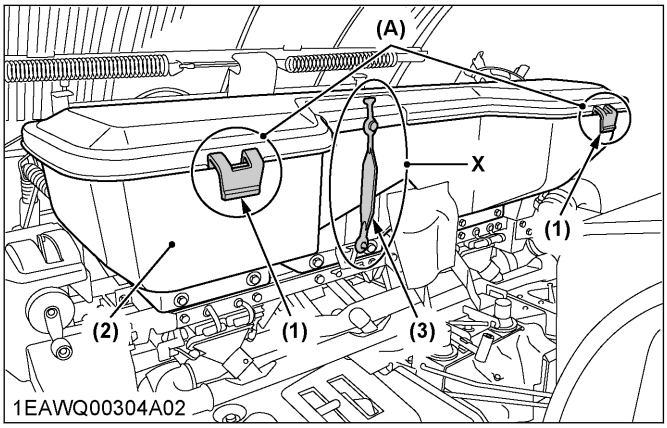
c. 主変速レバーをゆっくり**[前進]**側に動かします。



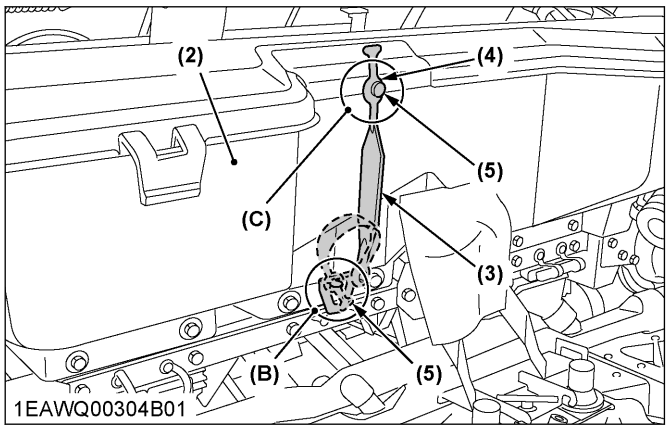
(1) 主変速レバー
(A) 押す

d. 後方の苗のせ台の動きを確認しながら**機体中央**の位置で十字ポンパレバーを上側**[上昇]**に押して植付部の駆動を停止します。
e. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置に戻します。
f. 駐車ブレーキを掛けます。

11. ホッパのふたをフックでロックしたあと、ゴムバンドの取付部をホッパの上側のピンに掛けて固定します。**[R 仕様]**
    a. ふたを閉じたあと、カバーのフックを掛けてロックします。
    b. ゴムバンドの取付部をピンから外します。
    c. ゴムバンドの取付部を上側のピンに引っ掛けて固定します。



X 部拡大図



(1) フック
(2) ホッパ
(3) ゴムバンド
(4) 取付部
(5) ピン
(A) ホッパのふたをロック
(B) 取付部をピンから外す
(C) 取付部を下側のピンに掛ける

重要：

- **移動走行時や運搬時及び強風発生時に風や振動などによりホッパのふたが開くと、ふたが破損するおそれがあるため、ゴムバンドが外れないようにしっかりと取付部をホッパ上側のピンに引っ掛けてください。また、ゴムバンドが破損したときは、購入先に連絡して新しいゴムバンドに交換してください。**

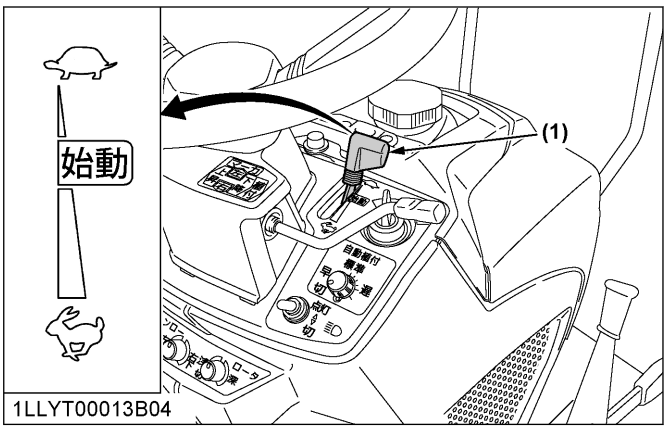
12. エンジン始動後、十字ポンパレバーを操作して植付部を最上昇位置にしたあと、油圧ロックレバーを**[閉]**位置にして下降防止をします。

2. 発進のしかた

⚠ 警告

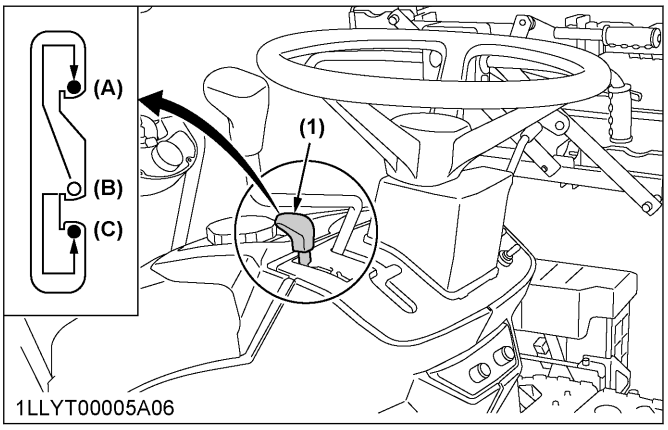
- **始動操作は、運転席で必ず行ってください。**
- **周囲の人に合図をしてから始動してください。**
- **急発進は危険ですので、ゆっくりと発進してください。**
- **坂道など傾斜地で発進するとき、副変速レバーを操作するときはブレーキペダルを必ず踏込んでください。機体が動き出して急降下するおそれがあります。**
- **ブレーキペダルを踏込んだあと、再発進するときは主変速レバーを[N]（中立）位置にいったん戻してください。**

1. **運転席の調整をします。**
   運転席下のスナップピンとロッドを抜いて調整します。（29 ページ参照）
2. **エンジンを始動します。**
   （44 ページ参照）
3. **植付部が最上昇位置にあることを確認してください。**
4. **アクセルレバーを操作します。**



(1) アクセルレバー

5. **走行速度を選んで発進します。**
   a. 副変速レバーで速度を選びます。

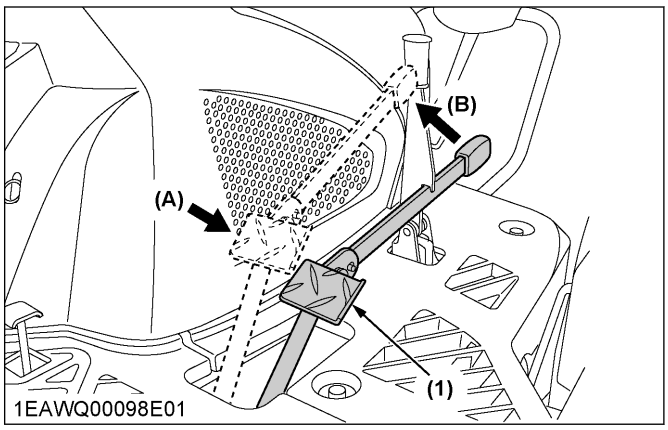


(1) 副変速レバー
(A) ***[移動]***
(B) ***[N]***（中立）
(C) ***[圃場作業]***

重要：

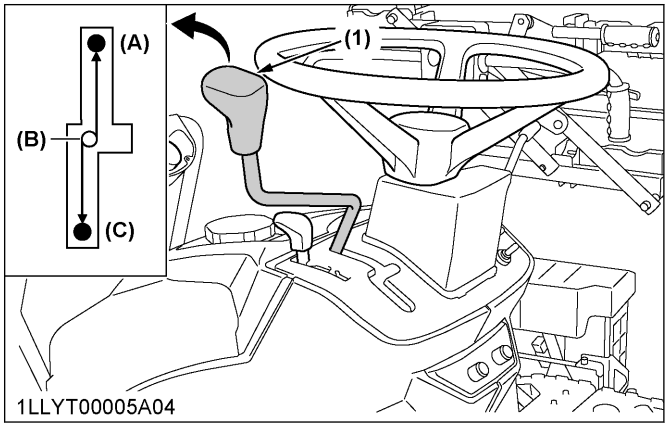
- **副変速レバーの切換えは平たんな場所で主変速レバーを[N]（中立）位置にし、走行をいったん止めてから行ってください。故障の原因となります。**

   b. ブレーキペダルを離します。駐車ブレーキが掛かっているときは、ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキを解除します。



(1) ブレーキペダル
(A) 踏込む
(B) 解除

c. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置より前に押すと前進し、後に引くと後進します。



(1) 主変速レバー
(A) ***[前進]***
(B) ***[N]***（中立）
(C) ***[後進]***

重要：

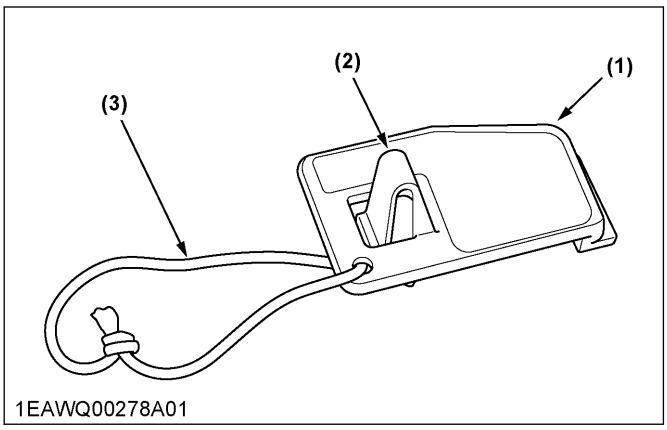
- **副変速レバーの切換えは、平たんな場所で主変速レバーを[N]（中立）位置にし、走行をいったん止めてから行ってください。故障の原因となります。**

補足：

- **前進中にブレーキペダルを踏込むと、減速すると同時に主変速レバーが強制的に前進 1～2 速位置に戻ります。後進中にブレーキペダルを踏込むと、減速します。**
  また、ブレーキペダルを踏込んだ状態では主変速レバーの前進 3～5 速への操作はできません。
- **油圧をロックして後進するときは、必ず次のいずれの操作をしてください。**

3. 降りて走行のしかた

1. 乗って走行したあと、機械を平たん地で停止させます。
2. 車速けん制カバーをレバーガイドに装着します。



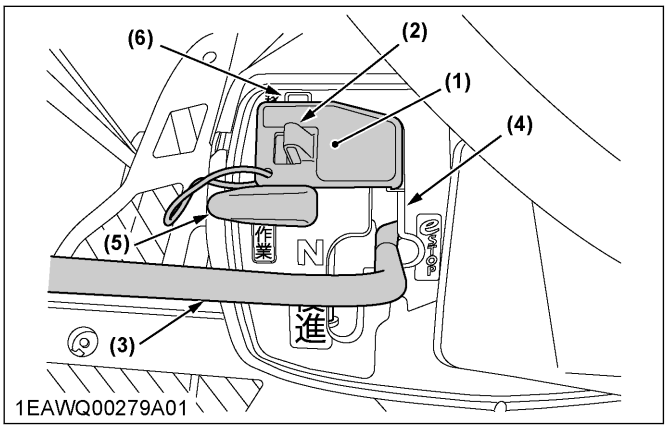
(1) 車速けん制カバー
(2) クリップ
(3) 掛けひも

補足：

- **車速けん制カバーは出荷時、副変速レバーに掛けています。**

a. アクセルレバーを［🐢］位置にしてエンジン回転数を最低の回転数（アイドリング状態）にします。
b. 副変速レバーを**[圃場作業]**位置、主変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。
c. 車速けん制カバーを主変速レバーガイド及び副変速レバーガイドにはめ込んで装着します。このとき、車速けん制カバー脱着用のクリップを指で挟みながら装着します。

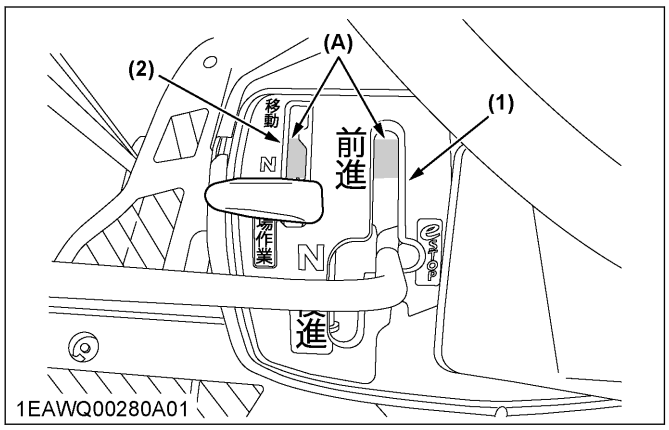
※イラストは車速けん制カバー装着状態



(1) 車速けん制カバー
(2) クリップ
(3) 主変速レバー
(4) 主変速レバーガイド
(5) 副変速レバー
(6) 副変速レバーガイド

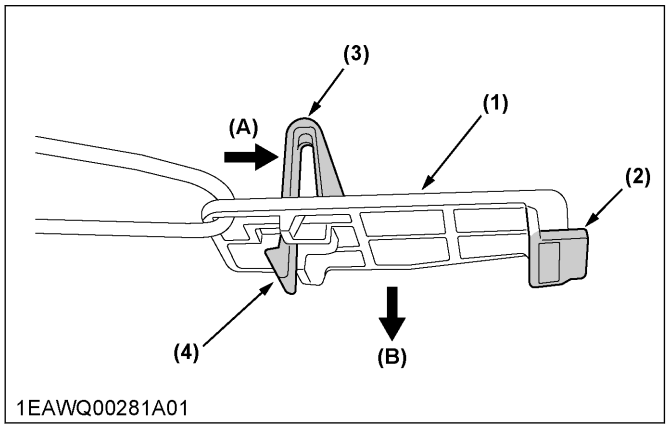
補足：

- **車速けん制カバーは各レバーガイドの図の位置に装着してください。**



(1) 主変速レバーガイド
(2) 副変速レバーガイド
(A) 装着位置

- **車速けん制カバーを各レバーガイドに装着するとき、主変速レバーガイド側にカバーの爪を掛け、副変速レバーガイド側にクリップを指で挟みながら押したあと、爪をレバーガイド側に確実に掛けてください。**



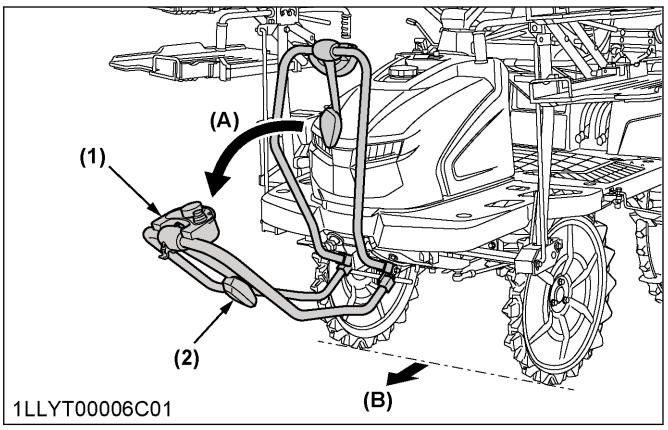
(1) 車速けん制カバー
(2) 爪（主変速レバーガイド側）
(3) クリップ
(4) 爪（副変速レバーガイド側）
(A) 挟む
(B) 押す

3. 駐車ブレーキを掛けます。
4. 植付部が最上昇位置にあることを確認します。
5. 予備苗のせ台を収納状態にします。（60 ページ参照）

補足：

- **乗って走行するときは、ブレーキペダルでクラッチを切り、降りて走行するときは、あぜごえレバーでクラッチを切って、ブレーキを掛けます。そのため、あぜごえレバーを押し下げると、ブレーキペダルをロックしているブレーキロックレバーは連動して起き上がり、ブレーキペダルのロックが外れます。**

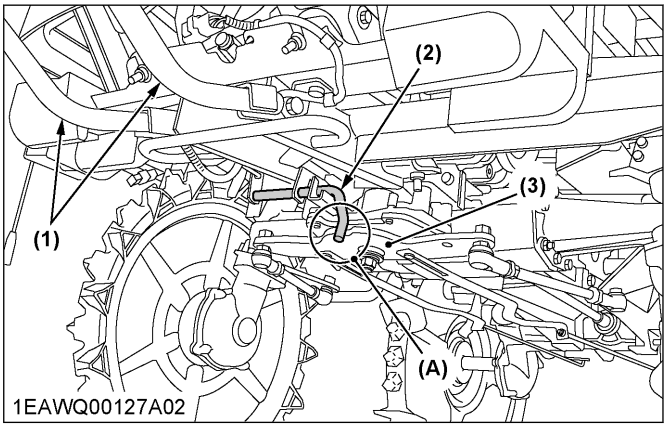
6. 機械から降りたあと、駐車ブレーキを解除します。
7. あぜごえアームを前方一杯に倒し、ステアリングハンドルを操作して前輪を直進方向に向けた状態を保持します。



(1) あぜごえアーム
(2) マスコット
(A) 倒す
(B) 前輪タイヤを直進方向で保持

補足：

- **あぜごえアーム取付部付近にあるロックピンが、ステアリングアーム金具の溝にはまり込んでいるか確認します。はまり込んでいないときは、ステアリングハンドルを回してはめ込んでください。**

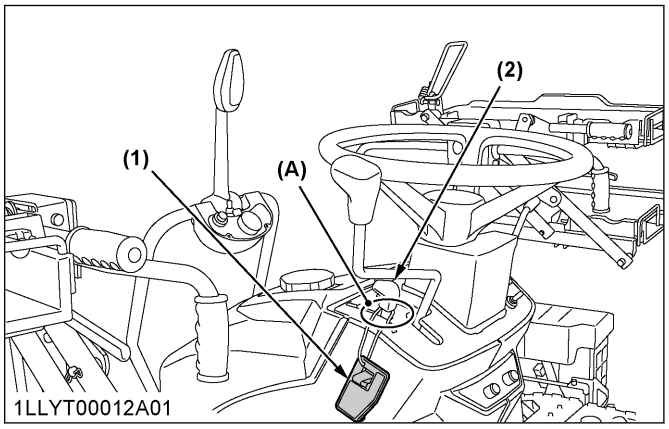


(1) あぜごえアーム
(2) ロックピン
(3) ステアリングアーム金具
(A) 溝にロックピンがはまり込んでいることを確認する

8. あぜごえアームを前方いっぱいに倒した状態で周囲を確認しながら主変速レバーを操作して走行します。

重要：
- **あぜごえアームを押さえた状態でハンドルを回さないでください。ロックピン破損の原因となります。**

補足：
- **あぜごえアームでの移動中、緊急に機械を停止するときは、エンジン停止ボタンを押すと、エンジンが停止します。**
- **降りて走行したあと、再度田植機に乗って走行するときは車速けん制カバーを取外してください。**
- **取外した車速けん制カバーは、取付けているひもを副変速レバーに掛けて保管してください。**



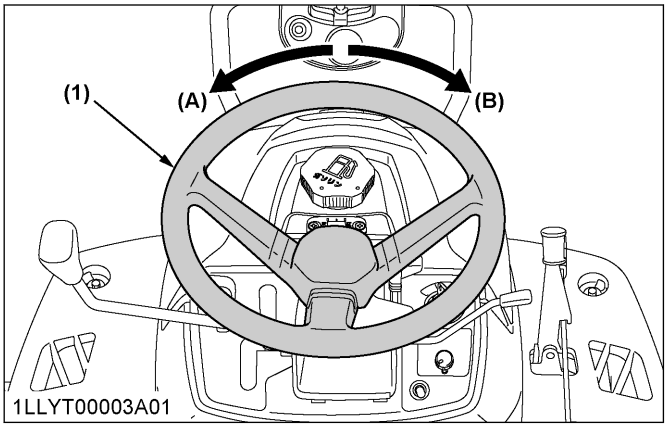
(1) 車速けん制カバー
(2) 副変速レバー
(A) 副変速レバーにひもを掛ける

- **車速けん制カバーは失くさないように注意してください。また、紛失したときは購入先に連絡して購入してください。**

4. 旋回のしかた

⚠ 警告
- **高速走行時、ハンドルを急に操作すると急旋回して危険ですので、旋回前に必ず減速してください。**

旋回する方向にハンドルを回します。回す角度に応じて旋回力が変わり、回す角度が大きいほど旋回半径が小さくなります。



(1) ハンドル
(A) 左旋回
(B) 右旋回

重要：
- **砂利道での急旋回は、前輪が早く摩耗しますので避けてください。**

5. 停車・駐車のしかた

⚠ 警告
- **田植機を離れるときは、平たんで安全な場所に置き、植付部を降ろして駐車ブレーキを掛け、エンジンを止めて、キーを抜いてください。**
- **走行を停止するときは、ブレーキペダルを踏込まず主変速レバーを操作して停止してください。**
- **坂道やあぜ越えなどの斜面で走行を停止するときは、主変速レバーをゆっくりと[N]（中立）位置に操作して停止したあと、ブレーキペダルを踏み込んでください。**
- **やむを得ず坂道で駐車するときは、ブレーキペダルを踏込み、副変速レバーを[圃場作業]または[移動]位置にし、駐車ブレーキレバーを掛け、木片などで車止めをし、暴走を防いでください。**

1. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。
2. 副変速レバーを**[圃場作業]**位置または、**[移動]**位置にします。
3. 停止するときはブレーキペダルを踏込み、駐車するときは駐車ブレーキを掛けます。
4. アクセルレバーを［🐢］位置にします。
5. エンジンを停止してメインスイッチのキーを抜きます。

輸送について

1. トラックとあゆみ板の準備

⚠ 警告
- **機械の積込み・積降ろし時は、平たん地を選び、トラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。**
- **軽四トラックへの積込み・積降ろしはしないでください。**

- **あゆみ板はフックが付いているもので、じゅうぶんな強度、幅（30 cm 以上）、長さ（トラックの荷台高さの 4 倍以上）のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し、田植機の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。**
- **あゆみ板を荷台に掛けるときは、段差がなく平行で、左右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。**

あゆみ板の基準

長さ	トラックの荷台の高さの 4 倍以上
幅	30 cm 以上
数量	2 枚
強度	1 枚が 500 kg 以上の重量に耐えうる

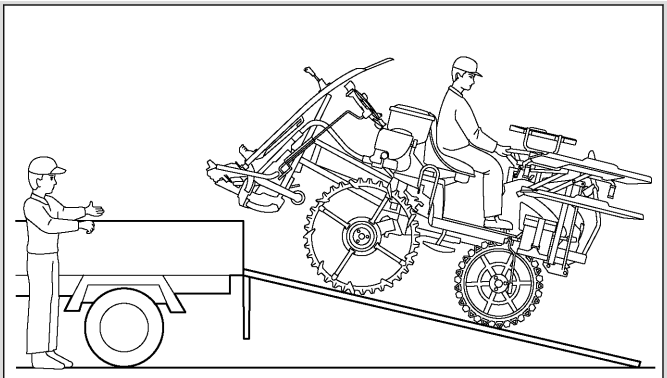
2. トラックへ積込み時の田植機の準備

1. トラックでの運搬時に飛ばないように、苗のせ台および予備苗のせ台の苗や苗すくい板はすべて降ろします。
2. 施肥機付きの場合は、肥料をすべて排出します。
3. ラインマーカ・隣接マーカ・マスコット・あぜごえアーム・予備苗のせ台を収納します。
4. 苗のせ台を機体中央位置に移動します。
5. 予備苗のせ台を中央位置にしたあと、段積み状態にします。
6. 植付部を上げて最上昇位置にし、油圧ロックレバーを**[閉]**位置にし、下降防止を行います。
7. トラックのあおりに接触しないように、左右のしゅう動板ガードを収納状態にします。（134 ページ参照）

補足：
- **トラックから降ろしたあと、田植作業を行うときは、しゅう動板ガードを作業状態に戻してください。（134 ページ参照）**

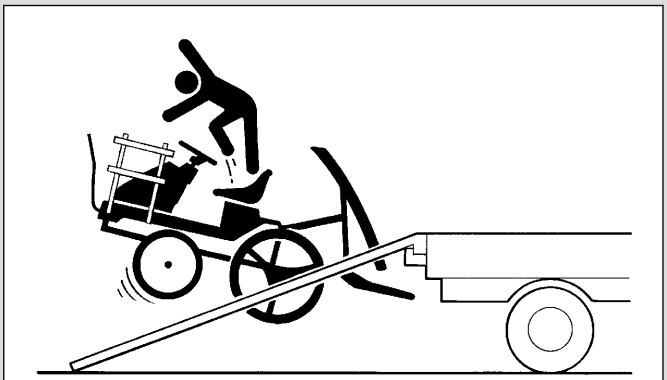
3. トラックへの積込み･積降ろしのしかた

⚠ 警告
- **共同作業者は、あゆみ板上を走行中の田植機からは離れてください。**
- **平たん地を選び、できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行ってください。また、田植機の周辺に人を近づけないでください。**



1LCWD00055A01

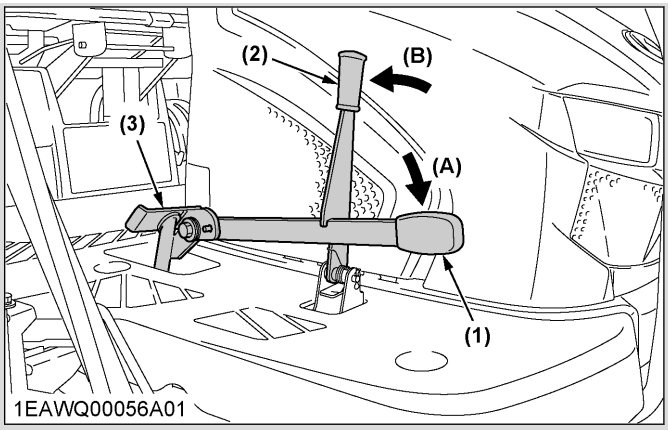
- **あゆみ板の途中で急なハンドルの操作や副変速レバーの操作をすると、機械が急降下したりあゆみ板から脱輪して落下する危険がありますので、操作しないでください。方向を修正するときは、いったん地上または荷台に戻って方向を修正し、再度上り下りし直してください。**



1EAWQ00133A01

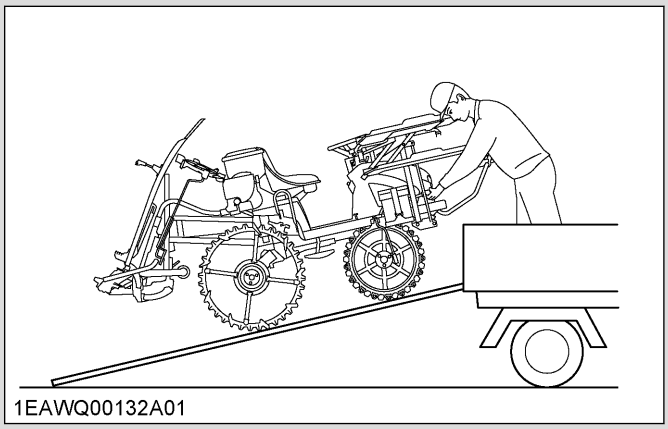
3.1 機械から降りてトラックに積込み・積降ろしをする場合

⚠ 警告
- **機械から降りて、積込み・積降ろし作業を行う場合は下記事項に注意してください。**
  - **あぜごえアーム、あぜごえレバーを必ず使用して走行してください。**
  - **あゆみ板を走行中、一時的に停止する場合は、あぜごえレバーを押し下げてください。**
  - **あゆみ板上を走行中、やむをえず緊急に停止するときは、エンジン停止ボタンを押し、あぜごえレバーを押下げてブレーキロックレバーをあぜごえレバーにロックしてください。**

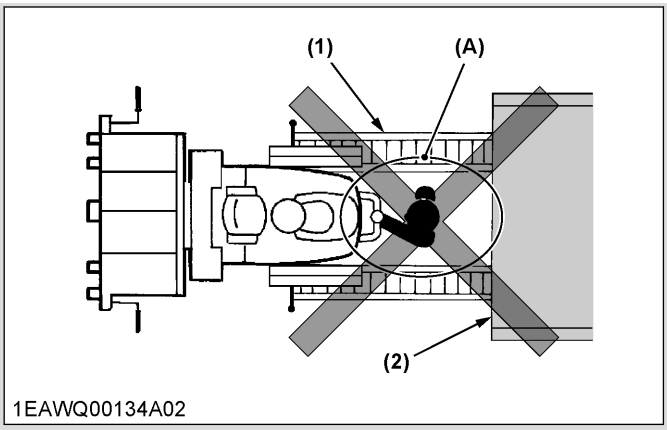


(1) あぜごえレバー
(2) ブレーキロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) 下げる
(B) ロック

- **アクセルレバーを［🐢］位置にし、副変速レバーを[圃場作業]位置、主変速レバーを[N]（中立）位置にしたあと、車速けん制カバーを装着してください。（51 ページ参照）**
- **周囲の安全や足元に注意しながら走行してください。**
- **走行する際、積込みは前進で、積降ろしは後進で行ってください。**

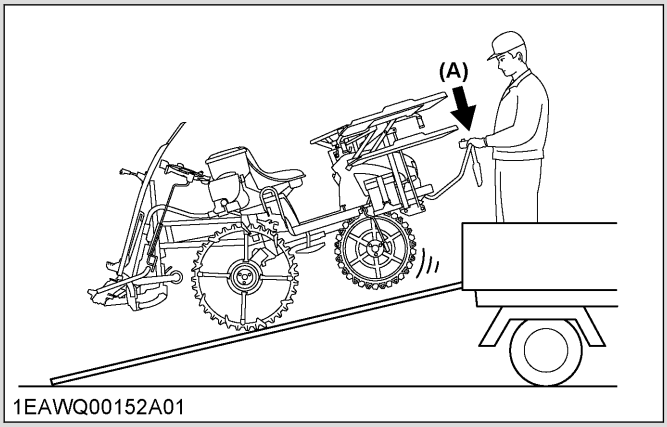


- **あゆみ板の途中で急なハンドルの操作や副変速レバーの操作をしないでください。機械が急に降下し落下する危険があります。**
- **機械の方向を修正するときは、いったん地上または荷台に戻って方向を修正し、再度上り下りし直してください。**
- **機械を積込むときは、あゆみ板の間に入らないでください。機械とトラックにはさまれ、ケガをするおそれがあります。**



(1) あゆみ板
(2) トラック荷台
(A) ここには入らないこと

- **トラックへの積込み・積降ろしの時、前輪が浮き上がるときは、あぜごえアームを押さえ、浮き上がりを防止してください。**
- **あぜごえアームに力を入れるときは、足元にじゅうぶん注意してください。**

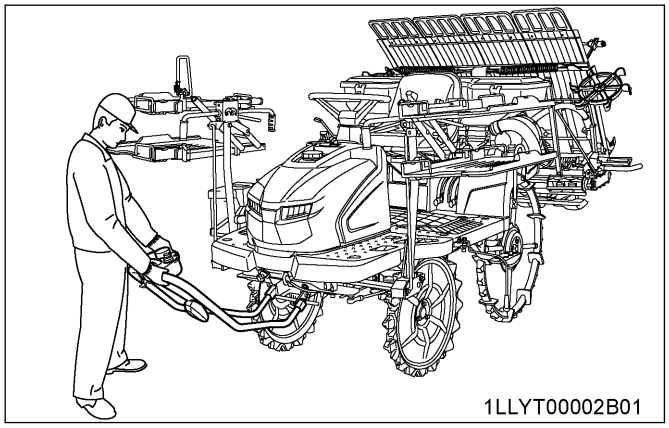


(A) 押さえる

- **機械を積込むときは、機械の後輪が荷台に載った後で、トラックのキャビンにあぜごえアームがあたらないように収納位置に戻してください。**

1. 機械に乗って走行したあと、機械をあゆみ板の前でいったん停止します。
2. 植付部を最上昇位置にし、駐車ブレーキを掛けます。
3. アクセルレバーを［🐢］位置にし、副変速レバーを**[圃場作業]**位置、主変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。
4. 車速けん制カバーを装着します。（51 ページ参照）
5. 駐車ブレーキが掛かっていることを確認し、主変速レバーを**[前進]**の低速位置にして機械から降ります。
6. あゆみ板の中央に左右の前輪と後輪の中心を合わせ、機械があゆみ板と平行になっていることを確認してから機体右前方（あぜごえレバー側）に立ちます。

7. あぜごえアームを前方に倒し、アームを持ちながらあぜごえレバーのロックを解除して右側のあゆみ板を機械の前進に合わせて歩いて登ります。



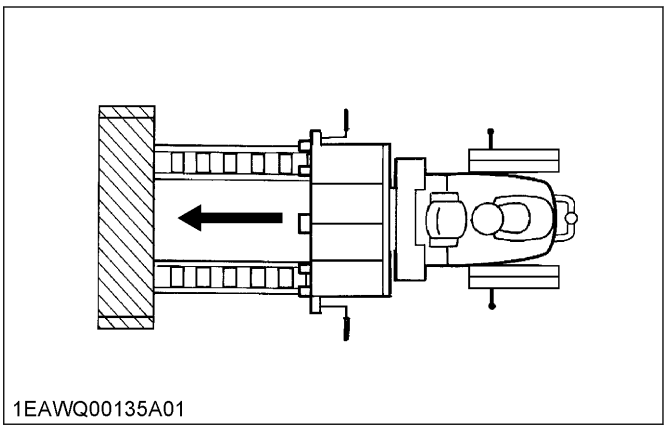
8. 荷台への積込みを終えたあと、主変速レバー**[N]**（中立）位置にして走行を停止し、駐車ブレーキを掛けます。
9. エンジンを停止したあと、あぜごえアームを収納します。
10. 車速けん制カバーを取外して副変速レバーに掛けます。（51 ページ参照）

補足：
- **荷台から積降ろしを行うときは、積込みの逆の作業手順で行ってください。**
- **機械の後輪があゆみ板に載る前に機械を停止し、あぜごえアームを収納位置から前方に倒してください。**

3.2 機械に乗ってトラックに積込み・積降ろしをする場合

⚠ 警告
- **機械に乗って積込み・積降ろし作業を行う場合は、積込みは後進で、積降ろしは前進で行ってください。また、アクセルレバーを[始動]位置にして低速で走行してください。**

1. 副変速レバーを**[圃場作業]**位置にし、積込みするときは**[後進]**側に、積降ろしするときは**[前進]**側に主変速レバーをゆっくり操作して、低速で走行します。
2. あゆみ板の前でいったん停止し、あゆみ板の中央に左右の前輪と後輪の中心を合わせ、機械があゆみ板と平行になっていることを確認してから、斜面に対して直角に積込み・積降ろしをしてください。

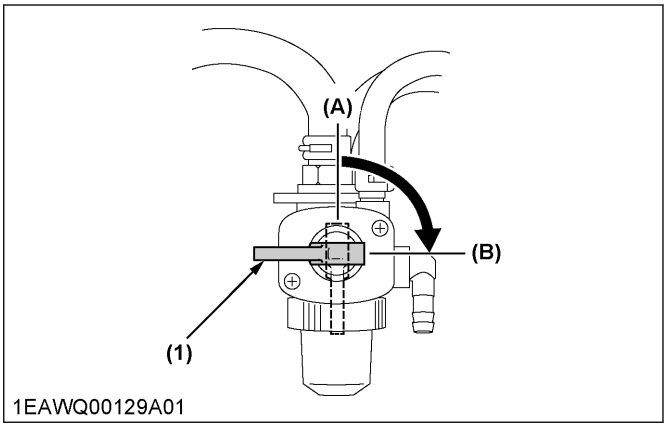


3. 荷台に乗り終わると駐車ブレーキを掛けて、走行を停止します。

4. トラック上での処置

⚠ 警告
- **駐車ブレーキを掛け、車止めをし、ロープでしっかりトラックに固定してください。**

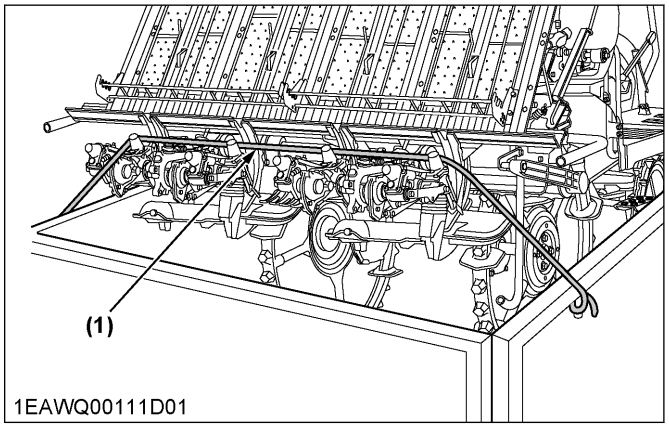
1. エンジンを停止します。
2. 副変速レバーを**[圃場作業]**位置にします。
3. 燃料コックを閉じ（**[停止]**位置）ます。



(1) 燃料コックレバー　*(A)* ***[運転]***　*(B)* ***[停止]***

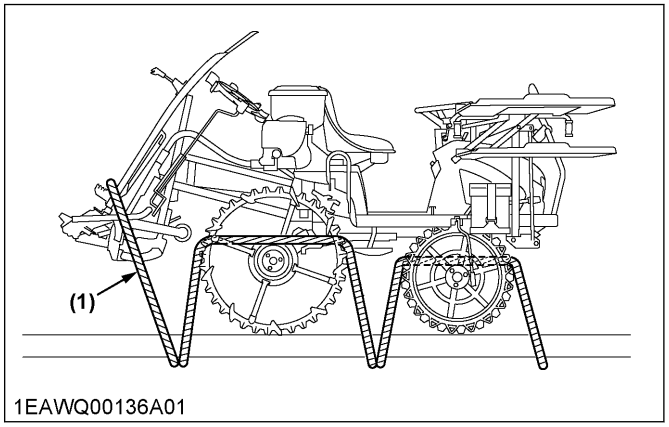
補足：
- **トラック輸送時に燃料もれの原因になります。**

4. 植付部を最上昇位置にし、油圧ロックレバーを**[閉]**位置にして、植付部の下降防止を行なって植付部がバウンドしないように、軽くロープ掛けします。

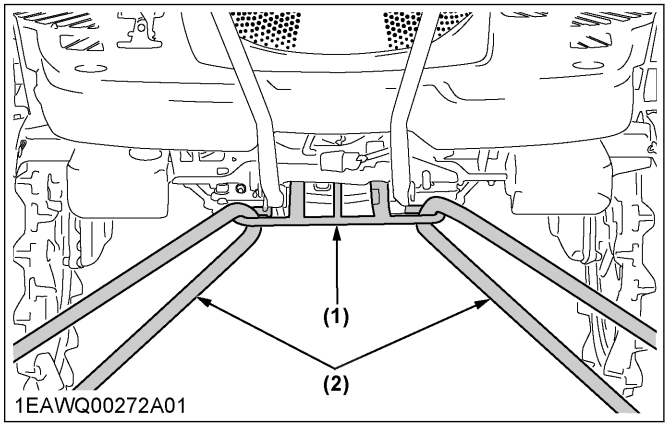


(1) ロープ

5. 車輪にロープを掛けて固定します。



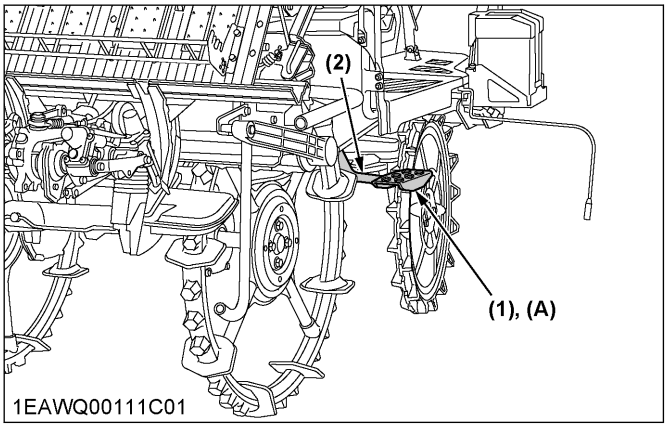
(1) ロープ



(1) けん引フック
(2) ロープ

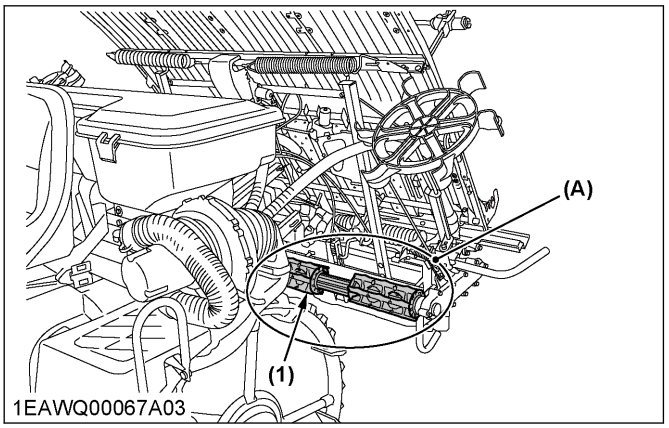
重要：

- **機体前部にロープを掛けるときは、けん引フックに必ず掛けてください。また、予備苗ステーにはロープを絶対に掛けないでください。予備苗ステーが破損します。**
- **しゅう動板ガードにはロープを絶対に掛けないでください。しゅう動板ガードが破損します。**
- **左右補助ステップのフレームにはロープを絶対に掛けないでください。左右補助ステップのフレームが破損します。**



(1) 補助ステップ　　*(A)* ロープ掛け禁止
(2) フレーム

- **トラック輸送時、整地ロータ各部にはロープを掛けないでください。整地ロータが破損します。**



(1) 整地ロータ　　*(A)* ロープ掛け禁止

- **施肥部にロープは掛けないでください。破損の原因となります［R 仕様］。**
- **トラックで輸送中にホッパのふたが開いて破損するおそれがあるため、ゴムバンドを必ず掛けてください［R 仕様］。（47～50 ページ参照）**

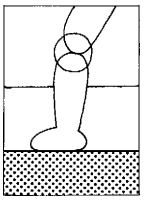
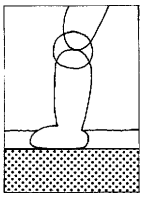
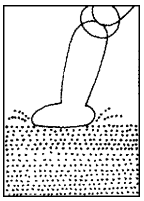
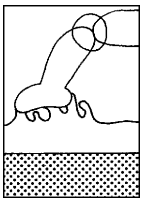
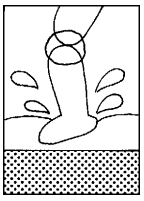
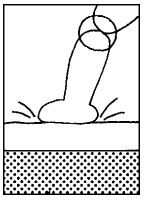
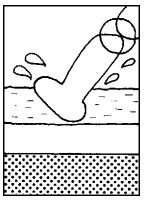
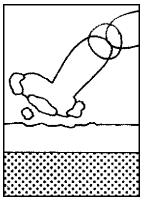
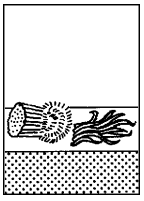
田植作業のしかた

ほ場と苗の条件

ほ場の条件、苗の条件が良くなければ植付作業が行なえないことがあります。
次のような条件が予想される場合は事前に購入先にご相談ください。

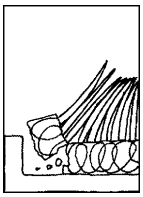
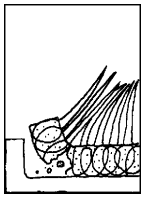
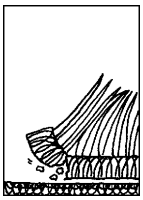
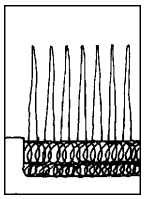
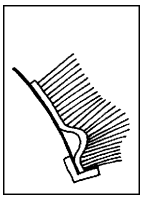
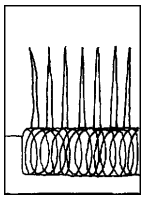
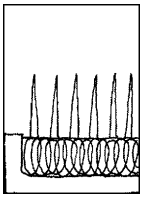
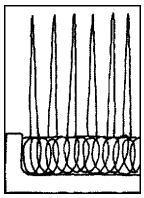
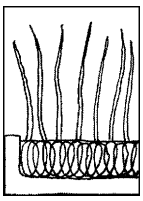
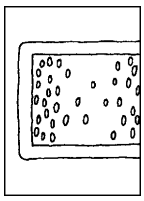
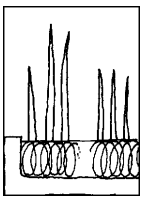
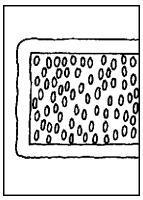
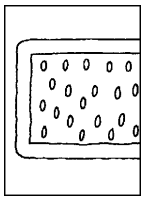
1. ほ場条件

ほ場づくりは、作物の種類・植付時期・土地条件（気候や風土）などの条件によって異なりますので、最寄りの指導機関（JA［農協］や普及センタなど）や経験者に相談して、作物に適したほ場づくりをしてください。

項目	条件（うまく使えないこともある状況）	
深さ	 • 耕盤までの深さが 30 cm 以上ある深いほ場。	 • 耕盤までの深さが 10 cm 以下の浅いほ場。
土質	 • 砂質の多いほ場（手植えでも植えにくいほどの硬いほ場）。	 • 強粘土質のほ場（歩くのが困難な粘いほ場）。
硬さ	 • 代かき直後のほ場、又は代かき後いく日たっても固まらないトロトロの軟らかいほ場（歩いても足跡がすぐ埋まるようなほ場）。	 • 代かき後、日数がたって硬くなったほ場、又は代かき後すぐに固まるほ場（手植えするにも指が痛くなるような硬いほ場）。
水深	 • 水深の平均が 3 cm を越える水の多いほ場。	 • 水気がなく、車輪に泥がまつわりつくようなほ場。
夾雑物	 • 裏作跡などで、刈り株・排わら又は雑草がじゅうぶん腐らず、代かき後も表面に多量に露出しているほ場。	

2. 苗条件

苗づくりは、各地の指導指針や最寄りの指導機関（JA［農協］や普及センタなど）の指導を仰いだり、経験者に相談して、良い苗（健苗）づくりを行なってください。

項目	条件（うまく使えないこともある状況）		
苗床	 • 砂質が多く、苗床が崩れやすい苗。	 • 根張りが悪く、苗床が崩れやすい苗。	
	 • 根張りはよいが、根を切ったために苗床が崩れやすい苗。	 • 根の張り過ぎた、植付爪のささりにくい苗。	
	 • 苗床厚（マット厚）が 2 cm 以下の、薄い苗。	 • 苗床厚（マット厚）が 4 cm 以上の、厚い苗。	
草丈	 • 草丈が 8 cm 以下の、短い苗。	 • 草丈が 20 cm 以上の、長い苗。	
素質	 • 軟弱徒長苗。	 • 播種ムラのひどい苗。	 • 成育ムラや成育不良のある苗。
播種量	 • 催芽もみで、1 箱当り 250 g 以上の、厚播きの苗。	 • 催芽もみで、1 箱当り 100 g 以下の、薄播きの苗。	

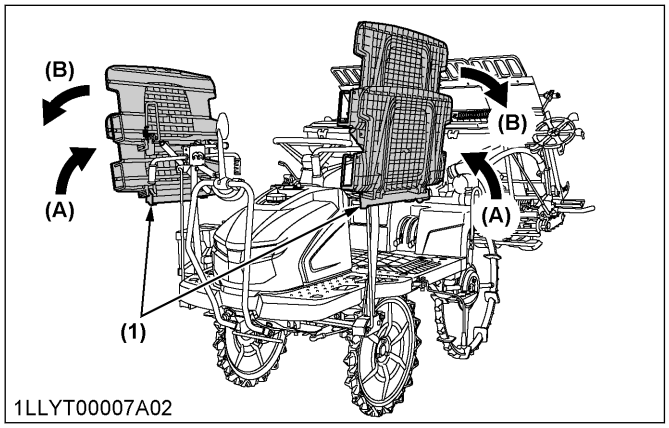
田植作業前の準備

⚠ 警告
- **平たんな場所に置き、エンジンは必ず止めてください。**
- **取外したカバー類は必ず取付けてください。**

1. 予備苗のせ台の準備

予備苗のせ台をいったん押上げて、取付穴からフック部を外して作業状態にします。

※イラストは段積み式



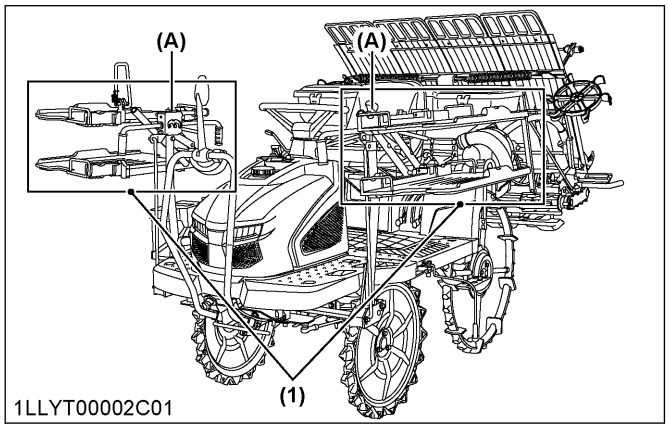
(1) 予備苗のせ台　　*(A)* 押上げる
(B) 作業状態にする

1.1 予備苗のせ台の切換え

予備苗のせ台は、段積み式又は、レール式及び前後方向に切換えが行なえます。苗補給など作業状況に応じて切換え作業を行なってください。

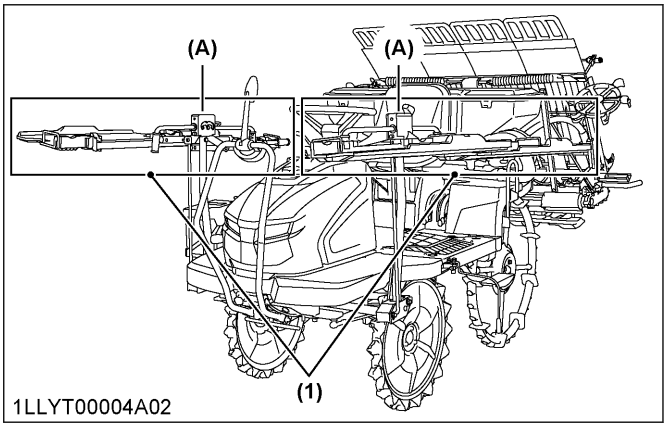
補足：
- **出荷時の予備苗のせ台は、段積み式で前後方向は中央位置です。**

※イラストは段積み状態



(1) 予備苗のせ台（段積み式）　　*(A)* 中央位置

※イラストはレール式の状態

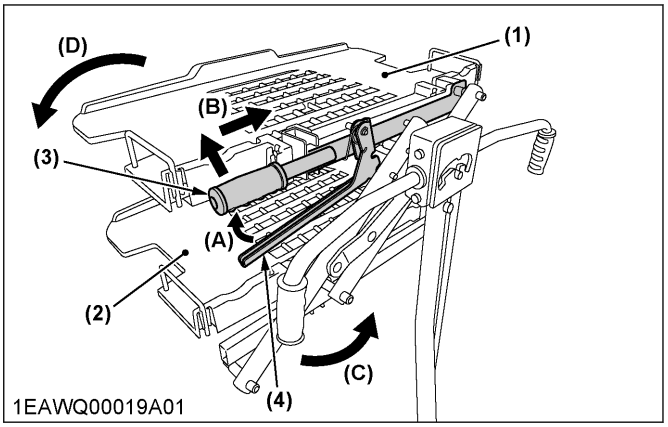


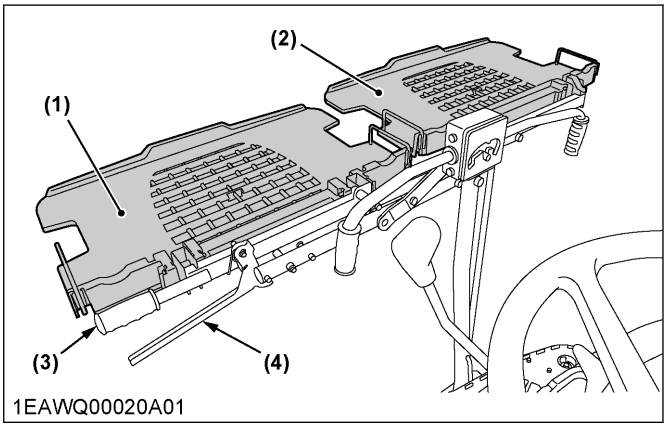
(1) 予備苗のせ台（レール式）　　*(A)* 中央位置

1.1.1 レール式への切換え

レール式への切換えを行うときは、苗のせ台切換えレバーと切換えレバーのロック解除レバーを握った状態で持上げながら前方に押してください。

※イラストは左側





(1) 予備苗のせ台（上側）　　*(A)* 握る
(2) 予備苗のせ台（下側）　　*(B)* 押す
(3) 苗のせ台切換えレバー　　*(C)* 前方にスライド
(4) ロック解除レバー　　*(D)* 後方にスライド

補足：
- **苗のせ台切換えレバーを前方に押すと、上側の苗のせ台は後方、下側の苗のせ台は前方へそれぞれスライドします。**

- **苗のせ台切換えレバーを操作したあと、苗のせ台がしっかり固定されていることを確認してください。**
- **苗のせ台に予備苗を載せた状態で切換えレバーを操作しないでください。予備苗が落下するおそれがあります。**
- **段積み式の状態にするときは、逆の手順で操作してください。**

1.1.2 予備苗のせ台フレーム前後方向の切換え

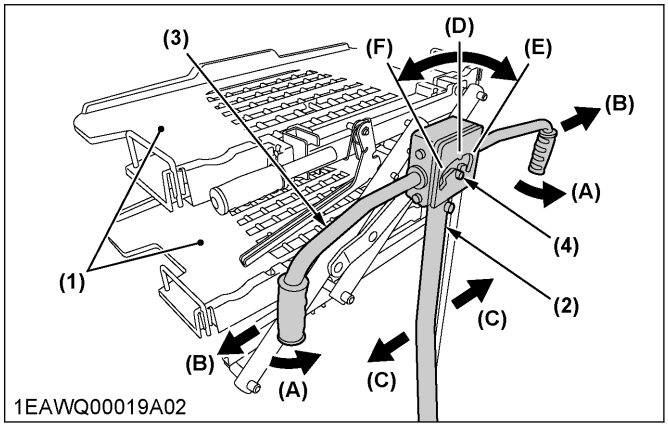
予備苗のせ台は、作業状態に応じて前後方向に切換えが行なえます。作業状況に応じて予備苗のせ台を取付けている予備苗のせ台フレームを前後方向に切換えてください。

※作業状態の例

予備苗のせ台の位置	作業状態
中央位置	• 植付け作業時 • 苗補給作業時 • 乗車移動走行時 • トラックへの積み・降ろし時 • トラック輸送時
前方位置	• 苗補給作業時
後方位置	• 苗補給作業時 • 長期格納時

予備苗のせ台フレームの前後方向への切換えを行なうときは、苗のせ台フレーム切換えレバーのグリップを少し内側に回してロックを解除した状態で前方又は、後方に押してスライドしてください。

※イラストは左側



(1) 予備苗のせ台
(2) 予備苗のせ台フレーム
(3) 予備苗のせ台フレーム切換えレバー
(4) ロックピン
(A) 回す
(B) 引く
(C) スライド
(D) 切欠き部（中央位置）
(E) 切欠き部（前方位置）
(F) 切欠き部（後方位置）

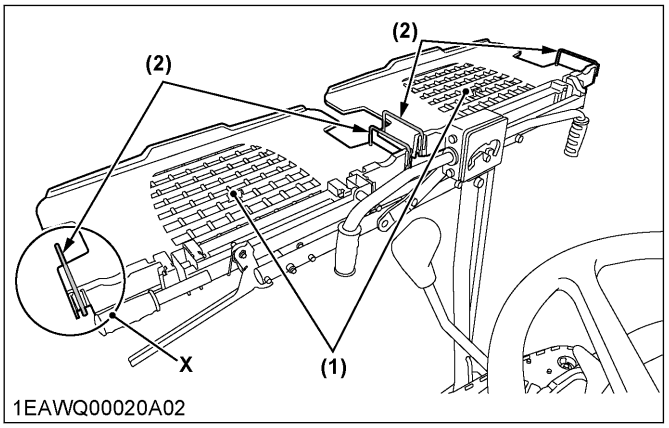
補足：

- **出荷時の予備苗のせ台フレーム位置は、中央位置です。**
- **予備苗のせ台フレーム位置を切換えたあと、ロックピンが切欠き部に入っていることを確認してください。**

1.2 予備苗のせ台箱止め金具の切換え

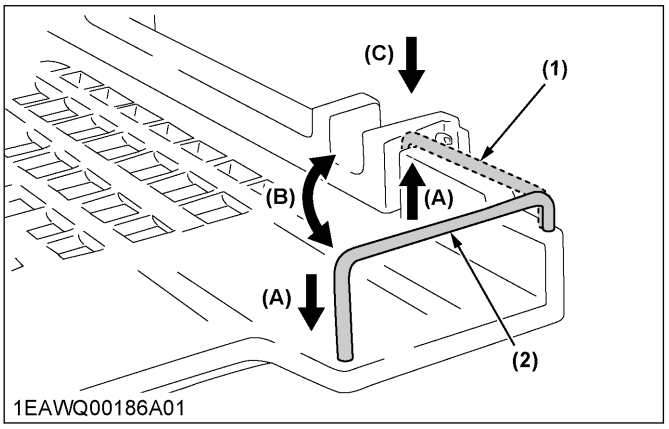
箱止め金具は、予備苗箱の落下防止を行なう金具です。植付作業、苗補給時など作業状況に応じて箱止め金具の位置を切換えてください。切換え作業は箱止め金具を上げ、前方又は、後方に 90 度回して穴に差込みます。

※イラストはレール式の状態



(1) 予備苗のせ台
(2) 箱止め金具

X 部拡大図

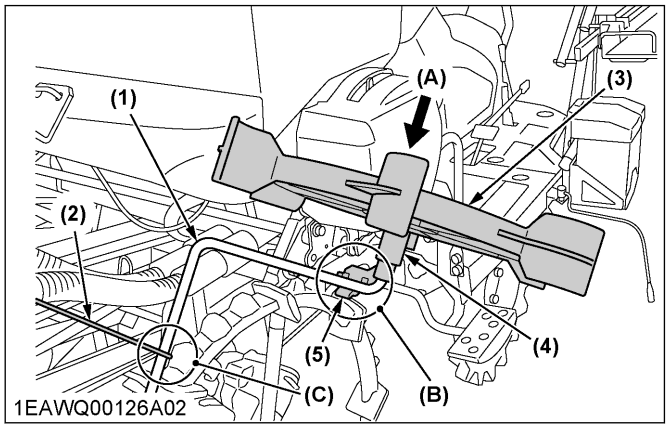


(1) 箱止め金具（収納位置）
(2) 箱止め金具（作業位置）
(A) 上げる
(B) 回す
(C) 穴に差込む

2. ラインマーカの準備

ラインマーカのアームにマーカを差込んだあと、ホルダ部のクリップをアームにはめ込んで固定します。そのあと、固定金具からラインマーカのアームを外します。

※イラストは左側

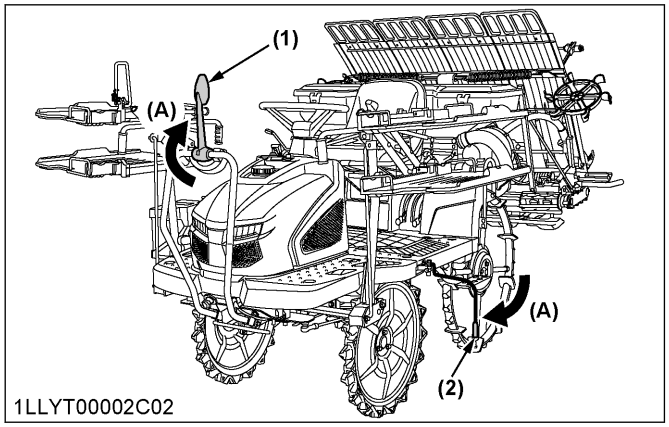


(1) アーム
(2) 固定金具
(3) ラインマーカ
(4) ホルダ部
(5) クリップ
(A) ラインマーカを差込む
(B) アームにクリップを取付ける
(C) 固定金具からアームを外す

補足：
- **クリップをアームに確実にはめ込んでください。ラインマーカが脱落するおそれがあります。**
- **反対側のラインマーカも同様に取付けてください。**

3. 隣接マーカとマスコットの準備

隣接マーカとマスコットを作業状態にセットします。



(1) マスコット
(2) 隣接マーカ
(A) セット

重要：
- **あぜごえアームを収納位置から 30 度以上倒して植付作業や移動は行なわないでください。あぜごえアームを 30 度以上倒すとデフロック、車輪ロックがはたらき、前輪の操作が固定されるため、無理なハンドル操作を行うと機械が破損する原因になります。（53 ページ参照）**
- **あぜごえアームを押さえた状態でハンドルを回さないでください。破損の原因になります。**

4. しゅう動板ガードの準備

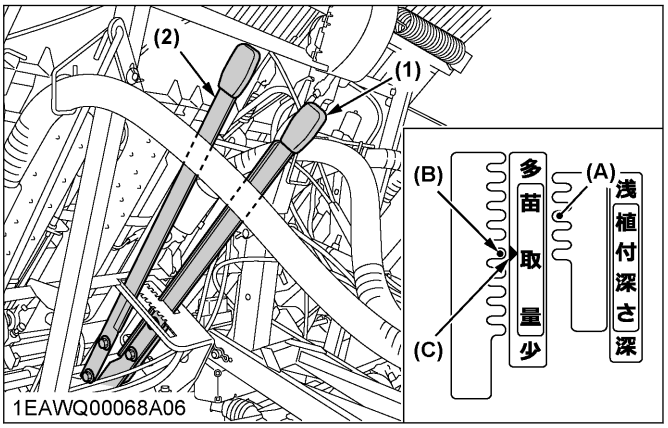
しゅう動板ガードが収納されているときは、作業状態にします。（134 ページ参照）

5. 各レバー・ダイヤルの準備

各レバー・ダイヤルの設定を行います。

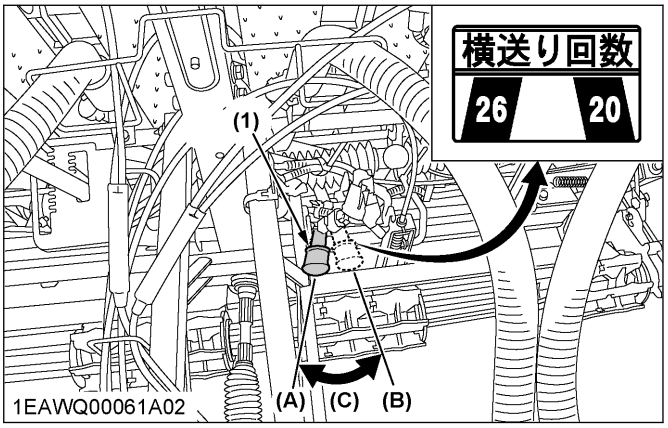
補足：
- **下記各レバー・ダイヤルの設定位置は目安です。**

植付深さ調節レバー、苗取り量調節レバー
植付深さ調節レバーを上（**[浅]**い）から 3 段目の切欠位置にし、苗取り量調節レバーを上（**[多]**い）から **6 段目**（ラベルの**赤印**）の切欠位置にします。



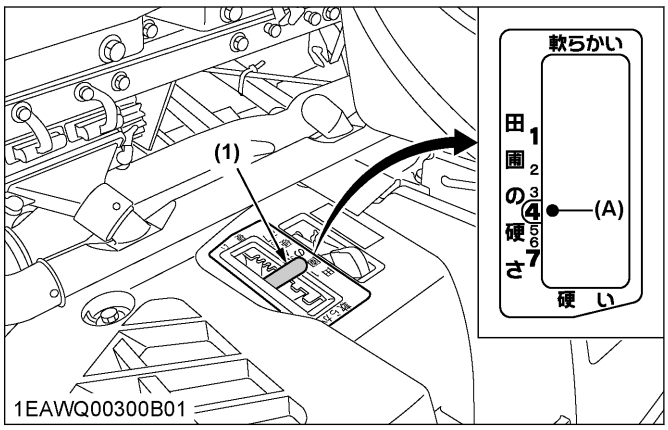
(1) 植付深さ調節レバー
(2) 苗取り量調節レバー
(A) 上から *3* 段目
(B) 上から *6* 段目
(C) 赤色

横送り切換えレバー
苗の状態により横送り切換えレバーを動かして横送り回数（20 回〔中苗〕・26 回〔稚苗〕）を選択し設定します。



(1) 横送り切換えレバー
(A) ［*26*］回
(B) ［*20*］回
(C) 切換え

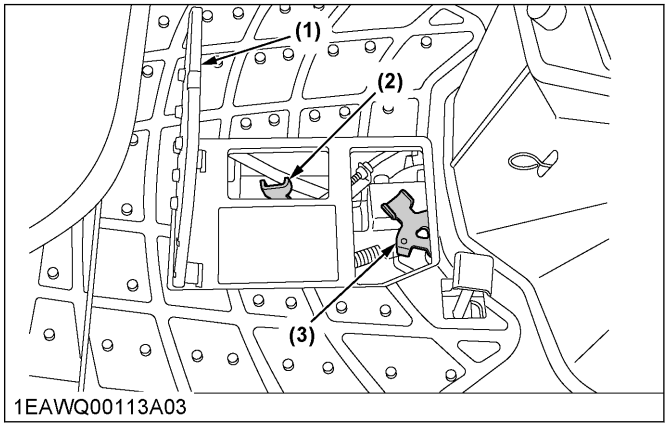
フィットセンサレバー
フィットセンサレバーを**［4］**の位置にします。



(1) フィットセンサレバー　　*(A)* 標準

株間調節レバー

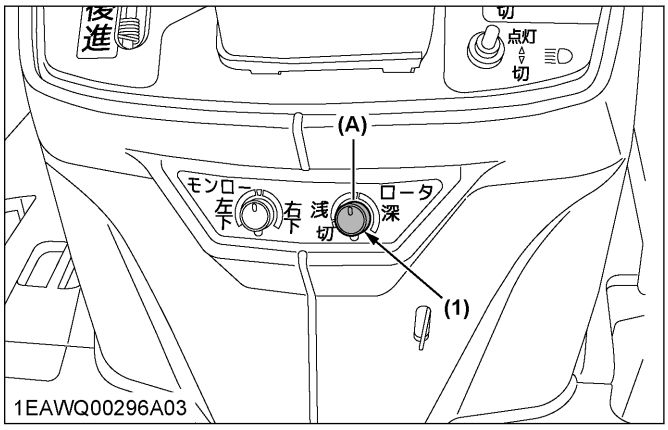
ステップ中央のカバーをめくり株間調節レバーを動かして **14 cm** から **30 cm** の間（6 段階）から選択し、株間を設定します。



(1) カバー
(2) 株間調節レバー *1*
(3) 株間調節レバー *2*

ロータ深さ調整ダイヤル

ロータ深さ調整ダイヤルを中央（標準）の位置にします。



(1) ロータ深さ調整ダイヤル　　*(A)* 中央（標準）

植付作業のしかた

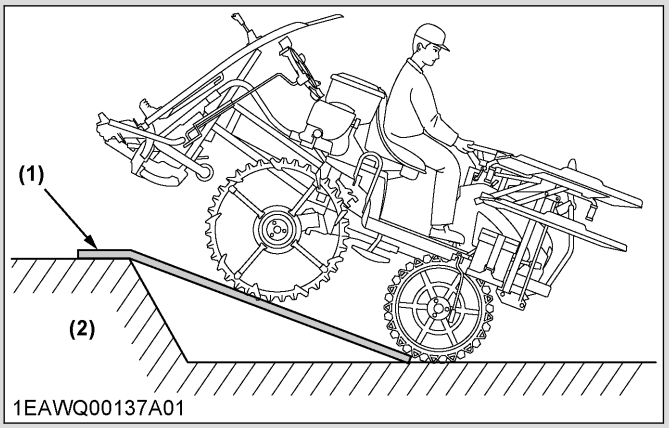
⚠ 警告

- **夜間作業は行なわないでください。思わぬ事故を起こすおそれがあります。**
- **後進する場合、後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないようにじゅうぶん注意してください。**
- **機体への乗り降りや機体の上で作業を行なうとき（苗や肥料の補給時など）、主変速レバーに体の一部が接触すると、機体が発進するおそれがありますので、必ず駐車ブレーキを掛けてください。**

1. ほ場の出入りのしかた

⚠ 警告

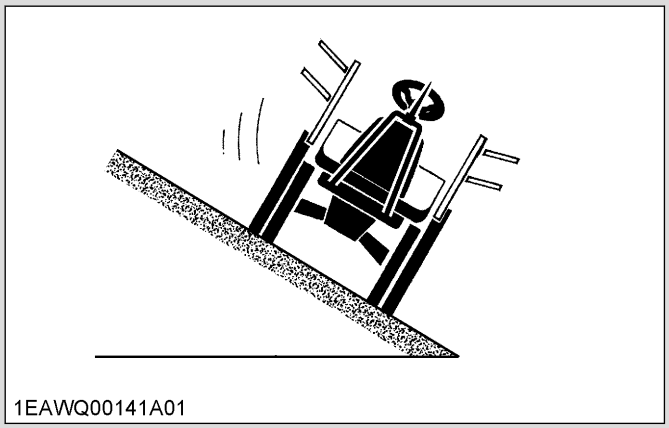
- **10 cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。**



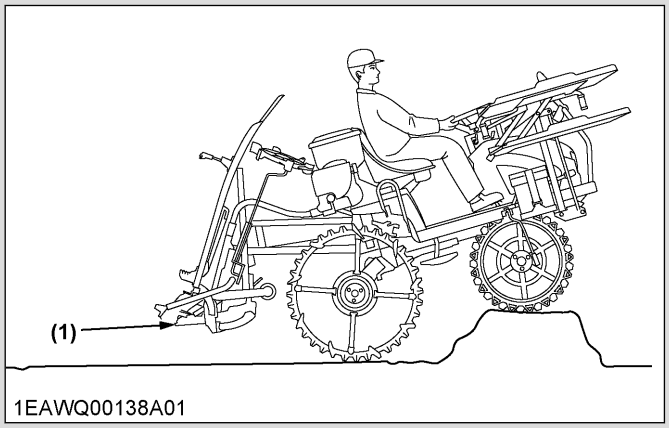
(1) あゆみ板
(2) 農道・あぜ

- **暴走や転倒をしてケガをするおそれがあるので、あぜごえや傾斜地（あゆみ板や坂道など）を走行するときは、下記事項に注意してください。**
  - **走行速度を落とす。（ゆっくりと走行する。）**
  - **主変速レバーで走行と停止を行なう。**
  - **あぜや斜面に対して直角に走行する。**
  - **あぜや斜面に対して上り方向は後進、下り方向は前進で走行する。**
  - **あぜや斜面の走行途中に急なハンドル操作や副変速レバーの操作及びブレーキペダルを急に踏込まない。**
  - **変速レバーが[圃場作業]位置になっていることを確認する。**
  - **あぜや斜面では e-stop でエンジンを停止しない。**
  - **運転者以外は乗せない。**
  - **予備苗のせ台に苗を載せない。**
- **機械が右又は、左に大きく傾くような場所では転倒するおそれがあるので、傾斜が大きいところでの走行はしないでください。**

- **あぜごえアームは下記条件の場合は使用を避け、必ずあゆみ板を使用してください。**
  - **機械が傾くと滑り落ちるところ**
  - **機械が右又は、左に大きく傾くところ**


1EAWQ00141A01

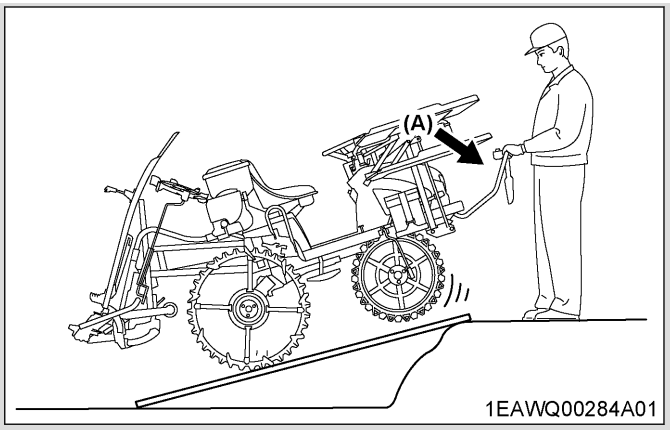
  - **あぜなどの段差や傾斜の角度が大きいとき、植付部が最上昇位置でもフロートが地面に当たるところ**



1EAWQ00138A01

(1) フロート

- **アクセルレバーを［🐢］位置にし、副変速レバーを[圃場作業]位置、主変速レバーを[N]（中立）位置にしたあと、車速けん制カバーを装着してください。（51 ページ参照）**
- **周囲の安全や足元に注意しながら走行してください。**
- **あぜごえ、坂道走行、トラックへの積込み・積降ろしの時、前輪が浮き上がるときは、あぜごえアームを押さえ、浮き上がりを防止してください。**
- **あぜごえアームに力を入れるときは、足元にじゅうぶん注意してください。**



1EAWQ00284A01

(A) 押さえる

2. 植付作業の手順

⚠ 警告

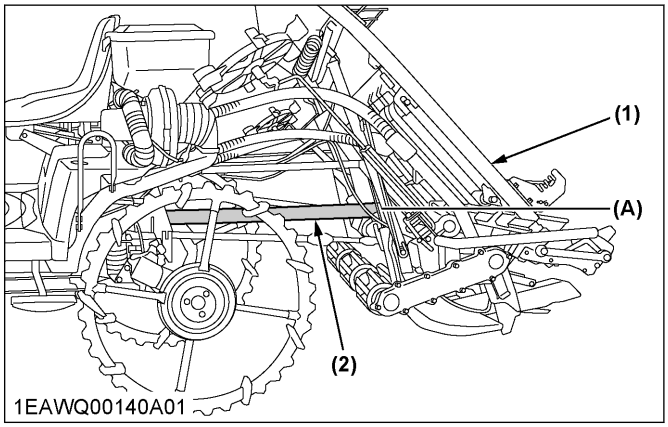
- **異常が発生したときは、エンジンを必ず止めてください。**
- **小さなほ場や、ほ場のすみでは作業がしにくいので、安全のため低速で注意しながら作業を行ってください。**
- **ほ場の外で苗のせ台を移動させているときは、機体が動かないように水平で平たんな場所で必ず行ってください。**

重要：

- **副変速レバーを[移動]位置にして植付作業はしないでください。トラブルの原因になります。**
- **ブレーキペダルを踏み込んだ状態にしておくと、油圧が作動しないため、植付部は上昇しません。**
- **予備苗のせ台には苗以外の物を載せないでください。予備苗のせ台は、予備苗を最大で 4 枚［4］または 5 枚［5］まで載せることができます。この枚数より多く載せた場合、機械が損傷するおそれがあります。**

1. ほ場に入ったら平たんな場所で走行を停止します。

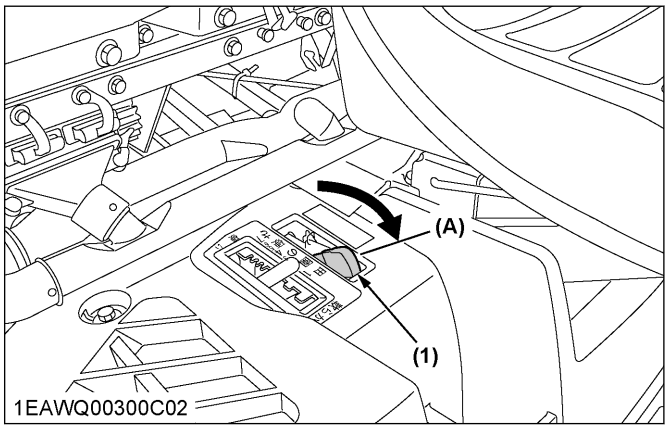
2. 十字ポンパレバーを下側**[下降]**に操作して植付部のリンクが水平状態になる程度まで下降させます。



(1) 植付部（苗のせ部）　*(A)* 水平
(2) リンク

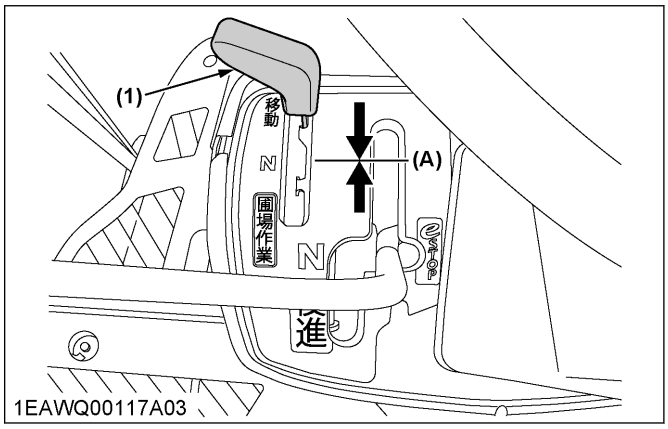
補足：
- **植付部が最上昇にあると植付部は横送りしないため、植付部は最上昇位置より下がった位置にしてください。**

3. 油圧ロックレバーを**[閉]**位置にして下降防止をします。



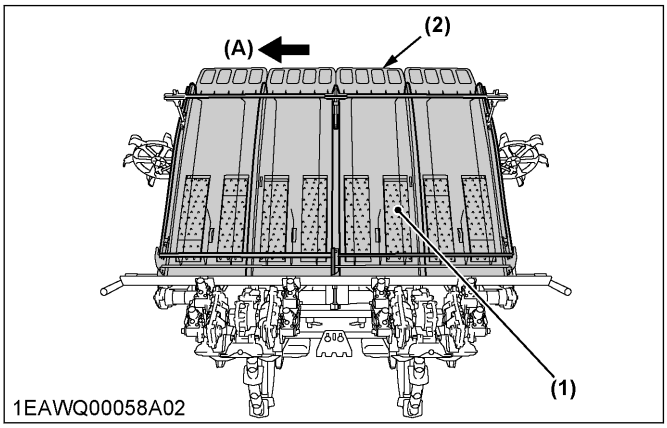
(1) 油圧ロックレバー　*(A)* **［閉］**

4. 駐車ブレーキを掛けているときは解除して副変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。



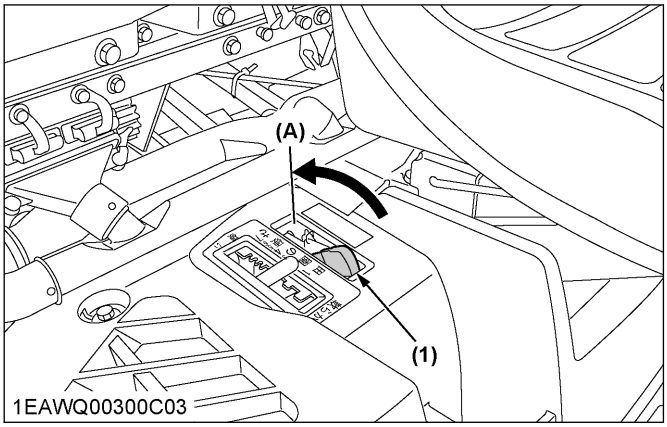
(1) 副変速レバー　*(A)* ***[N]***（中立）

5. 十字ポンパレバーを下側**[下降]**にピッと音が鳴るまで操作したあと、もう１度十字ポンパレバーを下側**[下降]**側にピッピッと連続音が鳴るまで操作して、植付部の駆動の準備をします。
6. 主変速レバーをゆっくりと**[前進]**側に操作して、植付部を駆動させ、苗のせ台が**右端**または、**左端**まで移動して縦送りベルトが作動した直後に、十字ポンパレバーを上側**[上昇]**に操作して植付部の駆動を停止します。



(1) 縦送りベルト　*(A)* 寄せる
(2) 苗のせ台

7. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置に戻します。
8. 油圧ロックレバーを**[開]**位置にし、十字ポンパレバーを下側**[下降]**に操作して植付部を降ろします。



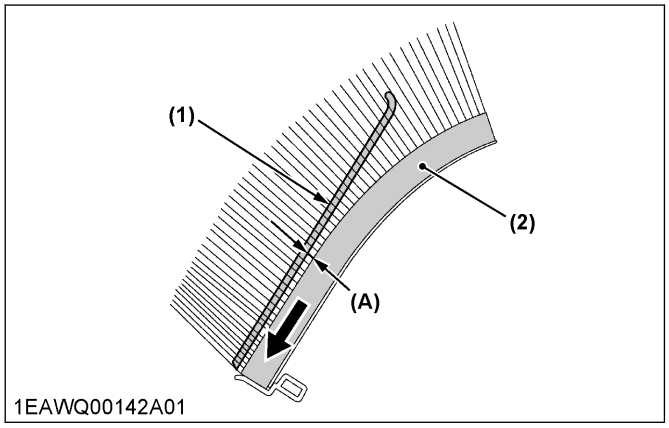
(1) 油圧ロックレバー　*(A)* **［開］**

9. エンジンを停止します。

10. 苗のせ台に苗を載せます。

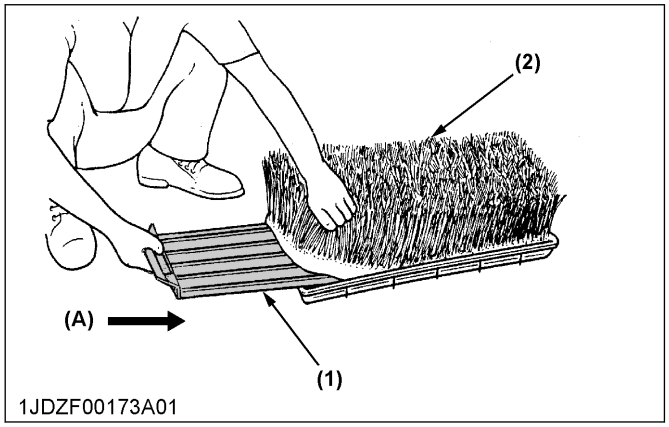
補足：

- **苗がくずれ落ちないように苗ステーとのすき間を確認してください（87 ページ参照）**



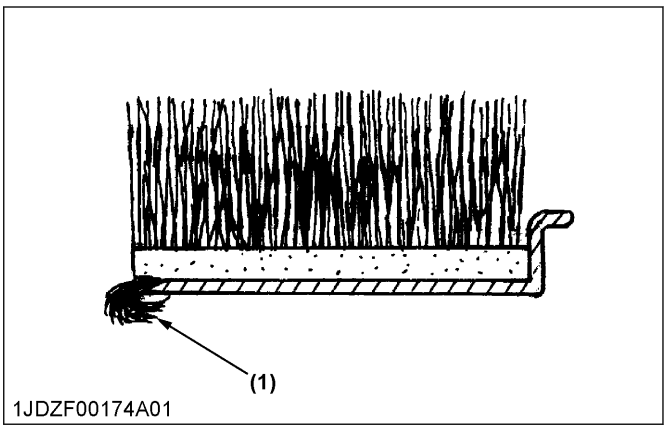
(1) 苗ステー
(2) 苗床
(A) すき間

- **苗箱から苗を取り出すときは、苗床（苗マット）の端を持上げて、苗すくい板を苗床の下に差込み苗をすくい出してください。**



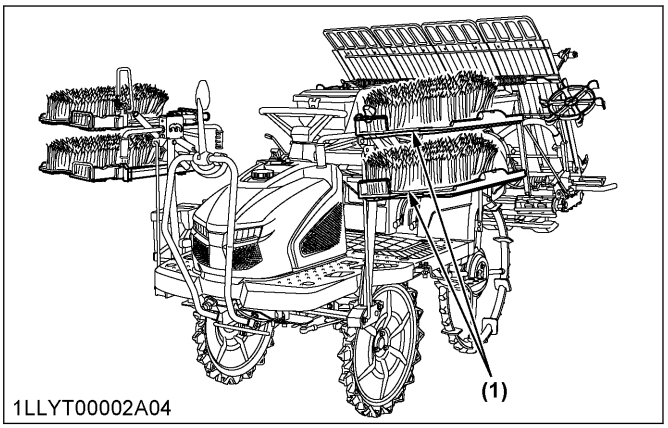
(1) 苗すくい板
(2) 苗（苗床）
(A) 苗箱と苗の間へ差込む

- **苗すくい板の先端に苗の根がからみついて、固まりができることがあります。この根は必ず取除いてください。そのまま入れると、欠株の原因になります。**



(1) 苗の根

- **苗すくい板のニギリ部を機体の後方にし、予備苗のせ台へ載せてください。**

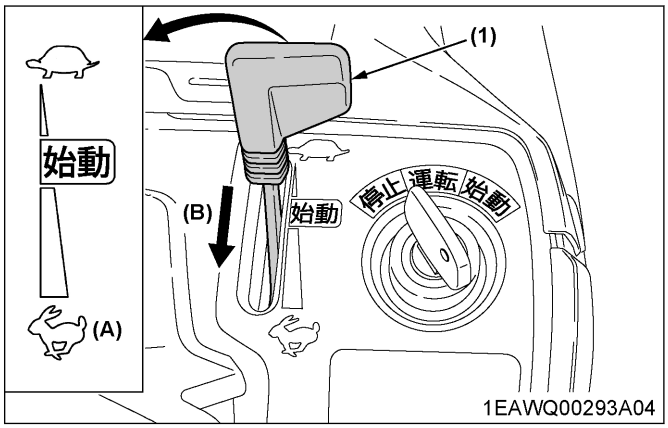


(1) 苗すくい板

- **苗のせ台に予備苗を載せた状態で段積み式または、レール式へ切換えないでください。予備苗が落下するおそれがあります。（60 ページ参照）**
- **植付作業途中で、予備苗のせ台に苗補給を行うときは、あぜなどの高さやほ場状態に合わせて、予備苗のせ台を前方にスライドして、予備苗を補給してください。（61 ページ参照）**

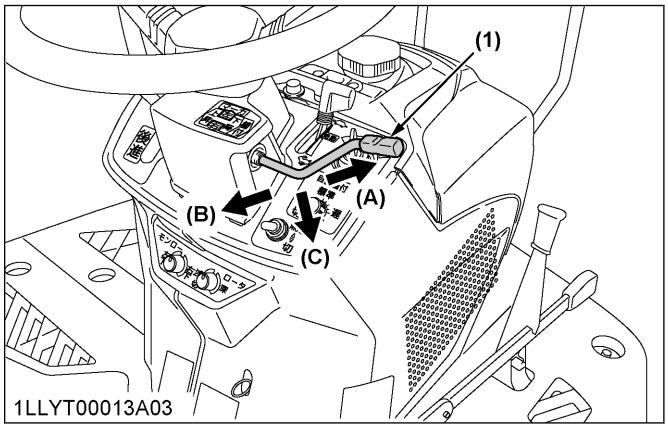
11. ホッパに肥料を入れます。**［R 仕様］**
（75 ページ参照）

12. エンジンを始動したあと、アクセルレバーを操作して、エンジンの回転数を**[🐇]**位置まで引いてください。

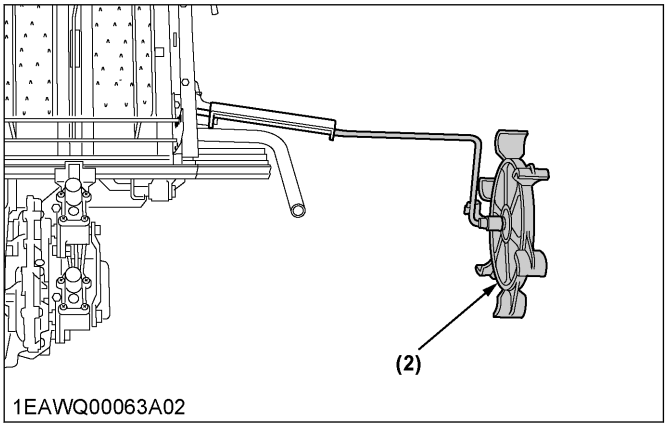


(1) アクセルレバー
(A) **[🐇]**
(B) 引く

13. 十字ポンパレバーを操作して植付部の駆動準備とラインマーカのセットを行います。
    a. 十字ポンパレバーを**上側**に 1 回押すと植付部が上昇します。
    b. 十字ポンパレバーを**下側**に 1 回押すと植付部が下降し、十字ポンパレバーを**前方[マーカ左]**または、**後方[マーカ右]**に押すとラインマーカが倒れます。さらに、**下側**に押すと、植付部が駆動します。



※イラストは右側（後方操作）



(1) 十字ポンパレバー
(2) ラインマーカ
(A) **前**（マーカ左）
(B) **後**（マーカ右）
(C) **下**（下降および植付）

重要：
- **十字ポンパレバーを押したあとはすぐに離してください。また、強く押さないでください。故障の原因となります。**

補足：
- **ラインマーカを出さないとき（あぜぎわの植付など）は、十字ポンパレバーを前後せずに 2 度目の下側操作をしてください。植付部が駆動します。**

14. 副変速レバーを**[圃場作業]**位置にし、主変速レバーを［**前進**］側へ操作して試し植えを行います。

補足：
- **植付速度が極端に遅いときは、植付爪の回転が不安定になり植付状態に異常が発生する場合があります。植付作業を行うときは、主変速レバーを 1 ノッチ以上にしてください。**

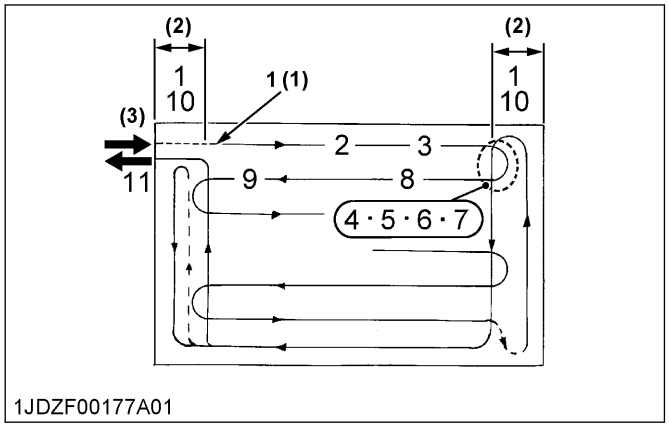
15. 5 m 前後植付けたあと、主変速レバーを**[N]**（中立）位置にして走行を停止します。
16. 植付状態を確認し、異常があれば各部の調整や調節を行います。また、異常がなければ植付作業を行います。

補足：
- **植付状態の確認については、以下の確認項目および調整または、調節箇所を参照して再調節または、再調整を行ってください。（83 ページ参照）**

確認項目	調整または、調整箇所
1 株本数	苗取り量調節レバー、横送り切換えレバー
植付深さ	植付深さ調節レバー、フィットセンサレバー、モンロー調整ダイヤル
植付株数	株間調節レバー 1、2
植付姿勢	フィットセンサレバー、苗ステー
欠株	苗押さえ棒

3. 植付けかたと旋回のしかた

ほ場の大きさや形状によって植付方法は異なりますので作業を始める前に、植付手順を決めてから植付作業を行なってください。



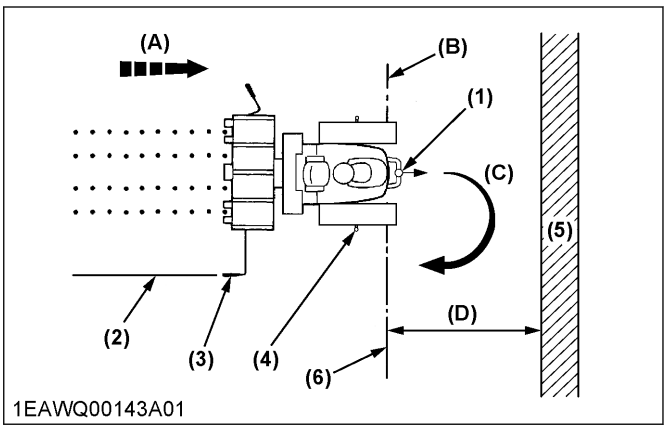
(1) 植始め位置
(2) 枕地
(3) 出入口

補足：

- **上図は、植付手順の一例です。また、上図内と下記の手順の番号 1.～11.を合わせて説明しています。**

1. 植始めは、1 往復分残した位置から植付けます。また、反対方向の枕地も 1 往復分残します。

   補足：
   - **1 往復分の目安**
     - **［4］は 2.4～2.7 m（8～9 条分）**
     - **［5］は 3.0～3.3 m（10～11 条分）**
2. 十字ポンパレバーを**下側**に 1 回押して植付部を下降させます。十字ポンパレバーを**前方**又は**後方**に操作して、ラインマーカを左又は右にセットします。さらに、**下側**に十字ポンパレバーを押し、ほ場の長辺方向に植付けます。
3. 枕地が近づくと、主変速レバーを操作して減速します。そのあと、十字ポンパレバーを操作して植付部を上昇させます。
4. 次に植える条側にハンドルを回して旋回します。



(1) マスコット
(2) マーカ跡
(3) ラインマーカ
(4) 隣接マーカ
(5) あぜ
(6) 次行程植付部下降、次行程植始め位置

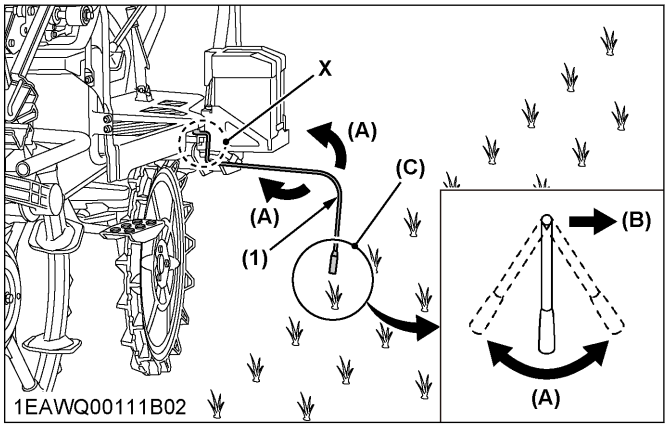
(A) 減速
(B) 植付部上昇
(C) 旋回
(D) *1* 往復分

補足：

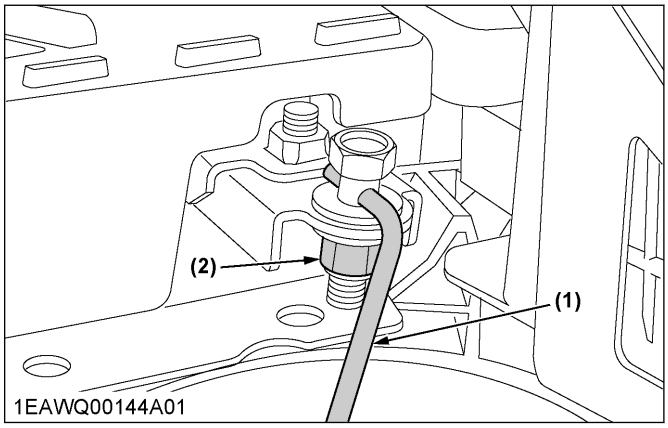
- **深田などで前輪がスリップするときは、前輪デフロックペダルを踏込んでください。**
- **植付クラッチを切って前後進したとき、植付爪が正転方向又は、逆転方向に最大半回転程度回転する場合があります。**

5. 旋回するときにマスコットを目印にして、マーカ跡の線とマスコットの位置を合わせながら機体をまっすぐにします。

   補足：
   - **マーカ跡の線が見えにくいときは、隣接マーカが、植え終わった隣の苗（隣接苗）の上になる位置に合わせてください。**
   - **隣接マーカは必要に応じて前後方向の角度及び上下方向の高さを調整してください。また、隣接マーカ調整時の動きが硬い又は、軟らかい場合は調整ナットをゆるめる又は、締付けて調整を行なってください。**



X 部拡大図

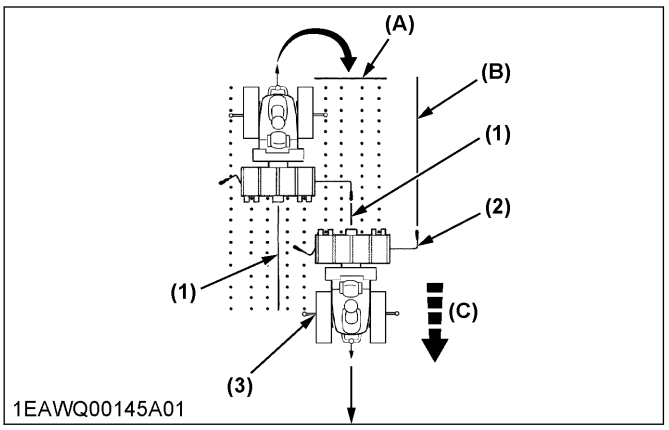


(1) 隣接マーカ
(2) 調整ナット
(A) 調整
(B) 前方
(C) 隣接苗の上に合わす

6. 十字ポンパレバーを下側**[下降]**に押して、植付部を下降させます。
7. 植付部が接地したことを確認したあと、ラインマーカを次行程植付側にセットします。さらに、下側**[下降]**に十字ポンパレバーを押して、植付クラッチ**入**の状態にします。

   補足：
   - **植付部が接地していないときに、植付部が駆動すると植付爪から苗が落下します。**

8. 主変速レバーを操作して植付速度を上げます。



(1) マーカ跡
(2) ラインマーカ
(3) 隣接マーカ
(A) 条合わせ・植付け
(B) マーカセット
(C) 増速

9. 次行程から同じ作業を繰返します。
10. 長辺方向の最終行程の前に条合わせが必要なときは、あぜぎわ植えを行ないます。

    補足：
    - **74 ページ参照**

11. 枕地を植付けて出入口から出ます。

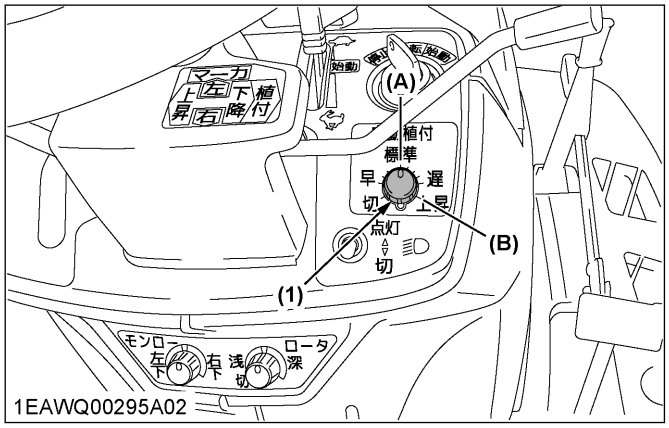
    補足：
    - **整地ロータを使用して作業するときは、ほ場や作業の条件によっては、下記のように機体や作業の設定を調整した方がきれいに植わる場合があります。**
      - **高速で植付作業を行なうと、ほ場の軟弱さや水の多さ、苗の条件などの影響により植付不良が発生することがあります。そのような場合は、適度な速度に落としてください。**
      - **特に軟弱なほ場など、ほ場条件により整地状態や植跡の状態が悪い場合は、ロータ深さ調整ダイヤルを[切]（ロータを格納状態）にしてください。きれいに植付けができる場合があります。**
    - **極端にほ場が凸凹だったり、夾雑物が多過ぎると、きれいに整地できない場合がありますので、適正な代かきを行なってください。**

4. 自動植付作業のしかた

⚠ 警告
- **機械の近くに人がいるときや運転者が運転席から離れるときは、自動植付機能を停止してください。植付部が自動昇降すると植付部に接触しケガをするおそれがあります。**

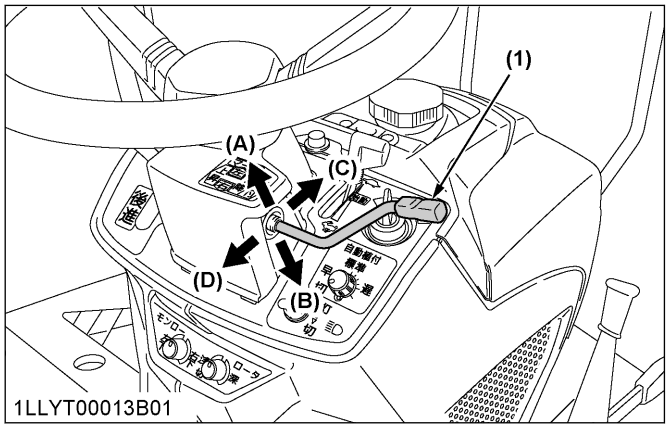
自動植付機能は植付作業中に機体を旋回するとき、ハンドルを回して旋回方向に操作すると、植付部が自動的に上昇して植付クラッチが切れます。また、旋回が終わりハンドルを戻すと、植付部が自動的に下降してクラッチが入り、次行程の植付作業を開始する機能です。

1. 自動植付調整ダイヤルを**[標準]**位置にします。



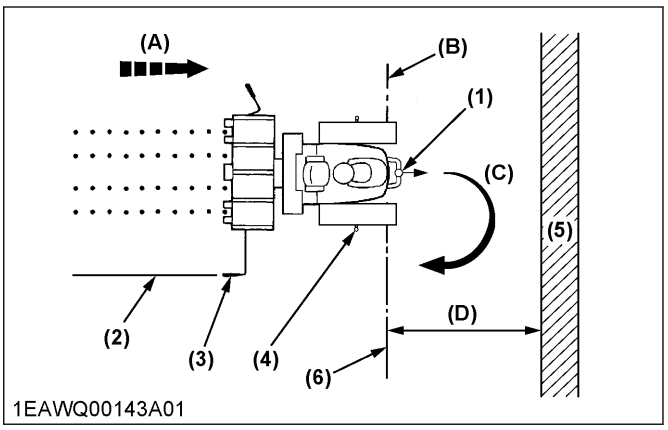
(1) 自動植付調整ダイヤル
(A) ***[標準]***(中央)位置
(B) ***[上昇]***位置

2. 十字ポンパレバーを操作して自動植付機能をはたらかせる準備をします。
   a. 十字ポンパレバーを下側に操作し、植付部を下降します。
   b. 十字ポンパレバーを再度下側に操作して、植付クラッチを入れます。このとき、緑色のマスコットランプが点灯します。
   c. 十字ポンパレバーを前側又は、後側に操作して、ラインマーカを倒します。このとき、**「ピッピッ」**とブザーが鳴ります。



(1) 十字ポンパレバー
(A) 上
(B) 下
(C) 前
(D) 後

3. 自動植付機能がはたらいている状態で植付作業を行ないます。



(1) マスコット
(2) マーカ跡
(3) ラインマーカ
(4) 隣接マーカ
(5) あぜ
(6) 次行程植付部下降、次行程植始め位置
(A) 減速
(B) 植付部上昇
(C) 旋回
(D) *1* 往復分

補足：
- **上図内の(A)～(D)を以下の手順で説明しています。**

a. 植え終わりの位置が近付くと、主変速レバーを操作して減速します。
b. ハンドルを旋回方向に回す又は、十字ポンパレバーを操作して植付部を上昇します。このとき、**「ピッ」**と音が鳴り、マーカは収納状態になり、植付クラッチが切れます。

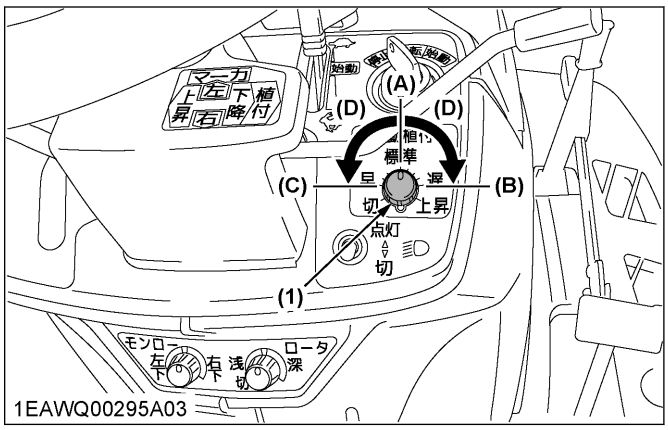
補足：
- **直進状態からハンドルを 4 分の 3 回転以上操作すると、植付部が自動的に上昇します。**
- **旋回するとき、緑色のマスコットランプが高速で点灯します。**

c. 旋回が終わり、ハンドルを直進方向に戻すと植付部が自動的に下降します。このとき、**「ピッピッピッピッピッ」**と音が鳴り、ラインマーカが倒れて作業状態になり、植付クラッチが入ります。

補足：
- **旋回後、ハンドルを 4 分の 3 回転以下に戻すと植付部が自動的に下降します。**
- **自動植付調整ダイヤルを[上昇]位置に選択しているときは、旋回後の操作は手動で操作してください。**

d. 次行程の植始め位置へ低速で前進します。
設定された植始め位置から植付作業を始めます。

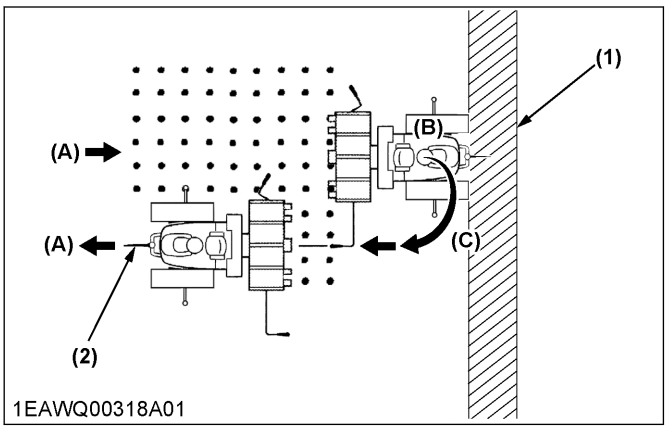
補足：
- **植始めは必ず低速で走行してください。**
- **植始めが遅い又は、早いときは、自動植付調整ダイヤルの[遅]方向又は、[早]方向に回して植始め位置の調節を行なってください。**



(1) 自動植付調整ダイヤル

(A) ***[標準]***（中央）
(B) ***[遅]***（植付部昇降遅い）
(C) ***[早]***（植付部昇降早い）
(D) 回す

- **植付部が停止している状態で、十字ポンパレバーを操作して植付部を下降、ラインマーカを倒し、植付クラッチを入の状態にすると、再度自動植付機能がはたらきます。**
- **以下の状況で作業を行なうときは自動植付機能の使用は避けて、手動で操作してください。**
  - **複雑なハンドル操作や農道での旋回など特殊な旋回をするとき**
  - **移動走行時、あぜの出入りするときや枕地の植付作業などで植付部の昇降防止が必要なとき**
- **自動植付作業中に、苗補給などで主変速レバーを[e-stop]位置にする又は、メインスイッチのキーを[切]位置にしてエンジンを停止したあと、エンジンを再始動したあと、十字ポンパレバーを操作すると自動植付機能は継続します。**
- **苗が少なくなり、苗補給前などで植終わり位置で主変速レバーを[e-stop]位置にする又は、メインスイッチのキーを[切]位置にしてエンジンを停止したあと、エンジンを再始動し、機体を後進して植付部を上げて旋回後、植始め位置まで前進し、十字ポンパレバーを操作すると自動植付機能がはたらきます。**
- **あぜぎわまで植付けたあと、後進すると植付部自動上昇機能（バックアップ機能）がはたらいて植付部が自動的に上昇します。そのあとは、自動植付機能を継続しますので植付作業を行なってください。**
- **自動植付機能がはたらいている状態で、旋回中に十字ポンパレバーを上又は、下側に操作すると自動植付機能が解除され手動操作に切換わります。このとき、緑色のマスコットランプの高速点滅は消灯します。また、旋回後は次行程から自動植付機能がはたらきます。**



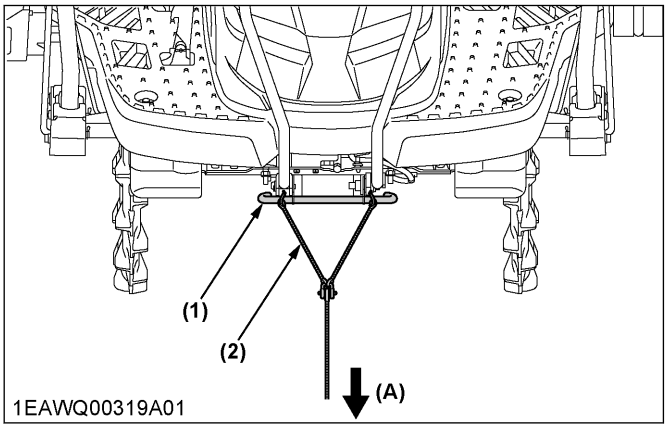
(1) あぜ
(2) マスコット

(A) 前進
(B) 後進
(C) 旋回

- **植始め位置は標準位置から前、後方向に約 80 cm 調整が行なえます。**
- **植始め位置が揃わない条件のほ場（変形田や深田、粘土質のほ場など）では、十字ポンパレバーで植付操作、ラインマーカの操作をしてください。**
- **施肥作業を同時に行なうときは、植始め位置を少し早目に設定してください。[R 仕様]**

5. 深みにはまって動けなくなった場合の注意事項

けん引フックの両側にロープを掛け、図のように前方へ引き上げてください。
引き上げるときは急な力を加えずに、ゆっくり引き上げてください。
このとき、車輪やエンジン駆動ベルトのまわりの泥を取除き、前輪をまっすぐ（けん引方向）に引き上げてください。
けん引フック以外の予備苗台フレームやその他の場所には、絶対にロープを固定しないでください。機械が破損するおそれがあります。



(1) けん引フック
(2) ロープ

(A) 引き上げる

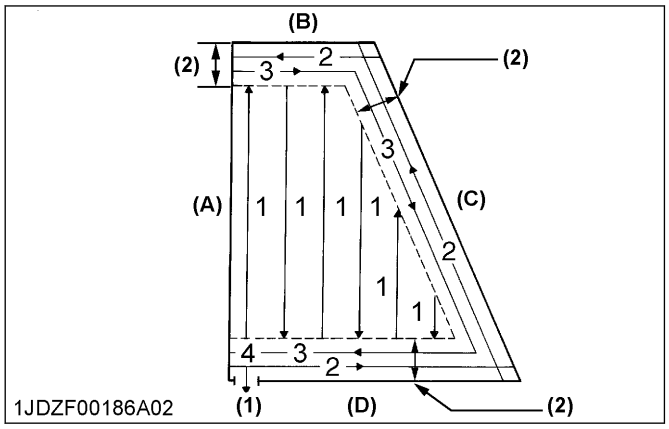
重要：

- **上記の注意事項を守らない場合、フレームの変形やミッションケースの割れなど、重大な破損が発生するおそれがあります。**

6. 変形田の植付けかた（参考）

変形田を植付けるときの参考例です。

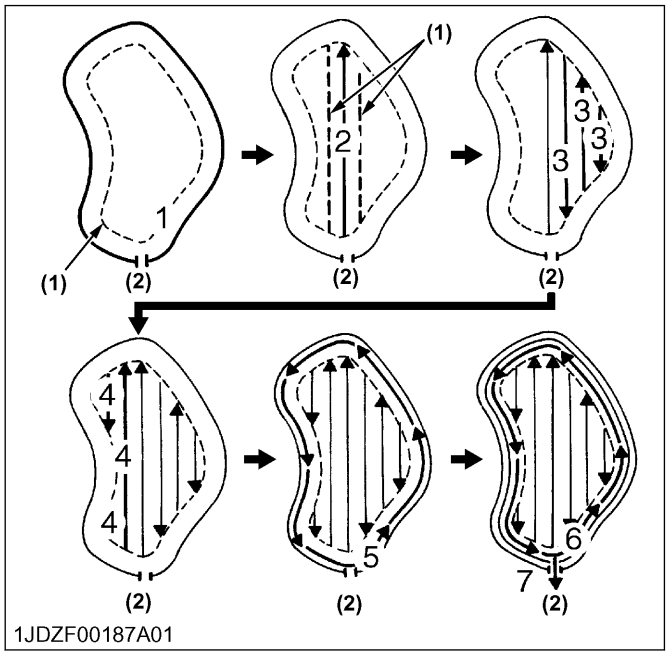
6.1 台形田の植付けかた（A 面基準）



(1) 出入口
(2) *1* 往復分
(A) *A* 面
(B) *B* 面
(C) *C* 面
(D) *D* 面

1. B 面、C 面、D 面に各 1 往復分の枕地を残して A 面（長辺方向）に植付けます。
2. D 面、C 面、B 面の順にあぜ側から植付けます。
3. B 面、C 面、D 面の順に残ったところを植付けます。
4. 出入口から出ます。

6.2 複雑な変形田の植付けかた



(1) マーカ線
(2) 出入口

1. あぜにそってマーカ線を引きます（目安線）。
2. 左、右共ラインマーカをセットして長辺部を植付けます。
3. 2.で植付けたところを基準に植付けます。
4. 反対面を植付けます。
5. あぜにそって 1 周を植付けます。
6. 5.の枕地残り分を植付けます。
7. 出入口から出ます。
   - **変形田での植付作業**
     進行方向に対してあぜが垂直になっていない場合は、十字ポンパレバーでの植付作業を行なってください。
   - **枕地での植付作業**
     十字ポンパレバーでの植付作業を行なってください。

7. 安全クラッチについて

⚠ 注意

- **安全クラッチがはたらいたときは、植付作業を中止してエンジンを停止してください。**

7.1 植付爪の安全クラッチについて

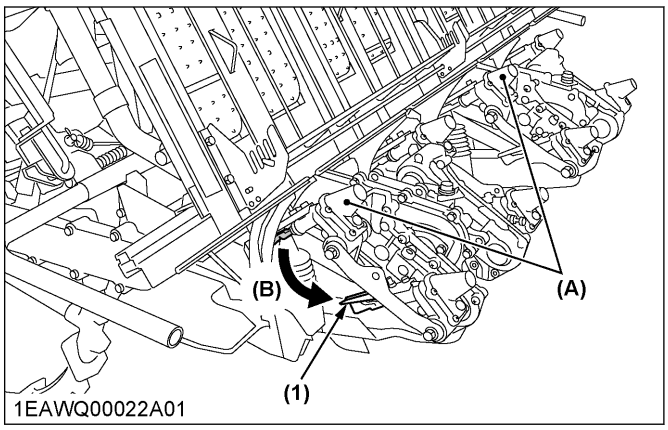
安全クラッチは、植付作業中の植付爪に石などかたい異物がはさまったときに、破損防止のためにはたらく機能です。植付部からガッガッと高い音がしたときは、作業を速やかに中止し、エンジンを停止してから異物を取除いてください。

重要：

- **安全クラッチがはたらいている状態を続けると、植付爪や押出し金具が破損したり、安全クラッチの摩耗により安全クラッチがはたらきやすくなり、植付不良が起こりやすくなります。**

補足：

- **安全クラッチがはたらいたとき、他の植付爪と位置ずれを起こすことがあります。位置ずれが起きたときは、植付部を上昇させたあと、油圧ロックレバーで下降防止を行い、必ずエンジンを停止してから異物を取除き、位置ずれを起こした植付爪を手で回して他の植付爪と位置をそろえてください。位置がそろうと手では回らなくなります。**



(1) 植付爪
(A) 揃っていること
(B) 回す

7.1.1 異物を取除いたあとの処置

異物を取除いたあと植付爪や押出し金具が破損や変形していないか確認し、異常があれば交換や修理を行ってください。また、植付爪を手で回したときにしゅう動板に当たったり、重い場合は購入先に連絡してください。

⚠ 注意
- **安全クラッチがはたらいたときは、植付作業を中止してエンジンを停止してください。**

ロータ用安全クラッチと植付部の安全クラッチは同じです。
ロータの安全クラッチは、植付作業中に整地ロータが泥にもぐりこんだり、異物がはさまってロックしたときに、破損防止のためにはたらく機能です。植付部からガッガッと高い音がしたときは、作業を速やかに中止し、エンジンを停止してから異物を取除いてください。
整地ロータが泥にもぐりこんだときは、機体を少し後進したあと、植付部を上げてください。

重要：
- **安全クラッチがはたらいている状態を続けると、安全クラッチの摩耗により安全クラッチがはたらきやすくなり、整地不良が起こりやすくなります。**
- **異物を取除いたあとの処置**
  異物を取除いたあと整地ロータが破損や変形していないか確認し、異常があれば交換や修理を行ってください。また、整地ロータに泥が詰まっている場合は水で洗い流すなどして泥を落としてください。

8. 苗の補給のしかた

⚠ 注意
- **主変速レバーに体の一部が接触すると、機体が発進するおそれがありますので、必ず駐車ブレーキを掛けてください。**

苗が残り少なくなると苗のせ台のセンサがはたらいて、マスコットの赤色ランプが点滅し、ブザーが鳴ります。

補足：
- **苗を補給する又は、十字ポンパレバーを[N]（中立）位置にすると、ブザーは停止します。**

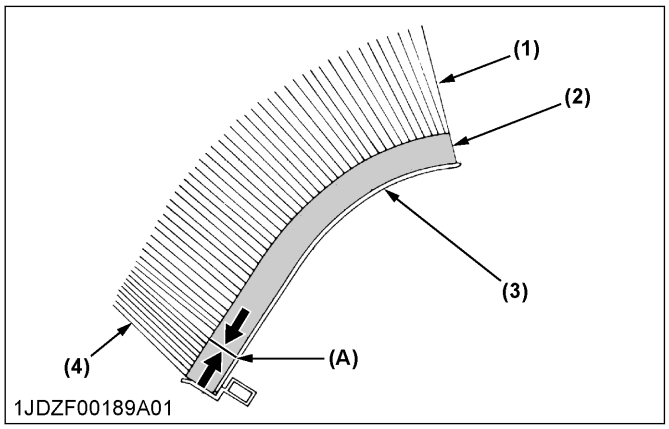
1. 主変速レバーを操作して走行を停止します。

   補足：
   - **苗補給であぜぎわに移動するとき、マフラで苗をこがす場合があるため、苗がない場所に機体を停止してください。**
2. 十字ポンパレバーを上側**[上昇]**に押して、植付部を**最上昇位置**にします。
3. 駐車ブレーキを掛けます。
4. 主変速レバーを操作して**[e-stop]**位置にしてエンジンを一時停止します。

5. 予備苗のせ台の苗や準備した苗を補給します。

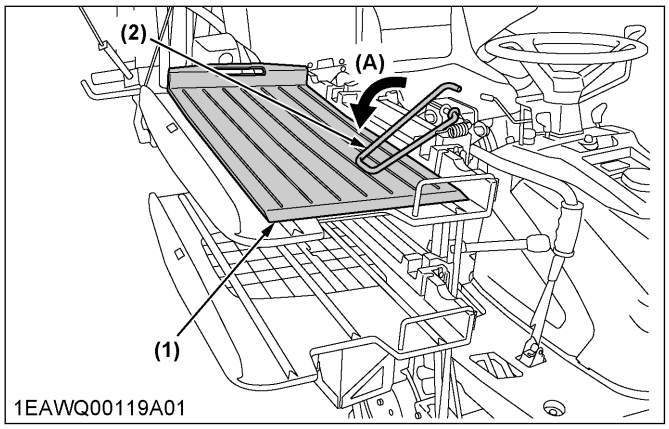
重要：
- **苗を押さえるステー部を持つと、曲がったり破損するおそれがありますので、ステー下端部を持って操作してください。**

補足：
- **苗を補給するときは、苗が崩れないようにていねいに扱い、補給苗と残り苗の床土にすき間のないようにぴったりと合わせてください。**



(1) 補給苗
(2) 床土
(3) 苗のせ台
(4) 残り苗
(A) ぴったり合わせる

- **残った苗を取出すときは、エンジンを必ず停止してから、苗ステーの下端部を後方に引いて苗ステーを開いてください。**
- **苗を補給したあとの苗すくい板は、右側の予備苗のせ台上側にある板押さえレバーを倒して固定してください。**

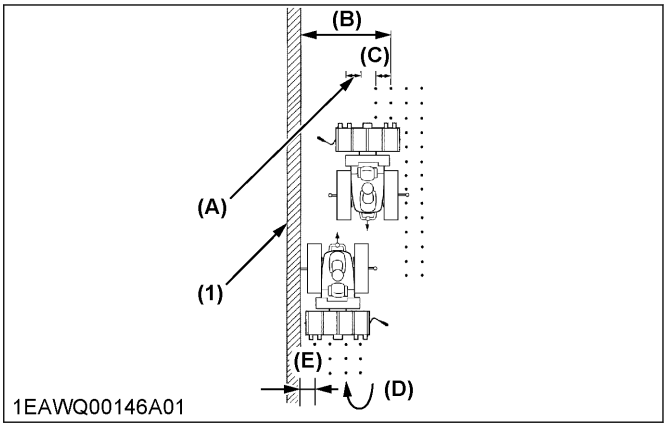


(1) 苗すくい板
(2) 苗すくい板押さえレバー
(A) 倒す

- **予備苗のせ台を段積み式又は、レール式の作業のしやすい状態に切換えて予備苗のせ台の苗や準備した苗を補給してください。また、植付作業時・移動走行時は苗のせ台フレームは中央位置にしてください。**

9. あぜぎわの植付けかた

植付作業の最終段階で、最終の植付けを全条植えで終わらせるため、あぜぎわの調整の植付けを行なってください。



(1) あぜ
(A) あぜぎわクラッチレバー **[切]**
(B) *6* 条分残り
(C) *2* 条
(D) *4* 条植え
(E) あぜぎわ植付寸法

1. あぜぎわから 6 条分残ったとき、あぜぎわクラッチレバーで右側 2 条分の植付けを停止し、2 条分植付けをします。

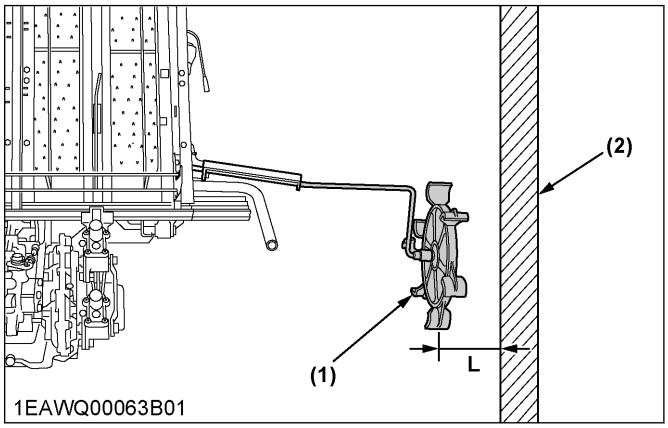
補足：
- **あぜぎわクラッチレバーを操作するときは、主変速レバーを操作して植付速度を遅くしてから行なってください。**

2. 最終はラインマーカを出さずに（収納状態）4 条で植付けます。
3. 5 条植えについても同じ要領で行なってください。
4. 植付作業が終わるとあぜぎわクラッチレバーを**[入]**位置にします。

9.1 最終行程の前での植付条数の決めかた

マスコットと隣接マーカで条合わせを行なったあと、ラインマーカを出して植付条数を決めてください。

※あぜぎわ植付寸法が 30 cm の場合の目安



(1) ラインマーカ（回転式）
(2) あぜ

（4 条植えの場合）

L の距離	前行程 植付条数
約 75 cm	4 条植え
約 15 cm	2 条植え

（5 条植えの場合）

L の距離	前行程 植付条数
約 90 cm	5 条植え
約 15 cm	3 条植え
ラインマーカを出さない	2 条植え

施肥作業［R 仕様］

1. ほ場と肥料について

ほ場や肥料が施肥作業に適さなければ、苗が正常に発育しないことがありますので、施肥機に合ったほ場条件や肥料を使用してください。

1.1 施肥作業時のほ場条件

施肥作業を行なうとき、田植作業のほ場条件と合わせて下記事項を守ってください。

1. 夾雑物（わら、刈株、堆肥、雑草など）は施肥田植え時の障害になるので、耕うん・代かき時に下層部に埋込むようにしてください。

   補足：
   - **耕うん・代かき装置は購入先とご相談のうえ、夾雑物を下層に埋込む働きができる機種を選んで使用してください。**
   - **夾雑物が表層部（地表面～深さ 8 cm 程度の範囲）にあると、作溝器、ふく土板に引っかかって、施肥ムラ（生育ムラ）をおこすおそれがあります。**
   - **収穫時コンバインのカッタで、わらを切断散布したときは、その上に石灰窒素を散布して秋のうちによくスキ込んで、腐らせておくようにしてください。**
2. 耕うん・代かき時の化学肥料の基肥散布は、絶対にしないでください。

   補足：
   - **基肥を全層施肥と側条施肥に分施する農法を行なう場合には、その指定要領に従ってください。**
3. ほ場の深さは、10～25 cm が適しています。30 cm 以上（補助車輪の場合は 35 cm）の深さでは使用できません。
4. 代かき時の均平度をよくして、地表面からの水深が、なるべく一定になるようにしてください。
   代かき後、田面に凹凸がある場合は凸の部分が水面から露出していると土壌硬度が硬くなるので、じゅうぶん湛水して、地表面の凹凸にかかわらず土の硬さを一定に保つようにし、田植えの直前にじゅうぶん落水するようにしてください。

   補足：
   - **土壌の硬軟差が大きいとふく土性能に影響します。**
5. 作業時の水の深さは、浅水とし 0.5～2 cm 程度が適当です。
   a. 田面の水が皆無（水深 0 cm）の場合には作業が困難ですから必ず走り水をしてください。水が皆無の場合には下記のような現象が起こります。
      - 車輪スリップが増し、株間が狭くなります。
      - 作溝器に泥詰まりを生じ、肥料が詰まって無施肥区ができ、生育ムラの原因となります。
      - 車輪による泥のかき上げやフロートの泥押しを生じます。

   b. 田面の水が多すぎる（水深 2 cm 以上）場合には、作溝器内の上部やホース内に水が侵入し肥料の落下状態が悪くなり、所定の深さに埋設できなくなります。また肥料詰まりや肥料詰まり予知センサの誤作動も発生しやすくなります。
6. ほ場の土の硬さは泥を指でかいてみて跡が少しふさがれる程度が適当です。
   a. ほ場の土壌硬度（125 g のサゲフリを地表面上 1 m の高さから落下させて、地表面から土中に入った深さ）は 7～18 cm の範囲内とします。
   b. ほ場が軟かすぎるとフロートによる泥押しのため隣接条間の確保が困難になるばかりでなく、植付け姿勢も乱れます。
   c. ほ場が硬すぎると車輪のスリップが増し、株間が狭くなるばかりでなく、作溝施肥跡のふく土が不完全となり、肥料溶出のおそれがあります。

補足：
- **特殊な条件のほ場（基盤整備直後の田や湿田など）では、作業に支障をきたすことがありますので、あらかじめ購入先の技術員にご相談ください。**

1.2 肥料について

1. 肥料は市販の粒状肥料の中から施肥作業に適したものを選んでください。

補足：
- **施肥作業に適さない肥料を使用した場合は、下記のような不具合が発生することがあります。**
- **肥料詰まりにより施肥機の故障が発生する。**
- **繰出し精度が不良となり施肥量に誤差が生じる。**
- **肥料詰まりや施肥ムラが生じる。**
- **最近、側条施肥田植機専用肥料が市販されていますので、使用をお薦めしますが、中には適さない物も含まれていますので、注意してください。**

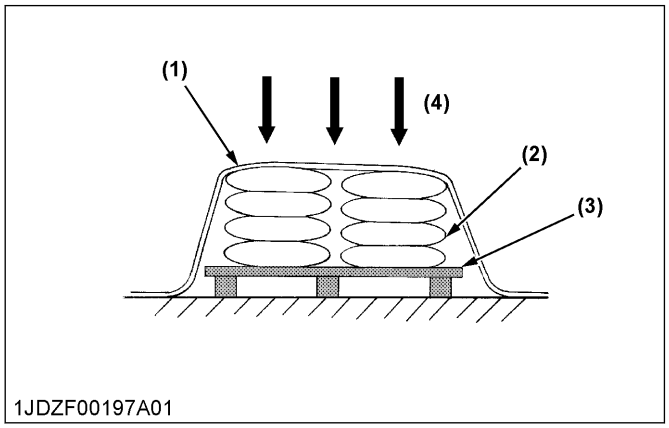
※吸湿性について
吸湿性の少ない肥料を選んでください。

〔参考〕

吸湿性の少ない	吸湿性の多い
• 硫安系化成 • 硫化燐安系高度化成 • 塩化燐安系高度化成 • IB 化成	• 尿素系高度普通化成 • 硝安系高度普通化成 • CDU 化成

2. 肥料は開封していない、新しい物を使用してください。
3. 湿気を帯びた肥料や長期保存していた肥料は、使用を避けてください。

補足：
- **雨天時、肥料や肥料袋がぬれないように台の上に肥料を置き、上からシートを掛けてください。**



(1) シート
(2) 肥料
(3) 台
(4) 雨

4. 光を通し易い透明な肥料（硫安単肥など）は、残量センサが誤作動しますので、使用を避けてください。
5. ホッパに肥料を補給するときは、ふるい網を通してください。

1.2.1 一発肥料使用時の注意

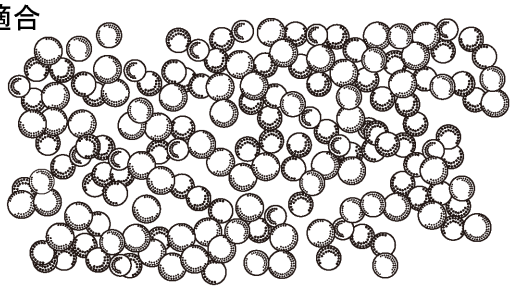
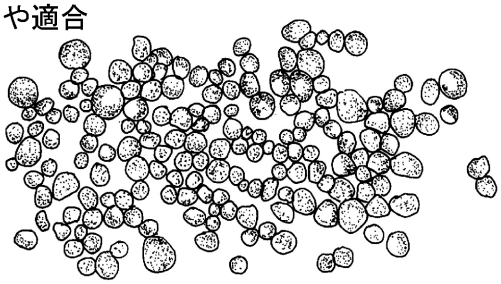
一発肥料をご使用の際は、以下の項目をご確認のうえ、あらかじめ農業改良普所などの農業指導機関と良くご相談し、適切な施肥設計に基づいた肥培管理を行なってください。

重要：

- **以下のような肥料は、肥料詰まりの原因となるため使用しないでください。**
  - **湿気を帯びた肥料や粉の出やすい肥料**
  - **砕けにくく硬い粒と砕けやすく柔らかい粒がブレンドされた肥料**
  - **粒の形状が不揃いな肥料や手でつまんだときに砕けやすい肥料**

補足：

- **施肥作業を行なうときは、毎回計量を行なって計量値を確認してください。（89 ページ参照）施肥量が調節されずに目標値からずれが発生する場合があります。**
- **被覆肥料の溶出は施肥後の気温変化によって大きく左右されます。また、品種、土壌の影響も受けることがあります。例えば、平年より暑い日が続くと早く溶出が終了するため、過繁茂になったり、肥料切れによって予期せぬ追肥が必要になったりすることがあります。**
- **同じ銘柄の肥料でも年ごとに特性が変化する場合があります。作業前に必ず以下の表を参照して肥料の特性の確認や計量を行なってください。**

使用可否の目安	粒の特性				
	硬さ	大きさ	形状	ばらつき	見本（実物大）
○ 適合	硬い *1	2 ～ 4 mm	円形	少ない	○適合 
					△やや適合 
× 不適合	軟らかい *2	2 mm 以下	角形	多い	× 不適合 

1UMEE00514A01

1 保湿性が低く、べとべとしない。
2 保湿性が高く、べとべとする。

2. 施肥作業前の準備

⚠ 警告
- **平たんな場所で行なってください。**

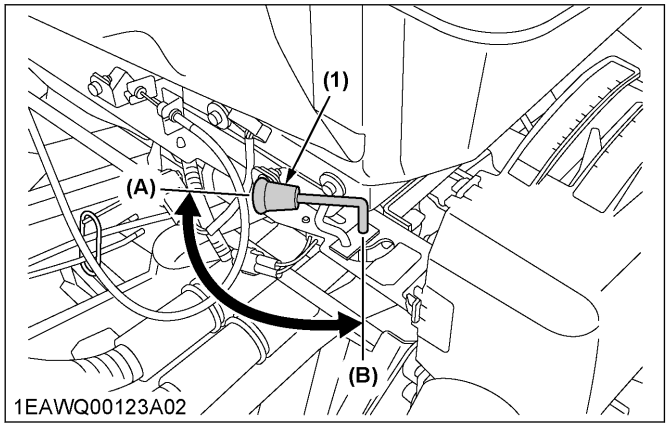
1. 各部の点検を行い、汚れや詰まりがあるときは、掃除を行ないます。(102 ページ参照) また、破損や摩耗があるときは、交換を行なってください。

   重要 :
   - **雨天時に作業を行なったあと長時間放置すると肥料が固着し、翌日以降の施肥作業に異常が発生（施肥がされないなど）するおそれがあります。**

   補足 :
   - **ロールやブラシを取外して掃除やブラシの点検などを行なったときは、エアもれが発生しないように正しく取付けてください。(100 ページ参照)**

2. 下記項目に異常がないか点検・確認し、異常があれば正しく取付けて各部を作業状態にします。

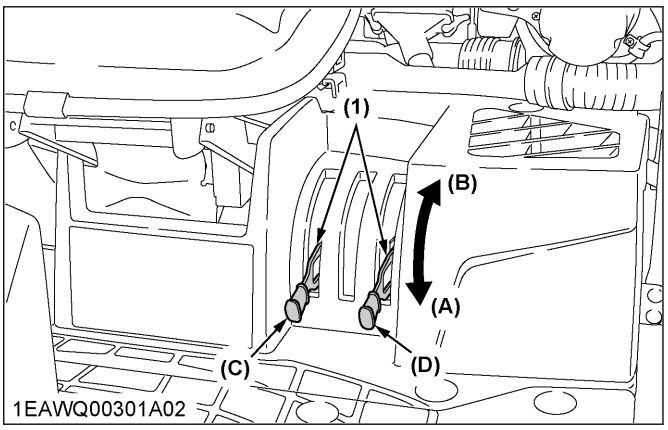
   補足 :
   - **エアもれが発生しないように正しく取付けてください。**
     a. 全条停止レバーが［全条繰出］側になっているか確認します。



(1) 施肥全条停止レバー
(A) **［全条繰出］**位置
(B) **［全条停止］**位置

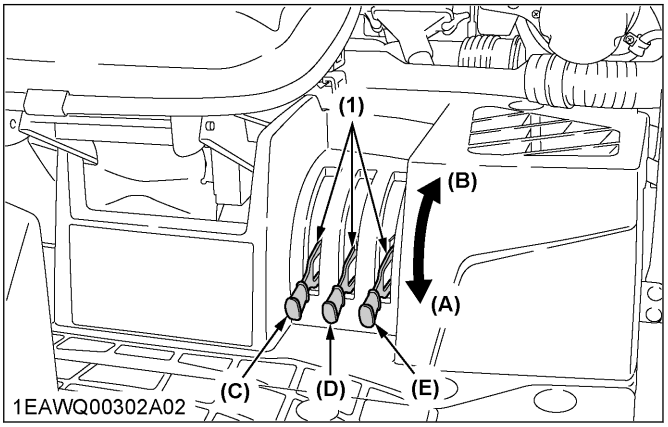
b. 各あぜぎわクラッチレバーが[入]状態になっているか全条確認します。

※イラストは［4］



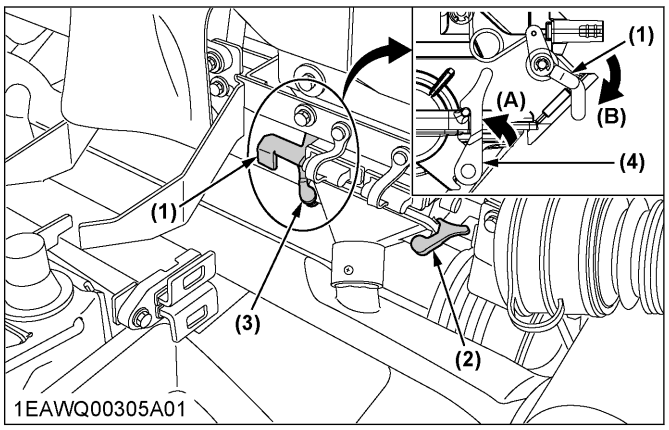
(1) あぜぎわクラッチレバー
(A) ***[入]***
(B) ***[切]***
(C) 右（*2* 条分）
(D) 左（*2* 条分）

※イラストは［5］



(1) あぜぎわクラッチレバー
(A) ***[入]***
(B) ***[切]***
(C) 右（*2* 条分）
(D) 中央（*1* 条分）
(E) 左（*2* 条分）

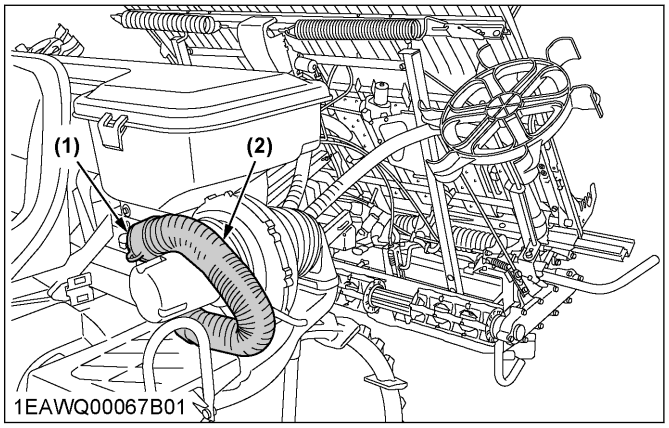
c. 残肥排出レバーが［施肥］位置、左、右の残肥排出ブーツロックレバーがロック位置にあることを確認します。



(1) 残肥排出レバー
(2) 残肥排出ブーツロックレバー左
(3) 残肥排出ブーツロックレバー右
(4) ロートロックレバー
(A) ロック位置
(B) **［施肥］**位置

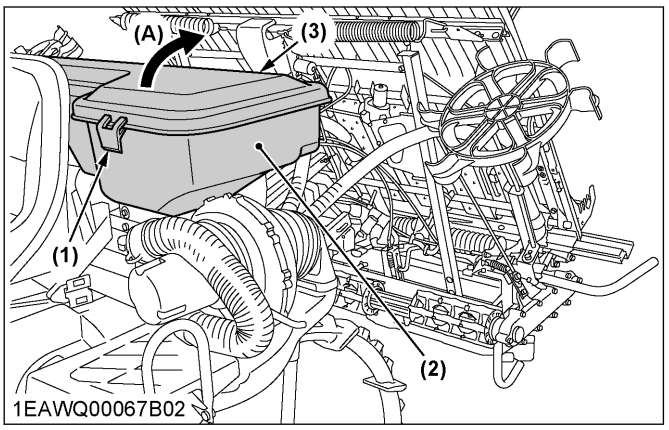
d. 各ホースや各ダクト、残肥排出ブーツが正しく接続されているか確認します。

e. 残肥排出レバーにキャップが固定されているか確認します。



(1) キャップ
(2) 残肥排出ホース

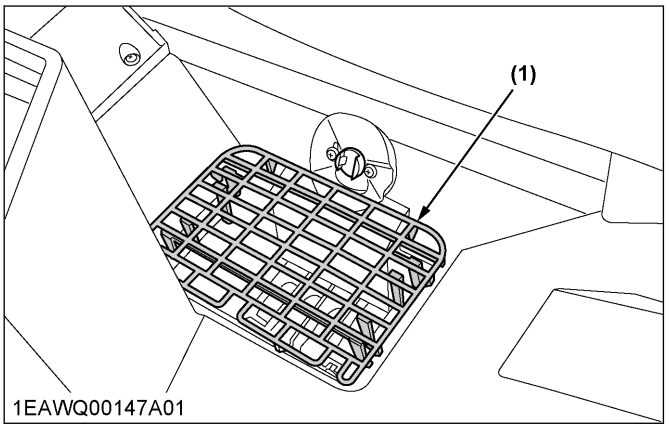
3. 施肥量を決めて、繰出し量を調節します。(89 ページ参照)
4. 左、右 2 箇所のフックを外し、ホッパのふたを開いて肥料を入れます。



(1) フック
(2) ホッパ
(3) ふた
(A) 開ける

重要：

- **フックを片方だけ外して無理に開けると、もう片方のフック部やふたが破損することがあります。**
- **ホッパ内には肥料以外のものは入れないでください。また、ホッパ、カバー（ホッパ）の上に強い力をかけないでください。破損の原因になります。**
- **ネットを取外した状態では肥料を入れないでください。肥料のかたまりがロール溝に入り、詰まりの原因になります。**



(1) ネット

- **肥料が原因で目詰まりを起こし、成育ムラが生じないようにするため下記の事項に注意してください。**
- **ネットに残った大きな肥料は取除く。**
- **ホッパ内に雨水や掃除時に水が入らないようにする。**
- **連日の作業を行なうときでも必ず肥料を排出する。**
- **1 晩置いて露が発生したときは、ホッパ内、ネット、ロール部の露を拭取る。**
- **開封後しばらくして湿気を吸った肥料で、固まったものは使用しない。**
- **運搬時にホッパ内の肥料は空にする。（振動により目詰まりが発生することがあるため）**

- **ロール溝に肥料粉が付着しているときは、必ず掃除してください。**
- **重さ（kg）は肥料の種類によって異なる場合がありますが、ホッパ容量（L）は 44 L（約 40 kg）です。**

5. エンジンを始動し、ブロワ、各ダクト、各ホースの接続部からエアもれしていないか確認する。

   補足：
   - **エアもれしていると、詰まりの原因にもなります。**

6. ロール溝、ロート内部に肥料が付着していないか確認してください。

3. 施肥作業のしかた

エンジンを始動後、約 10 秒後にブロワが回転して送風を開始し、主変速レバーを**[前進]**側に動かすと苗の植付けと同時に施肥を行ないます。また、ブロワはエンジン回転中は、常時回転します。（植付部最上昇位置のときブロワは停止します。）
バッテリ上がり防止のため、アクセルレバーは **[🐇]** 位置で作業してください。

補足：
- **エンジン始動後、施肥作業は約 10 秒待って行なってください。ブロワの回転が停止状態で送風しないため、施肥ムラや肥料詰まりの原因になります。特にエンジン再始動後は注意してください。**
- **エンジンの回転数が低いときは、バッテリ上がり防止のため、警報ブザーが鳴ります。警報ブザーが鳴ったときはエンジンの回転数を上げてください。**

施肥ムラ（成育ムラ）の防止
施肥ムラがあると、苗の成長異常となりますので下記事項に注意してください。
1. 植付始めは**低速**で行なってください。最初の 2～3 株に施肥がされない場合があります。
2. 必ず**減速**してから停止してください。急停止すると多肥になる場合があります。
3. 植付速度は一定の速さで、まっすぐ行なってください。施肥ムラやふく土異常の原因となります。
4. 枕地の植付や変形田での植付け時、交差植えや無植箇所を少なくしてください。多肥になったり、肥料がムダになる場合があります。
5. 肥料切れのセンサが点灯したら早目に肥料を補給してください。
6. 肥料は側条施肥専用のものを使用してください。吸湿性の多い肥料、やわらかい肥料、不揃いの肥料は使用しないでください。詰まりの原因となります。
7. 田面に水気が無く硬くなっている場合は、ふく土がされにくいので、田植作業に適したほ場条件で作業を行なってください。

施肥作業中の確認
作業中のふく土状態やホッパ内の肥料の減り具合がいつもと比べて異常がないか確認し、処置をします。（78 ページ参照）

重要：
- **植付部を降ろした状態で旋回すると作溝器の破損の原因となったり、詰まりの原因となります。**

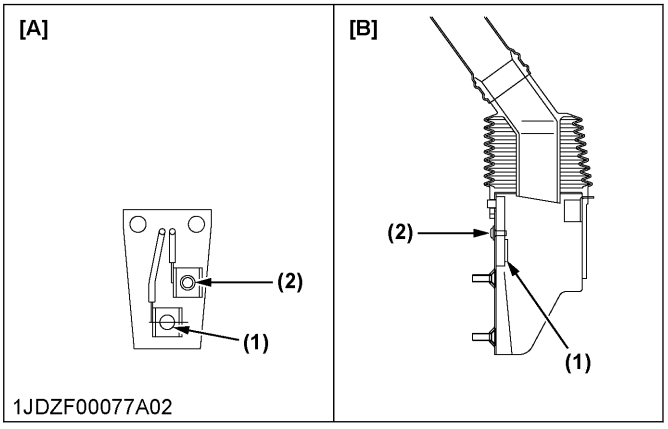
補足：
- **蛇行運転をすると、ふく土が正しくされないことがあります。**
- **ほ場内で植付部を下げている状態からバックアップで高速バックをした際に、作溝器に泥が詰まることがあります。バックアップをする際は低速でバックしてください。**

肥料の補給のしかた
肥料が少なくなると肥料切れのセンサがはたらいて、マスコットランプが点滅すると同時に警報ブザーがなります。その場合は、早目に肥料を補給してください。

補足：
- **警報ブザーは 8 回なったあと停止します。また、肥料を補給すると、マスコットランプは消灯します。**
- **肥料を補給するときは苗の補給と同じ要領で停止し、なるべく枕地で行なってください。**

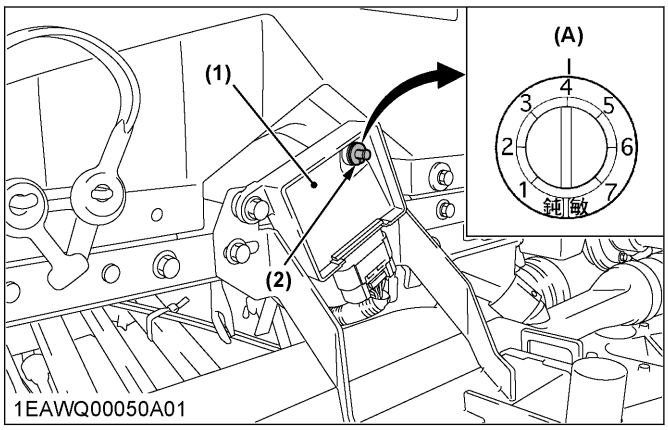
肥料詰まりの予知センサについて
肥料詰まり予知センサは、作溝器内に泥水や小粒肥料、肥料粉などの異物が付着して発生する肥料詰まりを予知するセンサです。センサがはたらくと、マスコットランプが点滅すると同時に警報ブザーが鳴ります。
その場合は、作溝器内の異物を取除き、全条の作溝器の点検と掃除を行なってください。

肥料詰まり予知センサ



(1) （＋）電極　［*A*］正面
(2) （－）電極　［*B*］側面

補足：
- **深水ほ場で、苗補給や肥料補給などで一時停止したときに、詰まっていないのに警報がでる場合、点検して、詰まっていなければセンサのコントローラのつまみを[鈍]側（鈍感）の方向に調節して作業を続けてください。**



(1) コントローラ
(2) つまみ
(A) 出荷位置

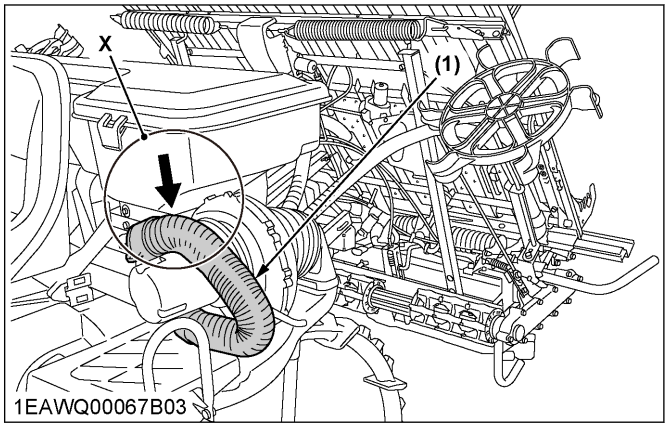
- **乾いた肥料がセンサ付近に付着しても警報が出ない場合があります。ときどき、作溝器内を点検してください。**
- **作溝器内の後側（センサと反対側）に肥料が付着しても警報が出ない場合があります。**
- **ほ場の水位が高いほど予知センサがはたらきやすくなりますので注意してください。**

4. ホッパ内の肥料の排出のしかた

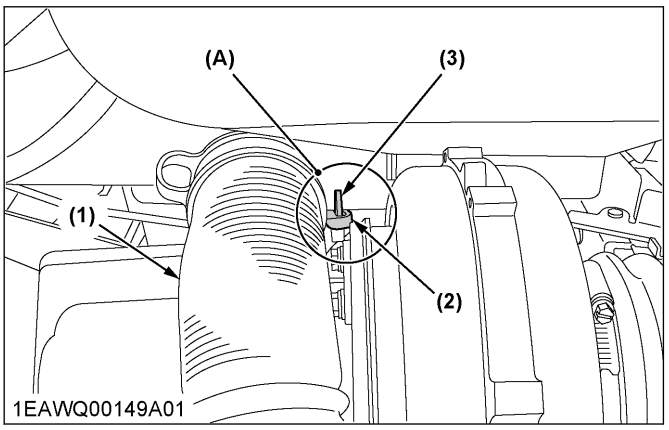
重要：

- **平たんな場所でエンジンを必ず停止して準備をしてください。**

1. しゅう動板ガードのスタンドを立て植付部を降ろしエンジンを始動し、アクセルレバーを［🐇］位置にします。
2. 空の肥料袋などの肥料受けを準備します。
3. 収納金具に取付けている残肥排出ホースの長穴のゴム部を外して残肥排出ホースを外します。

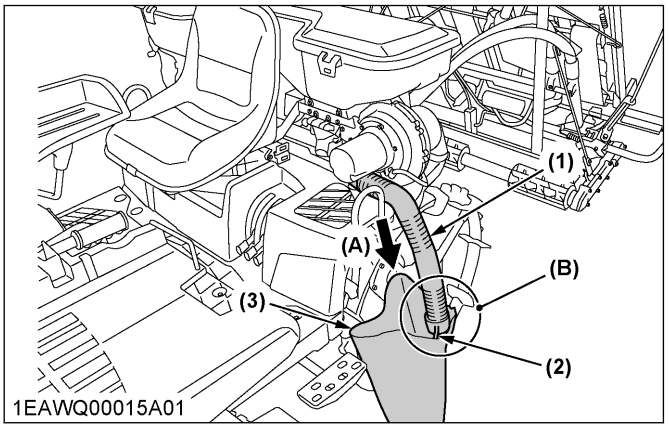


X 部拡大図



(1) 残肥排出ホース
(2) 長穴のゴム部
(3) 収納金具
(A) 残肥排出ホースを外す

4. 残肥排出ホースを収納位置から取外し、残肥料排出ホースのキャップを外したあと、空の肥料袋などの肥料受けにホースを伸ばします。

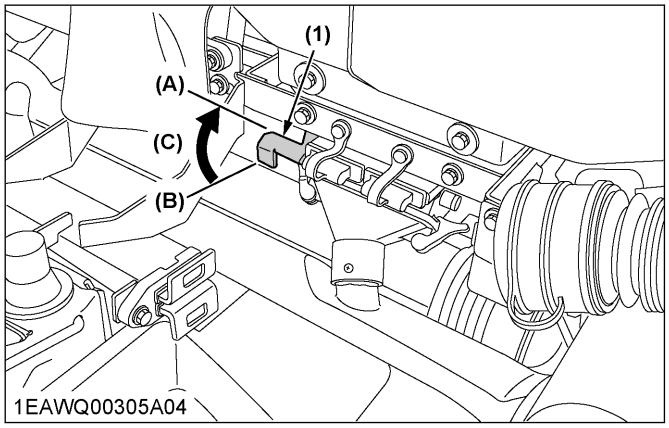


(1) 残肥排出ホース
(2) エア抜きキャップ
(3) 空の肥料袋など
(A) 伸ばす
(B) キャップを外す

補足：

- **肥料受け（空の肥料袋など）は、残量が入る大きさのものを選んでください。**
- **洗車後などで排出ホース内に水がたまっていることがありますので注意してください。**

5. 残肥排出レバーを［排出］位置にすると、残肥を排出します。

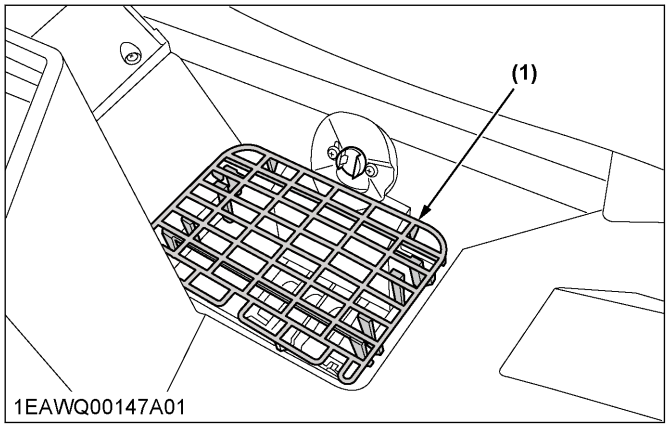


(1) 残肥排出レバー
(A) **［排出］**位置
(B) **［施肥］**位置
(C) 上げる

重要：
- **アクセルレバーを操作して［🐇］位置にし、エンジン回転数を最高回転にしてください。回転が低いと肥料詰まりの原因となります。**

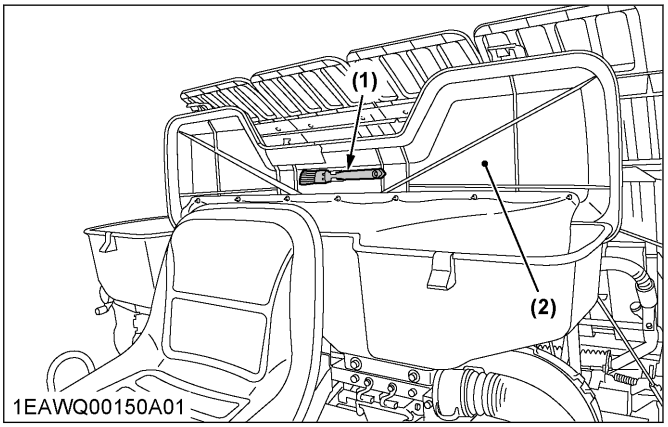
補足：
- **排出ホースを少し引っ張ってたるみをなくすと、肥料の流れがよくなります。このとき、ホースを強く引っ張りすぎるとホースが継ぎ手から外れるおそれがあります。**
- **一度排出ホース内で肥料が滞留すると、肥料の流れが悪くなります。**

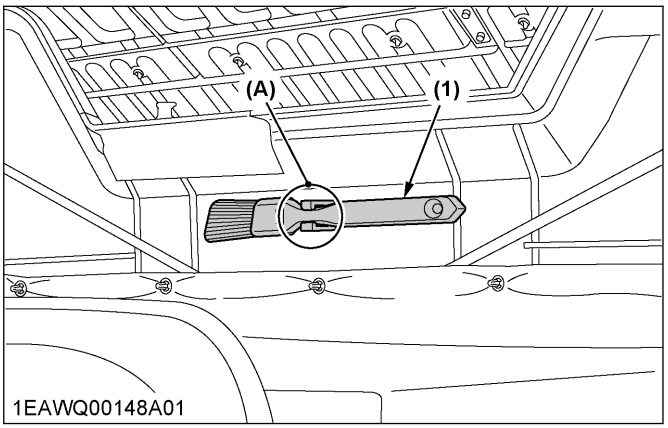
6. 排出が終わるとホッパを開き、ネットの上に肥料や異物が残っている場合は取除きます。それから、ネットを取外して、付属の掃除ブラシで、ホッパ、ロールケース内の掃除をします。



(1) ネット

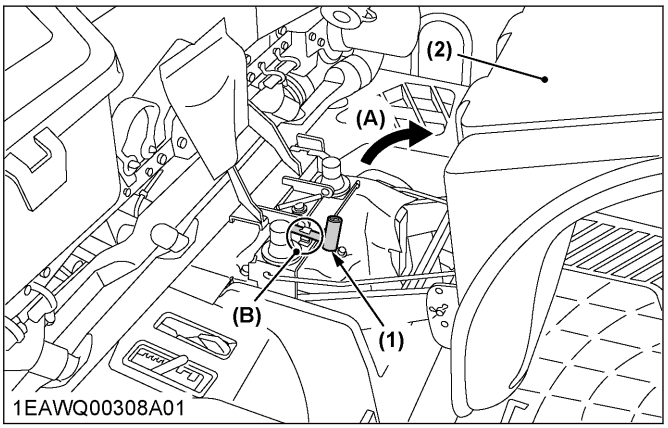
補足：
- **ロール溝内に肥料がのこっていると湿気などで固まり、目詰まりの原因となります。**
- **ロール溝内やブラシの毛の中に肥料や肥料粉が残ったまま作業を続けると、施肥量が変化するなどの異常が発生するおそれがあります。**
- **掃除ブラシは出荷時、ホッパのふたの裏側に取付けています。なくさないように収納してください。**





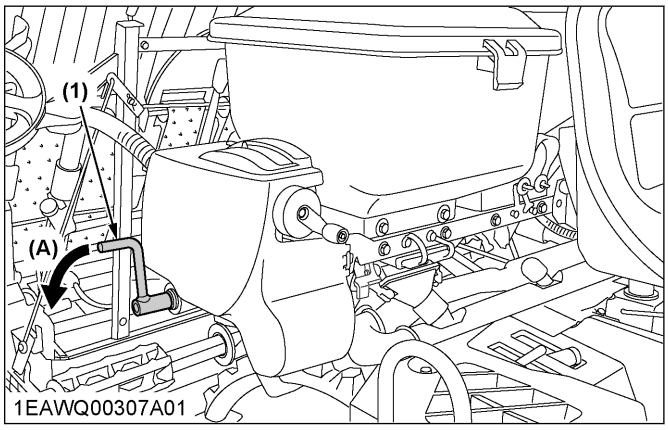
(1) 掃除ブラシ
(2) ふた
(A) 収納状態

7. ネットを取付けたあと、ホッパを閉じて残肥排出レバーを［施肥］位置にします。
8. 運転席（シート）をハンドル側に倒したあと、繰出しハンドルを収納しているクリップから繰出しハンドルを取外します。



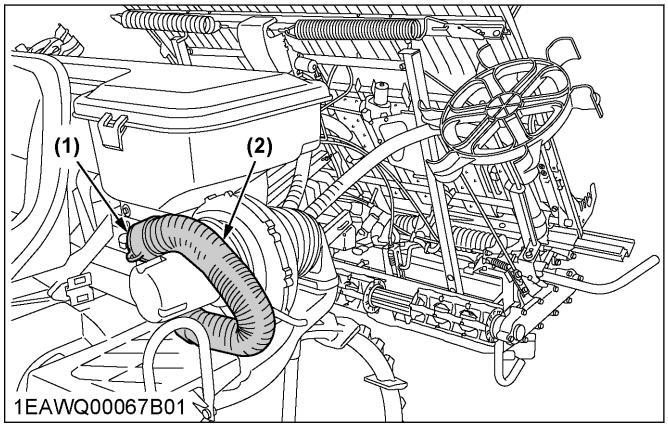
(1) 繰出しハンドル
(2) 運転席（シート）
(A) 倒す
(B) クリップから繰出ハンドルを取外す

9. 肥料を繰出し用の六角軸に繰出し用ハンドルの六角穴を合わせて左回転方向（矢印方向）に回し、ロールケースを回してロール溝に残った肥料を排出します。



(1) 繰出しハンドル　　*(A)* 回す

10. 全ての排出が終わってから、エンジンを停止します。
11. 排出した肥料の袋の口を閉じたあと、残肥排出ホースにキャップをしてから収納金具に取付けます。



(1) キャップ
(2) 残肥排出ホース

重要：
- **肥料にはさびを発生させる成分が含まれているため、1 日の作業が終わったあとは肥料を排出して水洗いをじゅうぶん行なってください。特にエア抜き、植付フレーム、及び植付ケース各周辺（102 ページ参照）は必ず行なってください。**
- **残肥排出ホースは確実に収納して固定してください。収納金具から長穴のゴム部が外れていると、排出ホースが破損するおそれがあります。**

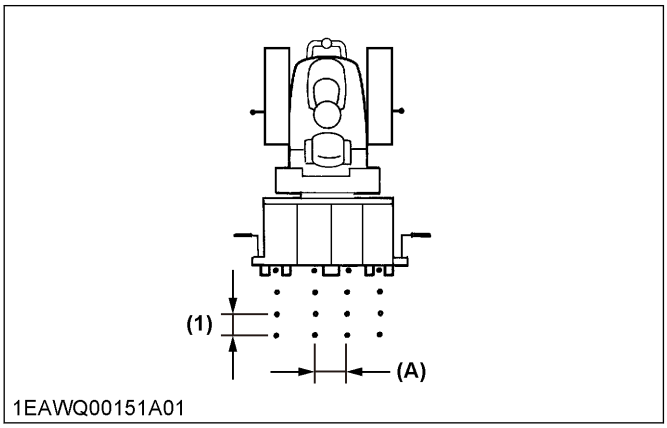
補足：
- **ロール溝内に肥料が残っていると湿気などで固まり、目詰まりの原因となります。**
- **ロール溝内やブラシの毛の中に肥料や肥料粉が残ったまま作業を続けると、施肥量が変化するなどの異常が発生するおそれがあります。**

作業に合わせた各部の調節・調整のしかた

⚠ 警告
- **平たんな場所で行なってください。**

1. 植付株数の調節

植付株数は、ステップ中央のカバー上側に開いて株間調節レバー 1 および 2 を切換えて行ってください。

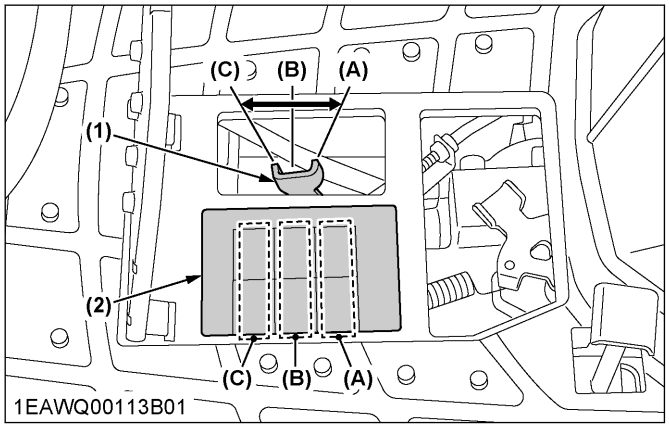


(1) 株間　　*(A)* 機械条間：*30 cm*

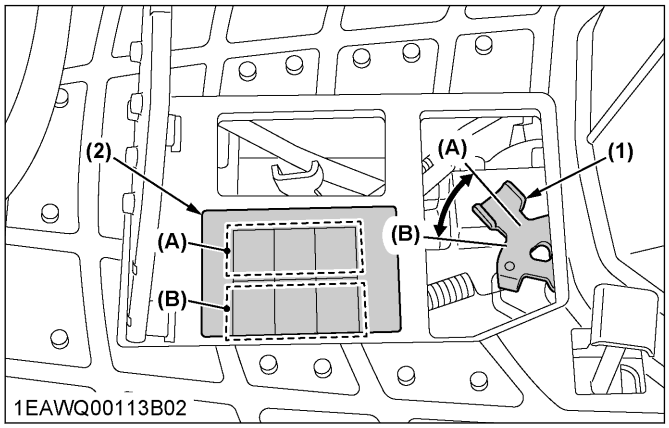
1. 植付作業中のときは、植付けを停止したあと、走行を停止します。

   重要：
   - **植付部が駆動しているときに株間を調節すると、機械が損傷するおそれがあります。**
2. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。
3. 副変速レバーを**[N]**（中立）位置にしたあと、エンジンを停止します。

4. 運転席下側にあるステップのカバーを上側に開いて、株間調節レバー 1 および 2 を切換えて調節します。



(1) 株間調節レバー *1*
(2) 株間調節ラベル
(A) 前側
(B) 中央
(C) 後側



(1) 株間調節レバー *2*
(2) 株間調節ラベル
(A) 左側
(B) 右側

		株間（株数）		
レバー位置		株間調節レバー 1		
		後側	中央	前側
株間調節レバー 2	左側	14 cm（80 株）	18 cm（60 株）	25 cm（44 株）
	右側	16 cm（70 株）	21 cm（50 株）	30 cm（37 株）

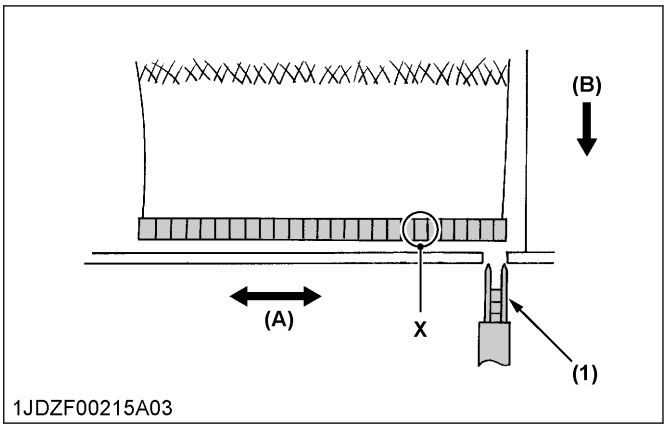
重要：
- **植付爪が駆動しなくなるため、レバー切換え操作は確実に行ってください。切換え途中の状態で保持しないでください。**

補足：
- **出荷時の株間は、60 株/18 cm です。**
- **植付株数の調節は 6 段階あります。**
- **株間が狭くなると植付株数は多くなり、株間が広くなると植付株数は少なくなります。**
- **株間調節レバーが切換わりにくいときは、以下の操作をしたあと、株間調節レバーを動かしてください。**
  - **エンジンを始動したあと、副変速レバーを [N]（中立）位置にする。**
  - **主変速レバーを[前進]側に動かしたあと、[N]（中立）位置に戻してからエンジンを停止する。**

5. 調節が終わるとカバーを閉じます。

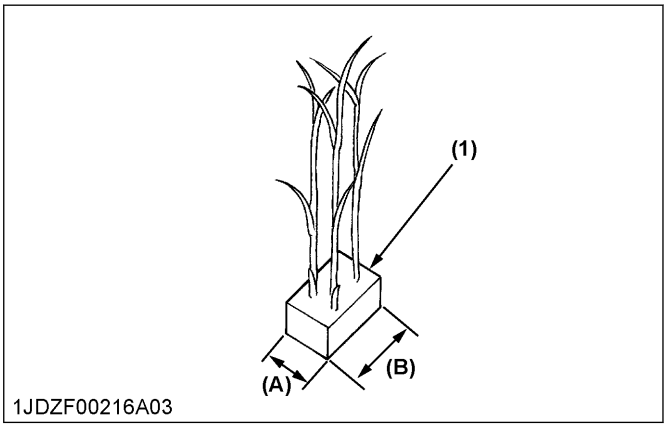
2. 苗取り量（1 株本数）の調節

植付爪が取り出す 1 株あたりの本数を、横送り切換えレバー（苗取り量）と苗取り量調節レバー（縦取り量）で調節を行ってください。



(1) 植付爪
(A) 横送り
(B) 縦送り

X 部拡大図

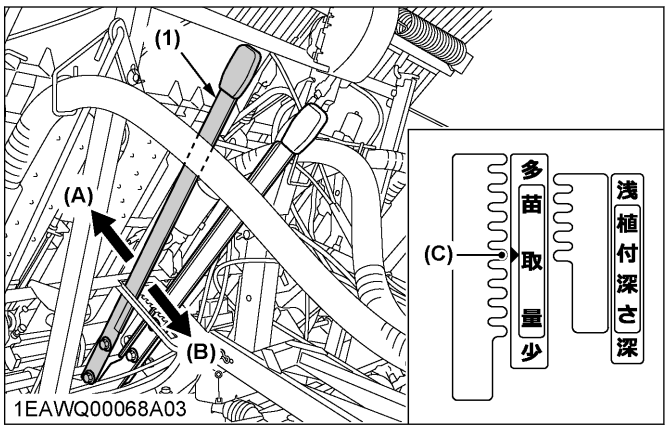


(1) *1* 株
(A) 横（*14・11 mm*）
(B) 縦（*8～18 mm*）

補足：
- **1 株あたりの本数は条件によって異なりますが、3～5 本が標準です。**

2.1 苗取り量調節レバーの調節

苗や苗床によってレバー調節してください。調節は 8～18 mm まで 10 段階行なえます。



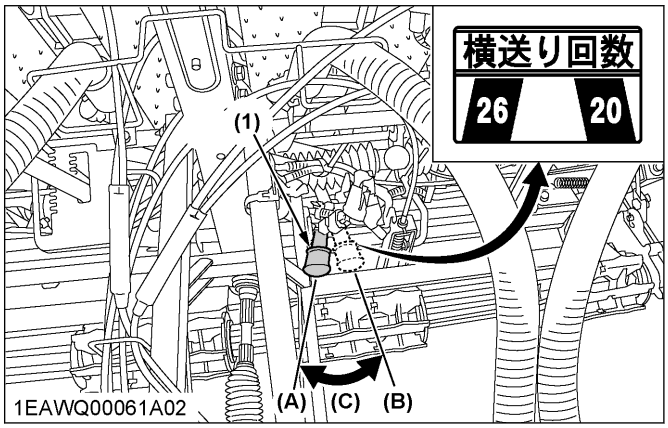
(1) 苗取り量調節レバー
(A) 多い
(B) 少ない
(C) 標準

補足：

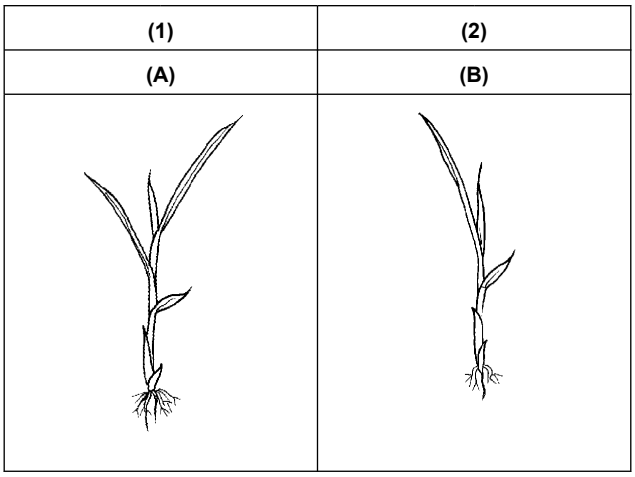
- **横送り量と合わせて 1 株本数を、レバーで調節します。レバーは切欠溝に確実にセットしたあと植付作業を行なってください。**

2.2 横送り切換えレバーの調節

横送り回数は苗の成長状態によって切換えてください。調節は 2 段階行なえます。



(1) 横送り切換えレバー
(A) ***[26]***回
(B) ***[20]***回
(C) 切換え



(1) 20 回
(2) 26 回
(A) 中苗
(B) 稚苗

補足：

- **横送り量は、20 回で 14 mm、26 回で 11 mm です。**

1. 主変速レバーを**[N]（中立）**位置にします。
2. 苗の状態に合わせて、横送り切換えレバーを切換えます。
3. エンジンを始動又は、主変速レバーをゆっくり操作し、植付爪が 2～3 回転回ったことを確認して植付作業を行なってください。

2.3 植付株数と苗の使用量について

10 アール（a）あたりの苗の使用量は、栽植密度（植付株数）と 1 株あたりの苗取り量によって決まります。下記の表を参照して、苗箱（箱）の使用量の目安にしてください。

横送り回数（回）	苗の種類	苗取り量レバー位置	3.3 m^2 当り株数（株）					
			40	45	50	60	70	80
20	中苗	6 段目	13	16	18	21	23	27
26	稚苗	6 段目	10	12	14	16	18	21

- 苗取り量調節レバー位置は、上（**[多]い**）から数えた位置
- 上表の株数は、目安の苗箱（箱）の使用量です。また、播種量は稚苗 200～220 g、中苗 100 g を基準にして算出します。
- 出荷時は 60 株位置です。

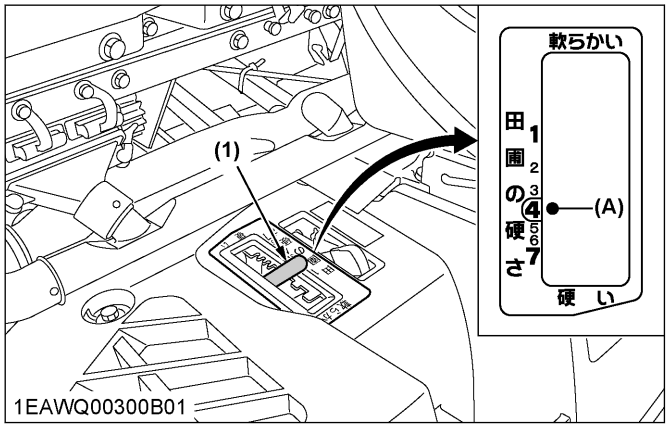
補足：

- **苗取り量（縦取り量）レバーを 1 段変更すると、苗箱は 6～8%増減します。**
- **上表はあくまで目安ですから苗箱は多めに準備してください。**

3. フィットセンサレバーの調節

植付部の下側にあるフロートが、植付速度に応じて植付深さを一定に保つため、高速作業時にフロートの浮上りによる浅植えのないように制御していますが、ほ場の状

態により、泥を押したり、凹凸がじゅうぶん整地されないときは、レバーでフロートの感度調節を行なってください。調節は 7 段階行なえます。



(1) フィットセンサレバー　　*(A)* 標準

設定位置

ほ場状態を確認しながら、レバーで下記の表を目安に感度調節を行なってください。

ほ場状態		設定位置
軟らかい ⬆ 標準 ⬇ 硬い	• トロトロした状態で、泥押しをする。	1～3
	• 整地も良く、泥押しが少ない。	4
	• 硬くて整地が悪い。	5・6
	• 凹凸が激しく、荒れている。（車輪跡や足跡が残る。）	7

補足：

- **調節を行なったときは、植付け深さの調節も同時に行なってください。**
  - **[軟らかい] → [硬い]に変更すると植付け深さが深くなることがあります。**
  - **[硬い] → [軟らかい]に変更すると植付け深さが浅くなることがあります。**

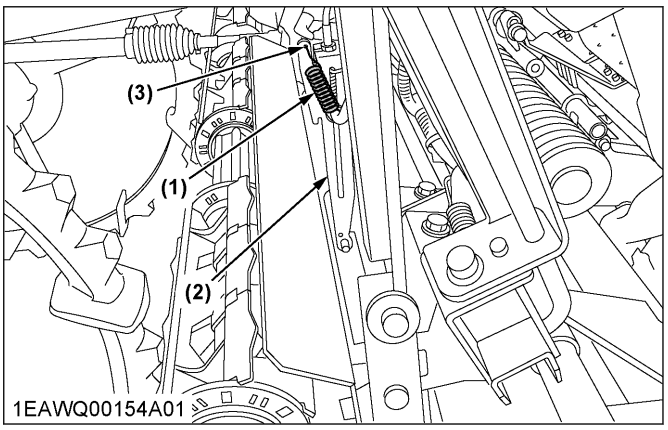
3.1 フロート感知荷重の調節

フィットセンサレバーを**[軟らかい]**側の**[1]**～**[3]**に設定しても、フロートが泥押しする場合は、感知調節バネの取付位置を下側に変更して感知荷重を弱くしてください。

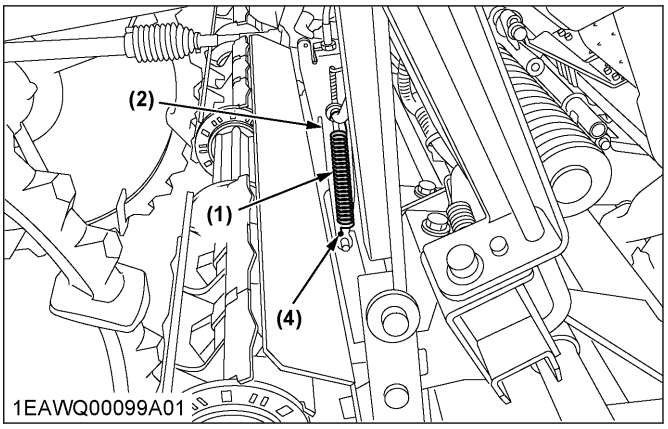
また、フィットセンサレバーを**[硬い]**側の**[7]**に設定しても、フロートで整地ができない場合は、感知調節バネの取付位置を上側に変更して感知荷重を強くしてください。

感知調節バネ取付位置の変更を行なうときは、センサガイドの取付け穴を差換えてください。

※イラストは感知荷重［強］位置



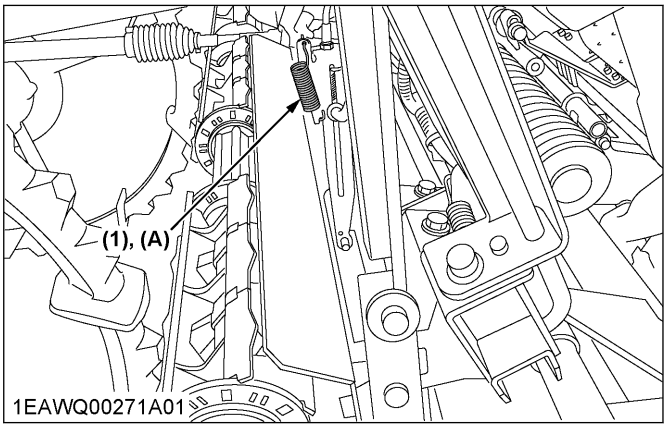
※イラストは感知荷重［弱］位置



(1) 感知調節バネ
(2) センサガイド
(3) 取付穴（感知荷重**［強］**位置）
(4) 取付穴（感知荷重**［弱］**位置）

補足：

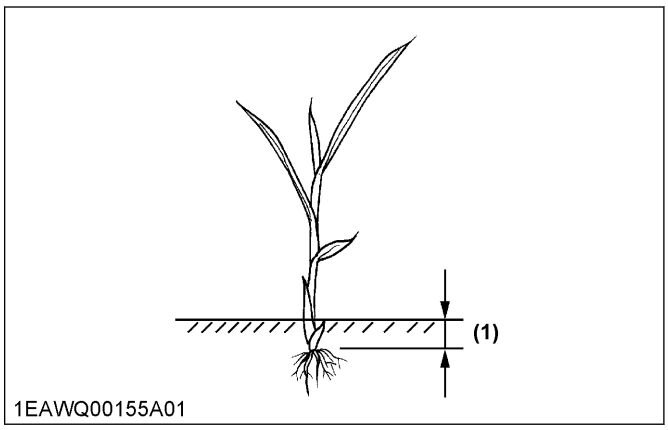
- **出荷時の感知調節バネ位置は収納位置です。**



(1) 感知調節バネ　　*(A)* 収納位置（出荷位置）

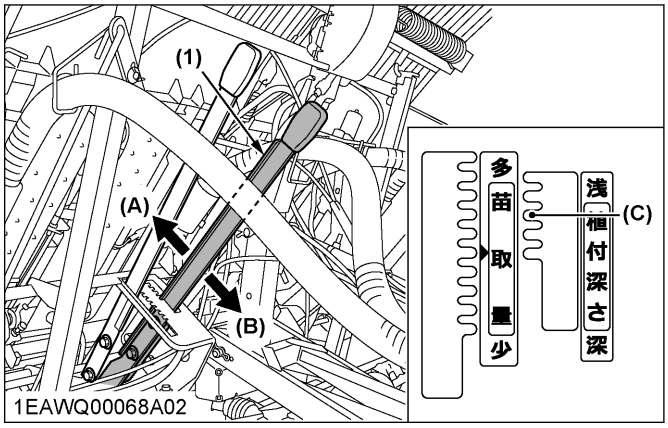
4. 植付深さの調節

ほ場や苗の条件に合わせて、苗の植付深さの調節をレバーで行なってください。調節は 1～4 cm まで 5 段階行なえます。



(1) 植付深さ

補足：
- **植付深さは 2～3 cm が適正です。**

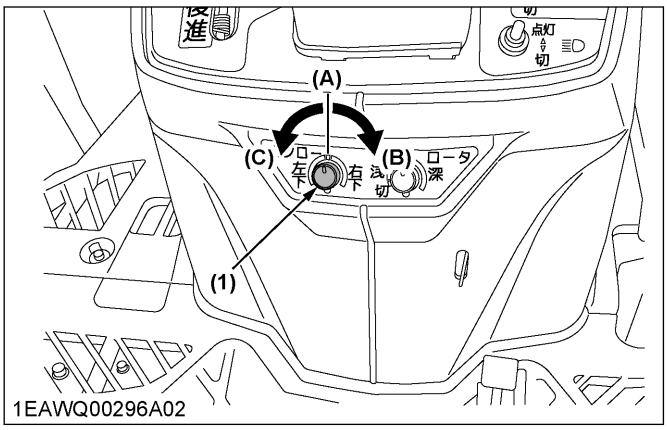


(1) 植付深さ調節レバー
(A) 浅い
(B) 深い
(C) 標準

1. 植付部を上昇します。
2. 植付深さ調節レバーで調節し、切欠溝に確実にセットします。
3. 植付部を降ろして植付作業を行なってください。

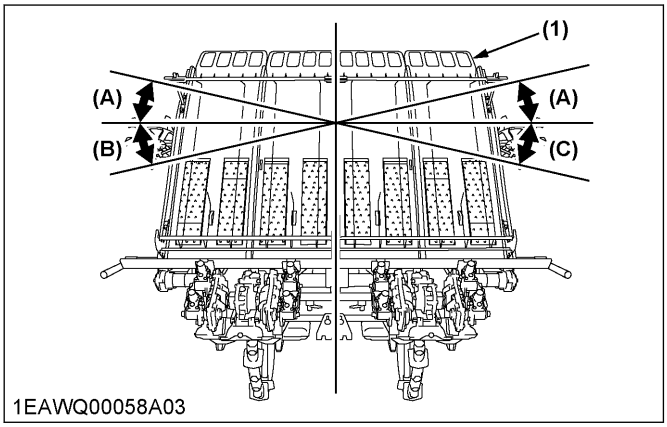
5. モンローの調整

モンロー（植付部自動水平制御装置）は、機体が左、右に傾くと、自動的に植付部（苗のせ台）を水平状態に修正、保持する装置です。
植付部の傾きを調整するときは、モンロー調整ダイヤルを回してください。



(1) モンロー調整ダイヤル
(A) 中央
(B) ***[右下]***（植付部右下げ）
(C) ***[左下]***（植付部左下げ）

補足：
- **ダイヤルは、左、右にそれぞれ最大約 120 度回ります。また、植付部は、左、右にそれぞれ最大約 2 度傾きます。**
- **モンロー調整ダイヤルを回すと、機体後方から見たとき以下の状態になります。**
  - **右に回す…植付部が右下がりになります。**
  - **左に回す…植付部が左下がりになります。**



(1) 植付部
(A) 約 *2* 度
(B) 左下方向に調整
(C) 右下方向に調整

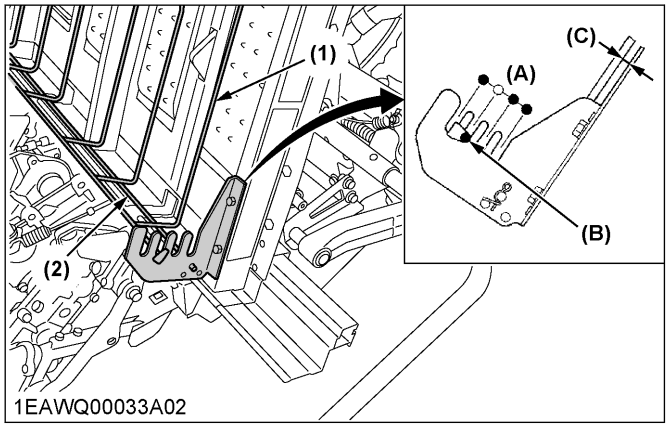
6. 苗ステー・苗押さえ棒の調節

苗のせ台に苗を載せたときに苗ステーとのすき間が大きかったり、苗床の状態が悪くて（薄くて軟弱な苗や根張りの悪い苗など）くずれ落ちによる欠株が発生したり、苗が前・後に倒れるときは、調節を行ってください。

6.1 苗ステー

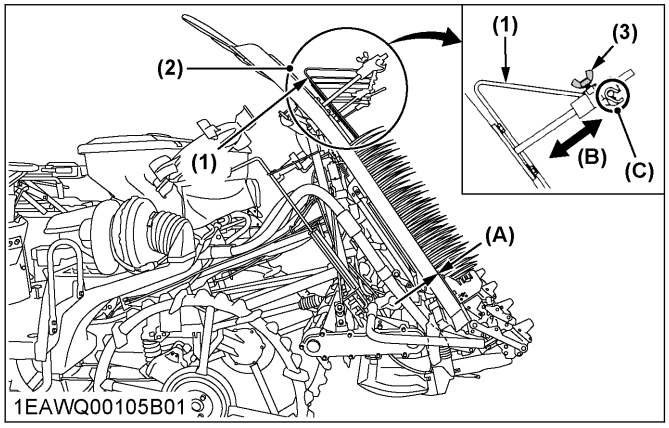
1. 植付部を下降したあと、エンジンを停止します。

2. 苗ステーの下側にあるラック位置を変更し、苗床とのすき間を 1～2 cm に調節します。



(1) 苗ステー
(2) 苗押さえ棒
(A) ラック位置
(B) 出荷位置
(C) すき間：*1～2 cm*

3. 上側のラックの左、右両端にある蝶ボルトをゆるめて、苗床と苗ステーのすき間を均等に調節します。

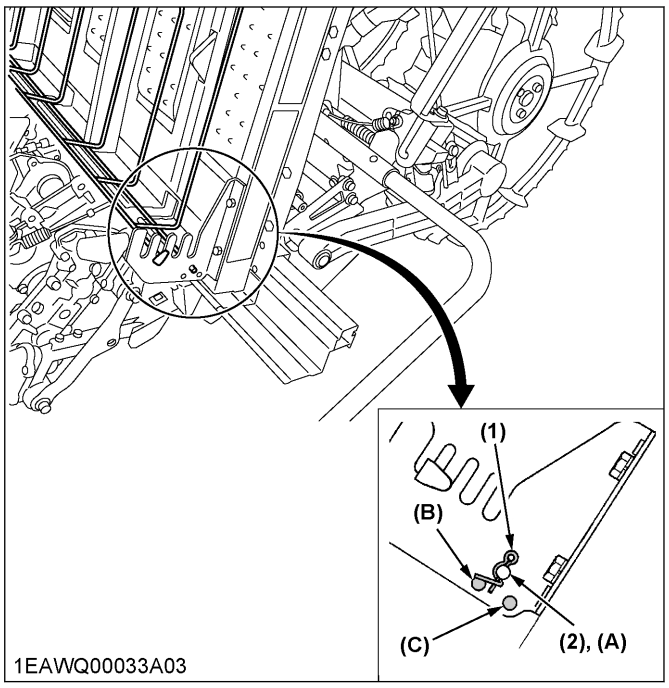


(1) 苗ステー
(2) ラック上
(3) 蝶ボルト
(A) すき間：*1～2 cm*
(B) 調節
(C) 取付位置

4. 蝶ボルトを締付けます。

6.2 苗押さえ棒

1. 植付部を下降したあと、エンジンを停止します。
2. スナップピンを取外したあと、ロッドを抜取ります。
3. 穴の位置を変更してロッドを差込んだあと、スナップピンを取付けます。



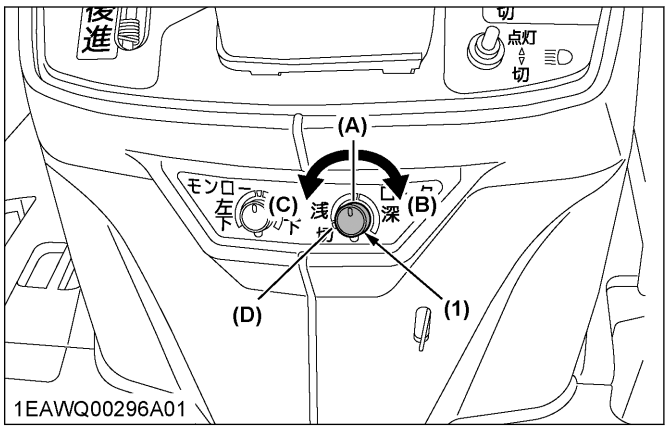
(1) スナップピン
(2) ロッド
(A) 取付穴［*A*］（標準）位置
(B) 取付穴［*B*］位置
(C) 取付穴［*C*］位置

調節位置

現象	取付穴位置
• 苗が短い。 • 植付けたとき、苗が後に倒れる。 • 苗床が軟弱で、植付けるとバラケやすい。	［A］（標準）➡［C］又は、［B］➡［A］（標準）
• 苗が長い。 • 植付けたとき、苗が前に倒れる。 • 苗が押さえ棒に引掛かり、しゅう動板まで降りてこない。	［A］（標準）➡［B］又は、［C］➡［A］（標準）

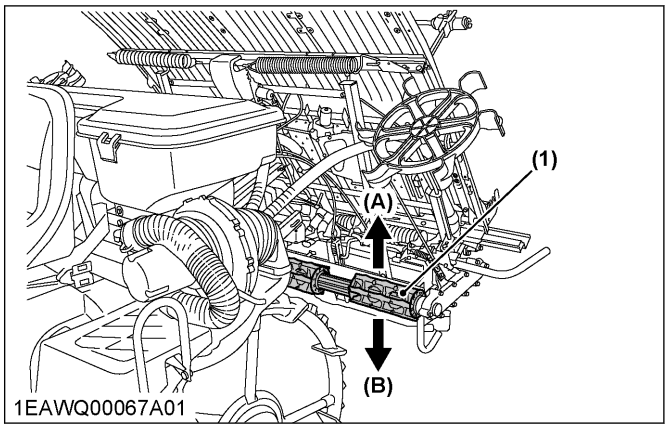
7. 整地ロータの調整

一般的なほ場ではロータ深さ調整ダイヤルは中央（標準）位置に合わせますが、ほ場条件や作業状態により、整地ロータが泥押ししたり、整地が悪い場合はロータ深さ調整ダイヤルで調整を行なってください。



(1) ロータ深さ調整ダイヤル

(A) 中央（標準）
(B) ***[深]***
(C) ***[浅]***
(D) ***[切]***



(1) 整地ロータ

(A) 上がる（浅い）
(B) 下がる（深い）

調整位置

整地状態	ロータ深さ調整ダイヤル調整位置
• 整地ロータが泥押しをする。	**[浅]**の方向に調整
• 表土の整地が悪い（馴らし状態が悪い）	**[深]**の方向に調整

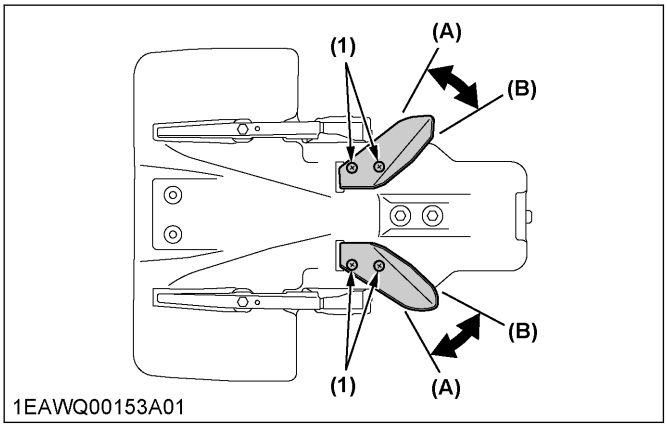
補足：

- **整地ロータの高さは[深]又は、[浅]方向に 3 段階調整が行なえます。また、1 段階で整地ロータの高さが 3～5 mm 単位で増減します。**
- **トロトロほ場などで車輪跡が残りにくい場合は、ロータを浅い方向に調整してください。**

8. ふく土板の調節［R 仕様］

各フロート下面にあるふく土板をほ場状態に合わせて調節を行なってください。

1. エンジンを始動したあと、植付部を上昇させます。
2. 油圧ロックレバーを**[閉]**位置にし、下降防止をしたあと、エンジンを停止します。
3. トロトロした状態のほ場で隣接の苗を倒すときは、ネジをゆるめて内側にせまくします。また、標準又は、硬いほ場は外側に広げます。



(1) ネジ

(A) 標準又は、硬いほ場
(B) トロトロ状態のほ場

補足：

- **調節は全箇所共同じ角度になるようにしてください。**

4. ネジを締付けます。

9. 施肥量の調節［R 仕様］

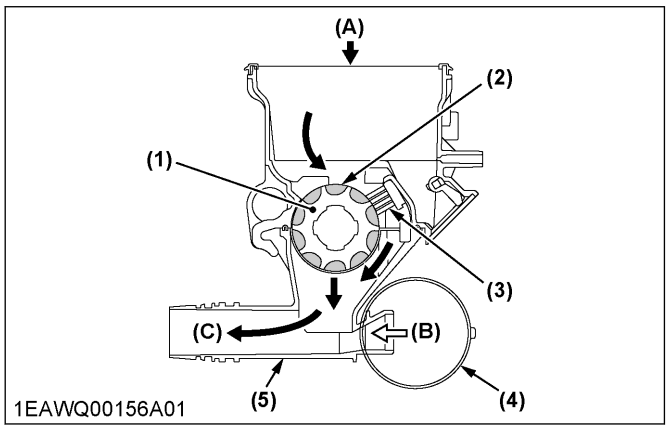
使用する肥料により施肥（繰出し）量が異なることがありますので、肥料を入れる前によく確認してから調節を行なってください。

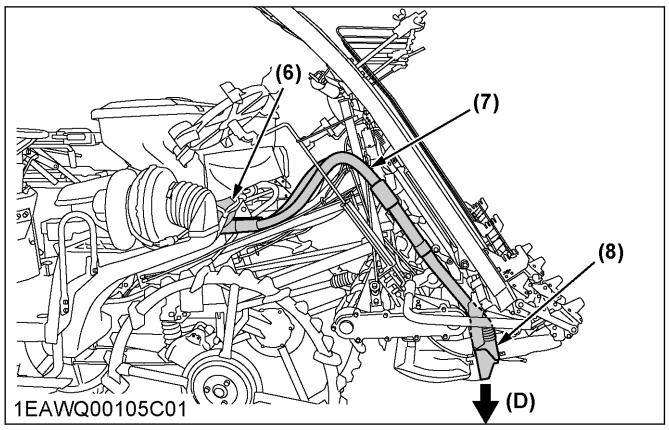
9.1 肥料の流れ

1. ホッパ内の肥料がロールケース内に入ってきます。
2. ロールケース内のロールの溝に肥料が入ります。
3. ロールが回転し、肥料が落ちます。

4. ブロワからの送風により、ロートからホースを通り作溝器から排出されます。

ロールケース内

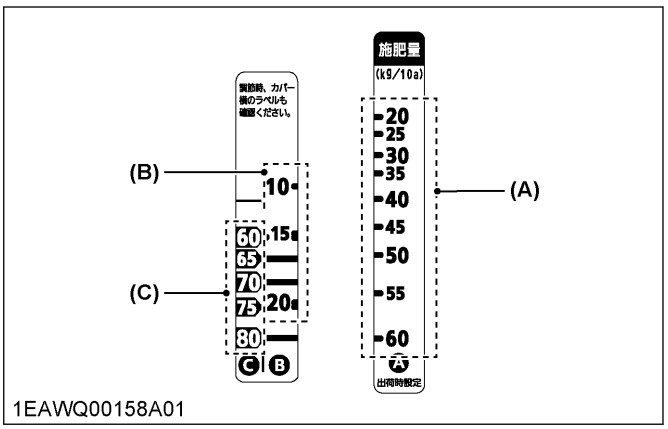


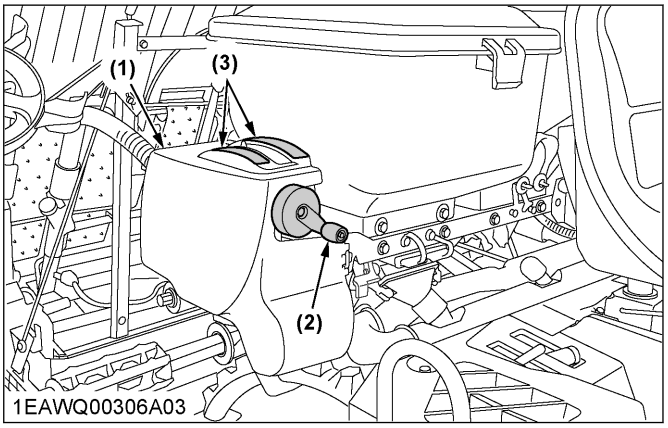


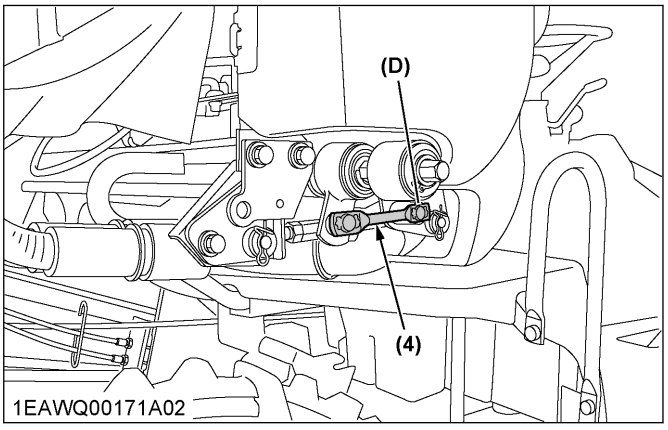
(1) ロール
(2) ロール溝
(3) ブラシ
(4) ダクト
(5) ロート
(6) ロールケース
(7) ホース
(8) 作溝器
(A) ホッパ側（肥料）
(B) 送風
(C) ホース側
(D) 排出

9.2 調整のしかた

本機で調整できる施肥量（肥料の繰出し量）は、10～80 kg/10 a です。目標とする施肥量に調整するには、施肥量目安ラベルの施肥量に合わせて繰出しテストを行なったあと、施肥量調整装置の施肥量調整ハンドルで施肥量の調整を行なってください。







(1) 施肥量調整装置
(2) 施肥量調整ハンドル
(3) 施肥量目安ラベル
(4) 少量施肥切換えロッド
(A) ［出荷時設定］範囲
(B) ［少量施肥量］範囲
(C) ［増量施肥量］範囲
(D) 標準施肥量位置
（施肥量目安ラベル *A* 位置）

補足：

- **施肥量の調整は［出荷時設定］範囲（20～60 kg/10 a、少量施肥切換えロッドの切換えで 2 段階（［少量施肥量］範囲：10～20 kg/10 a）、増量施肥切換えカナグの切換えで 1 段階（［増量施肥量］範囲：60～80 kg/10 a）の各範囲内で行なってください。**

1. 平たんな場所に機械を止めてエンジンを停止します。

2. 施肥量（10 a 当りに播く量）を決めます。

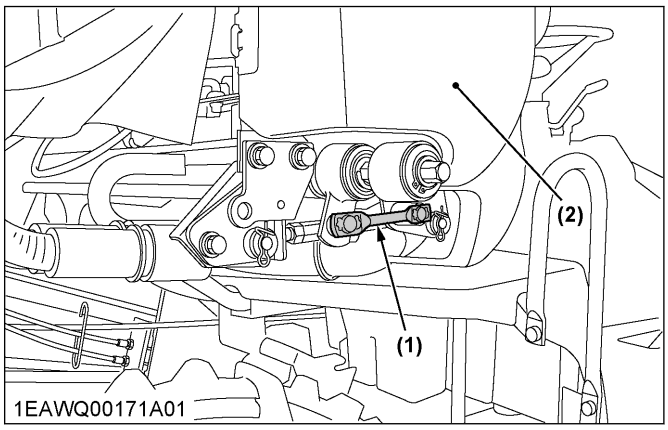
   補足：
   - **［例］肥料成分率 12-17-13（窒素-リン酸-カリウム）の場合**
     窒素成分が 12%の肥料の場合、3.0 kg の窒素を投入するとき、計算では 3.0（kg/10 a）÷12（%）×100 = 25（kg/10 a）となり、施肥量（肥料の重さ）は、10 a 当り 25 kg となります。
3. 少量施肥切換えロッドの切換えと施肥量調整ハンドルの調整で目標とする施肥量に調整します。

   補足：
   - **出荷時の少量施肥切換えロッド位置は、［標準］位置です。**
   - **施肥ブラシが新品の状態から馴染むまでの約 20 時間程度は、施肥量が約 5～10%少なくなる場合があります。**

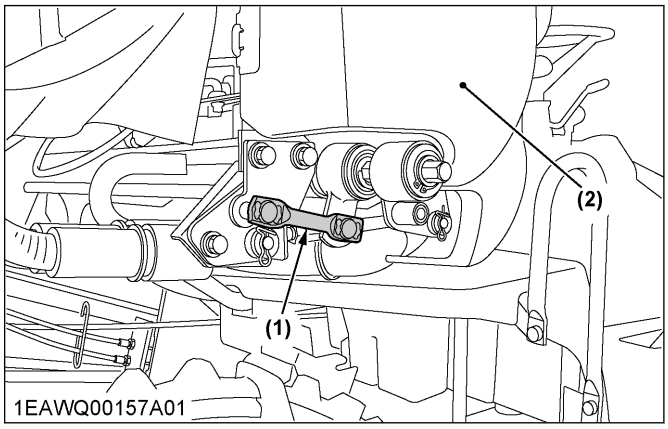
9.3 少量施肥切換えロッド位置の変更

［少量施肥量］範囲（10～20 kg/10 a）で播くときは、少量施肥切換えロッドの取付位置の変更を行なってください。ロッド位置の変更はカバーを取外してから行なってください。

［標準施肥量位置（出荷位置）］

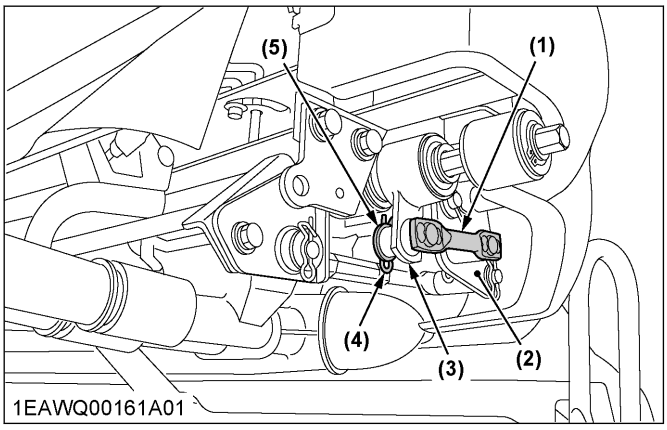


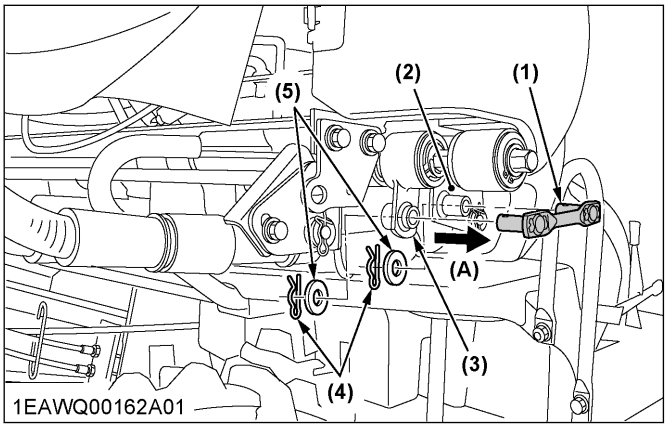
［少量施肥量位置］



(1) 少量施肥切換えロッド
(2) カバー

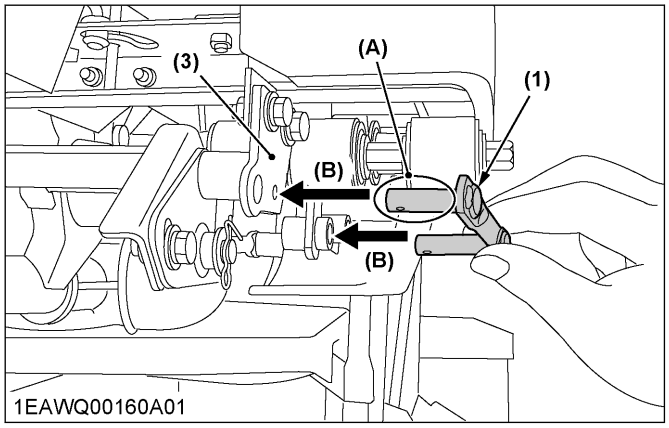
1. 支点金具と標準施肥量位置取付金具に取付けている少量施肥切換えロッドのスナップピン、平座金をそれぞれ取外し、金具から少量施肥切換えロッドを取外します。

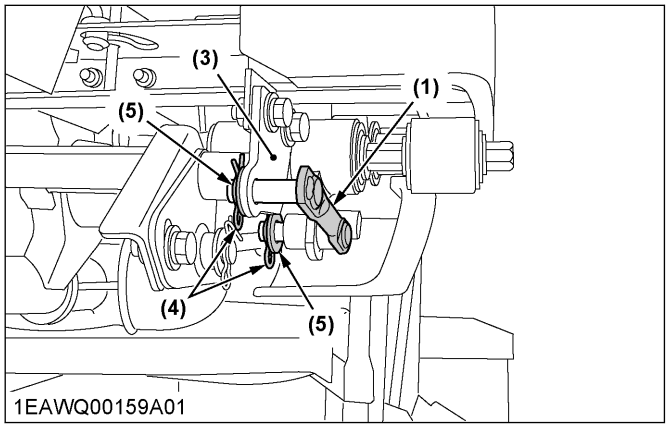




(1) 少量施肥切換えロッド　　*(A)* 取外す
(2) 標準施肥量位置取付金具
(3) 支点金具
(4) スナップピン
(5) 平座金

2. 取外した少量施肥切換えロッドを支点金具と少量施肥量位置取付金具に取付けます。このとき、少量施肥切換えロッドのピン部が長い側を後方に向けた状態で金具の取付穴に差込んだあと、**1. の手順**で取外した平座金、スナップピンを取付けます。





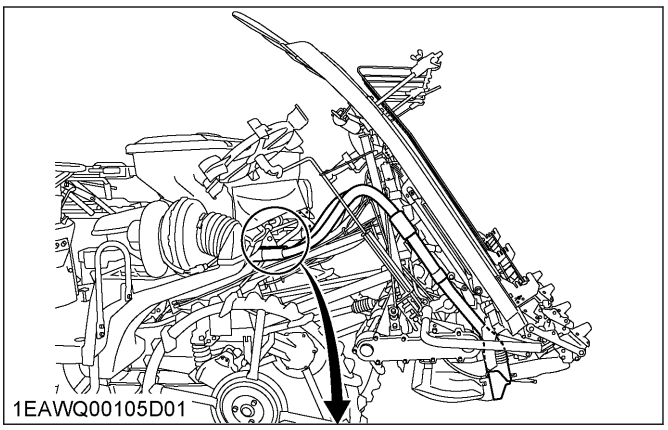
(1) 少量施肥切換えロッド
(2) 支点金具
(3) 少量施肥量位置取付金具
(4) スナップピン
(5) 平座金
(A) 長い側を後方に向ける
(B) 差込む

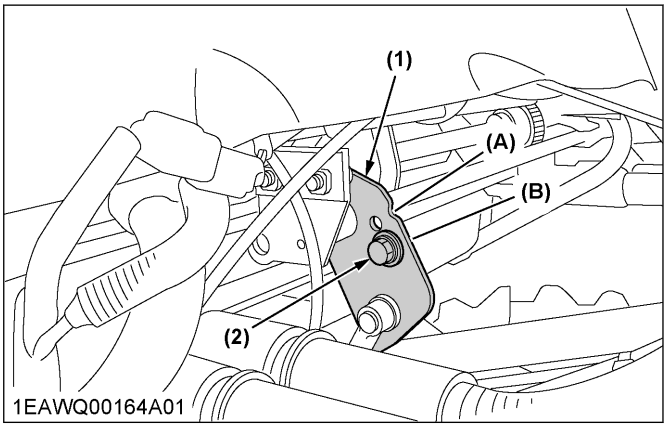
補足：
- **少量施肥切換えロッドは必ず正しく取付けてください。正常な少量の施肥量の設定が出来ない場合があります。**

9.4 増量施肥切換え金具位置の変更

［増量施肥量］範囲（60～80 kg/10 a）で播くときは、増量施肥切換え金具の取付位置の変更を行なってください。

1. 少量施肥切換えロッドの位置を**［標準］**位置にします。
2. ボルトを取外して増量施肥切換え金具の位置を**［増量］**位置に変更します。





(1) 増量施肥切換え金具
(2) ボルト
(A) **［標準］**位置
(B) **［増量］**位置

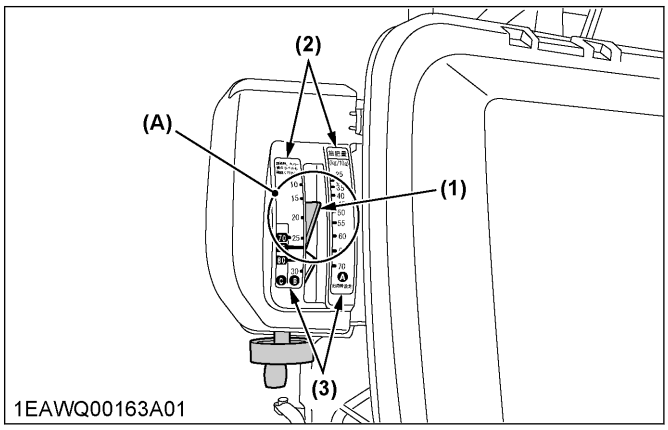
補足：
- **出荷時の増量施肥切換え金具の位置は［標準］位置です。**

3. 取外したボルトを取付けます。

9.5 施肥量調整ハンドルによる施肥量の調整

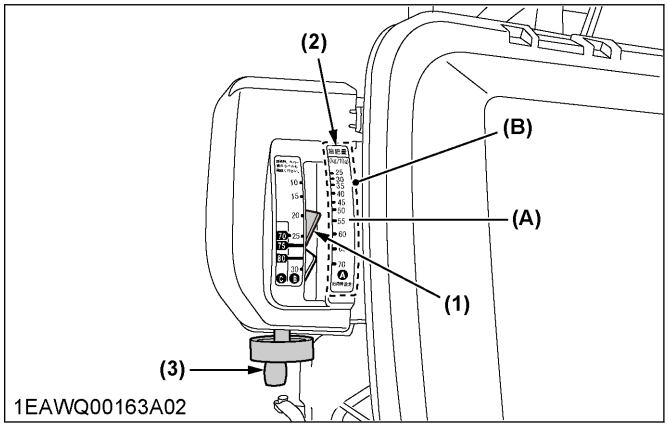
1. 施肥量調整装置の施肥量調整ハンドルを回すと施肥量調整ゲージが動きます。施肥量調整ハンドルを回して、施肥装置上部の施肥量目安ラベルを見ながら目標とする施肥量に施肥量調整ゲージを合わせます。

   補足：
   - **目標とする施肥量に合わせるときは、凸形になっている施肥量調整ゲージの中心を施肥量目安ラベルの目盛りに合わせてください。**



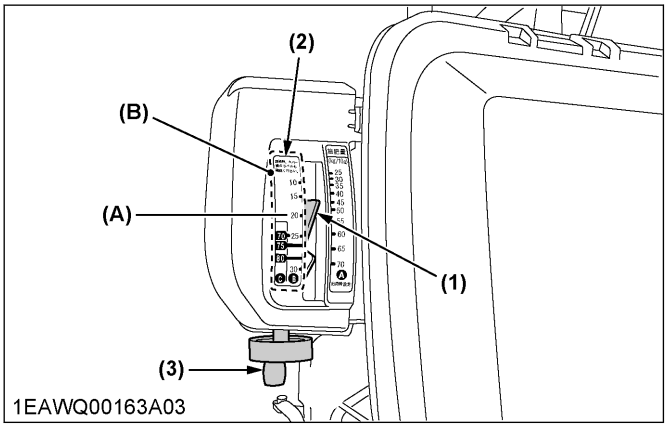
(1) 施肥量調整ゲージ
(2) 施肥量目安ラベル
(3) 目盛り
(A) 凸部の中心をラベルの目盛りに合わせる

   - **［例 1］目標の施肥量を 50 kg/10 a にする場合（［出荷時設定］範囲の場合）**
     少量施肥切換えロッドを**標準施肥量位置**、増量施肥切換え金具を**標準位置**にし、施肥量調整ハンドルを回して施肥量調整ゲージの中心を施肥量目安ラベルの目盛り**[50]**（目標の施肥量）に合わせます。



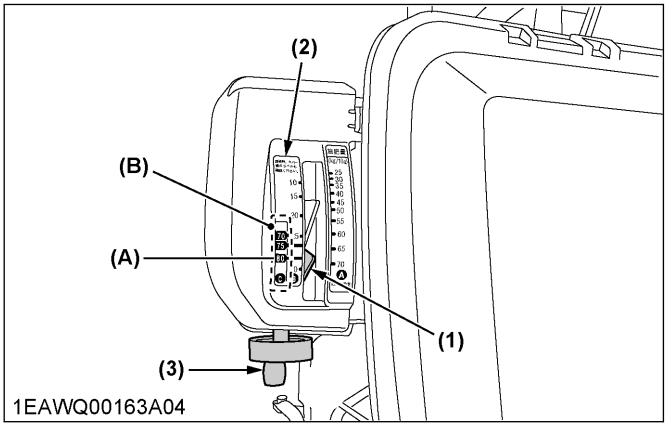
(1) 施肥量調整ゲージ
(2) 施肥量目安ラベル
(3) 施肥量調整ハンドル
(A) ゲージの凸部の中心を目標の施肥量に合わす
(B) **［出荷時設定］**範囲

   - **［例 2］目標の施肥量を 20 kg/10 a にする場合（［少量施肥量］範囲の場合）**
     少量施肥切換えロッドを**少量施肥量位置**、増量施肥切換え金具を**標準位置**にし、施肥量調整ハンドルを回して施肥量調整ゲージの中心を施肥量目安ラベルの目盛り**[20]**（目標の施肥量）に合わせます。



(1) 施肥量調整ゲージ
(2) 施肥量目安ラベル
(3) 施肥量調整ハンドル
(A) ゲージの凸部の中心を目標の施肥量に合わす
(B) **［少量施肥量］**範囲

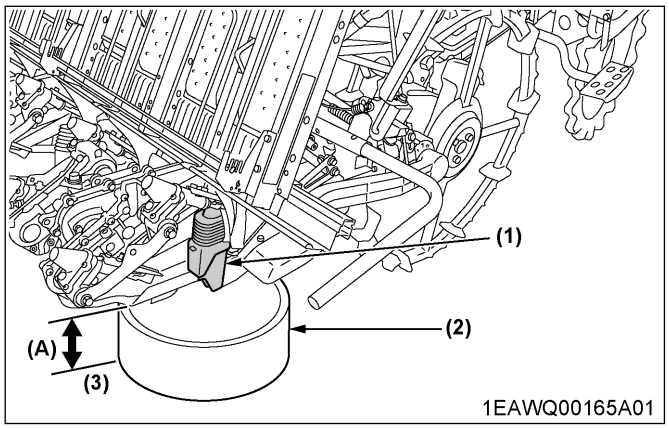
   - **［例 3］目標の施肥量を 80 kg/10 a にする場合（［増量施肥量］範囲の場合）**
     少量施肥切換えロッドを**標準施肥量位置**、増量施肥切換え金具を**増量位置**にし、施肥量調整ハンドルを回して施肥量調整ゲージの中心を施肥量目安ラベルの目盛り**[80]**（目標の施肥量）に合わせます。



(1) 施肥量調整ゲージ
(2) 施肥量目安ラベル
(3) 施肥量調整ハンドル
(A) ゲージの凸部の中心を目標の施肥量に合わす
(B) **［増量施肥量］**範囲

   補足：
   - **肥料の種類や状態により実際に播かれる肥料が多い場合や少ない場合があるため、繰出しテストを行なってください。**

2. 目標の施肥量が排出されることを確認するため、肥料の繰出しテストを行ないます。
   a. 肥料を全条のホッパに入れます。
   b. エンジンを始動し、植付部を上昇させます。
   c. 十字ポンパレバーを下側**[下降]**に操作して植付部を地面から約 30～40 cm の位置まで下降させます。
   d. 油圧ロックレバーを**［閉］**位置にして油圧をロックします。
   e. エンジンを停止します。
   f. 肥料を受ける容器の重量を測ったあと、作溝器の下側に全条分置きます。



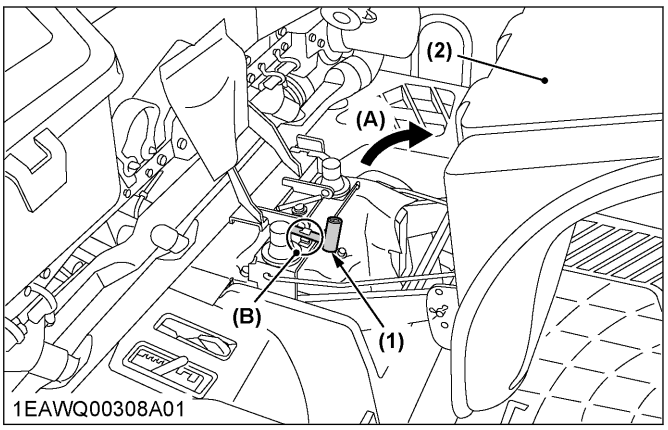
(1) 作溝器
(2) 容器
(3) 地面
(A) 約 *30～40 cm*

補足：
- **容器が全条分ないときは、測定箇所以外のあぜぎわクラッチを全て切ってください。**

   g. エンジンを始動します。

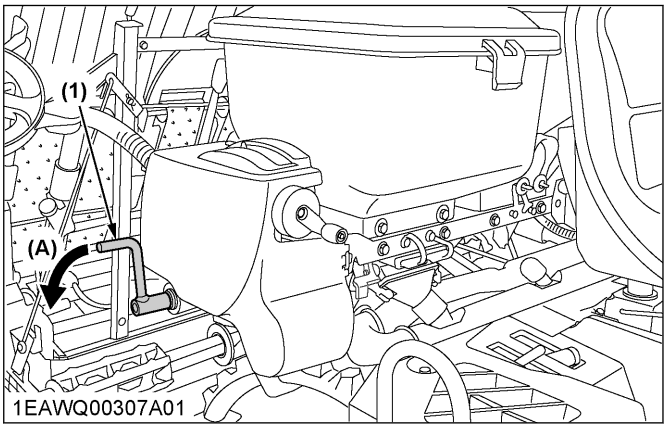
補足：
- **ブロワが回転していることを確認してください。また、ホースやダクトが正しく組付けられているか確認してください。**

   h. 運転席（シート）をハンドル側に倒したあと、繰出しハンドルを収納しているクリップから繰出しハンドルを取外します。



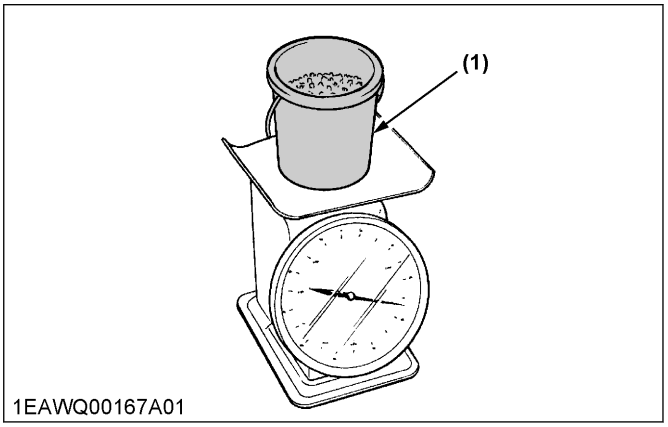
(1) 繰出しハンドル
(2) 運転席（シート）
(A) 倒す
(B) クリップから繰出ハンドルを取外す

   i. 繰出しハンドルの六角穴を六角軸に合わせます。
   j. 繰出しハンドルを左回転方向（矢印方向）に **10 回**回転させて、容器に肥料を操出します。このとき、目安として 8～10 秒間で繰出しハンドルを 10 回転させます。



(1) 繰出しハンドル
(A) 回す

   k. 重量を測定し、測定した重量から容器の重量を差引くと、繰出した肥料の重量となります。



(1) 容器

   l. 実際に測った繰出し量と標準値を比較します。

10 回転繰出し量の標準値（1 条分当たり）

標準	標準 200 g/10 回転

重要：
- **繰出しハンドルが六角軸に取付けられた状態で機械を動かすと、繰出しハンドルが回転して破損の原因になります。**

m. 実際に測った肥料の繰出し量が標準値より外れた場合は、施肥量調整ハンドルで実際の目盛りからずらして調整します。10 回転の繰出し量が標準値より多い場合は目標とする値より少なく調整し、標準値より少ない場合は目標とする値より多く調整します。
[例]
10 a 当たり肥料を 30 kg 排出するとき、10 回転で肥量の繰出し量が 220 g と 1 割多い場合は、1 割少なくなるように調整します。

補足：
- **施肥量目安ラベルは、標準値（200 g/10 回転）で繰出される肥料に対しての目安位置です。実際に測定した肥料の繰出し量が多い又は少ない場合は、施肥量調整ハンドルで再調整を行なってください。**
- **肥料ごとに 10 回転繰出し量は異なります。使用する肥料を変更するときは、ホッパ内に残った肥料を全て排出したあと、ホッパ内に肥料を入れ、必ず 10 回転繰出しテストを行なってください。**
- **実際の施肥量は、ほ場条件等による車輪のスリップなど、作業条件により変化することがあります。実際に施肥作業を行ない再調整してください。**

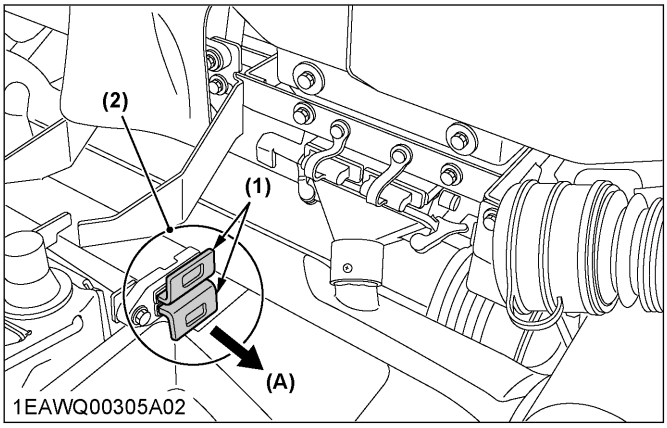
n. 調整が終わると繰出しハンドルを元の位置に収納します。

補足：
- **繰出しハンドルは失くさないでください。**

9.6 施肥条止めのしかた

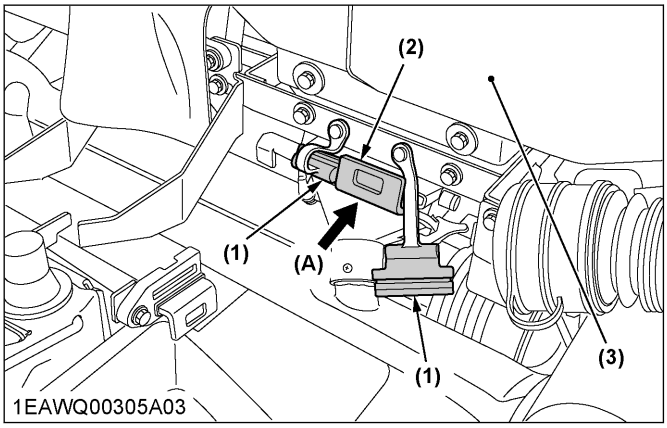
あぜぎわを植付けるときなどで、施肥の繰出しのみを 1 条又は 2 条分停止するときは条止めシャッタを使用してください。

1. 収納状態の条止めシャッタを、収納場所から抜いて取外します。



(1) 条止めシャッタ　*(A)* 抜く
(2) 収納場所

2. ホッパ下側にあるゴムキャップを外して肥料の繰出しを停止する条の条止めシャッタを差込みます。



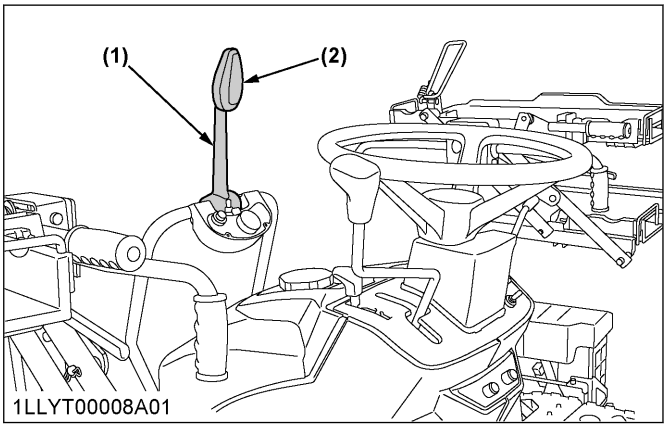
(1) ゴムキャップ　*(A)* 差込む
(2) 条止めシャッタ
(3) ホッパ

補足：
- **条止めシャッタを差込んだ状態で水洗いの洗浄をしないでください。すき間から水が浸入し、肥料詰まりの原因になります。**
- **条止めシャッタを差込むときは、いっぱいまで押込んでください。**

マスコットランプによる異常と処置

⚠ 警告
- **エンジン停止直後は、エンジンやマフラにさわらないでください。ヤケドをするおそれがあります。**
- **苗や肥料［R 仕様］を補給するときは、走行を停止して行なってください。**

警報ブザーが鳴り、マスコットランプが点滅したときは下表の処置を行なってください。



(1) マスコット
(2) マスコットランプ

警報				現象	処置	参照ページ
種類	マスコットランプ		警報ブザー			
	状態	色				
苗切れ警報	点滅	赤	断続 (5 回吹鳴)	• 苗が残り少なくなっています。	• 苗を補給します。	73
肥料切れ警報［R 仕様］	点滅	赤	断続 (5 回吹鳴)	• 肥料が残り少なくなっています。	• 肥料を補給します。	78
肥料詰まり警報［R 仕様］	点滅	赤	断続 (5 回吹鳴)	• 肥料が詰まっています。	• 作溝器内を確認してセンサに付着している異物を取除きます。また、異物がないときは、コントローラ（感度調整用）で調整します。	80

補足：
- **警報ランプは、異常を処置すると消灯します。**

メンテナンス

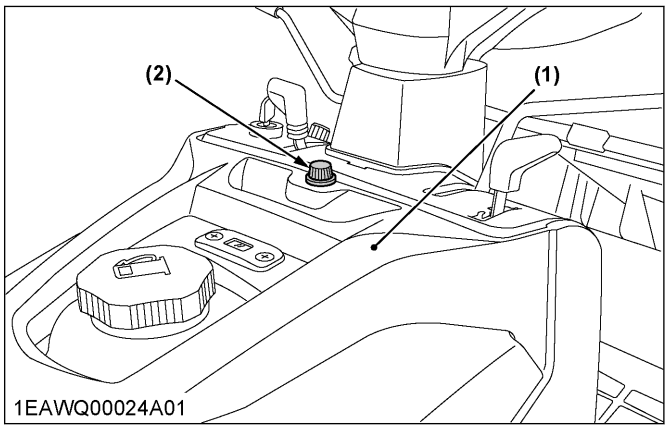
各部の開閉と脱着のしかた

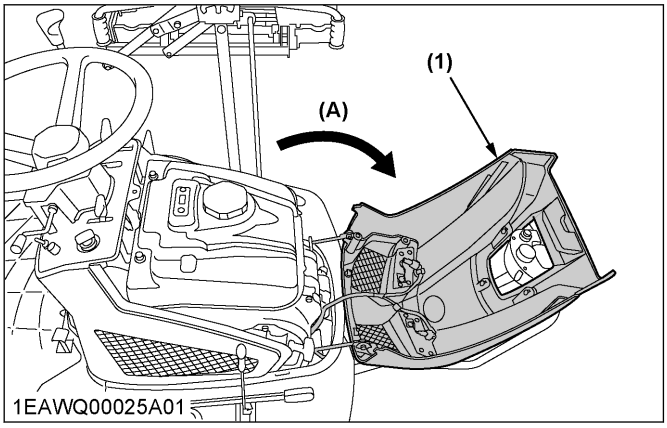
⚠ 警告
- **平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めてから行なってください。**
- **取外したカバー類は、必ず取付けてください。**

1. ボンネットの開閉

⚠ 警告
- **オーバヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは、次の手順に従ってください。**
  1. **作業を中止する。**
  2. **エンジンを約 5 分間アイドリング回転で運転した後、エンジンを停止する。**
  3. **エンジン停止後 30 分以上経過してから開ける。**
  4. **点検・整備で内部に触れるときは、ヤケドの危険性がないことを確認する。**
- **エンジンが冷えてないときに、エンジンルームを開けると高温部に接触してヤケドするおそれがあります。**

開きかた
ボンネットを固定しているノブボルトを取り外したあと、ボンネットを前方に倒して開きます。



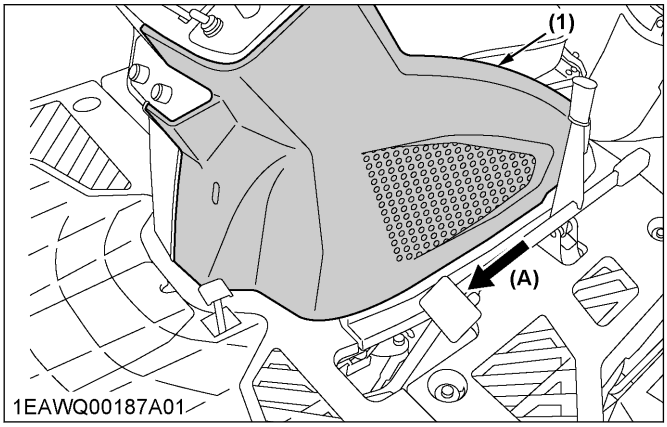


(1) ボンネット　*(A)* 開く
(2) ノブボルト

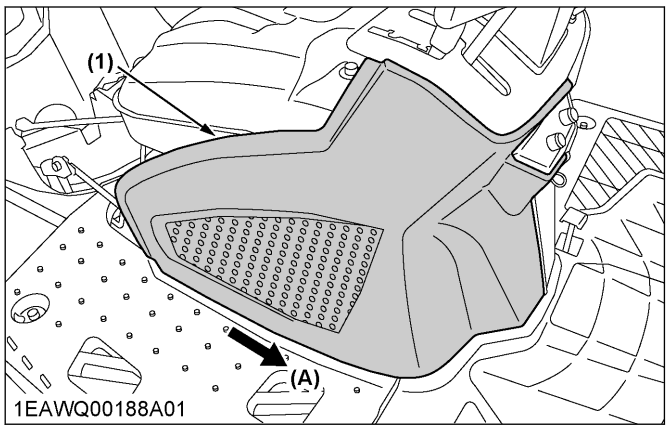
閉じかた
開きかたと逆の手順で閉じます。

2. リヤカバーの脱着

取外しかた
1. ボンネットを開きます。
2. リヤカバー（左、右）を少し後方に引いてリヤカバー下の各爪を取付け側の各差込穴から外してリヤカバー（左、右）をそれぞれ取り外します。



(1) リヤカバー（右）　*(A)* 引いて取り外す

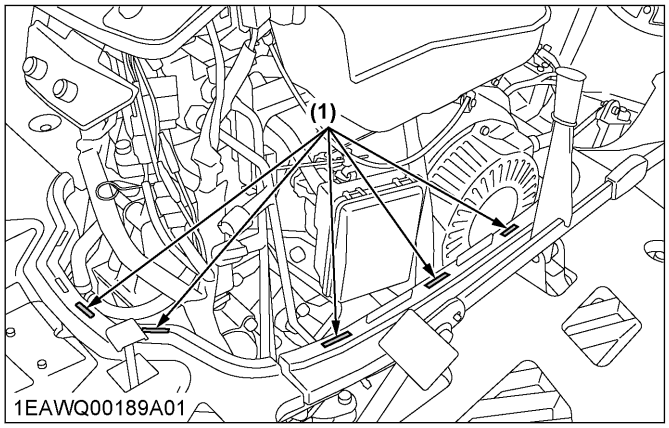


(1) リヤカバー（左）　　*(A)* 引いて取り外す

取付けかた
取外しかたと逆の手順で取り付けます。

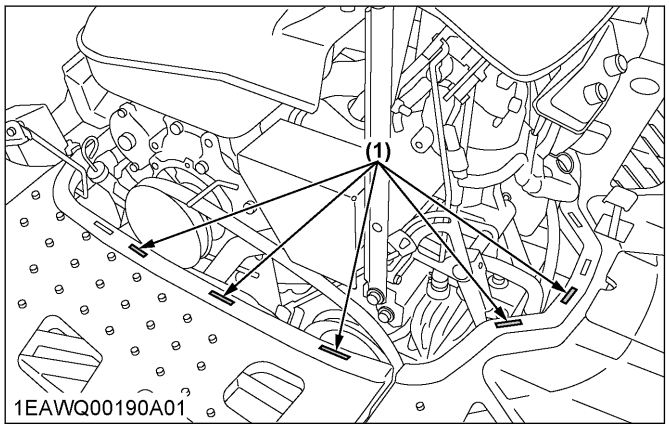
補足：
- **取り付けるときは、リヤカバーの各差込み穴に確実に差込んでください。**

※イラストは右側



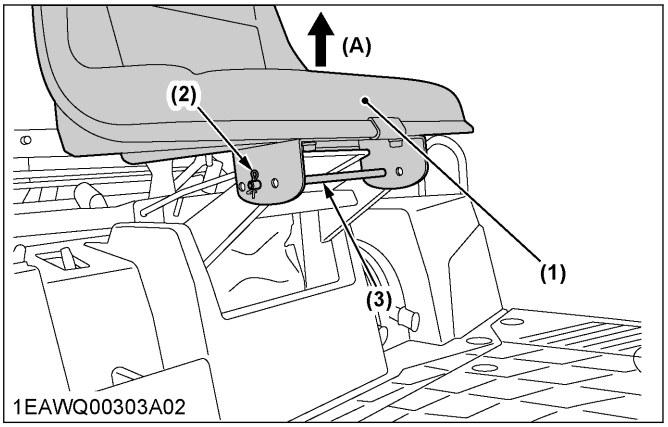
(1) 差込み穴

※イラストは左側



3. 運転席（シート）の脱着

取外しかた
1. 運転席の前方下にあるスナップピンとロッドを外します。
2. 運転席を取外します。



(1) 運転席（シート）　　*(A)* 取外す
(2) スナップピン
(3) ロッド

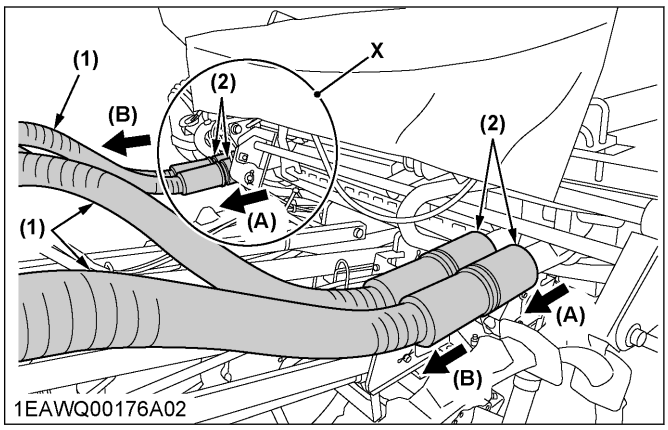
取付けかた
取外しかたと逆の手順で取付けます。

補足：
- **取付けるときは、ロッドおよびスナップピンをロッドの差込み穴に確実に差込んでください。**

4. ホッパ部の開閉［R 仕様］

重要：
- **田植機を平たんな場所に置き、エンジンを停止させ、肥料をすべて排出してください。**

開きかた
1. ホッパ内の肥料を空の状態にします。
2. 各施肥ホースのカプラを後方に引いてそれぞれ各施肥ホースを外します。
3. スナップピン、平座金をそれぞれ取り外して施肥機側の施肥駆動ロッドを取付穴から外します。

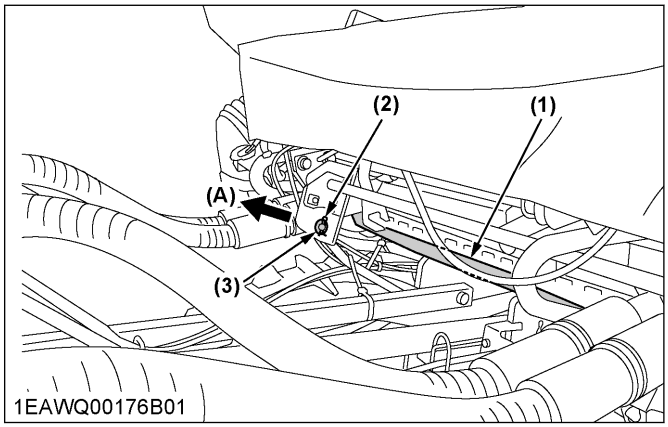


(1) 施肥ホース
(2) カプラ
(A) 引く
(B) 外す

重要：
- **取り外したスナップピン、平座金は失くさないように保管してください。**

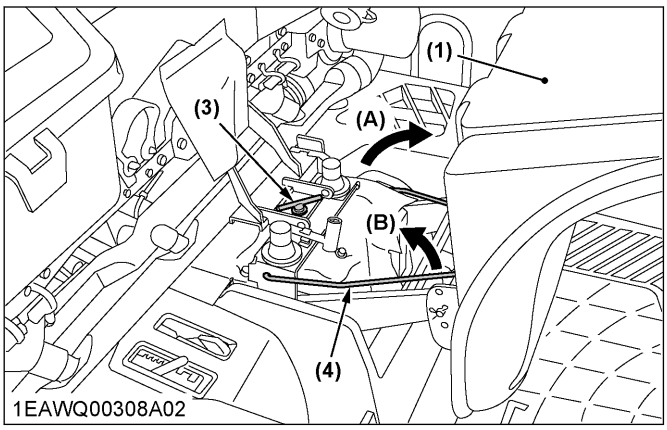
4. 苗取り量調節レバーをいちばん上の**［最多］**位置にします。

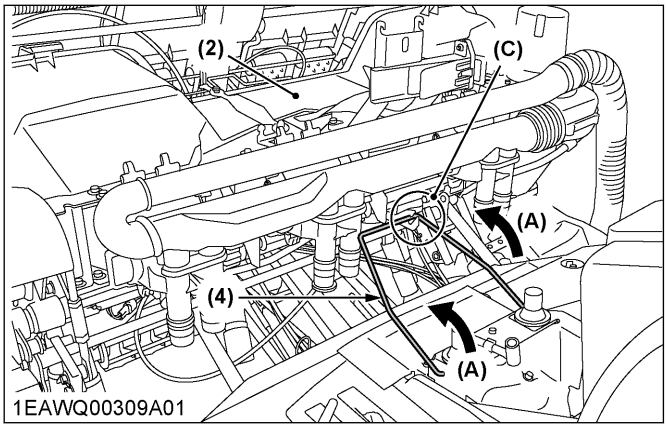
X 部拡大図



(1) 施肥駆動ロッド
(2) スナップピン
(3) 平座金（2 個）
(A) 外す

5. 運転席を前方に倒します。
6. T 字ボルトを取り外したあと、ホッパ部を後部へ倒します。
7. 運転席下のスタンドを持上げたあと、後方に倒してフック金具に掛けてホッパ部の落下防止を行います。





(1) 運転席（シート）
(2) ホッパ部
(3) T 字ボルト
(4) スタンド
(A) 倒す
(B) 持上げる
(C) スタンドをフック金具に掛ける

補足：
- **ホッパ部を開いたとき、スタンドをフック金具に確実に掛けてください。**
- **取り外した T 字ボルトは失くさないように注意してください。**

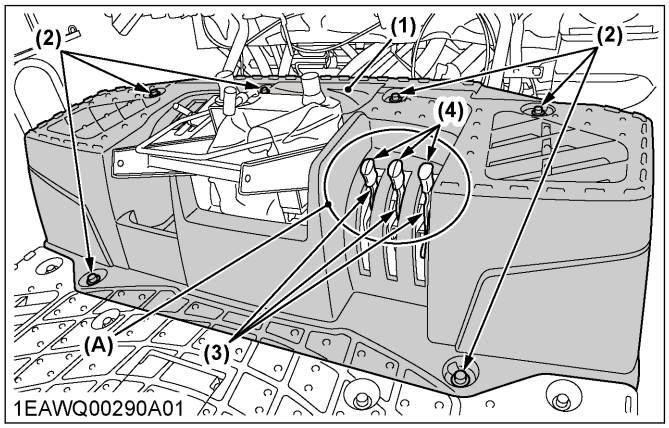
閉じかた
開きかたと逆の手順でホッパ部を閉じます。

補足：
- **ホッパ部を閉じるとき、ホッパ部との間に手が挟まれないように注意してください。**
- **ホッパ部を閉じる前にスタンドをフック金具から外して元の収納位置に確実に戻してください。**

5. フェンダーの脱着

取外しかた
1. 運転席（シート）を取り外します。（98 ページ参照）
2. ホッパ部を開きます。**［R 仕様］**（98 ページ参照）
3. ボルトを取り外してフェンダーを取り外します。

※イラストは［5］



(1) フェンダー
(2) ボルト
(3) あぜぎわクラッチレバー
(4) グリップ
(A) あぜぎわクラッチレバーのグリップの引っ掛かりに注意

補足：

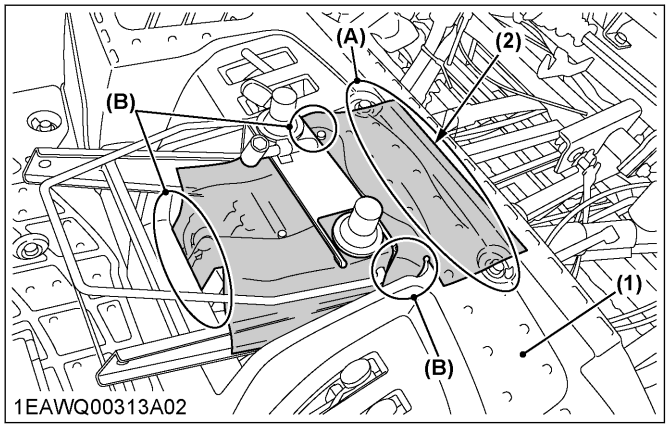
- **フェンダーを取り外すとき、フェンダーのガイドとあぜぎわクラッチレバーのグリップの引っ掛かりに注意してください。**

取付けかた

取外しかたと逆の手順でフェンダーを取り付けます。

補足：

- **カバーは運転席下への肥料侵入防止のため、フェンダーを取り外す前の状態の通りに正しく覆ってください。［R 仕様］**

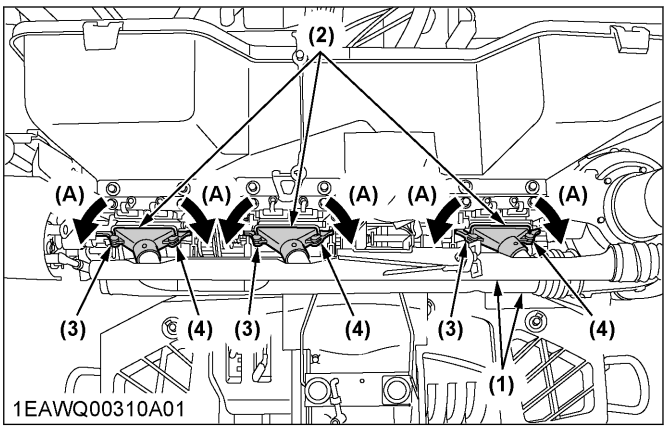


(1) フェンダー
(2) カバー
(A) カバーをフェンダーの上に広げる
(B) カバーをフェンダー内側に収納する

6. ロールとブラシの脱着［R 仕様］

取外しかた

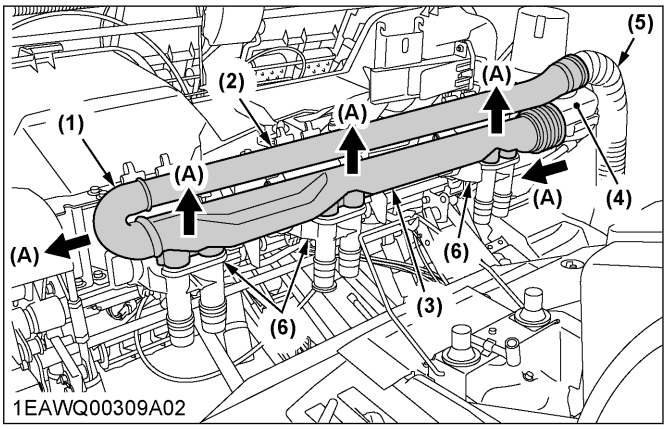
1. ホッパ部を開きます。(98 ページ参照)
2. 残肥排出ダクトに接続している残肥排出ブーツの各残肥排出ブーツロックレバー引き、ロックを解除します。



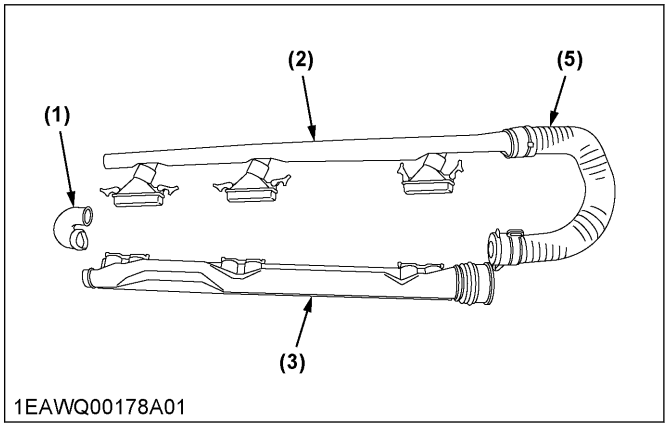
(1) 残肥排出ダクト
(2) 残肥排出ブーツ
(3) 残肥排出ブーツロックレバー右
(4) 残肥排出ブーツロックレバー左
(A) 引く（解除）

3. 残肥排出ダクトの施肥機取付け側とブロワ取付け側を接続している U 字ダクトを取外します。このとき、残肥排出ダクトの施肥機取付け側を残肥排出ホースと共に外します。
4. 残肥排出ダクトのブロワ取付け側をブロワから外しながら、各ロートから外してブロワ取付け側のダクトを取外します。

※イラストは［5］

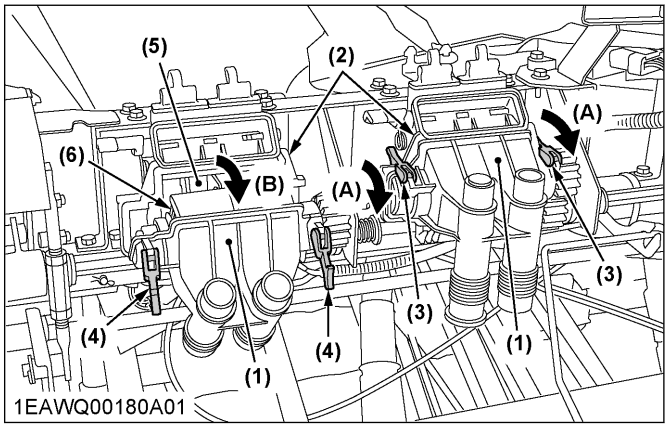


※イラストは取外した各ダクト

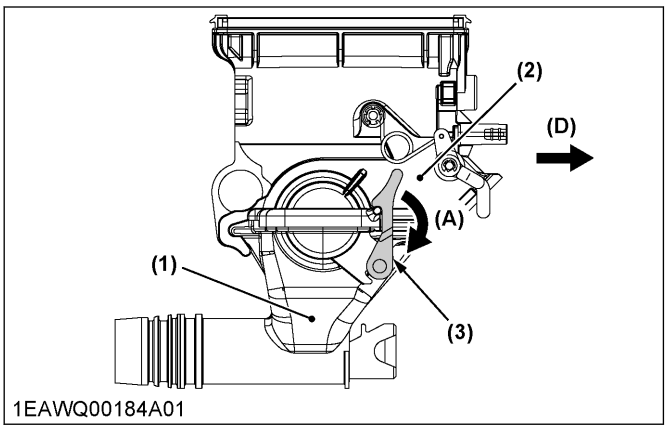


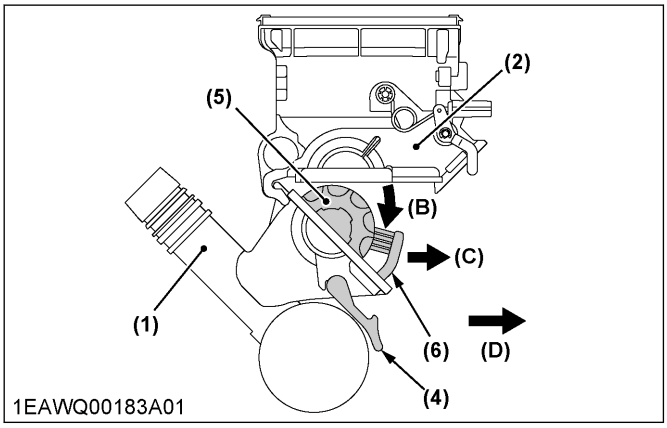
(1) U字ダクト
(2) 残肥排出ダクト（施肥機取付け側）
(3) 残肥排出ダクト（ブロワ取付け側）
(4) ブロワ
(5) 残肥排出ホース
(6) ロート
(A) 取外す

5. 各ロートとロールケースを固定している各ロートロックレバー（[4]は左、右 4 箇所、[6]は左、右 6 箇所）を引き、ロックを解除します。
6. ロートを傾けて、ブラシ及びロールを取出します。

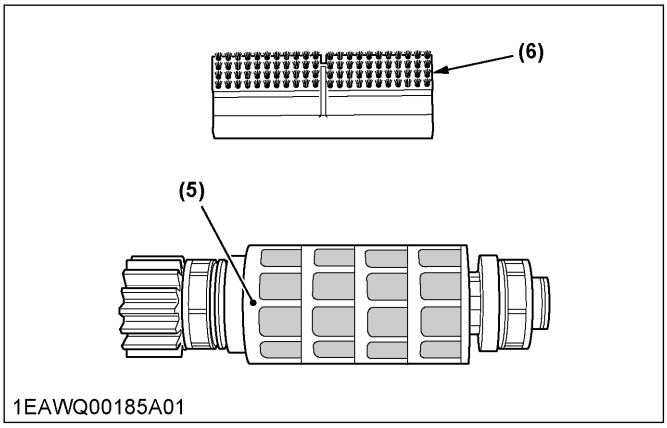


(1) ロート
(2) ロールケース
(3) ロートロックレバー（ロック状態）
(4) ロートロックレバー（ロック解除状態）
(5) ロール
(6) ブラシ
(A) 引く（解除）
(B) 傾ける





※イラストは［2 条用］



(1) ロート
(2) ロールケース
(3) ロートロックレバー（ロック状態）
(4) ロートロックレバー（ロック解除状態）
(5) ロール
(6) ブラシ
(A) 引く（解除）
(B) 傾ける
(C) 外す
(D) 機体前方

取付けかた

1. 取外しかたと逆の手順で取付けてください。

補足：

- **各ロール、ブラシを取付けるときは、必ずそれぞれ取外したところへ取付けてください。また、[5]の中央のロールを取付けるときは、1 条用と 2 条用のロールに注意してください。**

- **ロールを取付けるとき、ギヤがかみ合わずロールケースがロックできないときは、ロールを少し動かしてギヤをかみ合わせてください。**
- **各ダクトを取付けるときは、確実に元通りに取付けてください。**
- **ホッパ部を閉じる前にスタンドをフック金具から外して元の収納位置に確実に戻してください。**
- **施肥駆動ロッドを取付けるとき、平座金及びスナップピンは確実に取付けてください。**

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように、各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

⚠ 警告

- **エンジンを必ず止めてください。**
- **取外したり、オープンした回転部のカバー類は必ず取付けてください。回転部に衣服などが巻込まれてケガをするおそれがあります。**
- **植付部を上げた状態で作業するときは、油圧ロックレバーで下降防止をしてください。さらに枕木などを使用して落下防止を行なってください。**
- **空運転するときには必ず植付部を上昇させてください。**
- **オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。**
- **バッテリ、マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので、取除いてください。**
- **清掃を行なうときは、手袋などの保護具を着用してください。部品の鋭利な部分に素手で触るとケガをするおそれがあります。**
- **植付爪の爪先には注意してください。**

1. 各部の掃除

一日の作業が終わったあとは、各部の泥やごみ、施肥部**［R 仕様］**の掃除を必ず行ってください。

重要：

- **ボンネット内部や運転席下部の電装品には水を掛けないでください。故障の原因となります。**
- **取り外したボルト、ナットは、必ず締付けてください。**
- **肥料には錆を発生させる成分が含まれているため、1 日の作業が終わったあとは肥料を排出して水洗いをじゅうぶん行ってください。特に施肥部、植付フレーム、リンク支点、植付ケースの各周辺部、ステップの締結ボルト周りなど肥料がたまりやすい箇所は必ず行ってください。**

1.1 施肥部［R 仕様］

重要：

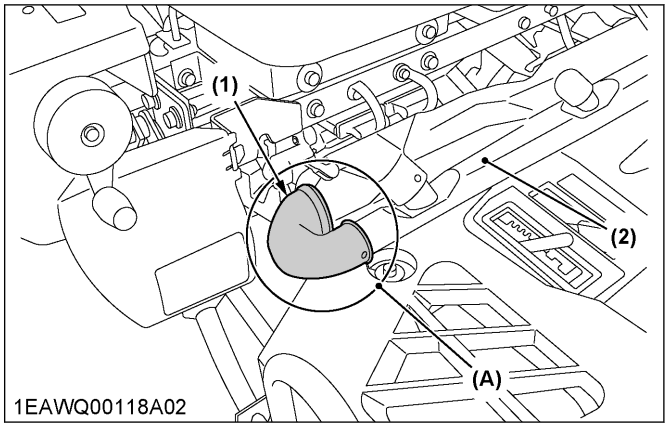
- **条止めシャッタに肥料が付着した状態で長時間放置すると錆が発生したりして破損するおそれがありますのでロールケース内の肥料は必ず排出し、掃除を行なってください。**
- **水洗い後すぐに作業しないでください。詰まりや施肥異常の原因になります。**
- **施肥部を高圧水で洗浄しないでください。ゴム部のすき間から水が入り、肥料詰まりの原因になります。**
- **条止めシャッタを差込んだ状態で水洗いの洗浄をしないでください。すき間から水が侵入し、肥料詰まりの原因になります。**

1. ホッパ内、ロールケース内のロールやブラシ、ロートの肥料を取除き、湿っているときは、乾いた布などでふき取ってください。

2. ホッパ、ロールケース、ロート内部を水洗いするときは必ずロートを開き、ロール、ブラシを取外してブロワ内に水が入らないようにしてください。

   重要：
   - **ブロワ内に水が入ると、モータに錆が発生し故障するおそれがあります。**

   ［水洗いのしかた］
   a. ロートを開き（下側に傾ける）ます。（100 ページ参照）
   b. 水が入り込まないようにビニールなどでU字ダクトの入口を覆います。
   c. 水洗いをします。



(1) U字ダクト
(2) ダクト
(A) 水が入り込まないようにビニールなどで入り口を覆う

   d. 水洗い後は施肥部（ホッパ、ロールケース内のロール、ブラシ、ダクト）をよく乾燥させてください。

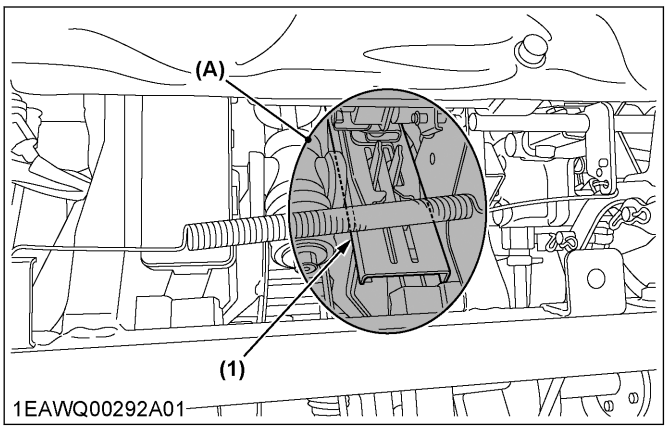
   重要：
   - **乾燥させないと肥料が残り固着して、施肥ムラや詰まりの原因となります。**

   補足：
   - **中央部のロートは、肥料の粉が特にたまりやすいので必ず掃除してください。また、水洗いを行なったときは、ロート、ブラシを必ず乾燥させてください。**

3. ブラシは毛の間にはさまった肥料を取除き、お湯で洗ったあと、水分をふき取り乾燥させてください。

   重要：
   - **直接太陽光があたらないようにしてください。ブラシが変形するおそれがあります。**

4. 運転席（シート）下側にあるマーカロック用ブラケットの上に肥料が溜まっている場合は、肥料を取除いてください。
   a. 運転席（シート）を取外します。（98 ページ参照）
   b. ホッパ部を開きます。（98 ページ参照）
   c. フェンダーを取外します。（99 ページ参照）



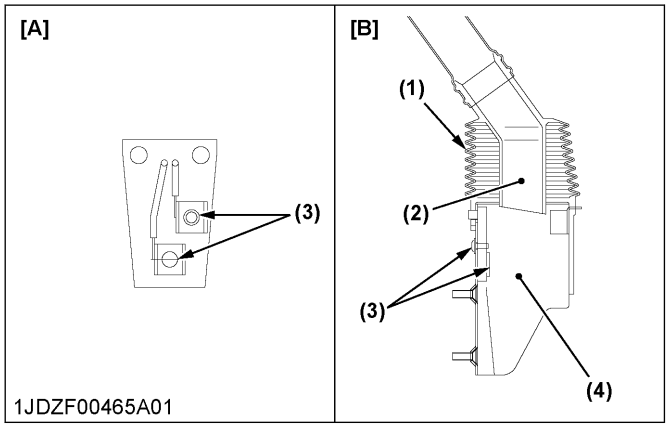
(1) マーカロック用ブラケット　*(A)* 肥料を取除く

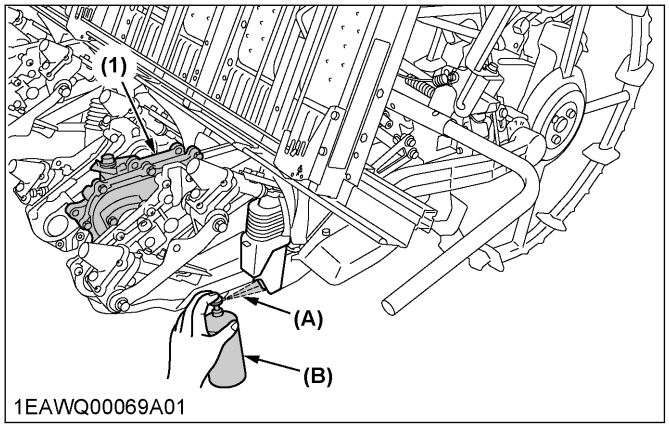
   d. 肥料を取除いたあと、回動部にグリースを塗布し、フェンダーおよび運転席（シート）を取付けてホッパ部を閉じます。

5. 作溝器や詰まりセンサ部の泥や水はよく取除いてください。

補足：

- **洗剤の空容器などを利用して水を入れ、電極部分などに付着した肥料を洗い流してください。（ホース内はぬらさないこと）**
  湿った肥料が電極に付着すると電通してブザーとマスコットランプで知らせます。





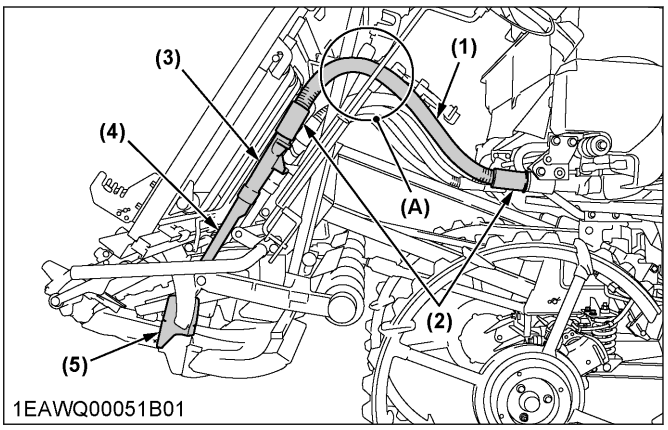
(1) ジャバラ
(2) 施肥ホース
(3) 電極
(4) 作溝器
(5) 植付ケース
[A] 正面
[B] 側面
(A) 洗い流す
(B) 洗剤の空容器などを利用

- **ホース内に肥料が付着している場合は、取り除いてください。**

6. 各パイプ（シタ）の掃除をするときは、エア抜き（パイプ）、パイプ（シタ）、ジャバラをセットした状態で外してください。掃除が終わったあとは、必ず取付けてください。

重要：

- **エア抜き（パイプ）、パイプ（シタ）、ジャバラを分解しないでください。破損するおそれがあります。**



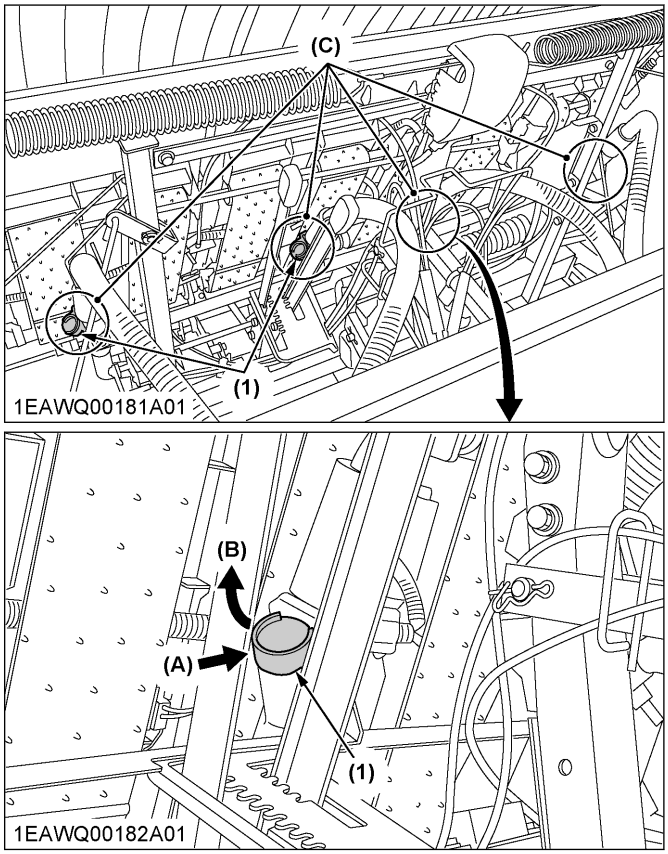
(1) ホース
(2) ホース継ぎ手
(3) エア抜き（パイプ）
(4) パイプ（シタ）
(5) ジャバラ
(A) 湾曲部

補足：

- **各ホースを取付けるときは、湾曲部を上側にして取付けてください。**
- **各ホース、パイプを取付けるときは、取外したところに必ず取付けてください。また、取付けかたが分からないときは、ご購入先に連絡してください。**

7. エア抜きキャップ下側の出口に付着している肥料を取除いてください。(全条分)

補足：
- **キャップを奥に押してから開いてください。**

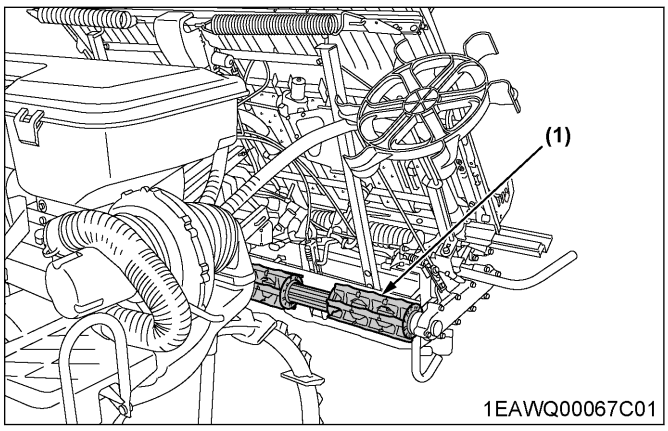


(1) エア抜きキャップ

(A) 押す
(B) 開く
(C) 付着した肥料を取り除く

1.2 整地ロータ

整地ロータに異物がはさまったり、巻付いているときは取除きます。



(1) 整地ロータ

2. 各部の注油

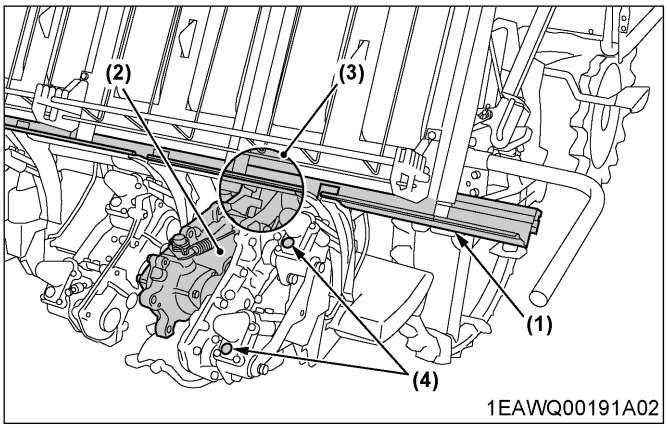
機体各部の掃除が終わったあとまたは、田植作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布または、注入を行ってください。グリースを注入するときは、グリースガンなどのグリースを注入する専用工具を使用してください。

重要：
- **長期格納前には機械各部の掃除を行い、泥や肥料を除去したあと、各部に注油やグリースの塗布を行ってください。**

補足：
- **注油やグリース塗布をする前に、水が付着しているときは、ふき取って行ってください。**

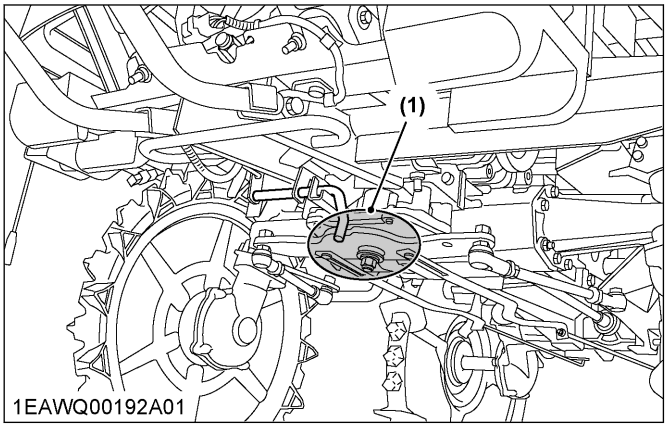
2.1 注油、グリース塗布、注入箇所

- **しゅう動板（グリース注入）**
- **植付ケースの金具（グリース塗布）**
- **植付アーム（グリース注入）**



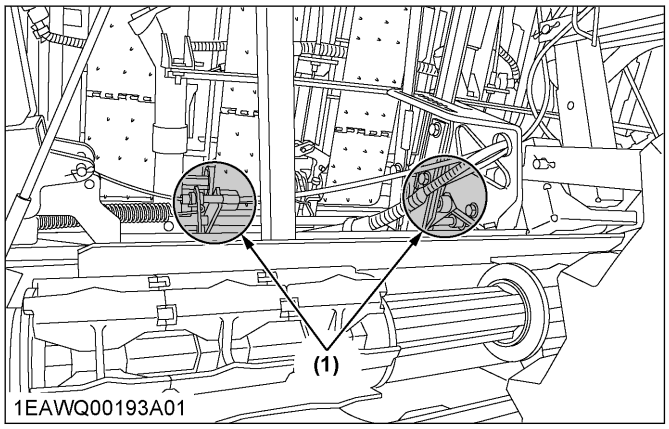
(1) しゅう動板
(2) 植付ケース
(3) 金具
(4) 植付アームグリース注入口

- **車輪ロック金具部（グリース塗布）**



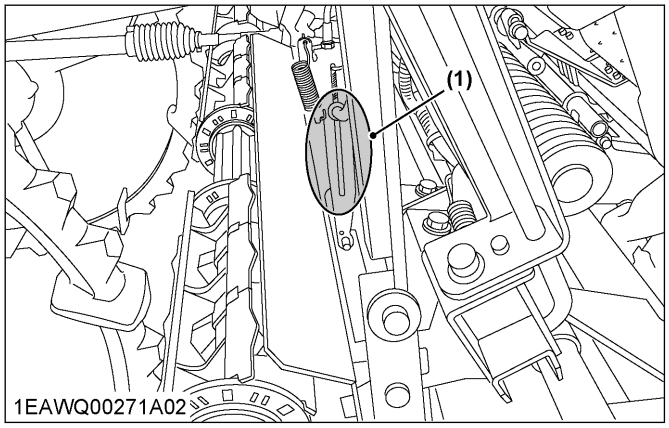
(A) 車輪ロック金具部

- **縦送りカムローラ部（グリース塗布）**

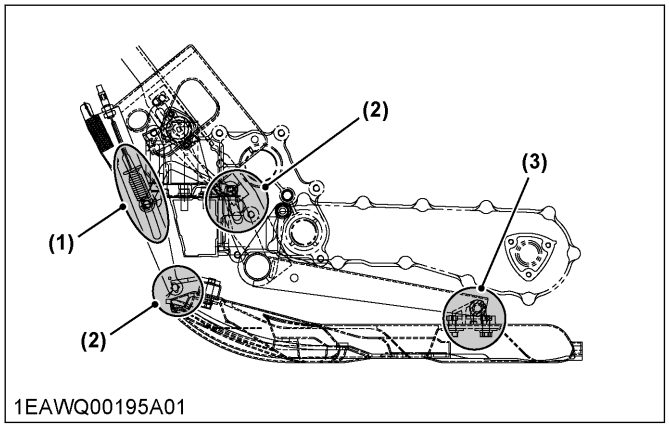


(1) 縦送りカムローラ

- **フロート支点部（注油）**
- **感知荷重センサロッド回動部・しゅう動部（グリース塗布）**
- **感知荷重センサガイド部（グリース塗布）**

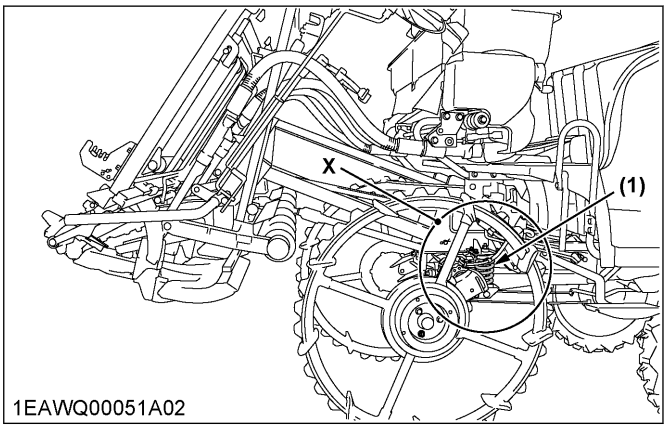


(1) 感知荷重センサガイド部（センサガイドの長穴部）



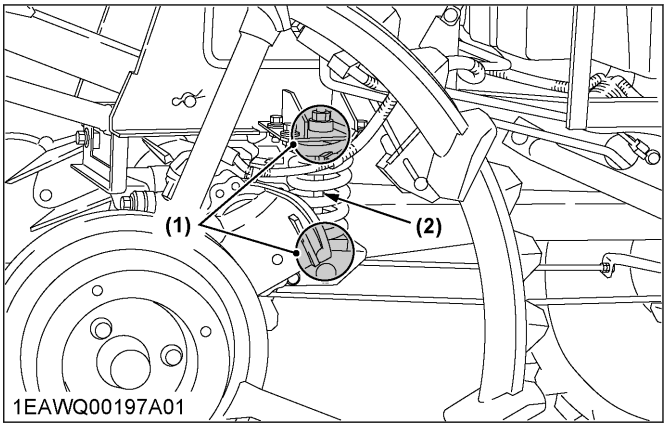
(1) 感知荷重センサガイド部（センサガイドの長穴部）
(2) 感知荷重センサロッド回動部・しゅう動部
(3) フロート支点部

- **後輪サスペンションロッド部（グリース塗布）**



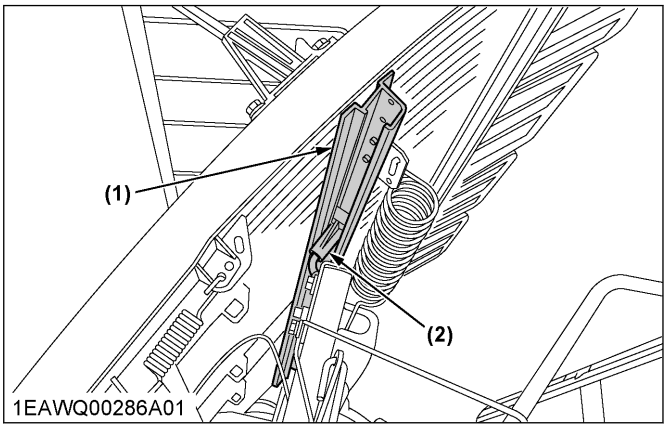
(1) サスペンション

X 部拡大図



(1) サスペンションロッド部
(2) サスペンションロッド

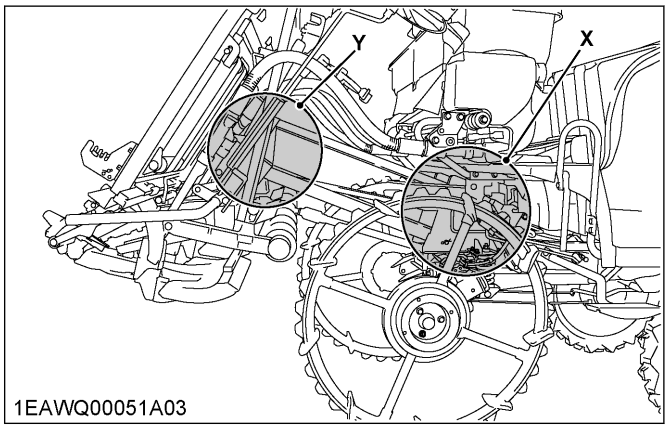
- **苗のせ台シュー・レール部（グリース塗布）**



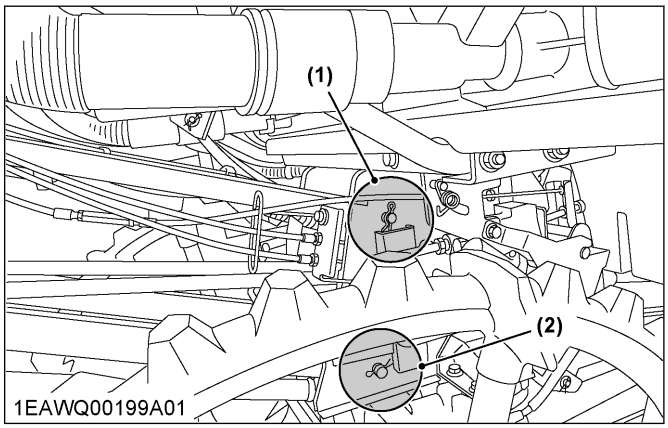
(1) レール部
(2) 苗のせ台シュー

- **油圧シリンダ支点部（グリース塗布）**
- **リンク支点部（グリース塗布・注入）**

・ **プロペラシャフト接続部（グリース塗布）**

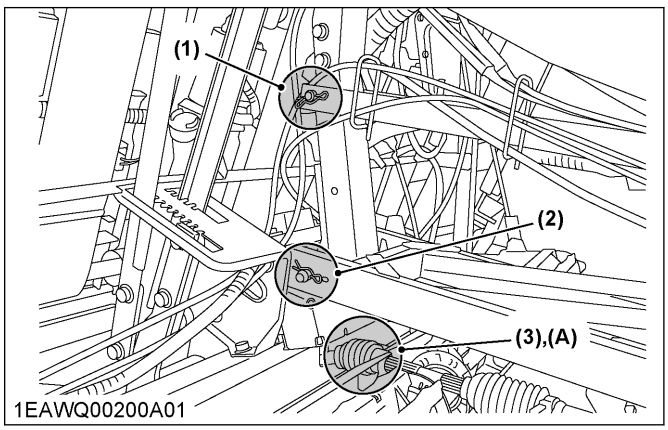


X 部拡大図



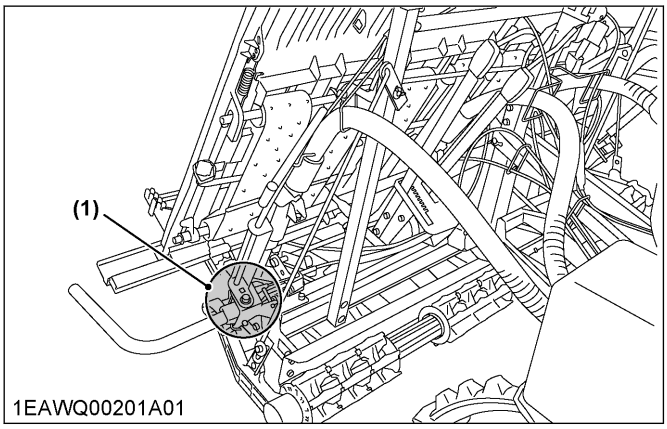
(1) 油圧シリンダ部
(2) リンク支点部

Y 部拡大図



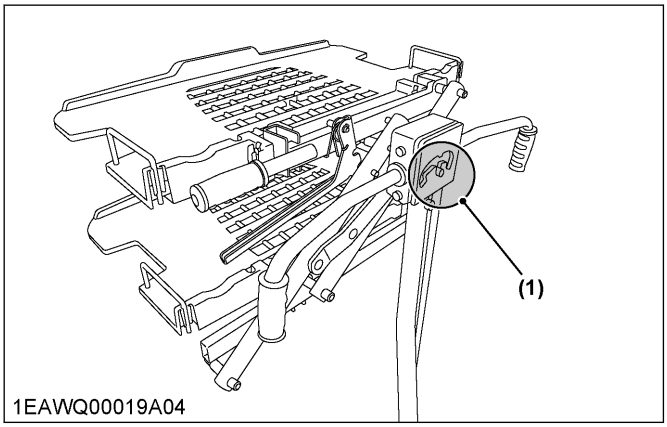
(1) 油圧シリンダ部
(2) リンク支点部
(3) プロペラシャフト接続部
(A) ジャバラのブーツを外す

・ **マーカロック部**



(1) マーカロック部

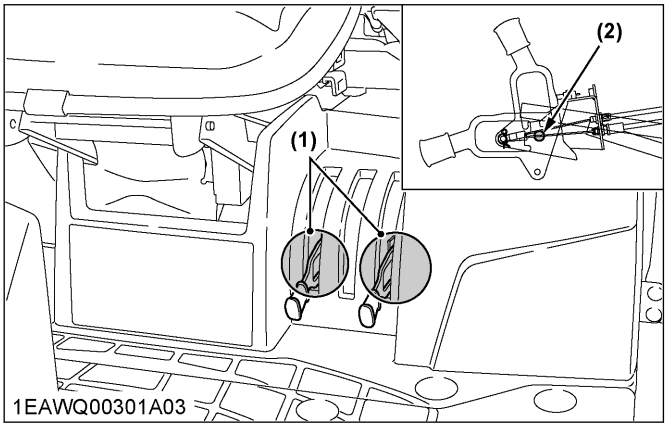
・ **予備苗のせ台スライドガイド部（グリース塗布）**



(1) 予備苗のせ台スライドガイド部

・ **あぜぎわクラッチレバー支点部（注油）**

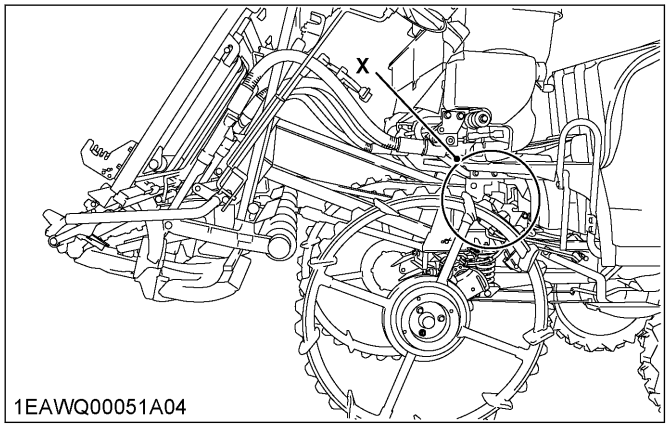
※イラストは［4］



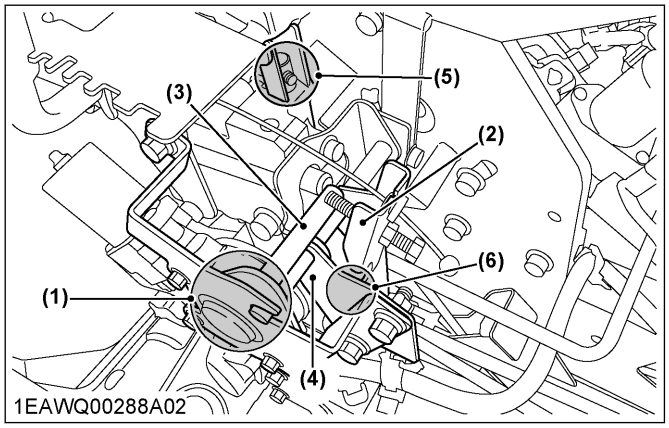
(1) あぜぎわクラッチレバー支点部
(2) 支点部

・ **植付モータカバー内側のしゅう動部**

- **コントロールバルブ感知レバー・植付け操作ギヤのしゅう動部（グリース塗布）**

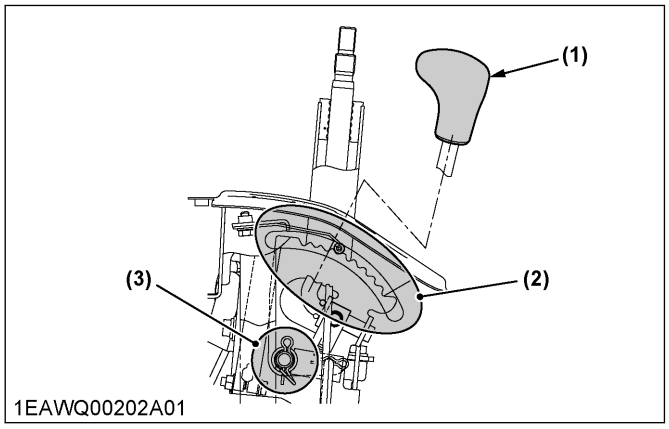


X 部拡大図



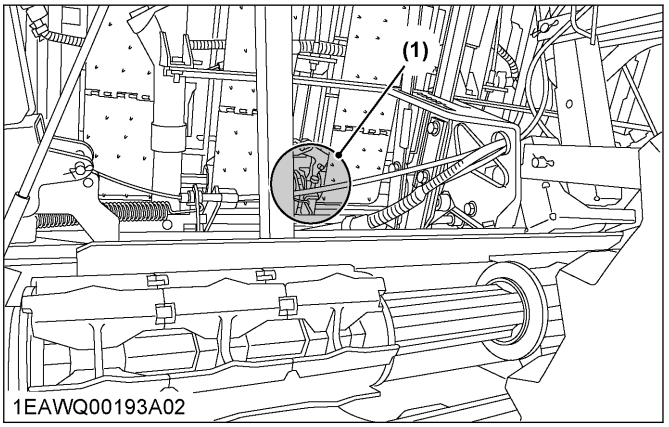
(1) しゅう動部（植付モータカバー内側）
(2) コントロールバルブ感知レバー
(3) 植付け操作ギヤ
(4) 支点金具
(5) コントロールバルブ油圧ロック軸
(6) しゅう動部

- **主変速レバー支点部・デテント部（グリース塗布）**



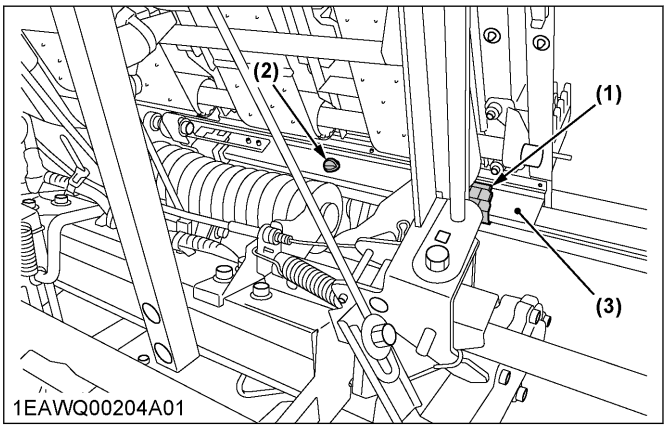
(1) 主変速レバー
(2) デテント部
(3) 支点部

- **苗のせ台縦送り各条クラッチ部（各条ごとにグリース塗布）**



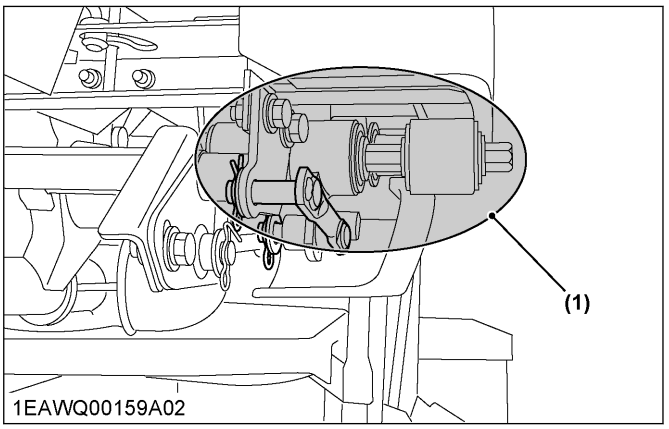
(1) 各条クラッチ部

- **苗のせ台受け・しゅう動板（グリース注入）**
- **苗のせ台下面しゅう動部（グリース注入）**



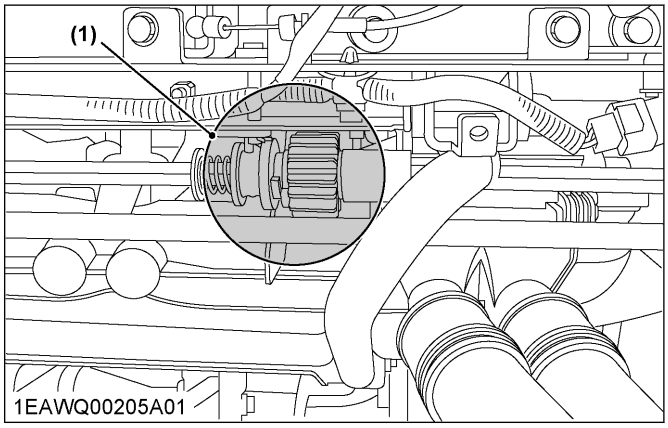
(1) 苗のせ台受け
(2) キャップ（グリース注入口）
(3) フレーム

- **ローラクラッチ（グリース塗布）[R 仕様]**



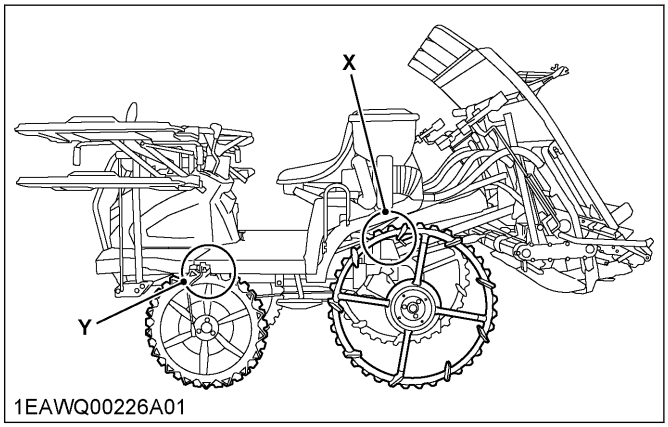
(1) ローラクラッチ

- **各条クラッチ部（グリース塗布）[R 仕様]**

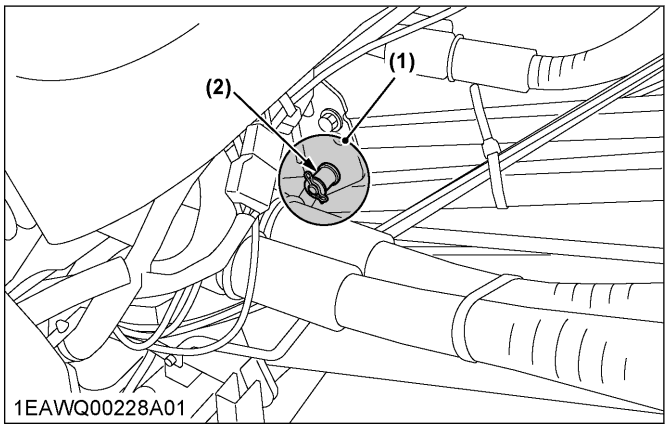


(1) 各条クラッチ部（各条ごと）

- **駆動ロッド部（グリース塗布）[R 仕様]**
- **リンクボール部（グリース塗布）[R 仕様]**

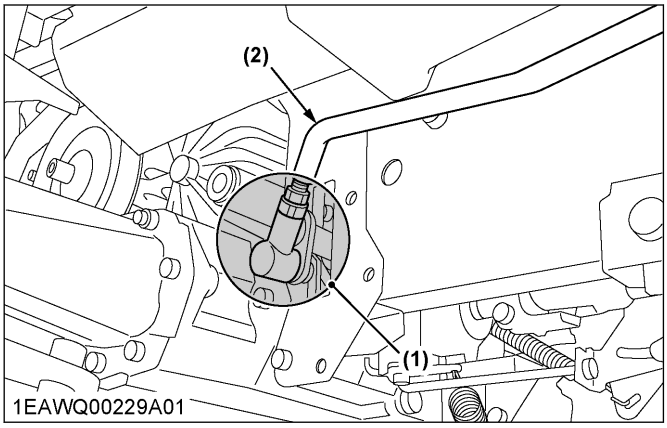


X 部拡大図



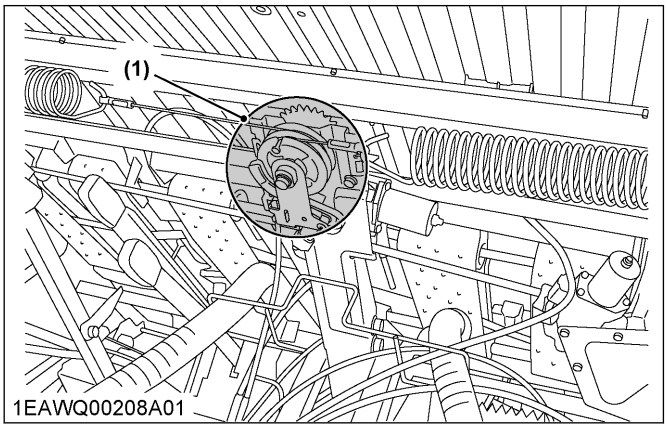
(1) 駆動ロッド上部
(2) 駆動ロッド

Y 部拡大図



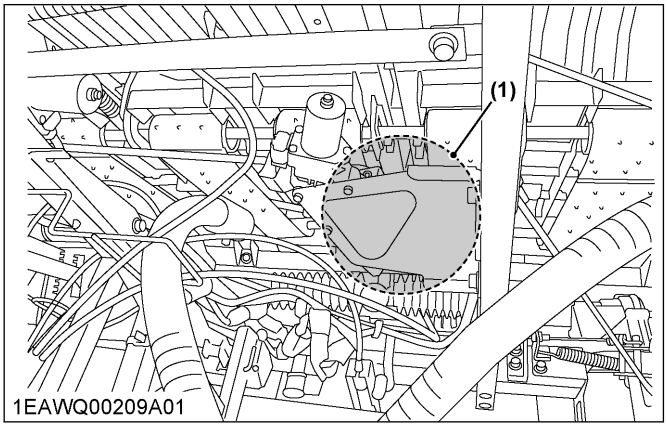
(1) リングボール部
(2) 駆動ロッド

- **モンローユニット部（グリース塗布）**



(1) モンローユニット部

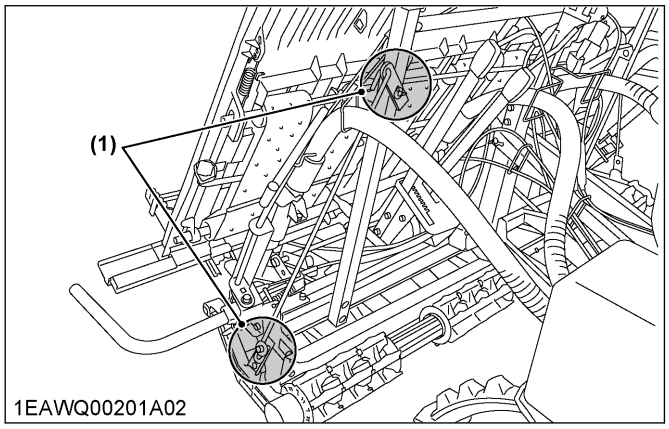
- **電動モータ部（グリース塗布）**



(1) 電動モータ部

- **ロッド支点部（グリース塗布）**

※イラストは右側



(1) ロッド支点部

定期点検

定期点検は、田植作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
田植機は、使用時間と使用状況に応じて劣化が進み、その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり、ひいては田植機の寿命を短くしてしまいます。
田植機の持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう、定期的に点検を行ないましょう。

⚠ 警告

- **各部の点検・調整・交換作業を行なうときは、平たんな場所で駐車ブレーキを掛けエンジンを必ず止めて、各レバー類を［切］位置にして、回転部を止めてから作業をしてください。**
- **取外した回転部のカバー類は、衣服などが巻込まれるおそれがありますので、点検後はカバー類を必ず取付けてから作業をしてください。**
- **燃料の補給中やバッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁。**
- **植付部を上げた状態で作業を行なうときは、油圧ロックレバーを［閉］位置にして植付部の下降防止を行なってください。**
- **ボンネットを開けるときは、内部がじゅうぶん冷え、ヤケドのおそれがないことを確認してください。**
- **オイルの補給中は火気厳禁。**
- **燃料やオイルがこぼれたときは、きれいにふき取ってください。**

補足：

- **専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は、購入先にご相談ください。**
- **点検・交換の時期は、使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目やすとして早めの点検をお願いします。**

1. 廃棄物の処理について

⚠ 警告

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは

- **機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。**
- **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**
- **廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。**

2. 洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

⚠ 注意

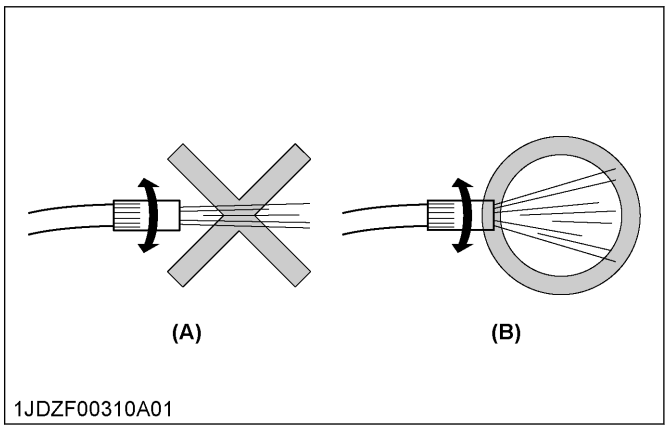
洗浄ノズルを拡散にし、2 m 以上離して洗車してください。
もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、

1. **電気配線部被覆の損傷・断線により、火災を引き起こすおそれがあります。**
2. **油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。**

補足：

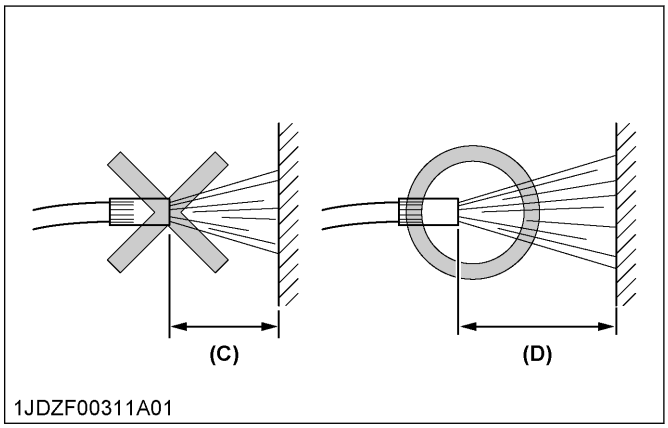
- **洗車のしかたが不適切な場合、以下のような機械の破損・損傷・故障の原因になります。**
  例）
  1. **シール・ラベルの剥がれ**
  2. **電装部品、エンジン等への浸入による故障**
  3. **タイヤ、オイルシール等のゴム類、樹脂部品、ガラス等の破損**
  4. **塗装、メッキ面の皮膜剥がれ**

直射洗車厳禁



(A) 直射
(B) 拡散

近距離洗車厳禁



(C) *2 m* 未満
(D) *2 m* 以上

3. 使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときは購入先に連絡してください。

- コントローラ（マイコン）や電気系統（自動制御関係）の機器や部品
- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
- 油圧系統
- 植付部の動力系統

4. 定期点検一覧表

○：点検と調整 △：交換 ▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目	点検・処置	点検・交換時期								対象型式・仕様	参照ページ
		作業前後	シーズン前後	50 時間	100 時間	150 時間	200 時間	1 年ごと	2 年ごと		
エンジン部											
燃料フィルタポット（燃料フィルタ）	掃除・洗浄		○							全型式	119 ☆
エアクリーナエレメント	掃除・交換	○：50 時間ごと（日常点検でも汚れがひどいときは都度掃除） △：汚れがひどいとき								全型式	120
点火プラグ	掃除				○					全型式	120 ☆
	すき間調整	○：200 時間ごと									
気化器（キャブレタ）	掃除	○：エンジン不調時など								全型式	☆
燃料タンクの燃料こしあみ	掃除		○							全型式	116
燃料パイプ	バンド締付け・交換	○							△	全型式	121 ☆
		（作業前後点検し、燃料もれしているときは締付けバンドの締付け又は、交換）									
走行・操作部											
ミッションオイルフィルタ	点検・掃除・交換	○：60 時間ごと（日常点検でも汚れがひどいときは都度掃除） △：汚れがひどいとき								全型式	123 ☆
ミッション駆動ベルト	交換	△：摩耗、被覆のはがれ、き裂やひび割れが発生したとき								全型式	121 ☆
タイヤ	点検・交換	○								全型式	124 ☆
		△：8 mm 以上摩耗したとき									
植付部											
植付爪	点検・交換	○								全型式	124
		△：3 mm 以上摩耗したとき（植付時に苗取りができないとき）									
押出し金具	点検・交換	○								全型式	124 ☆
		△：破損や変形がひどいとき（うき苗、ころび苗、ばらけ苗が発生）									
縦送りベルト	掃除・交換	○								全型式	☆
		△：破損や摩耗がひどいとき									
しゅう動板・苗のせ台受け	点検・交換	○								全型式	127 ☆
		△：1 mm 以上摩耗したとき									
各ワイヤ	調整・交換	○								全型式	☆
		△：破損時									
上限ロッククッション	点検・交換	○								全型式	☆
		△：破損しているときや摩耗量が大きいとき									
施肥部											
施肥ブラシ	点検・交換	○								**R 仕様**	127
		△：摩耗がひどいとき									
ホース	点検・交換	○								**R 仕様**	102
		△：破損時									
ロート・ロール	掃除	○								**R 仕様**	127
駆動部（ワンウエイ）	点検・交換	○								**R 仕様**	☆
		△：施肥量が極端に少なくなったとき									
電装部											
バッテリ	充電・交換	○：セルモータが回りにくい、ライトが暗いときなど								全型式	128
		△：バッテリ上り（セルモータが回らない）とき									
ワイヤハーネス・バッテリコード	点検・交換	○								全型式	132 ☆
		△：破損時									

○：点検と調整 △：交換 ▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目	点検・処置	点検・交換時期								対象型式・仕様	参照ページ
		作業前後	シーズン前後	50 時間	100 時間	150 時間	200 時間	1 年ごと	2 年ごと		
ヒューズ・スローブローヒューズ	交換	△：破損時（ヒューズ切れ）								全型式	132
ランプ（電球）	交換	△：破損時（球切れ）								全型式	133

- 参照ページに☆印のある整備項目の交換については、購入先に連絡又は、整備工場で行なってください。

補足：

- **上表の時間は目安です。機械の使用条件や使用環境などによって、消耗部品の調整や交換時期は異なります。**
- **使用時間については、主要諸元の作業能率を参照して確認してください。**

5. 給・注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	交換			
燃料	燃料タンク	給油	作業前又は、作業後	–	• 容量…約 11	自動車用無鉛ガソリン	116
オイル	エンジン	補給・交換		• 初回 …20 時間目 • 2 回目以降 …100 時間ごと	• 規定量 オイルゲージの**下限と上限の間** • 容量…約 1.0	三菱スーパーマルチ GD オイルまたは API 分類 SE 級以上	116
	ミッションケース	補給・交換	作業前又は、作業後	• 初回 …50 時間目または 3 年経過後 • 2 回目以降 …100 時間ごとまたは 3 年経過後	• 規定量 オイルゲージの**下限と上限の間** • 容量 …約 5.3［4］ …約 6.3［5］	指定オイル スーパー UDT-2	117
	後輪軸ケース	補給・交換	作業前又は、作業後	• 50 時間ごとまたは 3 年経過後	• 容量…約 1.2		118
グリース	植付アーム	補給	作業シーズン前、後及び 50 時間ごと	–	適量	指定グリース	105 ☆
	横送りコマのホルダ	補給	作業シーズン前、後	–	適量	指定グリース	
	しゅう動板						
	植付ケースの金具						
	車輪ロック金具部						
	横送りカムローラ部						
	フロート感知金具						
	リヤサスペンションロッド支点部						
	ローリングバネ部						
	苗のせ台シュー・レール部						
	油圧シリンダ支点部						
	リンク支点部						
	プロペラシャフト接続部						
	フロート支点部						
	マーカロック部						
	マーカ回動支点部						
	予備苗のせ台支点部						
	予備苗のせ台前後操作ハンドル部						
	テンションアーム支点部						
	あぜわきクラッチレバー支点部						
	主変速レバー支点部・デテント部						
	苗のせ台縦送り各条クラッチ部						
	苗のせ台受け・しゅう動板						

（次へ続く）

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	交換			
グリース	苗のせ台下面しゅう動部	補給	作業シーズン前、後	–	適量	指定グリース	105 ☆
	十字ポンパ各操作支点部						
	ローラクラッチ［R仕様］						
	樹脂ブッシュ［R仕様］						
	各条クラッチ部［R仕様］						
	モンローユニット部						
	コントロールバルブ感知レバー・植付け操作ギヤしゅう動部						
	電動モータ部						
	ロッド支点部						
	ブレーキペダル支点部						
	テンションプーリ支点部						

- 参照ページに☆印のある整備（分解作業）については、購入先に連絡してください。

重要：
各部への補給と交換
- **点検するときは、機械を平たんな場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。**
- **エンジンオイル量の点検は、エンジン停止後、5 分以上経過してから行なってください。**
- **ミッションケースは、使用開始から 50 時間に満たない場合でも、3 年経過後オイル交換をしてください。**
- **使用するオイル・グリースは、指定のオイル、グリースを使用してください。**
- **補給や交換の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。**

補足：
使用時間については、主要諸元の作業能率を参照して確認してください。

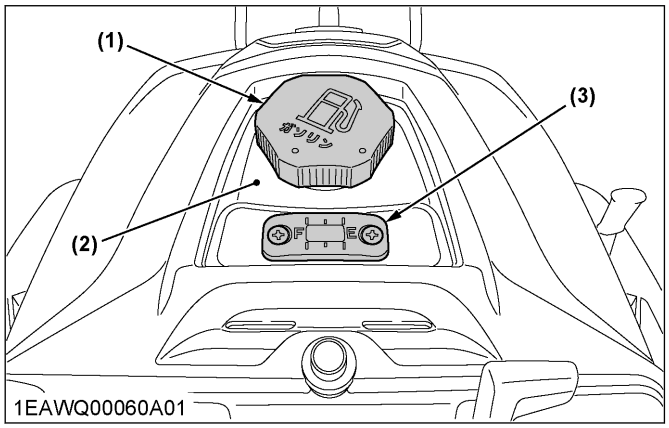
6. 燃料・オイルの点検・補給・交換

⚠ 警告
- **燃料やオイル補給中は火気厳禁です。**
- **エンジン停止直後は、エンジン周りや各部オイルが熱くなっているため、引火火災やヤケドをするおそれがあります。**
- **メンテナンスなどを行なうときは、エンジンやエンジンオイルがじゅうぶん冷えていることを確認してから、作業を行なってください。**

重要：
- **補給・交換を行なうときは、機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。**
- **廃油は使用しないでください。**
- **給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。**
- **使用するオイルは三菱農業機械純正油・グリースを推奨します。**
- **点検するときは機体を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示しません。**

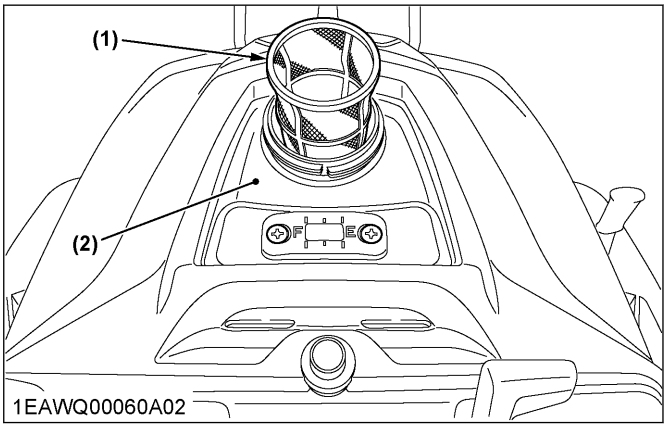
6.1 燃料の補給

燃料計の表示が**[E]**（空）になる前に早めに燃料を補給してください。



(1) 燃料キャップ（給油口）
(2) 燃料タンク
(3) 燃料計

重要：
- **燃料は、自動車用無鉛ガソリンを必ず使用してください。また、下記のような燃料は使用しないでください。エンジンがかからなかったり、エンジンの不調や故障の原因になります。**
  - **燃料タンク内に 1 ヵ月以上放置した燃料**
  - **樹脂製タンクに長期間保管した燃料**
  - **ゴミや水など異物の混ざった燃料**
  - **変色のひどい燃料**
  - **くさった古い燃料**
    （昨年使用した燃料はなるべく新しい燃料に交換してください。）
- **1 ヵ月エンジンを始動しないと、燃料は変質し、エンジントラブルの原因となります。**
- **給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。**



(1) 燃料こしあみ
(2) 燃料タンク

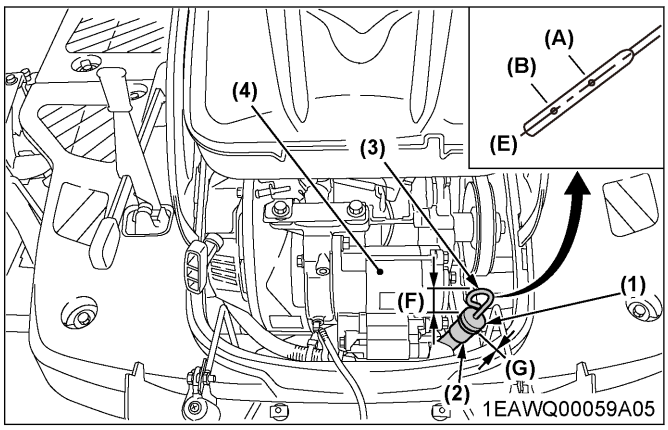
補足：
- **燃料の補給後は、燃料キャップを確実に取り付けてください。燃料キャップの締忘れや締付け不足があると、燃料キャップが脱落するおそれがあります。**

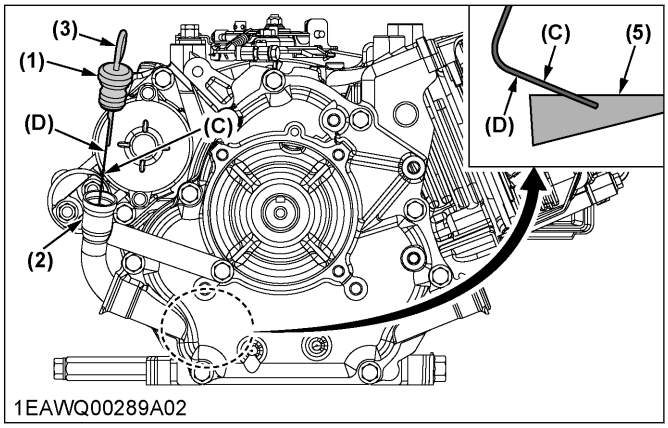
6.1.1 給油

燃料を給油するときは平たんな場所でエンジンを止め、燃料キャップを外してください。

6.2 エンジンオイルの点検・補給・交換

点検・補給
ボンネットを開いたあと、オイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込んでから抜き、ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。





(1) オイルゲージ
(2) 給油口
(3) 持ち手部
(4) セルモータ
(5) 油面

(A) 上限
(B) 下限
(C) 上面
(D) 下面
(E) 中心
(F) 平行に差込む
(G) すき間：*0*

重要：
- **オイルゲージを差込むとき、以下の内容に注意してください。誤った状態で差込むと、オイルゲージが給油口から抜けてオイル漏れやエンジントラブルが発生する原因になります。**
  - **ねじって差込まないこと。**
  - **オイルゲージ持ち手部を内側に向け、セルモータと平行状態の位置にする。**
  - **オイルゲージと給油口にすき間がない状態まで差込む。**

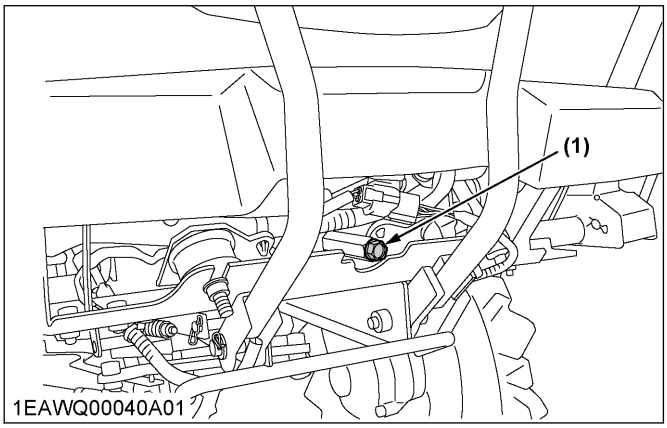
補足：
- **オイルゲージでオイル量を確認するときは、オイルゲージ上面の中心位置で確認してください。**
- **エンジンオイルが白く濁っている場合は、10～30分程度暖機運転を行ってください。白く濁る原因となるオイル内の水分がなくなり、オイルの濁りが取れやすい場合があります。**

交換

排油のしかた

⚠ 警告
- **マフラやエンジンオイルがじゅうぶん冷えてからオイルを排出してください。**

給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。



(1) 排油プラグ（排油口）

給油のしかた

排油プラグを締付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、オイルゲージを差込んでください。

重要：
- **指定以外のオイルを使用すると、出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗または劣化し、エンジントラブルの原因となります。**

オイルの種類	オイル量
三菱スーパーマルチ GD オイル	約 1.0 L

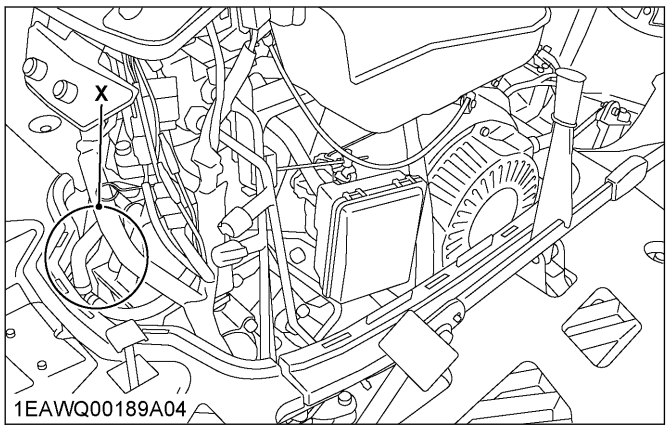
- **指定のオイルの入手が困難な場合は、API 分類 SE 級以上のオイルをお使いください。**

補足：
- **排油プラグを取外すと、排油プラグに取付けているガスケットが変形や損傷している場合があります。ガスケットが変形や損傷していると、オイル漏れの原因となるため、購入先に連絡して新しいガスケットに交換してください。**

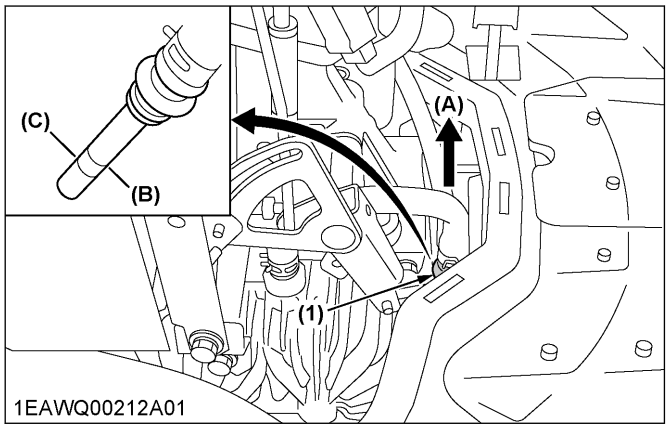
6.3 ミッションオイルの点検・補給・交換

点検・補給

植付部を下降させたあと、副変速レバーを**[圃場作業]**位置にします。そのあと、ボンネットを開けて固定し、リヤカバーを取外し、その中にあるオイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込み、いっぱいまで押込んでから抜き、ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。



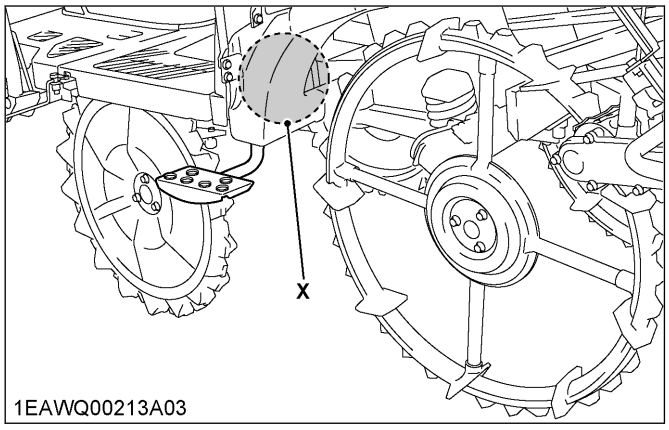
X 部拡大図



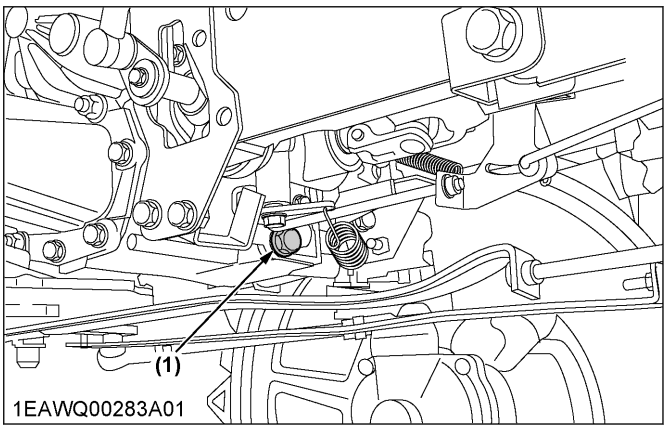
(1) オイルゲージ（給油口）
(A) 抜く
(B) 上限
(C) 下限

交換

排油のしかた
オイルゲージを外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。



X 部拡大図



(1) 排油プラグ（排油口）

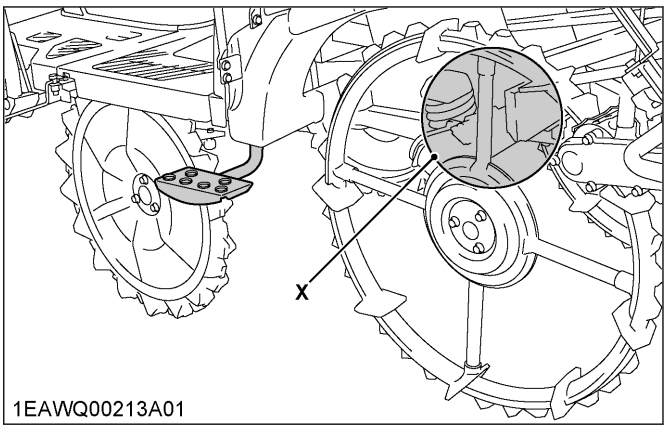
給油のしかた
排油プラグを締付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、オイルゲージを差込んでください。

オイルの種類	オイル量
指定オイル　スーパー UDT-2	約 5.3 L［4］ 約 6.3 L［5］

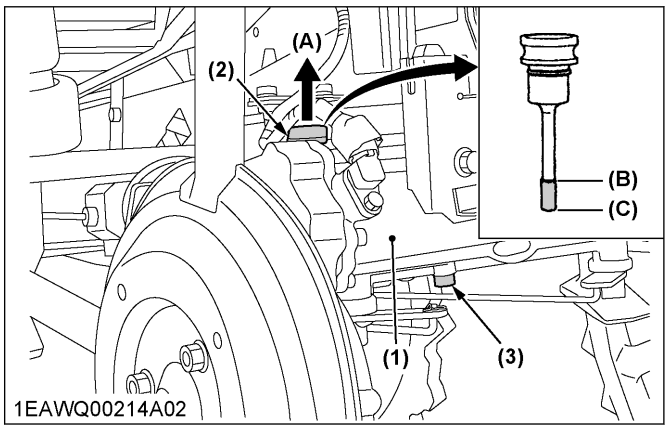
重要：
- **給油したあとエンジンを約 1 分程度回転させて再度点検を行い、不足しているときはオイルを追加補給してください。**

6.4 後車軸ケースオイルの点検、補給、交換

点検・補給
オイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。もう一度差込んでから抜き、ゲージにオイルが付着しているか点検します。ゲージにオイルが付着していないときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。



X 部拡大図



(1) 後輪軸ケース
(2) オイルゲージ（給油口）
(3) 排油プラグ（排油口）
(A) 抜く
(B) 上限
(C) 下限

交換

排油のしかた
オイルゲージを外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。

給油のしかた
排油プラグを締付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、オイルゲージを差込んで、先端にオイルが付着しているか点検してください。

オイルの種類	オイル容量
指定オイル　スーパー UDT-2	約 1.2 L

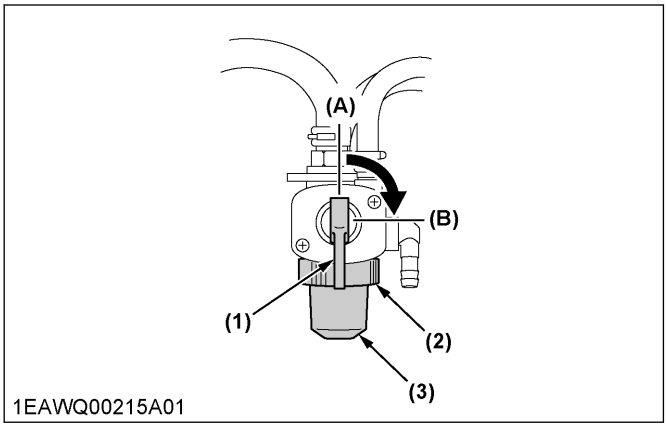
7. 燃料フィルタポットの点検・掃除

掃除は燃料を給油する前に行ってください。

⚠ 警告
- **点検・掃除中は火気厳禁です。**

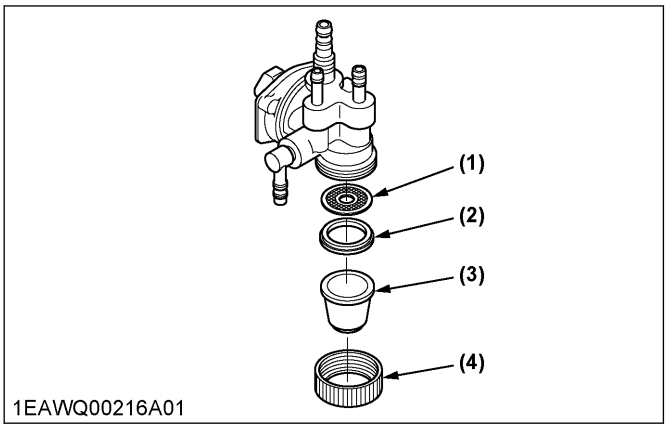
重要：
- **燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると、フィルタのエレメントの目詰まりが早くなったり、フィルタ内に水が溜まりやすくなります。**
- **フィルタポット下部に水が溜まっているときは、早目に掃除または交換してください。**

点検・掃除
1. 燃料コックレバーを**［運転］（開）**位置から**［停止］（閉）**位置にします。



(1) 燃料コックレバー
(2) リングネジ
(3) フィルタポット
(A) ［運転］（開）
(B) ［停止］（閉）

2. リングネジをゆるめてポットを外します。
3. エレメントを取り出してガソリンで洗浄（すすぎ洗い）をします。このとき、汚れのひどい場合は交換してください。



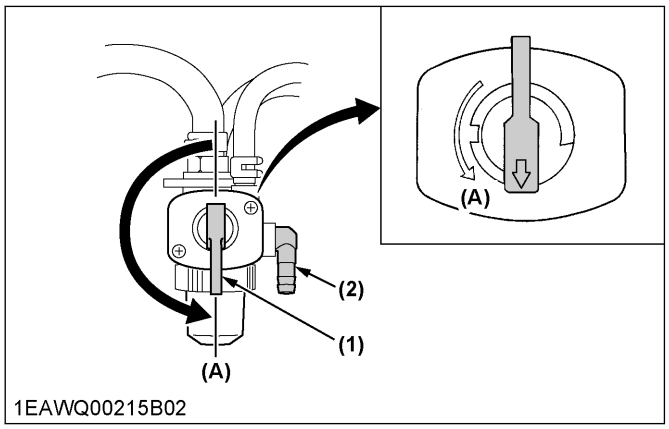
(1) エレメント
(2) パッキン
(3) フィルタポット
(4) リングネジ

重要：
- **エレメントやパッキンは傷つけないようにしてください。また、失くさないでください。**
- **汚れ（目詰まり）がひどい場合は、じゅうぶん洗浄を行わないと短時間で目詰まりします。**

4. パッキンやエレメントにゴミが付着しないように元通りに組み付けます。

重要：
- **ゴミが燃料内に混入すると、故障の原因となります。**

補足：
- **長期格納時、燃料コックレバーを［排出］位置にすると、ドレーンからキャブレタ内と燃料タンク内の燃料を排出します。**

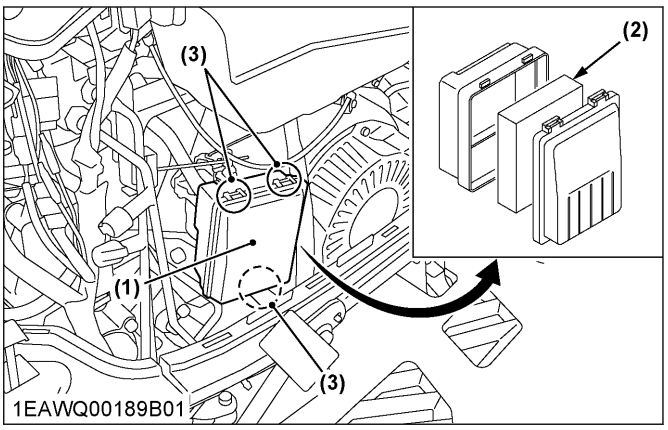


(1) 燃料コックレバー *(A)* ［排出］
(2) ドレーン

8. エアクリーナエレメントの点検・掃除・交換

重要：
- **エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗または劣化し、エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行ってください。**

点検・掃除
1. ボンネットを開いたあと、下側のフックを外して、エアクリーナのカバーを取り外します。
2. エレメント（スポンジ）を取外し、灯油または、家庭用洗剤で洗浄（もみ洗い）をします。このとき、汚れや破損のひどい場合は交換してください。
3. エレメント（スポンジ）を乾燥させます。
4. エンジンオイルに浸してかたく絞ってから取り付けたあと、エアクリーナのカバーを取り付けます。



(1) エアクリーナカバー
(2) エレメント
(3) フック

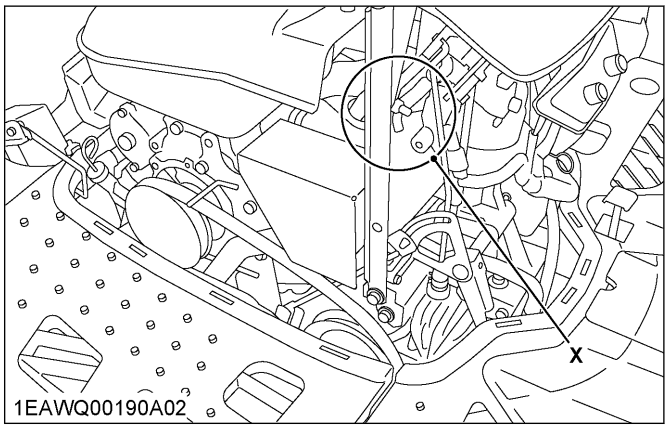
9. 点火プラグの点検・掃除・調整

⚠ 警告
- **点火プラグの取外しは、エンジンが冷えた状態で行ってください。**

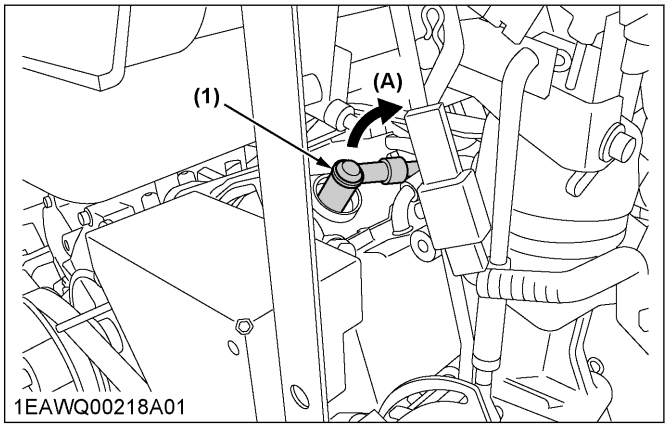
重要：
- **点火プラグの電極が溶けて、すき間が広がったり、カーボンが付着したり、碍子（ガイシ）部が損傷するとエンジンの不調の原因となります。**

点検・掃除・調整
1. ボンネットを開いたあと、リヤカバーを外します。（97 ページ参照）
2. 点火プラグのキャップを外します。

3. ボックススパナでプラグを取り外します。

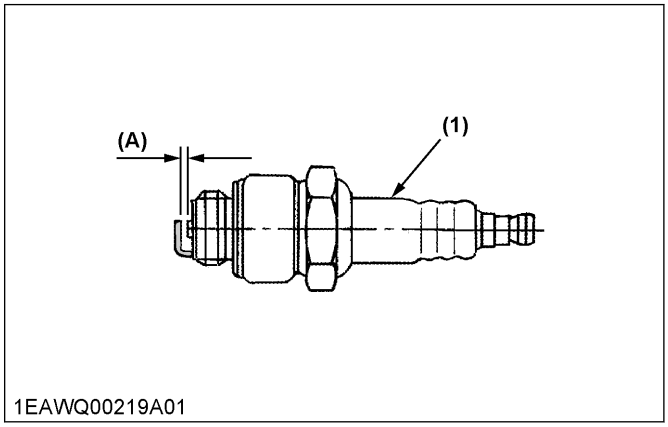


X 部拡大図



(1) 点火プラグキャップ　　*(A)* 外す

4. ワイヤブラシで電極の汚れやカーボンを落として掃除したあと、電極のすき間を確認し、異常があれば、すき間調整または、点火プラグの交換を行います。すき間は、0.6～0.7 mm に調整します。



(1) 点火プラグ　　*(A)* すき間：*0.6～0.7 mm*

補足：
- **点火プラグを交換するときは、必ず同じ型式のものを使用してください。異なったプラグを使用すると、失火や始動不良を起こすおそれがあります。**

点火プラグ型式	数量	型式
BPR4ES (NGK)	1	全型式

10. パイプ・ホース類の点検・交換

⚠ 警告
- **燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起こし火災の原因となります。**

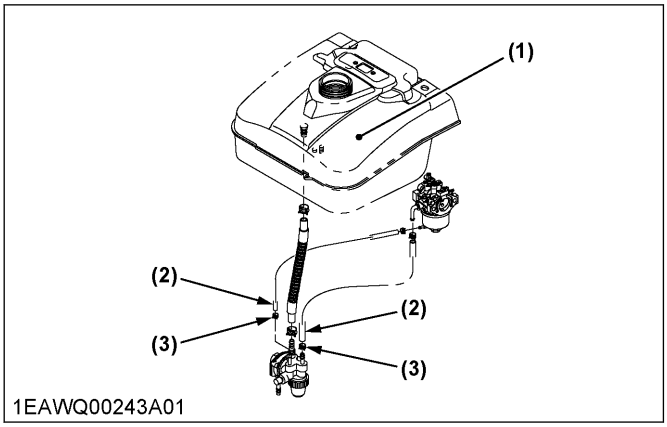
点検
エンジン、燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し、油もれや水もれが発生しているときは、パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重要：
- **油もれや水もれをしていなくても、2 年経過しているときや劣化の激しい場合は交換してください。**

交換
交換時の取付け不良やバンドの締付忘れ、締付不足がないよう取り付けてください。

重要：
- **交換時にパイプなどにゴミが入らないように注意してください。**

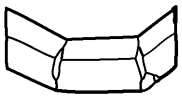
補足：
- **交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。**
- **燃料パイプ**



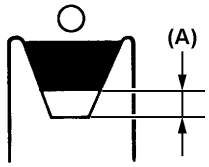
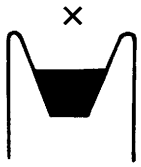
(1) 燃料タンク
(2) 燃料パイプ
(3) 各バンド

11. ミッション駆動ベルトの点検

ベルトを点検するときは、下記の事項をよく確認してください。
1. ベルトの焼付きや摩耗、被覆のはがれ、き裂やひび割れ

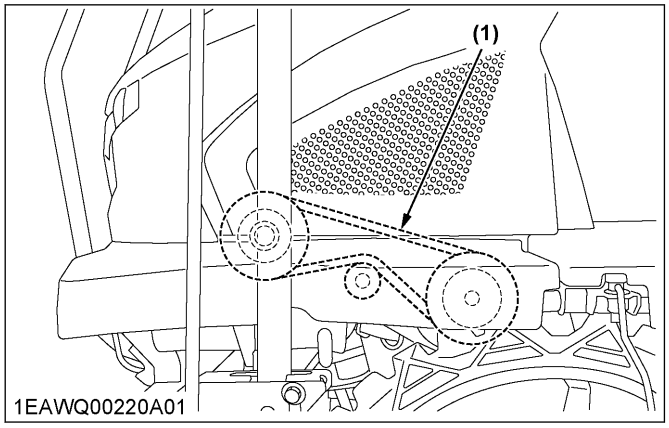
焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
 1GAGG00441A01	 1GAGG00442A01	 1GAGG00443A01

2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間

 1GAGG00444A01	 1GAGG00445A01

(A) すき間

上記の事項を確認したとき、異常があれば購入先へ連絡してベルト交換を行ってください。



(1) ミッション駆動ベルト

重要：

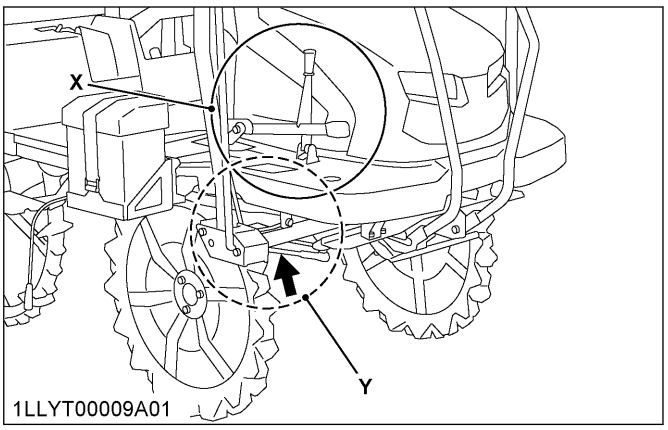
- **ベルトは必ず三菱指定のものを使用してください。**

12. ブレーキペダルの点検、調整

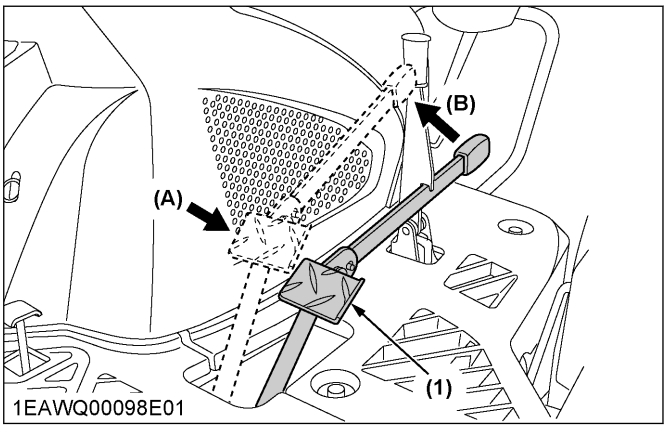
点検・調整を行なうときは、ボンネット及び左右のリヤカバーを取外してください。

点検・調整

1. ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキを解除します。
2. ブレーキロッドとテンションアームのすき間を測定します。

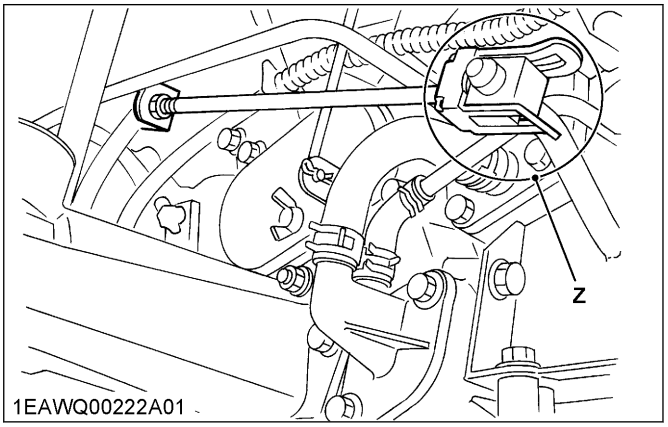


X 部拡大図



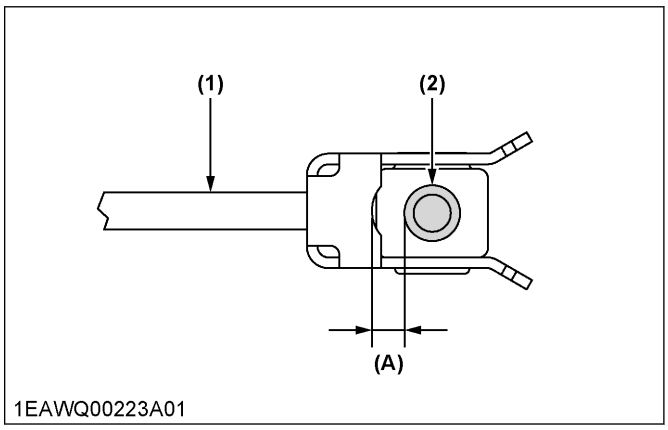
(1) ブレーキペダル
(A) 踏み込む
(B) 解除

Y 部拡大図



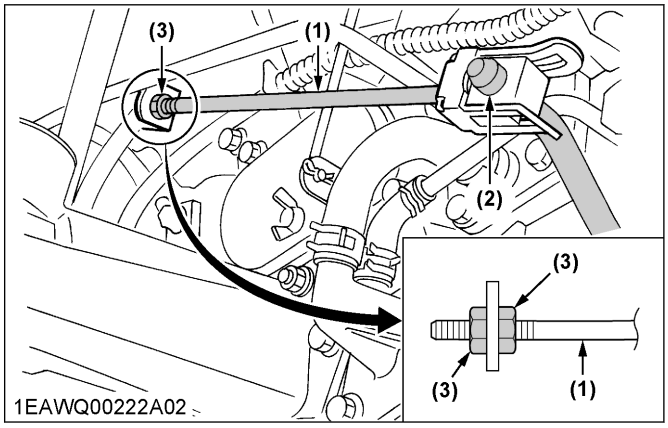
(1) ブレーキロッド

Z 部拡大図



(1) ブレーキロッド *(A)* すき間：*4～6 mm*
(2) テンションアーム

3. すき間が規定値 4～6 mm の範囲から外れているときは、すき間の調整を行ないます。
   a. 調整ナット 2 個をゆるめます。
   b. 調整ナットですき間を調整します。
   c. 調整ナット 2 個を締付けます。



(1) ブレーキロッド
(2) テンションアーム
(3) 調整ナット

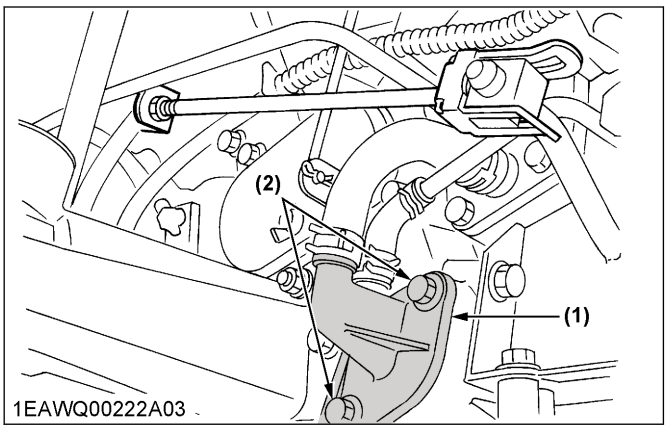
4. 点検の 1～3 を行ない、すき間の再確認をし、規定値から外れているときは、再調整します。

13. ミッションオイルフィルタの点検、掃除、交換

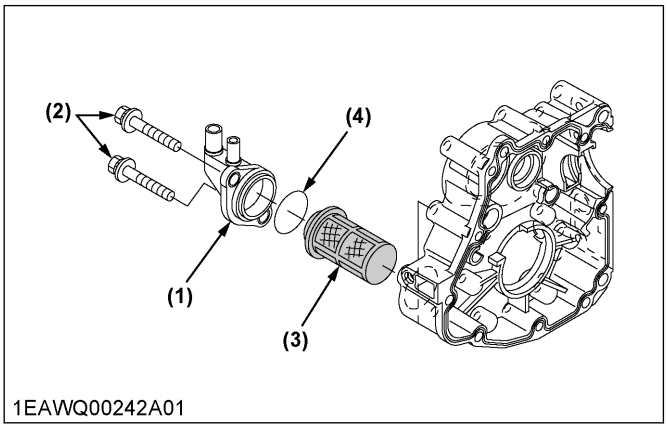
ミッションオイルの交換と同時にオイルフィルタの掃除を行ってください。

点検・掃除・交換

1. 植付部を降ろします。
2. ミッションオイルを排出します。
   （117 ページ参照）
3. ボルト 2 本を取り外してカバーを引き出して、オイルフィルタを抜出して掃除します。また、汚れのひどい場合は交換してください。



(1) カバー
(2) ボルト



(1) カバー
(2) ボルト
(3) オイルフィルタ
(4) O リング

重要：

- **O リングは傷つけないようにしてください。また、失くさないでください。**
- **汚れ（目詰まり）がひどい場合は、十分洗浄を行わないと短時間で目詰まりします。**

4. オイルフィルタを取り付けたあと、カバーをボルトで締付けます。
5. オイルゲージの上限線までミッションオイルを補給したあと、5 分程度エンジンを運転して各部に異常がないことを確認してから、エンジンを止め、再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確かめておいてください。

重要：

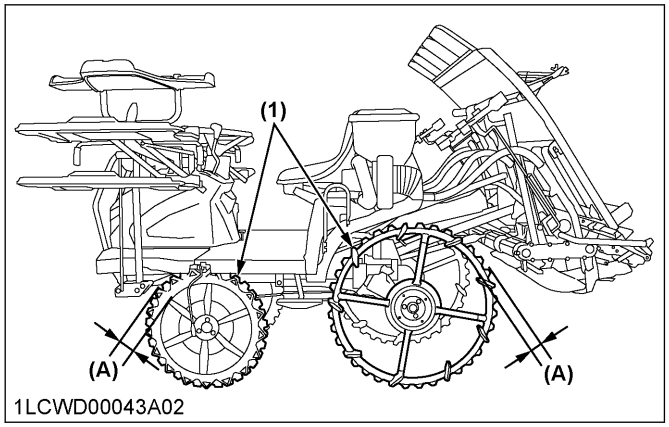
- **ミッションオイルを交換するときに、ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり、ミッションの故障の原因となります。**
- **給油したあとエンジンを約 1 分間以上負荷をかけずに回転させて、オイルゲージで点検を行い、下限より少ないときは、オイルを追加補給してください。**

14. タイヤの点検

警告

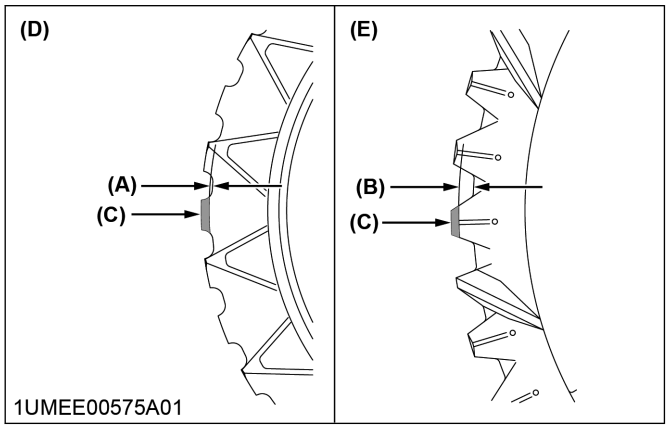
- **タイヤが摩耗するとスリップを起こしやすくなるため、あゆみ板の上などで脱輪して転倒するおそれがあります。**

前輪・後輪ともにタイヤの摩耗や破損（ひび割れなど）を点検し、8 mm 以上摩耗している場合や、破損がひどい場合は、購入先に連絡して交換してください。



(1) タイヤ
(A) 摩耗量

タイヤ(1)表面拡大図



(A) 残り：*2 mm*
(B) 残り：*13 mm*
(C) 摩耗量：*8 mm* 以内
(D) 前輪
(E) 後輪

補足：

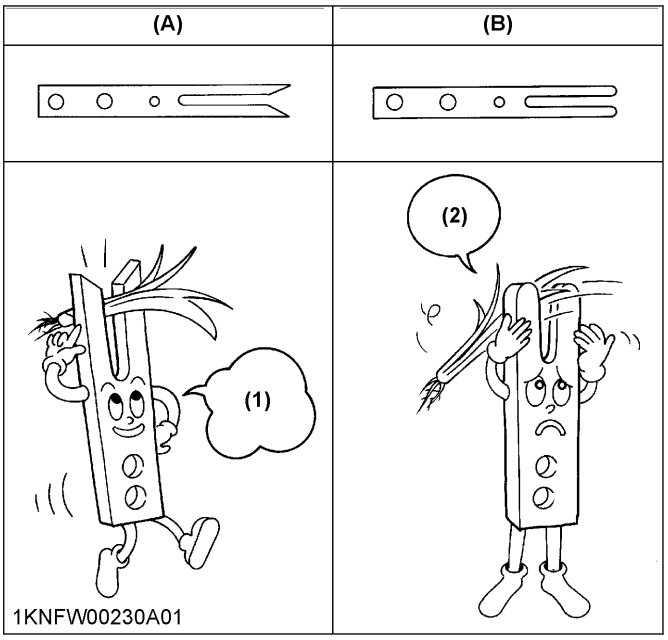
- **ゴムタイヤはオゾンなどの影響による表面のひび割れ防止のため、表面に保護膜を張っています。また、ゴムタイヤの保管状態により表面が変色する場合がありますが、異常ではありません。**

15. 植付爪・押出し金具の点検・調整・交換

警告

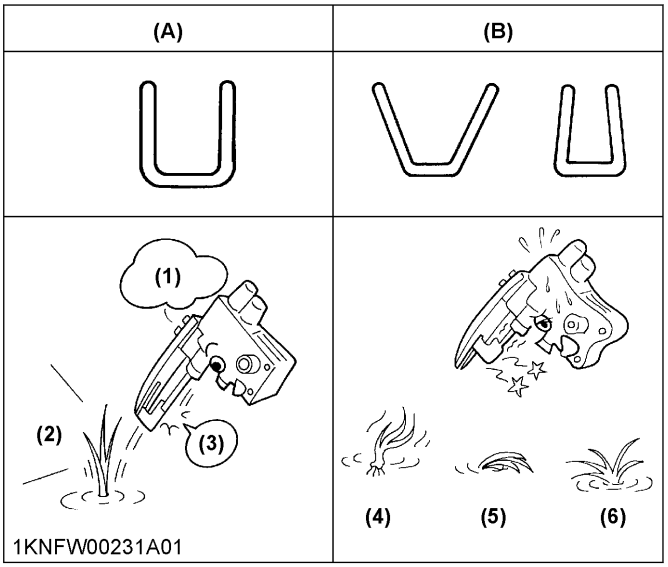
- **植付爪に接触すると手を傷つけるおそれがあるので、植付爪の交換・調整・清掃、苗取出し口の異物の除去、残り苗の取出しなどを行なうときは、エンジンを必ず止めてください。**

植付爪



(1) ナイスキャッチ！
(2) ポロッ
(A) 使用可能
(B) 交換必要

押出し金具

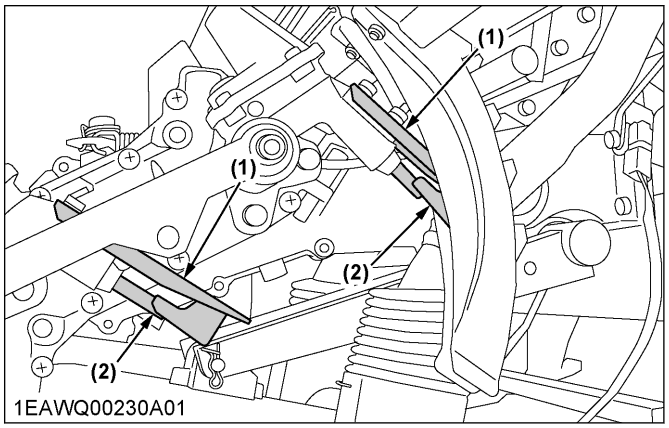


(1) エイッ！
(2) シャキッ！
(3) ポン
(4) うき苗
(5) ころび苗
(6) ばらけ苗
(A) 使用可能
(B) 交換必要

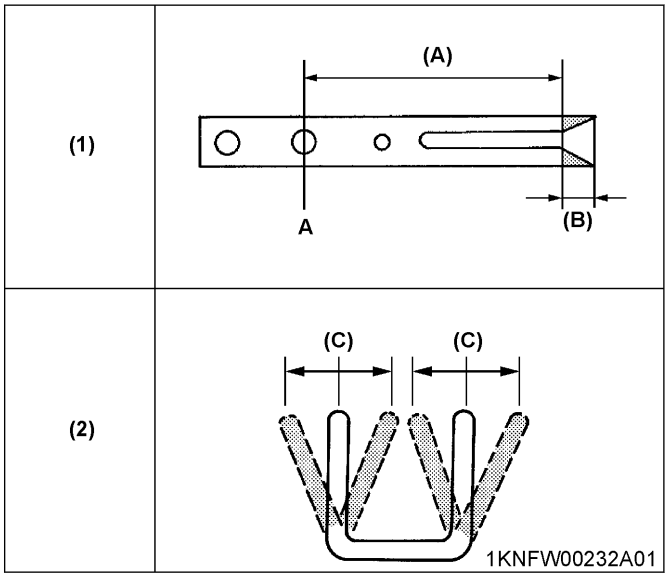
植付爪が摩耗や破損すると、苗の取出しができなくなるため、植付不良となり、押出し金具が変形や破損をすると、うき苗・ころび苗・ばらけ苗などの植付不良となりますので、定期点検をよく行なってください。

点検

1. 機体を平たんな場所に止めて、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止します。
2. 植付爪の摩耗状態や押出し金具の変形状態を確認します。
3. 植付爪の摩耗状態が 3 mm 以内のときは、苗取りゲージで高さ調整を行ない、3 mm 以上（A 位置から残り 80 mm）摩耗しているときは交換してください。また、押出し金具の変形量により、押出し金具の押出し確認又は、購入先に連絡して交換してください。



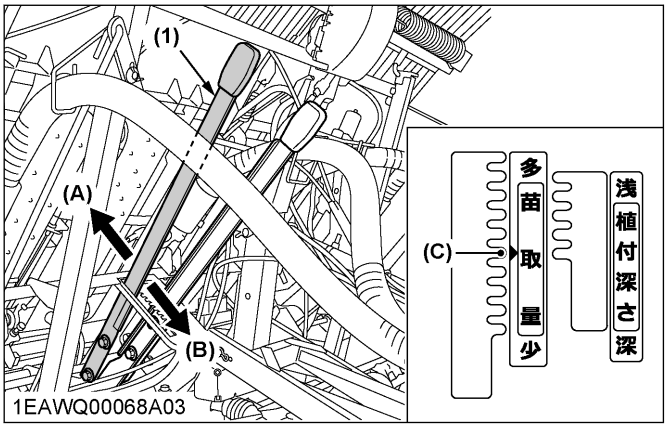
(1) 植付爪
(2) 押出し金具



(1) 植付爪
(2) 押出し金具（正面図）
(A) *80 mm*
(B) 摩耗量：*3 mm* 以下
(C) 変形

植付爪の調整

1. エンジンを始動したあと、苗のせ台を機体中央の位置に移動し、十字ポンパレバーを上側**[上昇]**に操作して植付部の駆動を停止します。このとき、植付爪は停止します。
2. 植付部を最上昇位置以外の位置にし、油圧ロックレバーを**[閉]**位置にし、植付部の下降防止を行ないます。
3. 十字ポンパレバーを［**下**］（下降）側に 2 回操作して植付クラッチを［**入**］にしたあと、十字ポンパレバーを［**下**］（下降）側に操作しながらメインスイッチのキーを**[停止]**位置にしてエンジンを停止します。
4. 苗取り量調節レバーをいったん一番上まで動かしたあと、標準位置（**[多]**い方から 6 段目の切欠溝）にセットします。

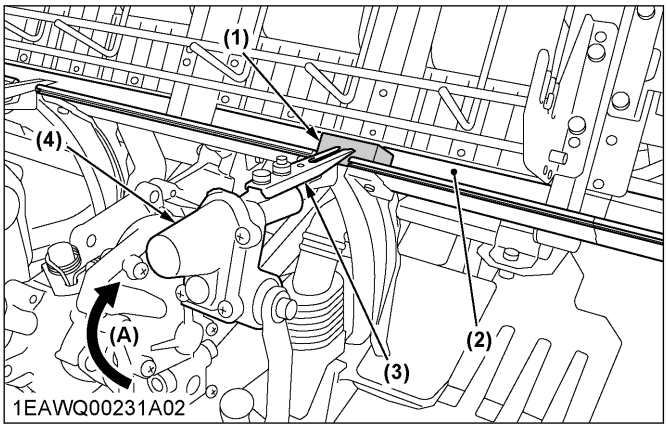


(1) 苗取り量調節レバー
(A) 多い
(B) 少ない
(C) 標準

5. 主変速レバーを**[後進]**位置にします。

   補足：
   - **主変速レバーを[後進]位置にすると、植付部の駆動が切れるため植付アームを手で回せます。**

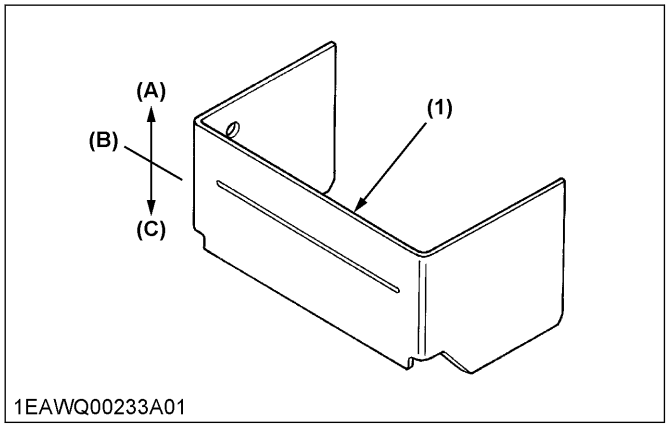
6. しゅう動板の切欠部に苗取りゲージを図のようにセットし、植付爪がゲージに当たるまで植付アームを手で回します。

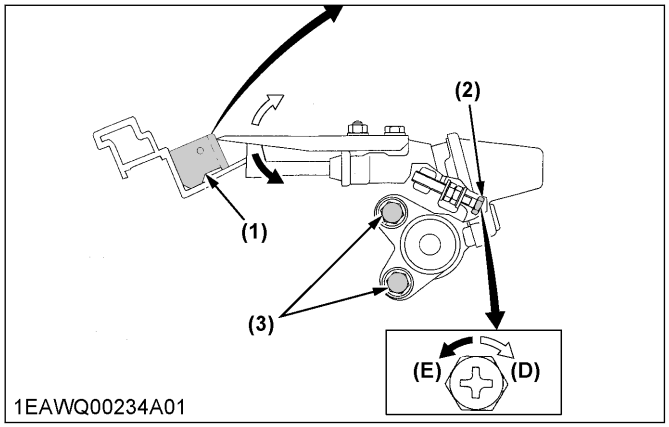


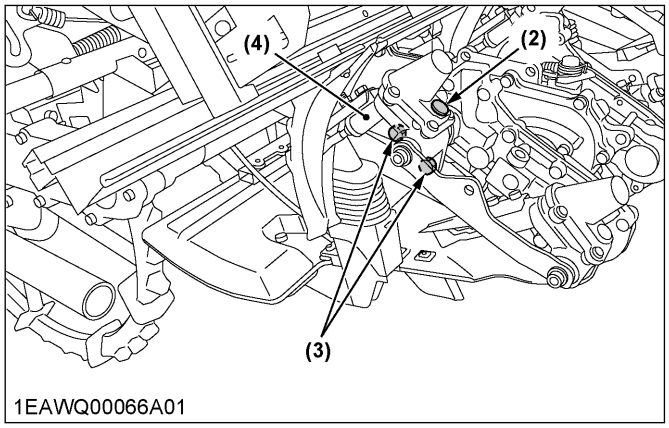
(1) 苗取りゲージ
(2) しゅう動板
(3) 植付爪
(4) 植付アーム
(A) 回す

7. 植付アームの締付ボルト 2 本をゆるめます。
8. 爪高さ調節ボルトは、植付爪を苗取りゲージに軽く接触させ、爪を上に持上げた状態で（上下方向に爪を動かすとガタがあるため）、ドライバやスパナを

使い、右又は左に回して、爪の先端を苗取りゲージの**［苗取り量 13］**（13 mm）の線に合わせます。





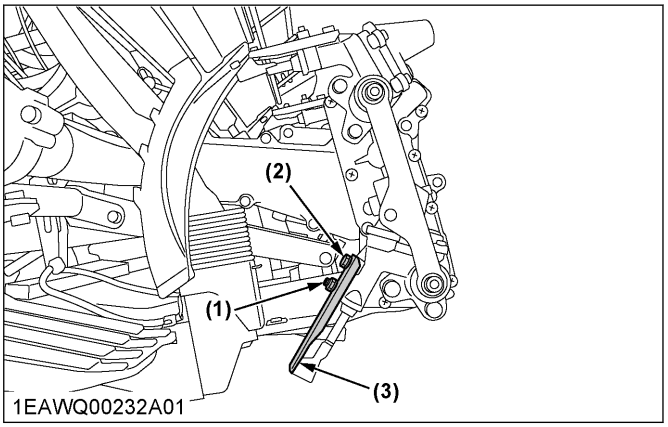


(1) 苗取りゲージ
(2) 爪高さ調節ボルト
(3) 締付けボルト
(4) 植付アーム
(A) 苗取り量：[多]
(B) 苗取り量：*13 mm*
(C) 苗取り量：[少]
(D) 爪下がる
(E) 爪上がる

9. 植付けアームの締付ボルト 2 本を締付けたあと、爪高さ調節ボルトを軽く締付けます。
10. 植付爪を回転させたあと、もう 1 つの植付爪も同じ要領で調節します。

補足：
- **他の植付爪も同じ要領で行なってください。**

植付爪の交換
1. **植付爪の調整**の 1.と 2.を行ないます。
2. 植付爪を取付けているボルトとナットを取外します。



(1) ナット
(2) ボルト
(3) 植付爪

3. 新しい爪と交換します。

補足：
- **植付爪は、常に 1 台分の予備を準備しておいてください。**

4. ボルトとナットを締付けます。
5. **植付爪の調整**の 3.～8.を行なって爪の高さ調節を行ないます。

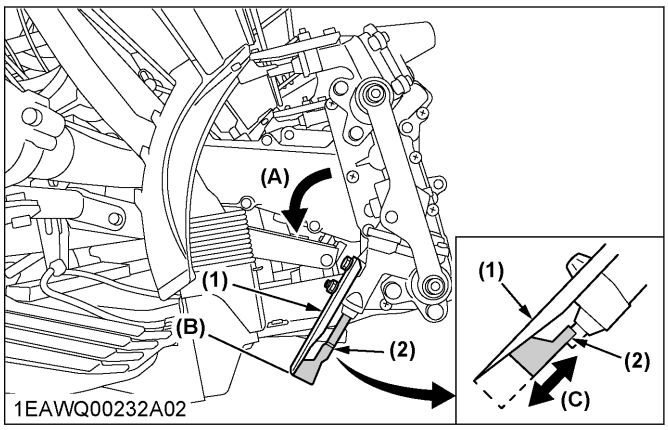
押出し金具の動作確認
1. **植付爪の調整**の 1.と 2.を行ないます。
2. 十字ポンパレバーを**[植付]**位置にします。

補足：
- **十字ポンパレバーが[植付]位置以外のときは、植付爪が下まで動きません。**

3. 主変速レバーを**[後進]**位置にして、植付の駆動を**[N]**（中立）にセットしてください。

補足：
- **主変速レバーを[後進]位置にすると、植付の駆動が[N]（中立）になります。爪交換等で回転ケースを空回しするときは、このセットにしてください。**

4. 植付爪を手で回して、最下端のときに押出し金具と植付爪のそれぞれの先端が揃っていることを確認します。



(1) 植付爪
(2) 押出し金具
(A) 回す
(B) 揃っていること
(C) 軽く動くこと

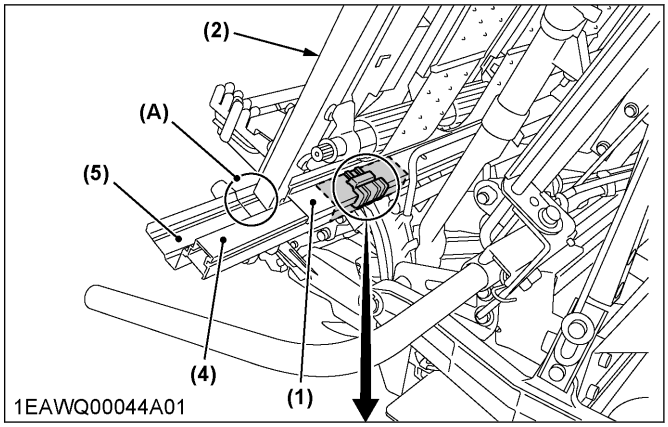
5. 押出し金具の変形や破損で動かないときは、購入先に連絡して交換してください。

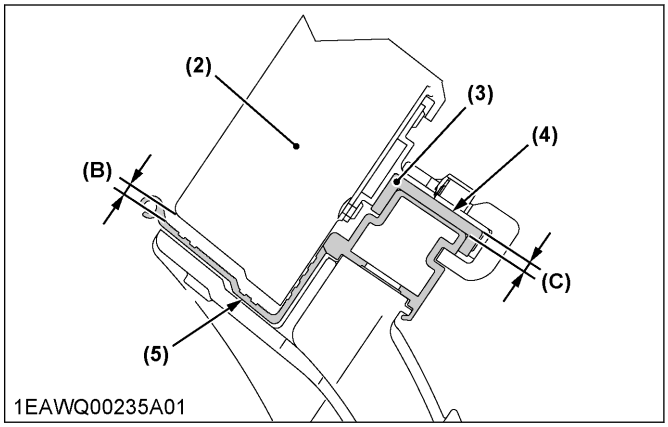
16. 苗のせ台のしゅう動板と受けの点検

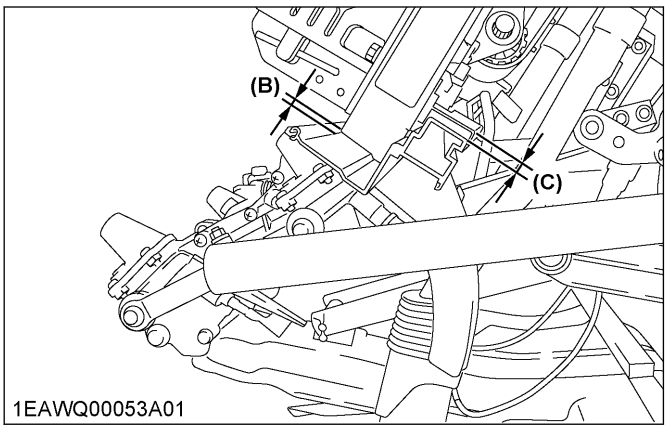
苗のせ台のしゅう動状態が悪くなると、正常な植付作業が行なえないおそれがありますので点検してください。

点検

しゅう動板上面と苗のせ台受けの入っているしゅう動フレーム終端のすき間を測り、2 mm 以下のときは苗のせ台としゅう動板下面が接触しますので購入先に連絡してください。







(1) しゅう動フレーム
(2) 苗のせ台
(3) 苗のせ台受け
(4) しゅう動板上面
(5) しゅう動板下面
(A) 接触しないこと
(B) すき間：*0～1 mm*
(C) すき間：*3 mm*

17. 施肥ブラシの点検・掃除・交換

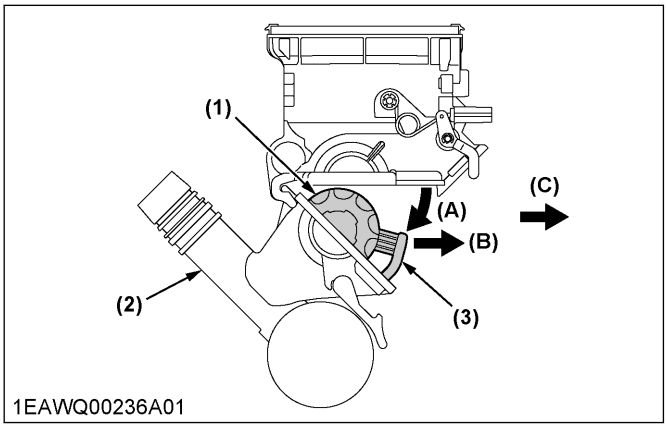
施肥ブラシが摩耗や変形をすると、肥料の繰出し量にバラツキが発生しますので、掃除を行なうと同時に、施肥ブラシの点検を行なってください。

点検・掃除

施肥ブラシとロールを取外して掃除してください。また、施肥ブラシの摩耗や変形がひどい場合は、新しい施肥ブラシを購入して交換してください。

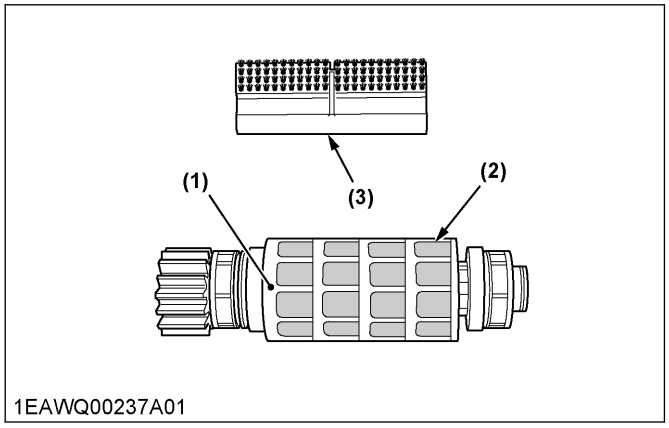
重要：

- **施肥ブラシを購入して長期間保管しておく場合は風通しが良く、湿気が少なく、日があたらない場所で保管してください。**
  （施肥ブラシが変形するおそれがあります。）



(1) ロール
(2) ロート
(3) 施肥ブラシ
(A) 傾ける
(B) 外す
(C) 前方

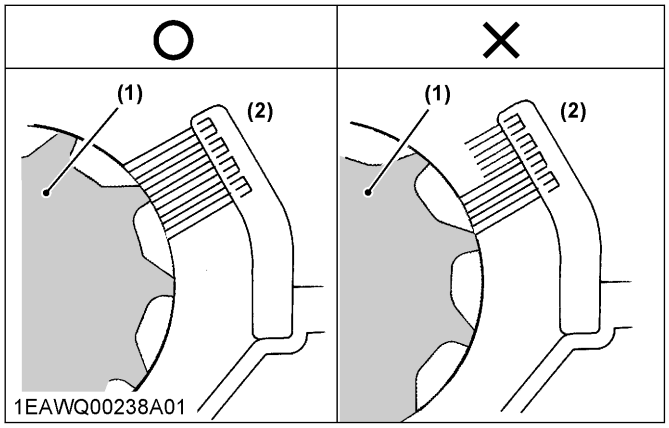
※イラストは［2 条用］



(1) ロール
(2) ロール溝
(3) 施肥ブラシ

補足：

- **ロート内の 4 箇所ある各ロールは 2 個で 1 条分です。また、左右両端部は 2 条分、5 条植えは中央部 2 箇所は 1 条分です。**

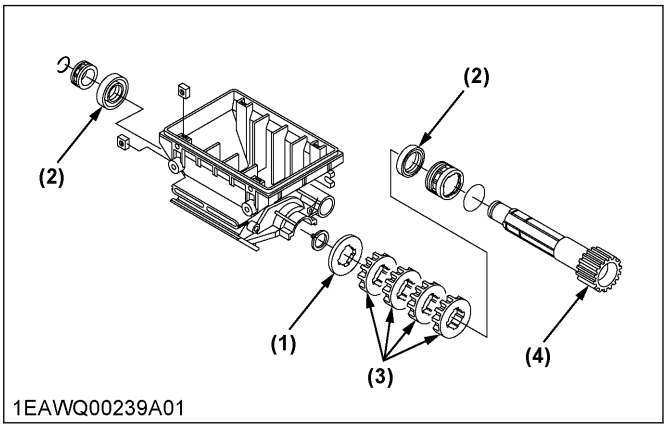


(1) ロール
(2) 施肥ブラシ

補足：

- **施肥ブラシやロールの取付方向に注意してください。**
- **ロールを分解掃除するときは、オイルシールを抜取ったあと、ストッパリングを取外してください。また、組付けるときは、逆の手順でロールの取付け方向に注意して組付けてください。**

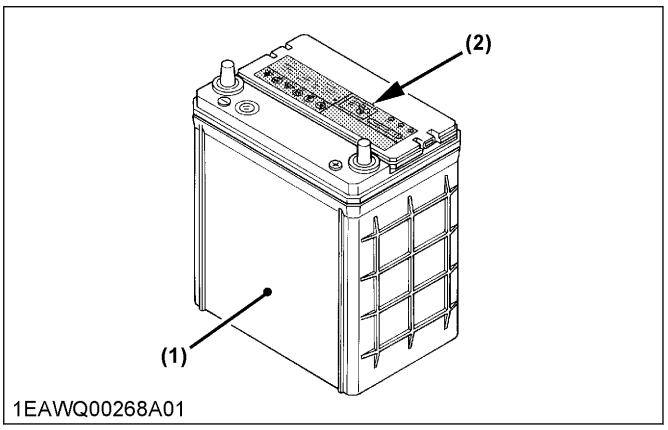
※イラストは 2 条分用



(1) ストッパリング
(2) オイルシール
(3) ロール
(4) 軸

18. バッテリの点検・交換

バッテリ上面に貼ってある取扱いの安全ラベルをよく読んでください。



(1) バッテリ
(2) 取扱いの安全ラベル

補足：

- **出荷時は、補水不要のバッテリです。**

点検

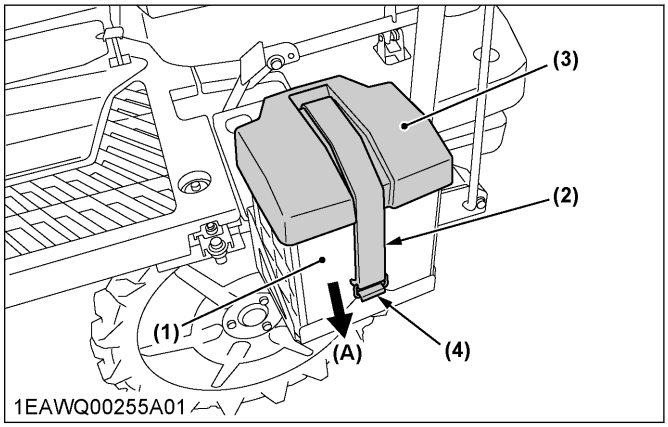
⚠ 警告

バッテリが破損する、傾くなどして、液漏れが発生しているときは、次の事項を遵守してください。

- **バッテリ液が身体または衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。**
- **バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は、ただちに多量の清水で洗浄したあと、速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。**

バッテリの状態を点検し、異常があれば処置します。

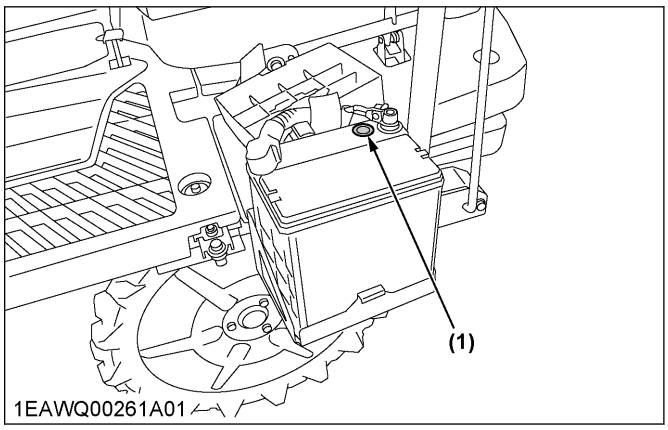
1. バッテリを固定しているゴムバンドをフックから外して、バッテリの上部カバーをステップ側に置きます。



(1) バッテリ
(2) ゴムバンド
(3) バッテリ上部カバー
(4) フック部
(A) 外す

2. バッテリの状態を点検し、異常があれば処置します。
   a. バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し、処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



(1) インジケータ

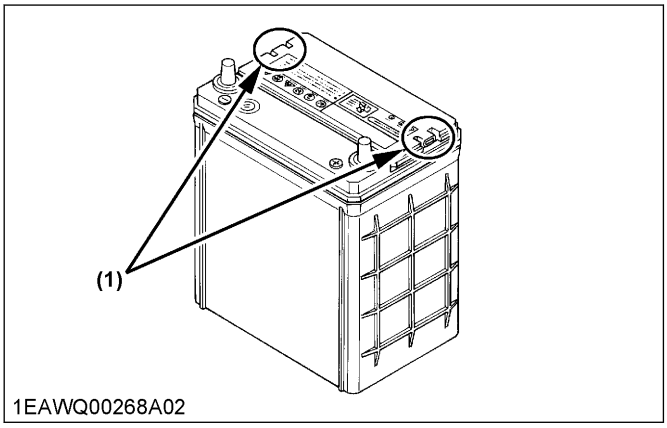
補足：
- **インジケータは真上から確認してください。**

   b. バッテリが破損して液漏れが発生しているときは、交換します。

重要：
- **バッテリから液漏れが発生すると車体が腐食する原因となります。**

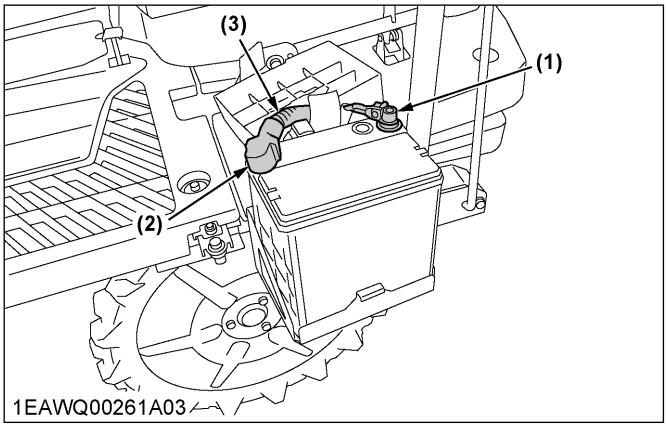
   c. ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除します。

重要：
- **排気口をふさぎますと、バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり、破損する原因となります。**



(1) 排気口

   d. バッテリケーブルの破損がないか確認し、あればケーブルの交換を行います。また（+）端子または（-）端子にゆるみまたは腐食がないか確認し、あれば端子の増締めまたは掃除を行います。



(1) （−）端子
(2) （+）端子
(3) ケーブル

補充電・交換

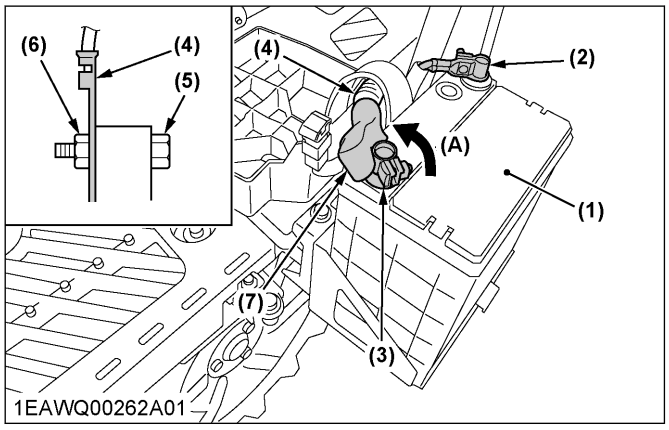
⚠ 警告
- **バッテリは、以下の順序で取換えてください。順序を誤まると、ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。**
  - **取外し…（-）端子側（アース側）から外す。**
  - **取付け…（-）端子側（アース側）を最後に接続する。**
- **バッテリを投げたり、落としたり、斜めにしたり、衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により、失明やヤケドの原因となることがあります。**
- **バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。**

- **バッテリの取付け方向を間違えないでください。(+) と (-) が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し、火災の原因となるおそれがあります。**
- **補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。**

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また、補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは、バッテリの寿命ですので交換を行なってください。

- スタータモータの回転が、いつもより弱い。
- アクセルの加減で、ヘッドランプの明るさが変わる。
- バッテリ電解液の減りが早い。

1. バッテリを機体から取外します。
   a. バッテリを固定しているゴムバンドをフックから外して、バッテリの上部カバーをステップ側に置きます。(**[点検]** の項参照)
   b. (+) 側のゴムキャップを外します。
   c. ケーブル端子のボルトとナットを取外し、端子からケーブル端子を取外します。取外すときは、必ず **(-) 端子**側から取外します。
   d. バッテリを取外します。



(1) バッテリ
(2) (−) 端子
(3) (+) 端子
(4) ケーブル端子
(5) ボルト
(6) ナット
(7) ゴムキャップ
(A) 外す

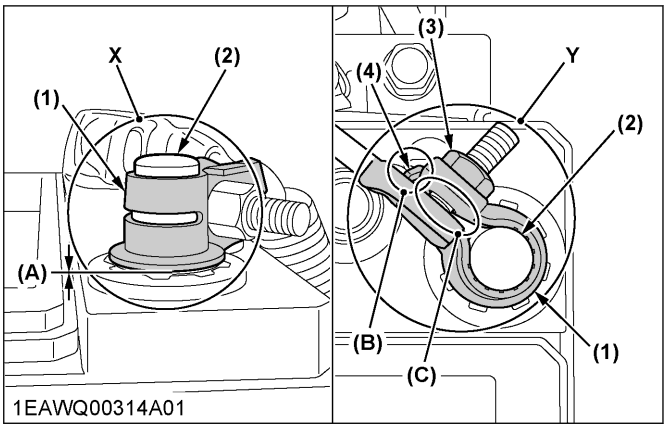
重要：

- **バッテリを斜めにしたり、横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ、衣服の損傷の原因となります。**

2. 補充電を行なうときは、平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また、充電は、バッテリの (+) を充電器の (+) 側に、バッテリの (-) を充電器の (-) 側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行なってください。
3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

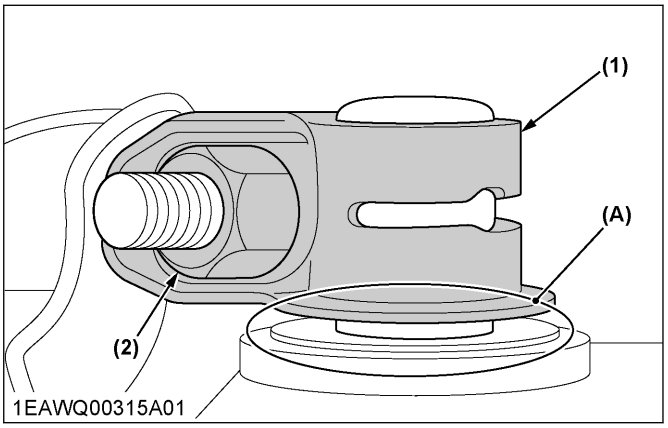
重要：

- **バッテリにケーブルの端子を取付けるとき、下記事項に注意してください。ケーブルの端子が変形したり、バッテリ側の端子から脱落するおそれがあります。**
  - **ケーブルの端子をバッテリ側に押さえ付け、ケーブルの端子と取付部下面はすき間を開けないようにしてください。**
  - **ケーブルの端子のナットを締付けるとき、端子のストッパが反対側の端子に接触するまで締付けてください。また、ナットの締付け不足による端子の脱落や端子が変形するまでナットを強く締付けないように注意してください。**



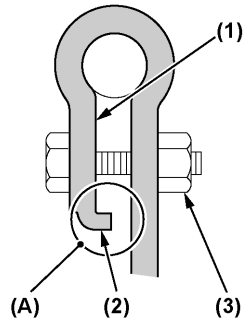
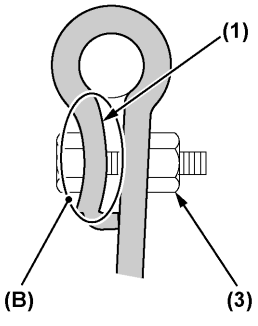
(1) ケーブル端子
(2) バッテリ端子
(3) ナット
(4) ストッパ
(A) すき間
(B) ストッパがケーブル端子に接触している状態
(C) ケーブル端子が変形しないこと

X 部取付け不良状態（参考例）



(1) ケーブル端子
(2) ナット
(A) すき間が開いて浮いている状態

Y 部取付け不良状態（参考例）

ナットの締付け不足	ナットの締過ぎ
 1EAWQ00316A01	 1EAWQ00317A01

(1) ケーブル端子
(2) ストッパ
(3) ナット

(A) ケーブル端子のストッパが接触していない状態
(B) ケーブル端子が変形している状態

補足：
- **バッテリを交換するとき、バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。**
  バッテリ型式：34B19L または 40B19L
- **バッテリはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。**
- **バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。**
- **機械にバッテリを搭載した状態で急速充電をしないでください。**

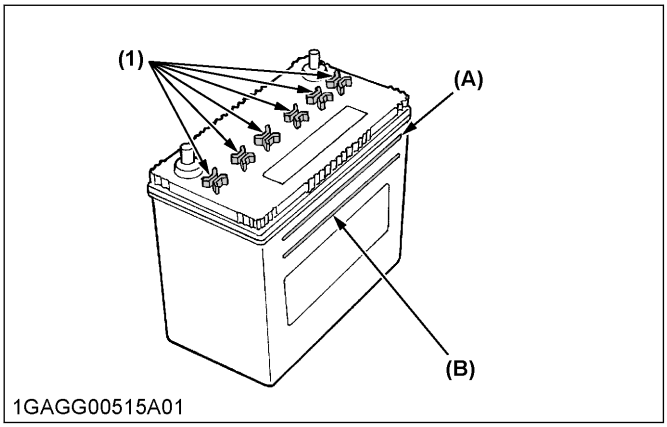
18.1 補水が必要なバッテリの場合

（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）
点検・補水

⚠ 危険
バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの 2 種類があります。補水が必要なバッテリについては、以下の事を守ってください。
- **バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。**
  LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。
  すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。
- **バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。**
- **バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は、ただちに多量の清水で洗浄したあと、速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。**

バッテリの状態を点検し、異常があれば処置します。

1. バッテリ液の量を点検し、**［UPPER LEVEL］**（最高液面線）と**［LOWER LEVEL］**（最低液面線）の間に液量があるか確認し、不足しているときは補水キャップを外して補水します。



1GAGG00515A01

(1) 補水キャップ

(A) *UPPER LEVEL*（最高液面線）
(B) *LOWER LEVEL*（最低液面線）

重要：
- **バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと、バッテリの寿命は著しく短くなります。**
- **バッテリ液を補充する場合は、必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。**
- **バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。**

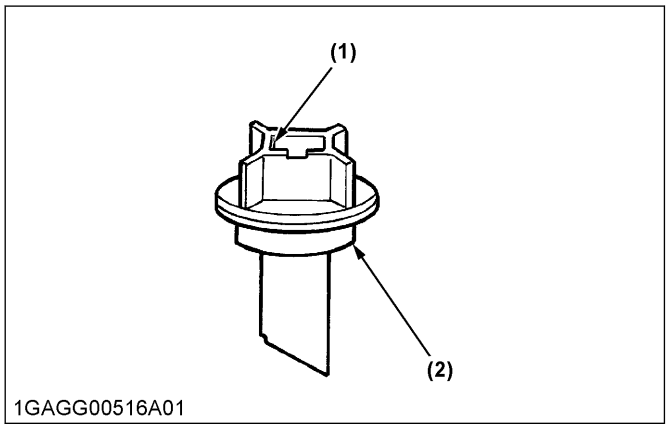
補足：
- **バッテリの中の電解液は使っているうちに蒸発して減ってきます。**

2. バッテリが破損して液もれが発生しているときは、交換してください。

重要：
- **液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。**

3. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重要：
- **排気口をふさぎますと、バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり、破損する原因となります。**



(1) 排気口
(2) 補水キャップ

補充電・交換

⚠ 警告
- **補充電中は補水キャップ全てを取外して行いますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。**

4. 補充電を行なうときは、平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また、充電は、バッテリの（+）を充電器の（+）側に、バッテリの（-）を充電器の（-）側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行なってください。
5. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

19. ワイヤハーネスの点検・交換

⚠ 警告
- **配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。**

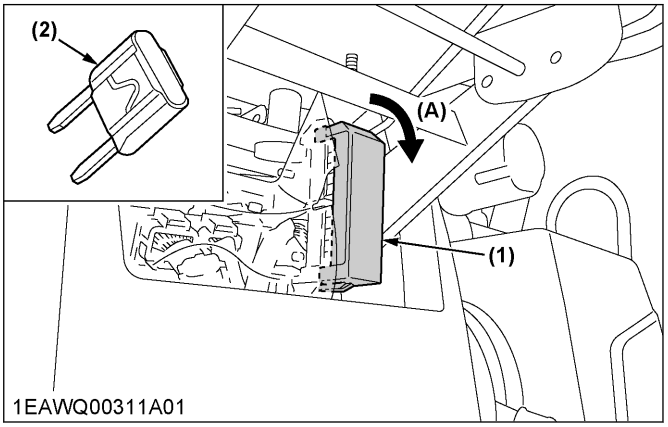
各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し、ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。
また、被覆の損傷状態を点検し、被覆が破れているときは、購入先に連絡して交換してください。

20. 各ヒューズの交換

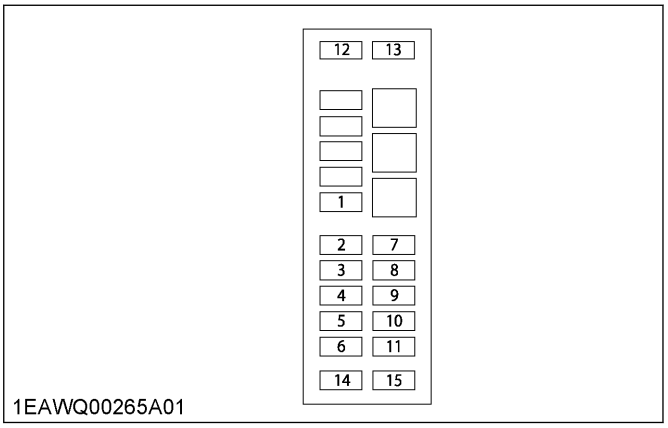
補足：
- **ヒューズを交換するときは、ヒューズケース右下に設置してあるヒューズ抜きを使用してください。**

ヒューズ切れによる異常が発生したときは、ヒューズを交換してください。

1. メインスイッチのキーを**［停止］**位置にしエンジンを止めます。
2. 運転席下カバーにあるヒューズケースカバーを取外し、ヒューズが切れているときは付属部品の中にある予備のスローブローヒューズと交換します。
3. ヒューズケースのカバーを取外します。
4. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズを予備ヒューズから選んで交換します。



(1) ヒューズケースカバー　　*(A)* 取外す
(2) ヒューズ

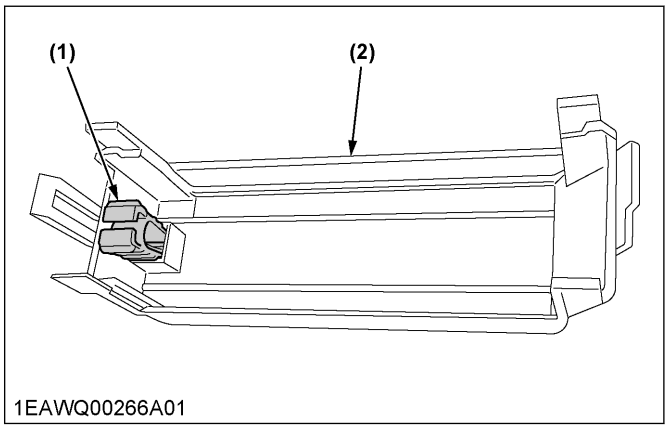


図番	回路	容量
1	スタータ	10 A
2	箱まきちゃん、こまきちゃん（オプション）	20 A
3	施肥マイコン**［R 仕様］**	3 A
4	ECU（本機）	5 A
5	マスコットランプ他	10 A
6	ライト	5 A
7	ロータ	20 A
8	モンロー	20 A
9	ECU（バッテリ）	10 A
10	マーカ	20 A
11	植付け	20 A

（次へ続く）

図番	回路	容量
12	（予備）	20 A
13	（予備）	10 A
14	（予備）	3 A
15	（予備）	3 A

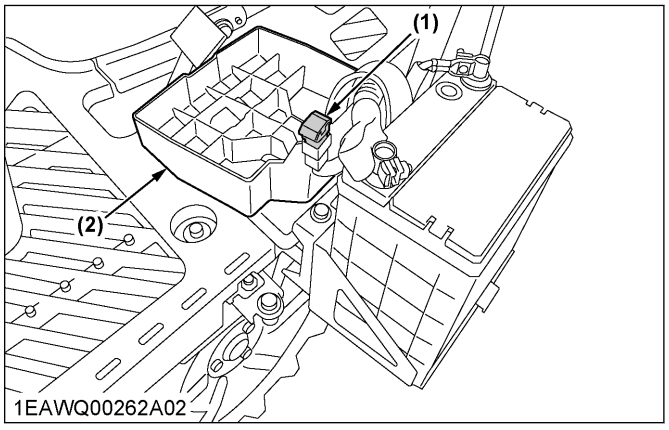
補足：
- **ヒューズケースカバー表面のラベルで容量（A）を確認してください。**
- **ヒューズを交換するときは、ヒューズケースカバー裏に設置してあるヒューズ抜きを使用してください。**



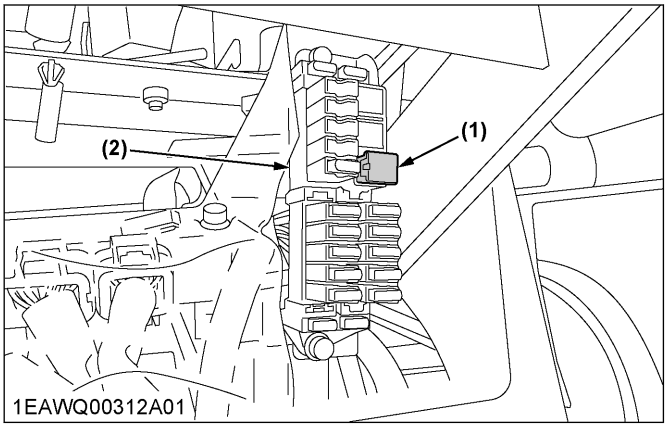
(1) ヒューズ抜き
(2) ヒューズケース（裏側）

20.1 スローブローヒューズの点検・交換

スローブローヒューズ(40 A)は、過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し、切れているときは新しいヒューズと交換してください。また、ブロワ（**[R 仕様]**）が動かないときは点検し、切れているときは新しいスローブローヒューズ(30 A)と交換してください。点検を行なうときは、ヒューズケースのカバー及びバッテリカバーを取外してください。



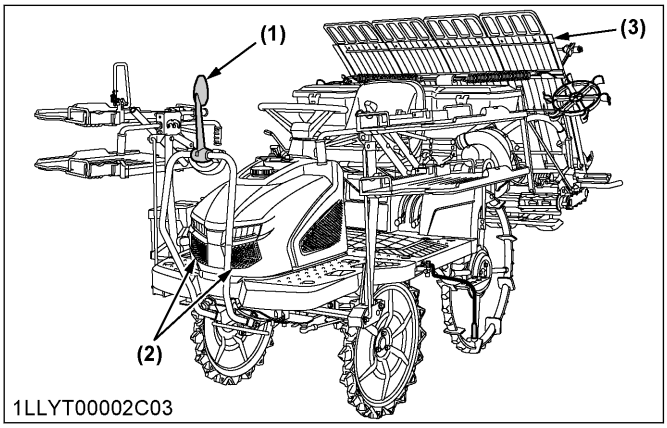
(1) スローブローヒューズ（*40 A* メイン用）
(2) バッテリカバー



(1) スローブローヒューズ（*30 A* 施肥モータ用）**[*R* 仕様]**
(2) ヒューズケース

21. LED ランプの点検・交換・反射テープの点検・交換

ランプ（電球）切れがないか点検し、切れているときは購入先に連絡してください。また、反射テープに汚れや破損がないか点検し、掃除又は、交換を行なってください。



(1) マスコットランプ（*LED* ランプ）
(2) ヘッドランプ
(3) 反射テープ

植付作業後の手入れ

植付作業が終わったあとは、機械の点検・整備を怠らず翌日または、翌年の田植作業に備えてください。

1. 毎日の作業後の機体の手入れ

⚠ 警告
- **掃除する場合は、必ずエンジンを停止させてから行なってください。**

1. 平たんな場所に田植機を停めます。
2. 機体各部の泥などを取除いたあと、必要に応じて各部に注油を行ないます。（105 ページ参照）

3. 格納場所に格納します。

重要：
- **納屋など室内に格納するときは、植付部が納屋などに当らない位置まで下げた状態で油圧ロックを行ってください。（50 ページ参照）**
- **狭い場所に収納するときは、予備苗のせ台を収納し、しゅう動板ガードを収納してください。**

4. 植付部を降ろします。
5. メインスイッチのキーを抜取ります。
6. 駐車ブレーキを掛けます。

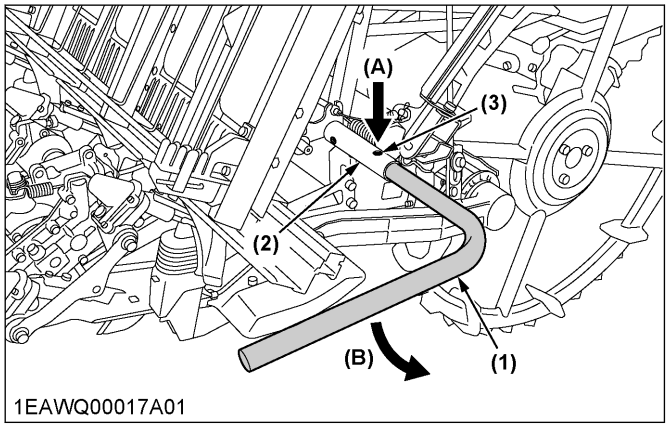
1.1 しゅう動板ガード（左、右）の収納

⚠ 警告
- **ケガをするおそれがあるので、しゅう動板ガードを収納するときは、メインスイッチのキーを[運転]位置にしないでください。**

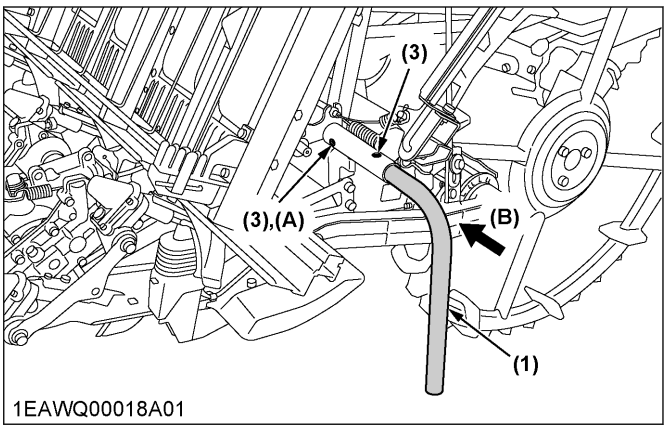
しゅう動板ガードを以下の手順で収納状態にします。

1. 植付部を最上昇位置まで上げたあと、油圧をロックして植付部の下降防止を行います。
2. エンジンを停止します。
3. しゅう動板ガードを取り付けているパイプにしゅう動板ガードを固定しているプッシュピンを押しながら、しゅう動板ガードを下側に 90 度回します。
4. パイプのしゅう動板ガード収納位置の穴にプッシュピンがはめ込まれるまで穴位置を合わせながら押します。

※イラストは右側



(1) しゅう動板ガード
(2) パイプ
(3) プッシュピン
(A) 押す
(B) 下側に回す



(1) しゅう動板ガード
(2) パイプ
(3) プッシュピン
(A) 収納時の穴
(B) 押す

補足：
- **しゅう動板ガードを作業状態にするときは、逆の手順で行ってください。**

2. 長期格納時の手入れ

田植えのシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき、格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

2.1 長期格納時の各部の掃除、注油、補修のしかた

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。
- 水洗い後、ゴミ・水滴をじゅうぶんふき取り、油をしみこませた布で清掃してください。
- 各グリース塗布箇所にはグリース、注油箇所には注油を行なってください。
- 塗布したグリースや油が縦送りベルトに付着したら、必ずふき取ってください。
- 植付爪の先端や、油圧シリンダのロッド部など、さびやすい所にはグリースを塗ってください。
- 各部のゆるみを調べ、増締めを行なってください。

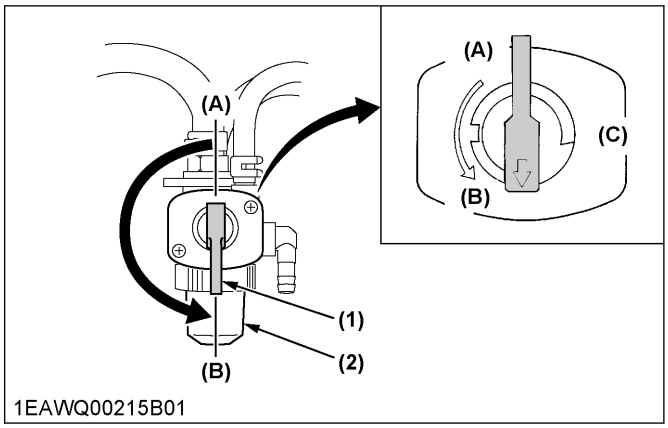
重要：
- **機体を洗う場合は、電装部品に水がかからないようにしてください。**

2.2 長期格納時の燃料の排出のしかた

⚠ 警告
- **燃料を排出するときは、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行なってください。火災が発生するおそれがあります。**
- **燃料抜取り時は火気厳禁。**

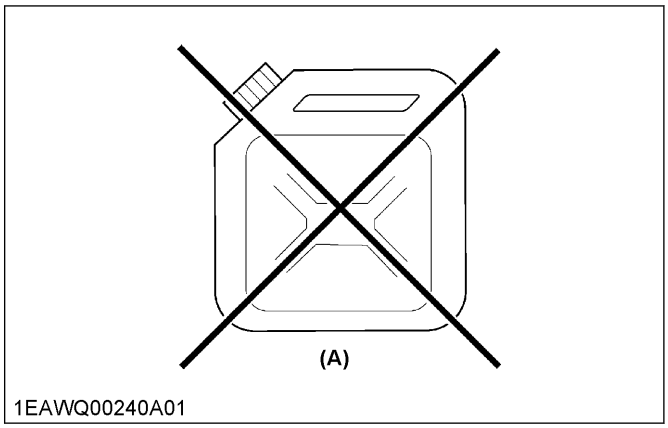
来シーズンに備えて燃料タンク内、キャブレタ内及び燃料フィルタポット内のガソリンを抜取ってください。

1. 燃料コックレバーを**［排出］**位置にして燃料タンクとキャブレタ内の燃料を排出します。
2. フィルタポット内のガソリンを排出します。また、必要に応じて掃除を行なってください。
3. フィルタポットを取付けます。



(1) 燃料コックレバー
(2) フィルタポット
(A) ［運転］
(B) ［排出］
(C) 停止

重要：
- **燃料のガソリンは 1 ヶ月以上放置すると、気化や酸化をしてガソリンが変質し、エンジンの不調や故障の原因となりますので燃料タンク内、キャブレタ内及びフィルタポット内のガソリンは必ず抜取ってください。**
- **燃料のガソリンを保管するときは、必ず鋼製の容器に保管してください。ポリタンクなどの樹脂製の容器に保管すると、ガソリンが樹脂成分を溶解したり、紫外線透過によりガソリンが変質し、エンジンの不調や故障の原因となります。**



(A) ポリタンク不可

補足：
- **燃料を入れるときは、燃料コックレバーを必ず、［停止］位置にし、エンジンを動かす前に、［運転］位置にしてください。**

2.3 長期格納時のバッテリの手入れのしかた

危険
- **保管や持運びの際にバッテリに火気を近づけたり、ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。**

警告
- **バッテリを点検するときには、エンジンを停止し、メインスイッチのキーを［切］にしてください。**

長期間使用しない場合は、できるだけバッテリを機体から取外してください。また、以下の点に注意して保管してください。
- 保管前に点検し、必要に応じて補充電を行なってください。（バッテリ液補水タイプは、補水してから補充電を行なってください。）
- バッテリは保管中でも自己放電するので夏は 1 ヵ月、冬は 2 ヵ月に 1 回それぞれ点検し、必要に応じて補充電を行なってください。
- 次のような場所に保管してください。
  1. 直射日光が当らない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
  2. 雨露が少なく、水没のおそれがない場所
  3. バッテリの有害なガスや液、粉じんの発生が起こらない場所

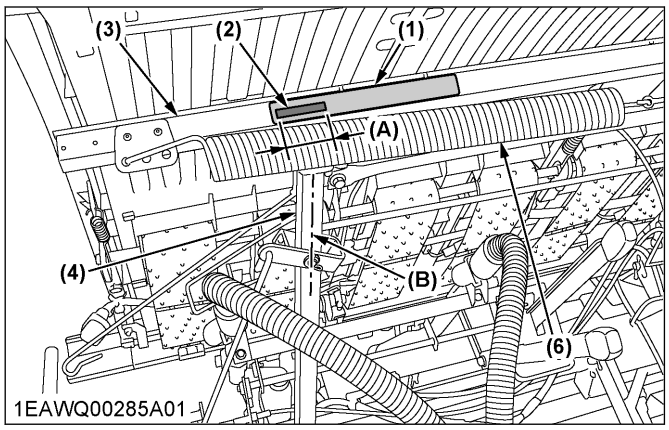
機体に取付けている場合は、(-) 側のケーブルを必ず取外してください。

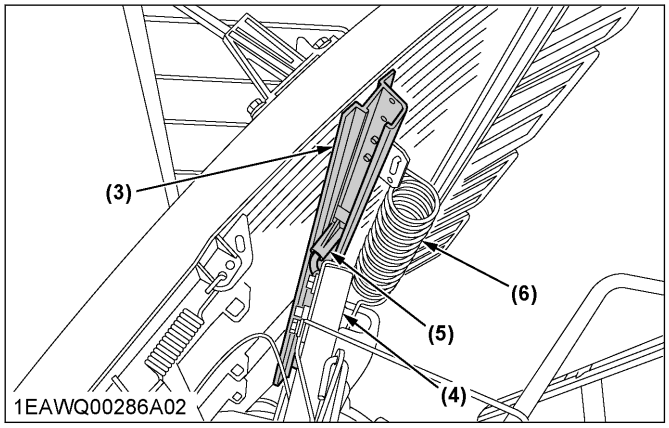
2.4 長期格納時の各レバー、その他の手入れのしかた

警告
- **スタンドを立て植付部を地面に接地させてください。**
- **駐車ブレーキを掛けてください。**

- アクセルレバーを前方いっぱいまで押して「🐢」位置で止めてください。
- リコイルハンドルをゆっくり引いて、重く手ごたえのある所で止めてください（エンジンのバルブが閉じた状態）。
- 運転席（シート）は前方向に倒してください。
- メインスイッチのキーは必ず抜取って保管してください。
- 苗のせ台は、バランスバネの荷重が左右均等に掛かる状態にして保管してください。

補足：
- **ラベル（ナエノセダイ）を確認して苗のせ台シューの内側にある苗のせ台ビームを取付けている苗のせ台サポートの中心を[保管時の苗のせ台停止位置]の範囲内の位置に移動してください。**

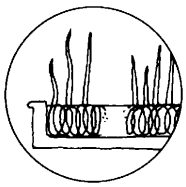
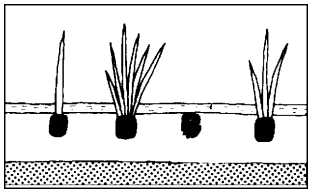
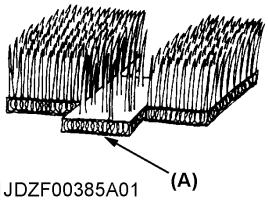
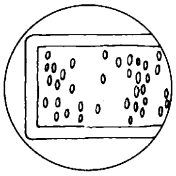
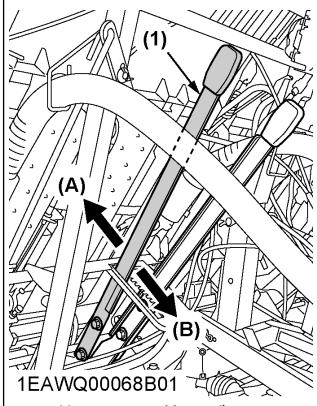
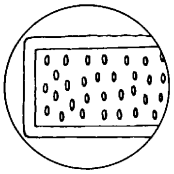
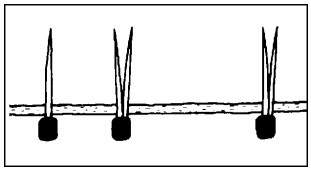
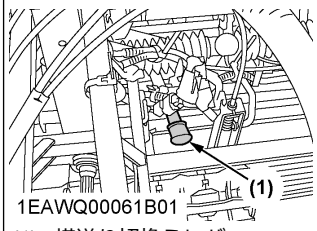
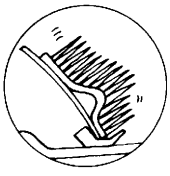
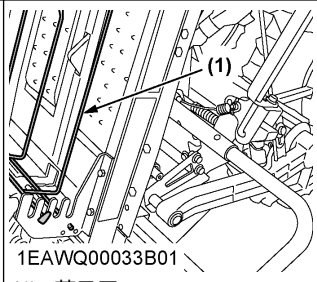




(1) ラベル（ナエノセダイ）
(2) ***[保管時の苗のせ台停止位置]*** の範囲ラベル
(3) 苗のせ台シュー
(4) 苗のせ台サポート
(5) 苗のせ台ビーム
(6) バランスバネ
(A) ***[保管時の苗のせ台停止位置]*** 範囲
(B) 中心

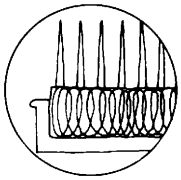
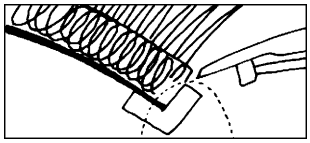
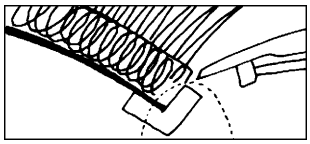
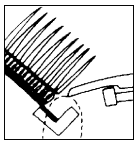
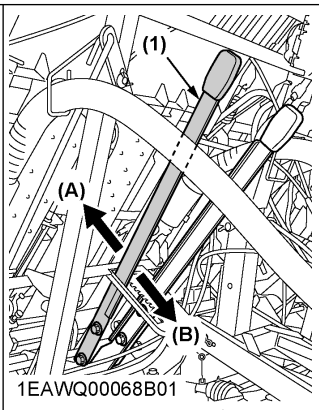
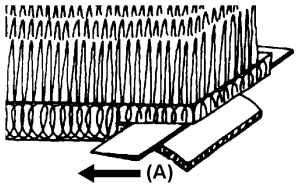
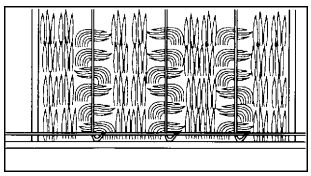
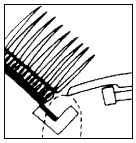
植付作業時の不調と処置

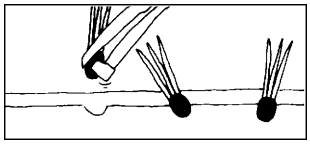
欠株が出る

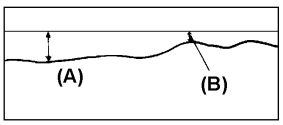
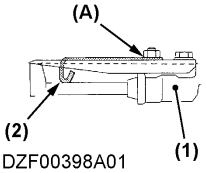
このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
苗に生育ムラやハゲた部分がある苗 	• 植付けの本数がバラついたり欠株が出る。 	**苗の処置** • 生育の悪い部分やハゲたところを切取って植え付ける。 • 悪い苗は、使用しない。（補植えに使用する）	 1JDZF00385A01 *(A)* この部分は使わない
苗に生育ムラやハゲた部分がある苗 		**機械の処置** 苗取り量は多く、横送り回数は少なくする（横送り量を多くする）。 (85 ページ参照)	 1EAWQ00068B01 *(1)* 苗取り量調節レバー *(A)* 多い *(B)* 少ない
播種量が少ない苗 	• 植付け本数が少なくなり欠株が出る。 	**苗の処置** 中苗用成苗用の育苗指針を守り播種ムラのない苗をつくる。 **機械の処置** 苗取り量は多く、横送り回数は少なくする（横送り量を多くする）。 (85 ページ参照)	 1EAWQ00061B01 *(1)* 横送り切換えレバー
苗床がうすく又根張りが悪い苗 **苗床が軟らかすぎる苗**	苗のせ台上で苗がくずれて植付けできない。 	**機械の処置** 苗ステーと苗との間隔を狭くして苗のせ台からのずり落ち、くずれを防止する。 (87 ページ参照) **苗の処置** • 苗床厚が 2 cm 以上の苗を使用する。 • 苗床を乾かして硬めにする。	 1EAWQ00033B01 *(1)* 苗ステー

（次へ続く）

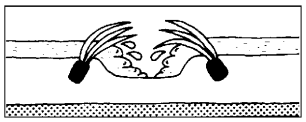
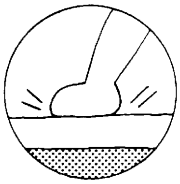
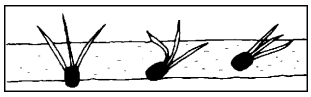
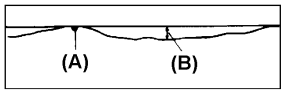
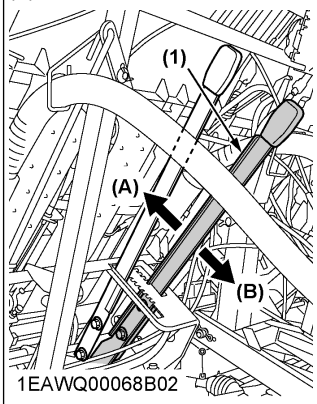
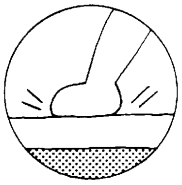
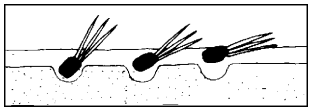
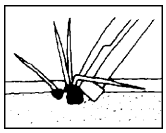
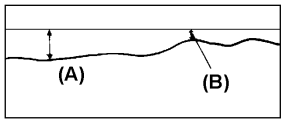
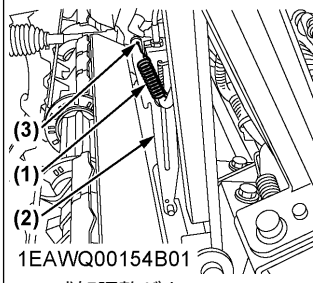
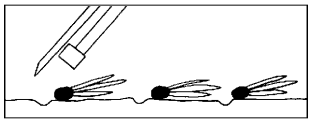
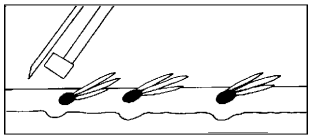
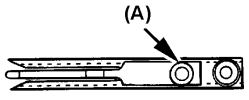
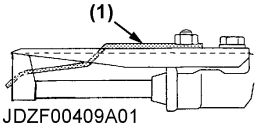
植付作業時の不調と処置

<table>
<tr><th>このような状態で（原因）</th><th>このようになる</th><th colspan="2">どうする（処置方法）</th></tr>
<tr>
<td>苗床が厚い苗
</td>
<td>• 苗がうまく取れないため、苗取量が少なかったり欠株が出る。

• 爪の軌跡より外れた部分が残ってダンゴ状になり苗の縦送りができなくなる。

• 苗のせ台上で苗のすべりが悪く欠株がでる。</td>
<td>機械の処置
• 苗取り量を多少多くして苗を取るようにする。
（85 ページ参照）
• 苗ステーを調節して苗床とのすき間をあける。
（87 ページ参照）
苗の処置
• 苗床厚（マット厚）が 2.5～3 cm になるように切落とす。切落とせない場合はその苗は使用しない。
• 植付け前にかん水してすべりを良くする。</td>
<td>
1EAWQ00068B01
(1) 苗取り量調節レバー
(A) 多い
(B) 少ない

1JDZF00393A01
(A) 2.5～3 cm に切落とす。</td>
</tr>
<tr>
<td>苗の入り方が悪い。
</td>
<td>苗が苗ステーに引っかかって落ちない。
</td>
<td>苗の処置
引っかかった苗を取除いてきちんと入れ直す。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>床土が粘土質で粘りが強い苗。

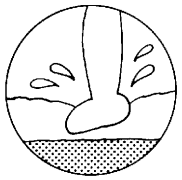
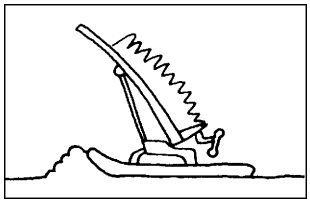
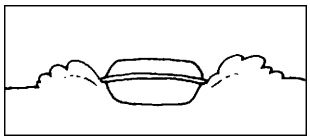
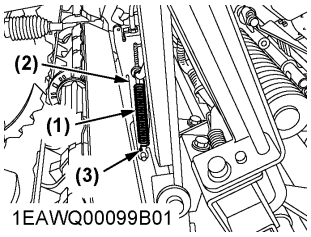
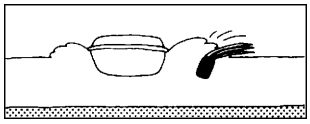
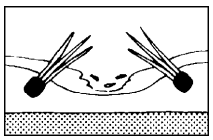
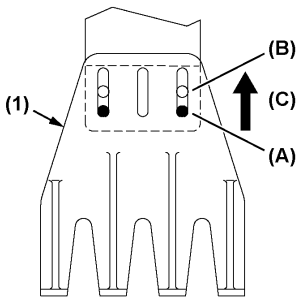
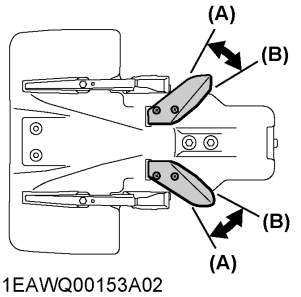
粘土質のほ場でしかも水が少ない。</td>
<td>植付け時、苗が植付爪より離れず欠株が発生する。
</td>
<td>苗の処置
苗床を乾き気味にする。又は水につけ十分水分をもたせる。
ほ場の処置
ほ場に水を 1～3 cm 程度張り苗が爪より離れやすくなる。

機械の処置
別売り（オプション）のクリーナ（押出し金具）を取付ける。</td>
<td>
1JDZF00397A01
(A) 水深 3 cm
(B) 水深 1 cm

1JDZF00398A01
(1) 植付アーム
(2) クリーナ（押出し金具）
(A) 植付アームのスタッドボルトに共締めする。</td>
</tr>
</table>

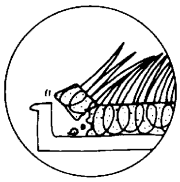
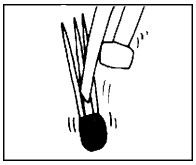
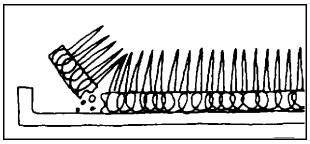
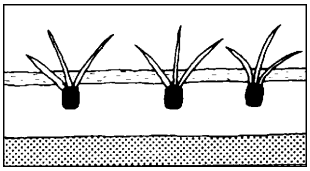
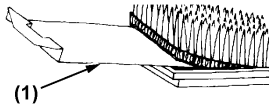
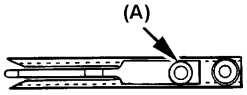
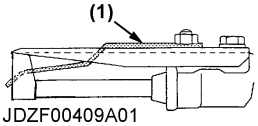
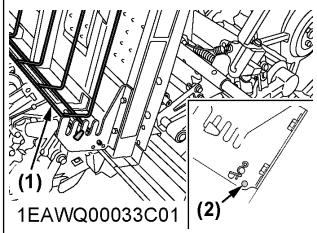
浮苗が出る・植付けが乱れる

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
水深が 3 cm 以上あるほ場。 	• フロート通過跡に水が流れ込んで植付けた苗または、隣接苗が倒れる。   • 植付け姿勢が悪いまたは浮苗が発生する。 	**ほ場の処置** 水を落とす。水深 0 cm～3 cm にする。 **機械の処置** • 植付け速度を遅くして水の移動をゆるやかにする。 • 植付け深さを許せる範囲で深めにする。	 1JDZF00403A01 *(A)* 水深 *0 cm* *(B)* 水深 *3 cm*  1EAWQ00068B02 *(1)* 植付け深さ調節レバー *(A)* 浅い *(B)* 深い
ほ場が硬い。 	• 爪で開けた穴がふさがらず水を入れたときに苗が浮く。  • 苗を押込むとき、苗が傷んだりバラける。 	**ほ場の処置** • 再度代かきして植えやすい硬さにする。 • 水を 1 cm～3 cm 入れ軟らかくして植える。 **機械の処置** • 植付け速度を遅くして苗をゆっくり土中に押込むようにする。 • フロート感知荷重調節用の感知調節バネを**［強］**位置側（荷重軽減側）に変更する。（86 ページ参照）	 1JDZF00397A01 *(A)* 水深 *3 cm* *(B)* 水深 *1 cm*  1EAWQ00154B01 *(1)* 感知調整バネ *(2)* センサガイド *(3)* 取付穴（感知荷重**［強］**位置）
根張りが悪く、床土が砂質の苗で、しかも苗が爪から離れやすく、水につかると床土が溶ける苗。	• 苗がころぶ。  • 水がある場合、浮苗がでる。 	**ほ場の処置** 水が多い場合は水を落とす。 **苗の処置** • 根張りのよい床土がブロックになる苗にする。 • 床土は水に溶けにくい土質のものにする。 • 植付け前に苗床に少し水気をもたせる。 **機械の処置** 別売り（オプション）の苗キーパを取付ける。	 1JDZF00408A01  1JDZF00409A01 *(1)* 苗キーパ *(A)* 爪取付け用のスタッドボルトに共締めする。

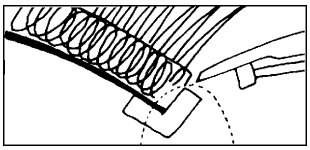
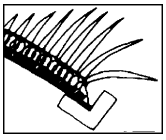
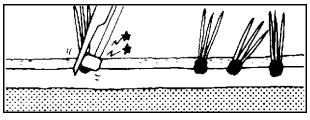
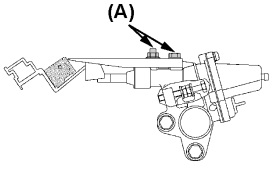
（次へ続く）

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
表面がトロトロで軟らかいほ場。 	• フロートが沈み、泥を押す。  	**ほ場の処置** • 水を落として表面を硬くするまたは表面を落ち着かせる。（植付けを延期する。） **機械の処置** • フィットセンサを軟らかい方へ移動させ泥を押さないようにする。 • 植付け速度を遅くする。 • ロータ深さ微調整ダイヤルを**[浅い]**の方向に調節する。 • フロート感知荷重調節用の感知調節バネを**[弱]**位置側（荷重軽減側）に変更する。（85 ページ参照）	 1EAWQ00099B01 *(1)* 感知調整バネ *(2)* センサガイド *(3)* 取付穴（感知荷重***[弱]***位置）
	• 泥を押して、隣接苗を倒す。 		
	• フロート通過跡が大きくなり、そこに土が流れ込むとき、植えた苗が内側に倒れる。 	• 整地板の取付位置を変更する。（上にずらす。）	 1EAWQ00245A01 *(1)* 整地板 *(A)* 出荷位置 *(B)* 上位置 *(C)* 変更
	• ふく土板で泥を押す **[R 仕様]**	• 各フロート下面の各ふく土板の取付角度（位置）を狭くする。**[R 仕様]**	**[R 仕様]**  1EAWQ00153A02 *(A)* 標準または、硬いほ場 *(B)* トロトロほ場
	• 車輪がスリップして調整した施肥量と異なる。**[R 仕様]**	• 施肥量を再調整してください。	

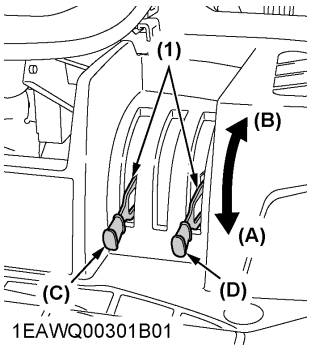
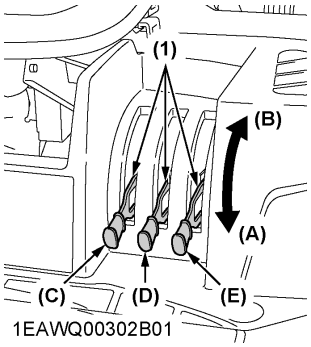
浮苗が出る・植付けが悪い

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
根張りの悪い苗 **床土に粘りがなくくずれやすい苗** 	• 苗が植付けになる前に植付爪から落ち浮苗となる。  • 苗を取り出すとき苗がくずれる。  • 植付けた苗がバラける。 	**苗の処置** • 苗床に少し水気をもたせる。 • 苗すくい板を使用して苗がくずれないようにする。 **機械の処置** • 植付け速度を遅くする。 • 別売品（オプション）の苗キーパを使用する。 • 苗押さえ棒を(A)（内側）の穴に差換える。	 (1) 1JDZF00419A01 *(1)* 苗すくい板  (A) 1JDZF00408A01  (1) 1JDZF00409A01 *(1)* 苗キーパ *(A)* 爪取付け用のスタッドボルトに共締めする。  (1) (2) 1EAWQ00033C01 *(1)* 苗押さえ棒 *(2)* 穴（内側）

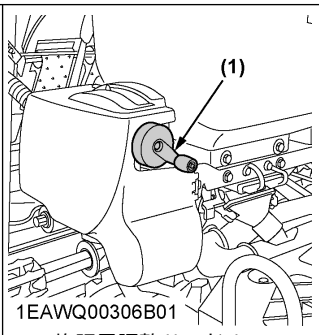
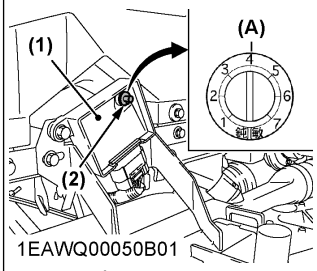
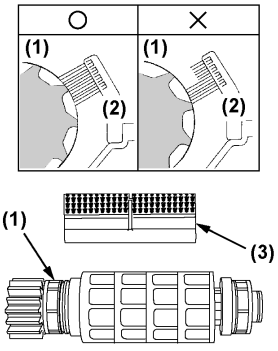
植付けが乱れる・欠株が出る

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
植付爪の異常 • 爪の摩耗 • 爪の変形 • 押出し金具の変形 • 押出し金具がじゅうぶん押出さない。	• 苗を取らずに欠株となる。  • 苗取り後残りの苗がバラケル。  • 押出し金具が押しきらず植付けが乱れる。 	**機械の処置** • 植付爪と押出し金具の点検。 – 爪の曲がりを直す。 – 押出し金具の曲がりを直す。 • 爪、押出し金具などの部品を新品と交換する。	 (A) 1JDZF00363C01 *(A)* ボルト、ナットを外す

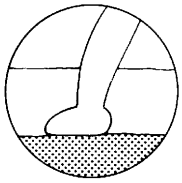
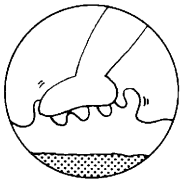
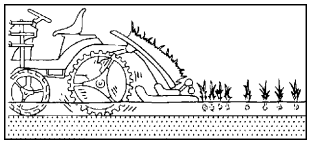
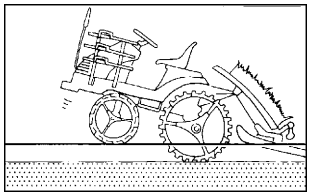
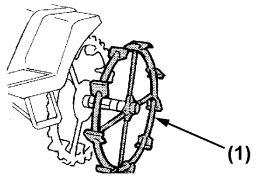
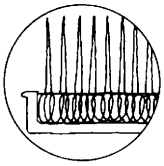
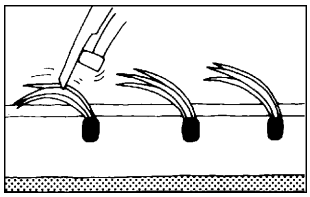
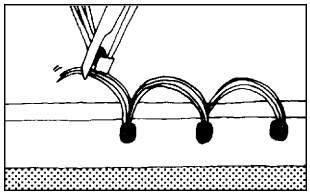
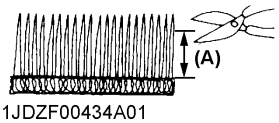
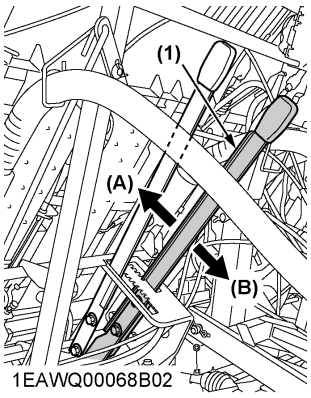
施肥をしない・施肥量がばらつく

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
施肥に適さない肥料	• 施肥量にバラツキがある。 • ホッパ内の肥料の減り方にバラツキがある。 • 施肥をしない。 • 残量センサが誤作動する。	**肥料の処置** • 条件に合った肥料を選ぶ。（75 ページ参照） • 固まった（湿った）肥料は使わない **機械の処置** • オプション部品の残量センサカナグ、キットを取付ける。（152 ページ参照）	
機械の設定		**機械の処置** • あぜぎわクラッチレバーが**[切]**位置のときは、**[入]**位置にする。	**[4]**  1EAWQ00301B01 *(1)* あぜぎわクラッチレバー *(A)* ［入］ *(B)* ［切］ *(C)* 右 *2* 条 *(D)* 左 *2* 条 **[5]**  1EAWQ00302B01 *(1)* あぜぎわクラッチレバー *(A)* ［入］ *(B)* ［切］ *(C)* 右 *2* 条 *(D)* 中央 *1* 条 *(E)* 左 *2* 条

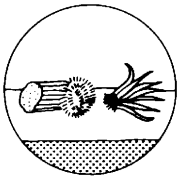
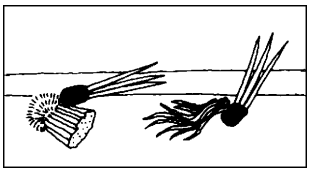
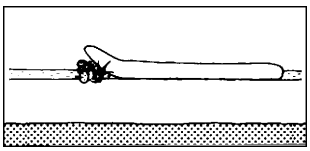
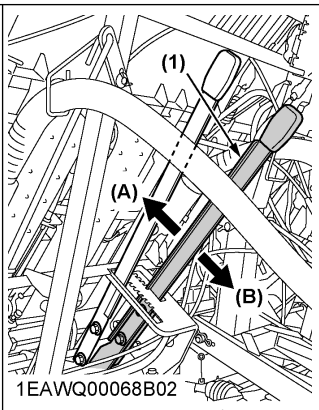
（次へ続く）

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
機械の設定		• 施肥量調整ハンドルを回して施肥量を調整する。 （89 ページ参照）	 1EAWQ00306B01 *(1)* 施肥量調整ハンドル
各部の詰まり		**機械の処置** • ホッパ内に肥料の詰まりがあれば取除く。 • ホッパ内、ロールケース内、各ホース、作溝器内に付着した肥料は取除く。 （102 ページ参照） **補足：** • **深水ほ場で、苗補給や肥料補給などで一時停止したときに、詰まっていないのに警報が出る場合があります。点検して、詰まっていなければセンサのコントローラのつまみを[鈍]（鈍感）の方向に調整して作業を続けてください。** • **乾いた肥料がセンサ付近に付着しても警報が出ない場合があります。ときどき、作溝器内を点検してください。**	 1EAWQ00050B01 *(1)* コントローラ *(2)* つまみ *(A)* 出荷位置
施肥ブラシの摩耗・損傷	• 施肥量が多くなる。 • ホッパの肥料の減りが早くなる。	**処置** • 施肥ブラシを交換する。 （127 ページ参照）	 1EAWQ00263A01 *(1)* ロール *(2)* ブラシ *(3)* 施肥ブラシ
ブロワが回転していない。	• ロート、ホース内で肥料が詰まる。	**機械の処置** • スローブローヒューズ切れのときは、交換する。 （133 ページ参照） • カプラが入っているか確認する。	

苗・ほ場条件による、その他の不具合

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
株間が狭くなる **深いほ場**  **強粘土質のほ場** 	• 走行抵抗が大きく車輪がスリップして株間が狭くなる。   • 機体前部が浮き上りスリップする。	**機械の処置** • 補助輪をとりつけてスリップを少なくする。 • 株間を一段広くして坪当たり株数を確保する。	 1JDZF00430A01 *(1)* 補助車輪
苗の草丈が長すぎる。 **草丈が 20 cm 以上ある苗の植付け。** 	• 植付けた苗が爪に押されて傾く。  • 植付けた苗がアーチ状になる。 	**苗の処置** 葉先を 20 cm 以下に切りそろえる。 **機械の処置** • 植付け深さを深めにする。 • 植付け速度を遅くする。 • 苗押さえ棒の位置を一番上にあげる。	 1JDZF00434A01 *(A)* *20 cm* 以下に切る  1EAWQ00068B02 *(1)* 植付深さ調節レバー *(A)* 浅い *(B)* 深い

（次へ続く）

<table>
<tr><th>このような状態で（原因）</th><th>このようになる</th><th colspan="2">どうする（処置方法）</th></tr>
<tr>
<td>夾雑物の多いほ場
代かき後も刈株、ワラ、雑草などが多量に露出しているほ場。
</td>
<td>• 夾雑物の上では、苗が植わらなかったり、植付け姿勢が悪くなったりする。

• 夾雑物がフロート、整地板や作溝器（[R 仕様]）で押されてたまる。
</td>
<td>ほ場の処置
• 代かき時、夾雑物をすき込む。
• 耕うん前に夾雑物をできるだけ取除く。
機械の処置
• 植付け深さをやや深くする。
• 植付け速度を遅くする。
• 整地板をあげ夾雑物の掘起しを少なくする。
• ロータ深さ微調整ダイヤルを適度な位置に調節する。</td>
<td>
(1) 植付深さ調節レバー
(A) 浅い
(B) 深い</td>
</tr>
<tr>
<td>強粘土質のほ場</td>
<td>前輪ホイールカバーに泥が付着し、隣接苗に泥を落す。</td>
<td>ほ場の処置
• ほ場に水を入れて少し保水状態にして植付作業を行なう。</td>
<td></td>
</tr>
</table>

付表

主要諸元

型式				LD4	
区分				〈R〉	L〈R〉
駆動方式				4 輪駆動	
機体寸法	全長（mm）			2665（作業時：2615）	
	全幅（mm）			1480（作業時：1950）	
	全高（mm）			1565（作業時：1310）	1590（作業時：1335）
	最低地上高（mm）			340	360
機体質量（kg）				335〈365〉	340〈370〉
エンジン	型式名			MZ300	
	種類			空冷 4 サイクル単気筒 OHV ガソリンエンジン	
	総排気量（L {cc}）			0.296 {296}	
	出力/回転速度（kW {PS}/rpm）			5.8 {7.9} /3600［最大 7.0 {9.5}］	
	使用燃料			自動車用無鉛ガソリン	
	タンク容量（L）			11	
	始動方式			ツーウェイスタート（リコイルセルスタータ、セルモータ併用）	
	バッテリ（V・Ah）			12・22［34B19L］	
走行部	かじ取り方式			アッカーマン式	
				インテグラルパワーステアリング	
	車輪	種類	前輪	ノーパンクタイヤ（550）	ノーパンクタイヤ（600）
			後輪	ゴム両ラグ車輪（750）	ゴム両ラグ車輪（800）
		外径 × 幅（mm）	前輪	550 × 60	600 × 60
		外径 × リム幅（mm）	後輪	750 × 45	800 × 45
		輪距（mm）	前輪	720	
			後輪	680	
		軸距（mm）		975	
	変速方式			油圧式トランスミッション［HST］	
	変速段数（段）			HST 主変速：前進無段・後進無段［副変速：2 段］	
植付部	植付方式			ロータリ式強制植付け	
	植付条数（条）			4	
	植付条間（cm）			30	
	植付株間（cm）			14、16、18、21、25、30[*1]	
	植付株数（株/3.3 m^2）			80、70、60、50、44、37[*1]	
	植付深さ（cm）			1～4［5 段階］	
	1 株本数調節	横送り量（mm（回数）/株）		11/26、14/20［2 段］	
		縦かき取り量（mm/株）		8～18	
苗の条件	苗の種類			マット苗	
	草丈（cm）			8～25	
	葉令（葉）			2.0～4.5	
施肥装置	肥料の種類			粒状化成肥料	
	施肥方式			側条作溝施肥・強制埋設	
	施肥位置（cm）			苗の側方：4.5、深さ：5	

（次へ続く）

型式		LD4	
区分		〈R〉	L〈R〉
施肥装置	肥料ホッパ容量（L × 個 {kg}）	44 × 1 {40}*2	
	繰出方式	溝付ロール式	
	繰出量調節方式	ロール回転数調節式	
	繰出量調節範囲（kg/10 a）	10～80*2	
	ふく土方式	フロートとふく土板	
予備苗搭載数［内予備苗］（箱）		12［4］	
警報装置		点灯式マスコット・ブザー（苗切れ、肥料つまり、肥料切れ、エンジン停止、転倒防止、エンジン低回転、e-stop）	
作業速度（m/s）		0～1.20［0～1.10*1］	
作業能率（計算値）（分/10 a）		20～〈24～〉*1	

- この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。
- 〈R〉施肥機付仕様

*1 車輪スリップ率 10 %

*2 高度化成肥料（0.9 g/cm^3）のとき

型式				LD5
区分				〈R〉
駆動方式				4 輪駆動
機体寸法	全長（mm）			2665（作業時：2615）
	全幅（mm）			1780（作業時：1950）
	全高（mm）			1725（作業時：1400）
	最低地上高（mm）			340
機体質量（kg）				355〈400〉
エンジン	型式名			MZ300
	種類			空冷 4 サイクル単気筒 OHV ガソリンエンジン
	総排気量（L {cc}）			0.296 {296}
	出力/回転速度（kW {PS}/rpm）			5.8 {7.9}/3600［最大 7.0 {9.5}］
	使用燃料			自動車用無鉛ガソリン
	タンク容量（L）			11
	始動方式			ツーウェイスタート（リコイルセルスタータ、セルモータ併用）
	バッテリ（V・Ah）			12・22［34B19L］
走行部	かじ取り方式			アッカーマン式
				インテグラルパワーステアリング
	車輪	種類	前輪	ノーパンクタイヤ（550）
			後輪	ゴム両ラグ車輪（750）
		外径 × 幅（mm）	前輪	550 × 60
		外径 × リム幅（mm）	後輪	750 × 45
		輪距（mm）	前輪	870
			後輪	910
		軸距（mm）		975
	変速方式			油圧式トランスミッション［HST］
	変速段数（段）			HST 主変速：前進無段・後進無段［副変速：2 段］
植付部	植付方式			ロータリ式強制植付け
	植付条数（条）			5
	植付条間（cm）			30
	植付株間（cm）			14、16、18、21、25、30[*1]
	植付株数（株/3.3 m^2）			80、70、60、50、44、37[*1]
	植付深さ（cm）			1～4［5 段階］
	1 株本数調節	横送り量（mm（回数）/株）		11/26、14/20［2 段］
		縦かき取り量（mm/株）		8～18
苗の条件	苗の種類			マット苗
	草丈（cm）			8～25
	葉令（葉）			2.0～4.5
施肥装置	肥料の種類			粒状化成肥料
	施肥方式			側条作溝施肥・強制埋設
	施肥位置（cm）			苗の側方：4.5、深さ：5
	肥料ホッパ容量（L × 個 {kg}）			44 × 1 {40}[*2]
	繰出方式			溝付ロール式
	繰出量調節方式			ロール回転数調節式
	繰出量調節範囲（kg/10 a）			10～80[*2]
	ふく土方式			フロートとふく土板
予備苗搭載数［内予備苗］（箱）				15［5］

（次へ続く）

型式	LD5
区分	〈R〉
警報装置	点灯式マスコット・ブザー（苗切れ、肥料つまり、肥料切れ、エンジン停止、転倒防止、エンジン低回転、e-stop）
作業速度（m/s）	0～1.20［0～1.10[*1]］
作業能率（計算値）（分/10 a）	16～〈19～〉[*1]

- この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。
- 〈R〉施肥機付仕様

*1 車輪スリップ率 10 %

*2 高度化成肥料（0.9 g/cm^3）のとき

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

- 保証書 1
- 取扱説明書 1
- 苗取りゲージ 1
- 苗すくい板 1
- プラグレンチ 1
- 隣接マーカアッシ 2
- 延長苗のせ台 4 **[4]**
- 延長苗のせ台 5 **[5]**
- 回転マーカ 2
- 予備苗のせ台アッシ 1
- 車速けん制カバー 1

オプション（別売品）

オプション（別売品）は純正品を使いましょう。

1. 苗キーパ

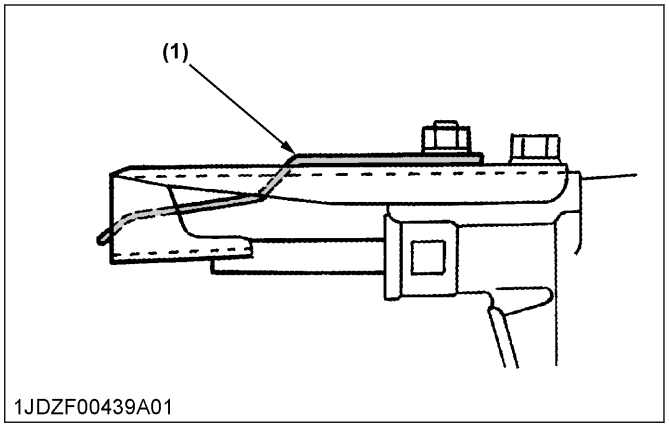
苗キーパは、苗こぼれによるバラケ、浮苗を防止します。

※アッシ（セット）の場合

品名	品番	数量	対象型式
キット（ナエキーパ T2、4）	95700001890	8	4
キット（ナエキーパ T2、5）	95720001890	10	5

※単品の場合

品名	品番	対象型式
ナエキーパ（T2）	26910002980	全型式



1JDZF00439A01

(1) ナエキーパ（*T2*）

2. クリーナ

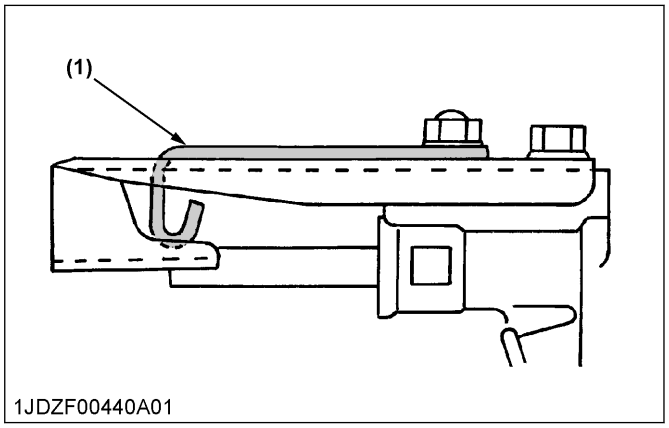
クリーナは、苗を詰まらなくする効果があります。爪の間に苗が詰まり、植付姿勢が乱れたときなどに有効です。

※アッシ（セット）の場合

品名	品番	数量	対象型式
クリーナ、アッシ（押出し金具 4）	95700000050	8	4
クリーナ、アッシ（押出し金具 5）	95720000130	10	5

※単品の場合

品名	品番	対象型式
クリーナ（オシダシカナグ）	K4540393910	全型式



1JDZF00440A01

(1) クリーナ（押出し金具）

3. 補助車輪

ほ場条件に合った補助車輪を使用してください。

補足：

- **車輪跡を残したくない場合は、別途整地板をご購入してください。**
- **補助車輪装着時は補助車輪に回転マーカが接触するおそれがあるため、回転マーカのアームを固定金**

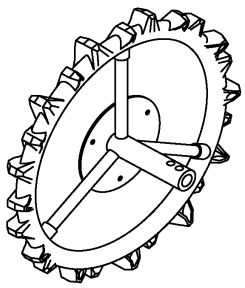
具に収納しているときは、回転マーカを取外してください。

3.1 ゴムラグタイヤ

ほ場条件…耕盤が軟弱で泥炭地のようなほ場

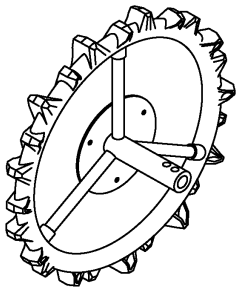
品名	品番	仕様			対象型式
		内側/外側	車輪径（mm）	整地板の有無	
車輪、アッシ（補助、ゴム、700）	95720000140	外側	Φ700	–	4（4-L 除く）、5
車輪、アッシ（補助、ゴム、750）	95720010640		Φ750	–	4-L

［4］



1EAWQ00246A01

［5］



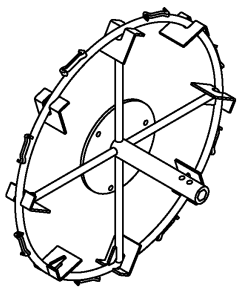
1EAWQ00247A01

3.2 鉄ラグタイヤ

ほ場条件…暗渠（あんきょ）のあるほ場や部分的に深いところがあるほ場

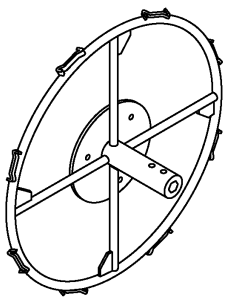
品名	品番	仕様			対象型式
		内側/外側	車輪径（mm）	整地板の有無	
車輪、アッシ（補助）ラグ付	95720000060	外側	Φ716	–	4、5
車輪、アッシ（補助）ラグ無	95720000050		Φ716	–	4、5
車輪、アッシ（補助）ラグ付	95720010650		Φ760	–	4-L

［ラグ付き］



1EAWQ00248A01

［ラグ無し］

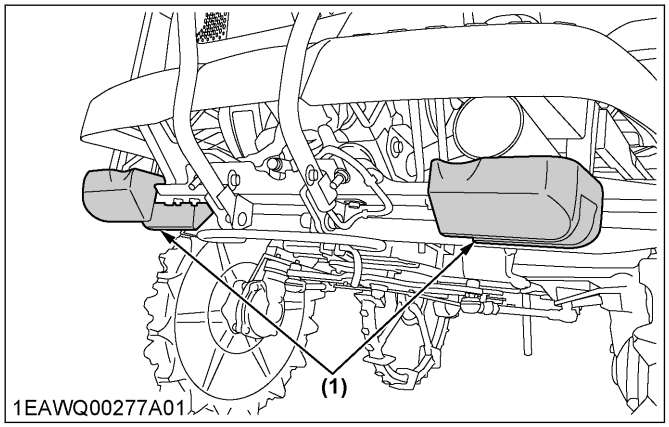


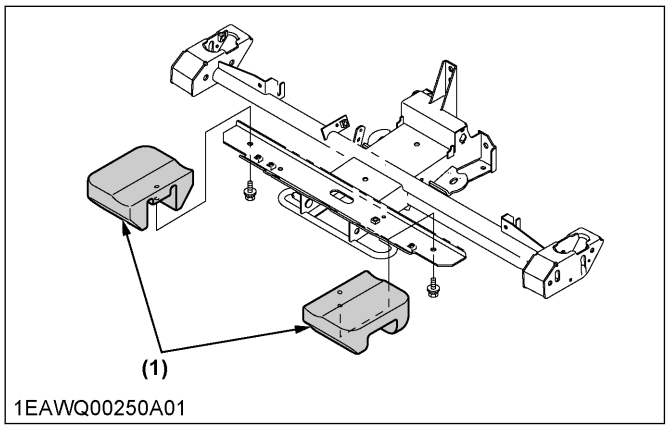
1EAWQ00249A01

4. 前部ウエイト

深いほ場で前輪が浮上がるのを防止し、直進性、走行性を良くします。

品名	品番	対象型式
ウエイト、キット（15）	95720000080	5-R 仕様以外



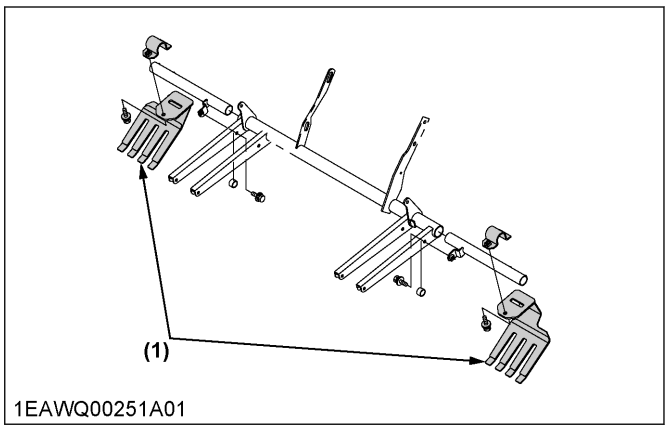


(1) ウエイト、キット（*15*）

5. 整地板

補助車輪用の整地幅を広くします。

品名	品番	対象型式
整地板、アッシ	95720000070	全型式



(1) 整地板、アッシ

6. 薬剤散布機［こまきちゃん］

粒状の薬剤（除草剤など）の散布を行ないます。

- 田植えと同時作業などで、時間と人手の省力化ができます。
- 機械散布なのでムダ・ムラがなく、すぐれた除草効果が得られます。また、薬剤が体につかず安心で快適な作業が行なえます。

品名	品番	対象型式
こまきちゃん mini MCS-10M-LD5	3612280080	全型式

7. 薬剤散布機［箱まきちゃん］

粒状の薬剤（殺虫剤・殺菌剤など）の散布を行ないます。

- 田植えと同時作業などで、時間と人手の省力化ができます。
- 機械散布なのでムダ・ムラがなく、すぐれた殺虫・殺菌効果が得られます。また、薬剤が体につかず安心で快適な作業が行なえます。

品名	品番	対象型式
箱まきちゃん HSY40L	本機扱い	4
箱まきちゃん MHSY-D5	本機扱い	5

8. 残量センサカナグ、キット

肥料切れ警報が誤作動する場合に使用します。

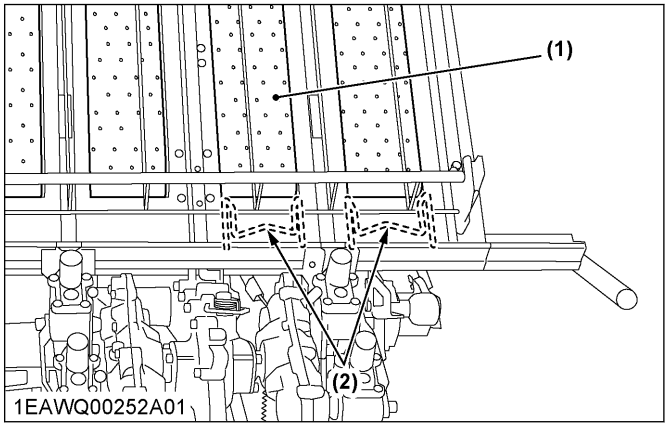
品名	品番	対象型式
カナグ、キット（ザンリョウセンサ）	95720000090	全型式

9. 苗スライドストッパ

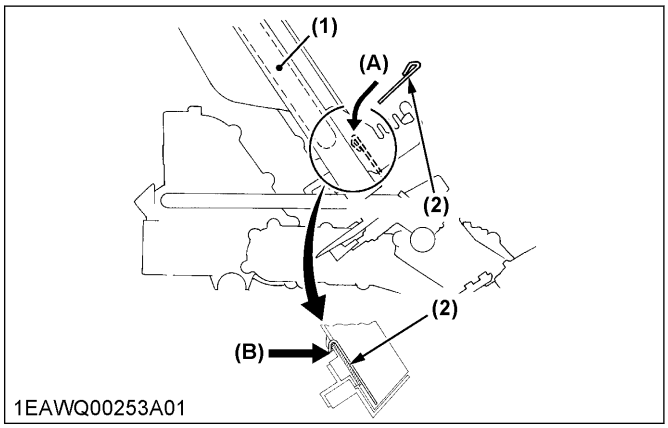
軟弱苗で苗がかたよっているときに使用します。

取付けかた

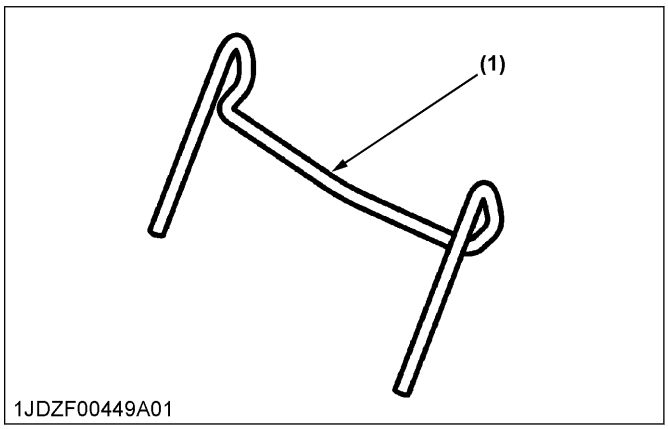
1. 植付部を上昇させたあと、エンジンを止めます。
2. 苗のせ台に下図のような方向から、苗スライドストッパを縦送りベルト下端のすきまから差込みます。



(1) 縦送りベルト
(2) 苗スライドストッパ（*1* 条分で *2* 個）



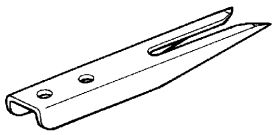
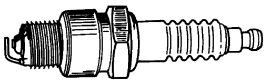
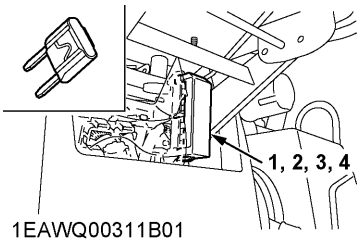
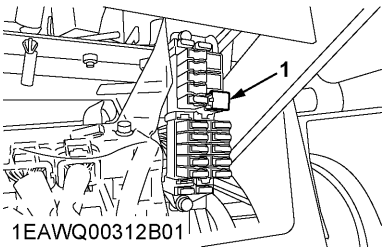
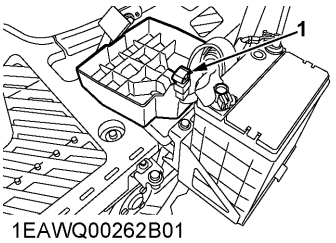
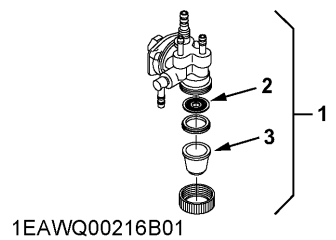
(1) 縦送りベルト
(2) 苗スライドストッパ
(A) 差込む
(B) リブの下にくるまで差込む



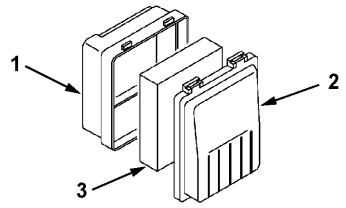
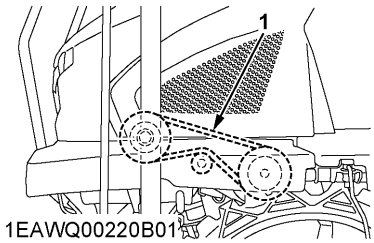
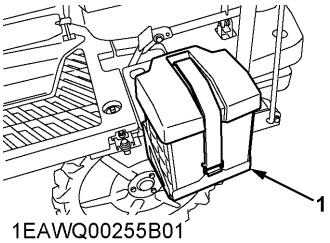
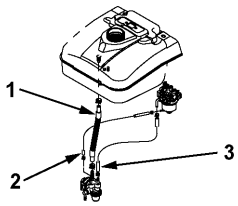
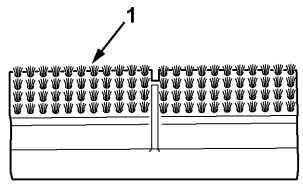
(1) 苗スライドストッパ

品名	品番	対象型式
ナエスライドストッパ	95720000110	4（8 個/1 台当り） 5（10 個/1 台当り）

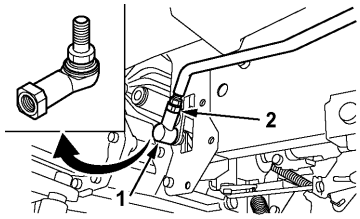
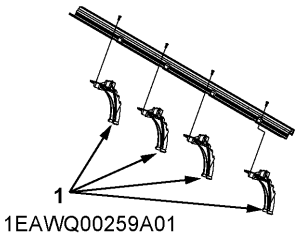
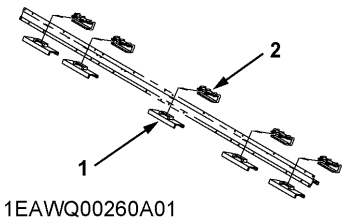
消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう）

形状	品名	品番	型式	個数	参照ページ
 1AKACAIAP216D	ウエツケヅメ（RIS13）	26910002970	4	8	124
			5	10	
 1AKACAXAP184D	点火プラグ BPR4ES（NGK）	BPR4ES	全型式	1	120
 1EAWQ00311B01	1. ヒューズ（3 A）	97430000710	全型式	2	132
	2. ヒューズ（ミニ 5 A）	99790001220		3	
	3. ヒューズ（10 A、オート）	97430000360		4	
	4. ヒューズ（20 A、オート）	97430000380		6	
 1EAWQ00312B01	1. スローブローヒューズ（30 A、ミニ）	95720000410	R 仕様	1	133
 1EAWQ00262B01	1. ヒューズ（スローブロー 40 A）	99660028550	全型式	1	133
 1EAWQ00216B01	1. コック、アッシ（フューエル）	26910002870	全型式	1	119
	2. フィルタエレメント	26910002900		1	
	3. パッキン	26910002290		1	

（次へ続く）

形状	品名	品番	型式	個数	参照ページ
 1EAWQ00256A01	1. ケース、エアクリーナ 1	95720000350	全型式	1	120
	2. キャップ、クリーナケース 1	95720000360			
	3. エレメント、エアクリーナ	95720000370			
 1EAWQ00220B01	1. V ベルト（35IN）（ミッション駆動ベルト）	95720000430	4・5	1	121
	1. V ベルト（36IN）（ミッション駆動ベルト）	95720000420	L 仕様		
 1EAWQ00255B01	バッテリ（40B19L）	40B19L	全型式	1	128
 1EAWQ00243B01	1. チューブ、アッシ	95720000440	全型式	1	121
	2. ホース	95720000390		1	
	3. ホース	95720000380		1	
 1EAWQ00237B01	1. ブラシ（ロールケース用）	95720000450	R 仕様	1	127

（次へ続く）

形状	品名	品番	型式	個数		参照ページ
 1EAWQ00229B01	1. ブーツ	95720000400	R 仕様	1		☆
	2. ロッドエンド	99660024520		1		
 1EAWQ00259A01	1. ガイド（トリダシグチ）	95700003590	全型式	4 条	5 条	–
				4	5	
 1EAWQ00260A01	1. ホルダ（シュウドウ）	26910005490	全型式	1		127
	2. ホルダ（ウキボウシ）	26910005500	全型式	1		

潤滑油について

・ オイルは三菱農業機械純正油をお奨めします。

1. エンジンオイル

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	スーパーマルチ GD オイル (SAE・10W-30　SL/CF)

2. ギヤオイル

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	スーパー UDT-2
	スーパー LVT オイル (GL-4)
	スーパーマルチ GB オイル (80W, GL-4)

索引

アルファベット

e-stop 機能.....26
LED ランプ
　交換.....133
　点検.....133

あ

アクセルレバー.....26
あぜぎわクラッチレバー.....34
あぜごえアーム.....29,30
あぜごえレバー.....29
安全クラッチ.....72,73
安全ラベル
　手入れ.....18
　貼付位置.....14
一発肥料
　使用時の注意.....77
植えじまいボタン.....36
植付株数
　調節.....83
植付爪
　安全クラッチについて.....72
　交換.....124
　調整.....124
　点検.....124
植付深さ調節レバー.....34
運転席
　脱着.....98
　調節.....29
エアクリーナエレメント
　交換.....120
　掃除.....120
　点検.....120
エンジン
　始動時の注意事項.....6
　始動のしかた.....44
　停止のしかた.....46
　バッテリが上がったときの始動のしかた.....46
エンジンオイル
　交換.....116
　点検.....116
　補給.....116
エンジン停止ボタン.....26
押出し金具
　交換.....124
　調整.....124
　点検.....124

か

株
　欠株が出るときの処置.....137,141
株間調節レバー.....35
クリーナ.....150
後車軸ケースオイル
　交換.....118
　点検.....118
　補給.....118
ご相談窓口.....19
ゴムラグタイヤ.....151
小物入れ.....30

さ

残肥排出レバー.....39
残量センサカナグ、キット.....152
自動植付調整ダイヤル.....33
車速けん制カバー
　装着のしかた.....51
十字ポンパレバー.....31
しゅう動板ガード
　収納.....134
　準備.....62
主変速レバー.....26
潤滑油
　エンジンオイル.....157
　ギヤオイル.....157
潤滑油について.....157
少量施肥切換えロッド
　取付位置の変更.....91
シート
　調節.....29
スローブローヒューズ
　交換.....133
　点検.....133
整地板.....152
整地ロータ
　掃除.....105
　調整.....88
施肥全条停止レバー.....39
施肥ブラシ
　交換.....127
　掃除.....127
　点検.....127
施肥部［R 仕様］.....102
施肥量調整ハンドル.....39
　施肥量の調整.....93
前部ウエイト.....152
前輪デフロックペダル.....29
増量施肥切換え金具
　取付位置の変更.....92

た

タイヤ
　点検.....124
田植機
　移動走行について.....46
　移動走行前の準備.....47

運転中及び停止直後の注意事項.....11
運転前の点検.....41
降りて走行するときの注意事項.....9
降りて走行のしかた.....51
各装置の名称.....21
各ヒューズの交換.....132
各部の掃除.....102
各部の注油.....105
各レバー・その他の長期格納時の手入れのしかた.....135
各レバー・ダイヤルの準備.....62
機械から降りてトラックに積降ろしをする場合...54
機械から降りてトラックに積込みをする場合.....54
機械から離れるとき及び走行時の注意事項.....10
機械に乗ってトラックに積降ろしをする場合.....56
機械に乗ってトラックに積込みをする場合.....56
機体方向説明.....20
給・注油（水）点検一覧表.....114
坂道走行の注意事項.....8
作業途中の駐車時の注意事項.....10
作業途中の点検時の注意事項.....10
自動植付作業のしかた.....69
主要諸元.....146
使用後の手入れ.....12
使用者が行なってはいけない修理.....111
使用前の準備.....6
使用前の点検.....6
消耗部品一覧.....154
新車時の扱いかた.....44
旋回のしかた.....53
旋回のしかた（植付作業時）.....68
洗車時の注意.....110
走行運転の注意事項.....7
駐車のしかた.....53
注油、グリース塗布、注入箇所.....105
長期格納時の各部の掃除、注油、補修のしかた.134
定期点検一覧.....112
定期点検について.....110
停車のしかた.....53
トラックからの積降ろしのしかた.....54
トラック上での処置.....56
トラックなどでの運搬時の注意事項.....12
トラックなどへの積降ろし時の注意事項.....11
トラックなどへの積込み時の注意事項.....11
トラックへ積込み時の準備.....54
トラックへの積込みのしかた.....54
ならし運転について.....44
日常点検項目.....42
農道の移動の注意事項.....8
発進のしかた.....50
付属部品.....150
ほ場の移動の注意事項.....8
ほ場の出入りのしかた.....63
ほ場での作業.....10
ほ場の出入り.....9
毎日の作業後の機体の手入れ.....133
輸送の準備.....53
注意事項
　安全指示順守.....5
　健康状態.....5
　作業に合った服装.....5
　周囲の子供の存在確認.....5
　廃棄物の取扱い.....6
チョークレバー.....25
鉄ラグタイヤ.....151
点火プラグ
　掃除.....120
　調整.....120
　点検.....120
転倒防止警報.....31

な

苗
　あぜぎわの植付けかた.....74
　植付けかた.....68
　植付けが乱れるときの処置.....139,141
　植付けが悪いときの処置.....141
　植付作業の手順.....64
　植付深さの調節.....86
　浮苗が出るときの処置.....139,141
　最終行程の前での植付条数の決めかた.....74
　状態によっておこるその他の不具合の処置.....144
　使用量について.....85
　台形田の植付けかた（A 面基準）.....72
　田植作業時の条件.....59
　取り量の調節.....84
　複雑な変形田の植付けかた.....72
　補給のしかた.....73
苗押さえ棒.....37
　調節.....87,88
苗切れ警報.....39
苗キーパ.....150
苗ステー.....37
　調節.....87
苗スライドストッパ.....152
苗取り量
　調節.....84
苗取り量調節レバー.....34
　調節.....84
苗のせ台
　受けの点検.....127
　しゅう動板の点検.....127
燃料
　給油.....116
　長期格納時の排出のしかた.....134
　補給.....116
燃料計.....30
燃料フィルタポット
　掃除.....119
　点検.....119

は

パイプ
　交換.....121

点検.....121
バッテリ
交換.....128
長期格納時の手入れのしかた.....135
点検.....128
取扱い.....12
補充電.....128
補水.....128
バッテリ（補水が必要）
交換.....131
点検.....131
補充電.....131
補水.....131
パワーステアリングハンドル.....28
反射テープ
交換.....133
掃除.....133
点検.....133
肥料
選び方.....75
概要.....75
繰出し量の調整のしかた.....90
施肥作業のしかた.....80
施肥作業前の準備.....78
施肥条止めのしかた.....95
施肥量がばらつくときの処置.....142
施肥量の調節［R 仕様］.....89
施肥をしないときの処置.....142
流れ.....89
ホッパからの排出のしかた.....81
肥料切れ警報.....40
肥料詰まり警報.....40
フィットセンサレバー.....32
調節.....85
フェンダー
脱着.....99
深みにはまって動けなくなった場合.....71
ふく土板［R 仕様］
調節.....89
副変速レバー.....27
ブラシ
脱着.....100
ブレーキペダル.....28
調整.....122
点検.....122
ブレーキロックレバー.....28
ブロワ.....38
フロート
感知荷重の調節.....86
補修用部品
供給年限.....19
ほ場
概要.....75
条件によっておこるその他の不具合の処置.....144
施肥作業時の条件.....75
田植作業時の条件.....58
ホッパ.....38
ホッパ部
開閉.....98
ボンネット
開閉.....97
ホース
交換.....121
点検.....121

ま

マスコット.....36
準備.....62
マスコットランプ.....36
異常と処置.....96
ミッションオイル
交換.....117
点検.....117
補給.....117
ミッションオイルフィルタ
交換.....123
掃除.....123
点検.....123
ミッション駆動ベルト
点検.....121
メインスイッチ.....25
モンロー.....87
モンロー調整ダイヤル.....32

や

薬剤散布機［こまきちゃん］.....152
薬剤散布機［箱まきちゃん］.....152
油圧ロックレバー.....35
横送り切換えレバー.....34
調節.....85
予備苗のせ台.....37
切換え.....60
準備.....60
フレーム前後方向の切換え.....61
レール式への切換え.....60
予備苗のせ台箱止め金具
切換え.....61

ら

ラインマーカ.....36
準備.....61
ランプスイッチ.....30
リコイルハンドル.....25
リヤカバー
脱着.....97
隣接マーカ.....37
準備.....62
ロータ深さ調整ダイヤル.....33
ロール
脱着.....100
ロールケース（繰出し部）.....38